

真岡市男女共同参画社会に関する調査

報告書

令和3年3月

真岡市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 報告書の見方	3
第2章 調査結果の詳細／市民調査	5
1. 基本属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 居住地区	8
(4) 職業	8
(5) 在宅ワークの実施	9
(6) 婚姻状況	9
(7) 配偶者の職業	10
(8) 配偶者の在宅ワークの実施	10
(9) 18歳以下の子どもの有無	11
(10) 世帯構成	11
2. 男女平等に関する意識	12
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考えについて	12
(2) 男女の地位の平等に対する考え	13
3. 家庭生活	23
(1) 家事などの分担に対する考え	23
(2) 夫婦間の役割分担の満足度	27
(3) 役割分担の不満解消に必要なだと思うこと	28
(4) 家事、育児、介護にかかっている一日の合計時間	29
(5) 子どもの育て方に対する考え	30
(6) 人権や男女平等意識育成のために教育現場で重要なこと	31
(7) 男性の育児・介護への参加	32
(8) 男性の育児休業・介護休業の取得	34
(9) 男性の育児休業・介護休業取得が進まない理由についての考え	36
4. 女性と仕事	37
(1) 女性の就労についての考え	37
(2) 女性が結婚・出産後も働き続けるために重要なこと	39
(3) 女性が結婚・出産後に再就職するために重要なこと	40
(4) 男女の仕事と家庭両立のために必要なこと	41
(5) 職場での男女平等に対する考え	43
5. 男女の地域・社会参画	51

(1) 各種活動への参加状況	51
(2) 活動に参加していない理由	53
(3) 政策方針決定の場への女性参画についての考え	54
(4) 政策決定の場への女性参画促進に必要なこと	55
6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	56
(1) 日常生活の中で希望する時間の使い方ができているか	56
(2) 実際に優先させている活動	57
(3) 優先させたいと思う活動	58
(4) 時間を確保するために必要だと思うこと	59
7. 性の多様性	60
(1) 自分の身体の性、心の性に悩んだ経験の有無	60
(2) 身近なLGBTQ等の存在の有無	61
(3) LGBTQ等と打ち明けられた場合のこれまでと同様の接し方	62
(4) できないかもしれない・わからないと思う理由	63
(5) LGBTQの方が暮らしやすい社会のために必要だと思う取組	64
8. 配偶者に対する暴力	65
(1) 夫婦間の暴力に対する考え	65
(2) 配偶者から受けた暴力の経験の有無	68
(3) 配偶者から受けた暴力についての相談先	70
(4) 相談しなかった理由	71
(5) メディアによる性表現等についての考え	72
9. 男女共同参画を推進するための取組	74
(1) 女性の参画を進める必要があると思う分野	74
(2) 男女共同参画を推進するために自身でできること	76
(3) 防災対応時に必要だと思うこと	78
(4) 市が力を入れるべきと思う事柄	79
(5) 男女共同参画に関する認知度・理解度	81

第3章 調査結果の詳細／中学生調査 95

1. 基本属性	97
(1) 性別	97
(2) 自身の性別についての感じ方	97
(3) 性別についてそう思う理由	98
2. 男女平等	99
(1) 男女共同参画について学んだ経験の有無	99
(2) 男女共同参画についての理解度	99
(3) 「男だから」「女だから」と言われた経験	100
(4) 具体的に言われる事柄	101
(5) 言われた時の気持ち	102
(6) 男女平等に対する考え	103

3. 学校生活	105
(1) 学校生活での男女平等に対する考え	105
(2) 制服を自由に選択できることについての考え	107
4. 家庭	108
(1) 家庭での男女の仕事の役割	108
(2) 男女の家事分担についての考え	110
(3) 男女の子育ての分担についての考え	111
(4) 生活費を稼ぐ人についての考え	111
(5) 「男は仕事・女は家庭」という考え方	112
5. 女性と仕事	113
(1) 女性が仕事を持つことについての考え	113
(2) 仕事と家庭の両立についての考え	114
6. 恋人との関係	115
(1) 恋人同士の交際についての考え	115
(2) 交際相手との間で暴力行為だと思うこと	117
7. 性の多様性	118
(1) 身近なLGBTQ等の存在の有無	118
(2) 身近な人からLGBTQ等と打ち明けられた場合の接し方について	119
(3) できないかもしれない、わからないと思う理由	120
(4) LGBTQ等の方が暮らしやすい社会のために必要と思う取組	121
(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度・理解度	122
8. 「男女共同参画社会」の実現に向けて（自由記述）	124

第4章 調査結果の詳細／事業所調査 125

1. 基本属性	127
(1) 業種	127
(2) 事業所の区分	127
(3) 事業所全体の従業員規模	128
(4) 従業員数と勤続年数	128
2. ポジティブ・アクションの取り組み	132
(1) 役職別人数	132
(2) 女性管理者が少ない理由	134
(3) ポジティブ・アクションへの取組状況	135
3. 女性活躍推進法	136
(1) 用語の認知度	136
(2) 一般事業主行動計画の策定の状況	137
4. ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取り組み	138
(1) 休暇の取得状況	138
(2) 取組状況（A制度の規定の有無）	143
(3) 取組状況（B 制度の実績の有無）	144

(4) 仕事と家庭の両立に重要だと思うこと	145
(5) 多様な働き方ができる制度を整備する上で特に難しいと感じること	146
5. ハラスメント防止に向けた取り組み	147
(1) ハラスメント防止に向けた取り組みの実施度	147
6. LGBTQ等の取り組み	147
(1) LGBTQ等の方への配慮などにおける独自の取組み（自由記述）	147
7. 行政の取り組み	148
(1) 市の取組についての認知度	148
(2) 市に期待する取り組み	149
(3) 今後実施予定の取り組み（自由記述）	150
(4) 市への要望（自由記述）	150

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

令和4年度を初年度とする「第4次真岡市男女共同参画社会づくり計画」を策定することから、その基礎資料とするため、男女共同参画に関する意識等について調査を実施した。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. 一般調査	市内在住の満16歳以上の市民2,000名
2. 中学生調査	市内中学校に在学の中学2年生292名
3. 事業所調査	真岡商工会議所・にのみや商工会・真岡工業団地総合管理協会のいずれかに所属する事業所300件

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：令和2年11月11日（水）～11月30日（月）

<回収状況>

調査名	発送数	回収数	回収率
1. 一般調査	2,000件	932件	46.7%
2. 中学生調査	292件	196件	67.1%
3. 事業所調査	300件	100件	33.3%

4. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- (7) 複数回答の設問のクロス集計については、数表を掲載している。その中で「濃い網掛け」は対象より10ポイント以上高いセル、「薄い網掛け」は対象より10ポイント以上低いセルを示す。
 - ・性/年代別 ～ 男性であれば男性全体、女性であれば女性全体との比較
 - ・その他のクロス ～ 全体との比較

(8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団（真岡市の16歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、一般調査・問8の「男性の育児休業・介護休業の取得」という質問に対して、「積極的に取得した方がよい」と答えた人は、932人のうち49.8%であった。

回答者数が932人、回答率が50%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±3.28%であるから、「積極的に取得した方がよい」と考えている人は、真岡市の16歳以上の男女全体（母集団）の53.08%から46.52%であると推定できる。

〈 標本誤差算出式 〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数（真岡市の16歳以上人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 P = 回答の比率（0 ≤ P ≤ 1）

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
932	± 1.97	± 2.62	± 3.00	± 3.21	± 3.28
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
196	± 4.29	± 5.71	± 6.55	± 7.00	± 7.14
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

※ Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

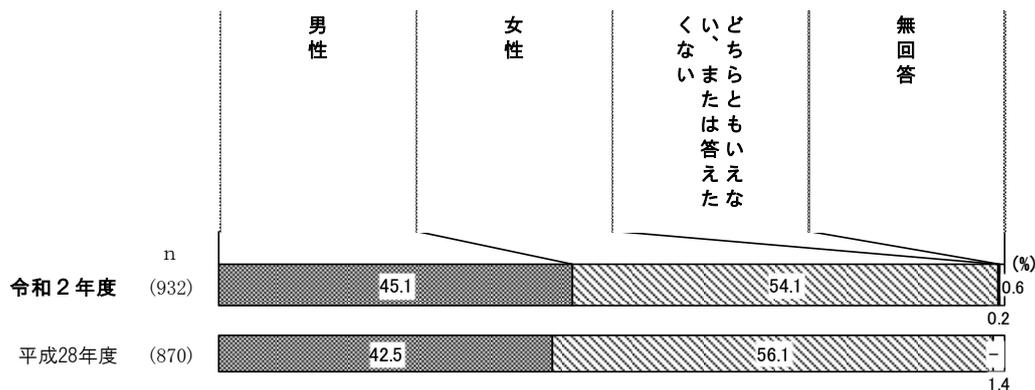
第2章 調査結果の詳細／市民調査

1. 基本属性

(1) 性別

F 1 性別をお答えください。(1つだけに○)

性別では、「男性」が45.1%、「女性」が54.1%となっている。
 前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。



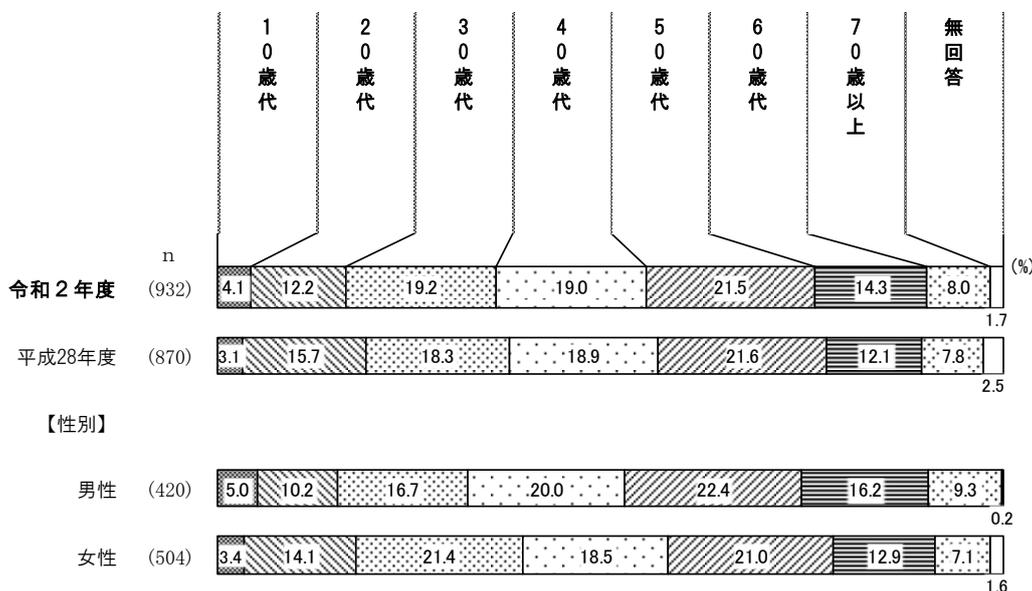
(2) 年齢

F 2 あなたの年齢（令和2年11月1日現在）をお答えください。

年齢では、「50歳代」が21.5%で最も多く、以下、「30歳代」(19.2%)、「40歳代」(19.0%)、「60歳代」(14.3%)となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性別でみると、男性は「40歳代」と「50歳代」で、女性は「30歳代」と「50歳代」で2割を超えている。

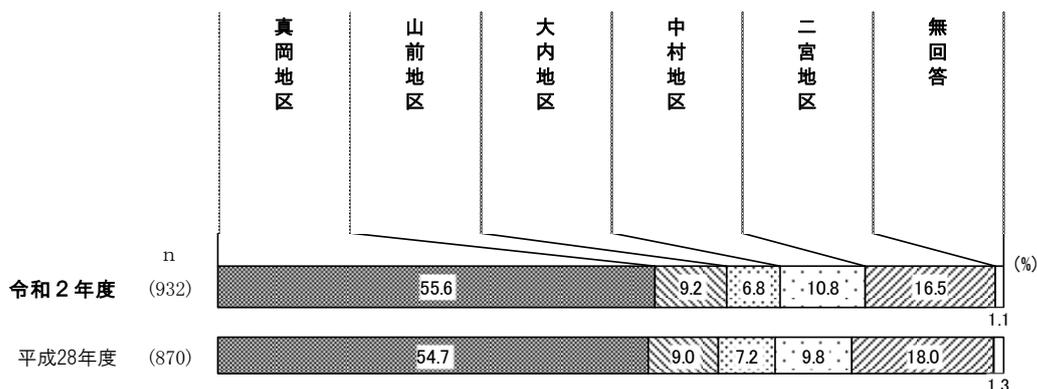


(3) 居住地区

F 3 お住まいの地区はどちらですか。(1つだけに○)

居住地区では、「真岡地区」が55.6%で最も多く、以下、「二宮地区」(16.5%)、「中村地区」(10.8%)、「山前地区」(9.2%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。



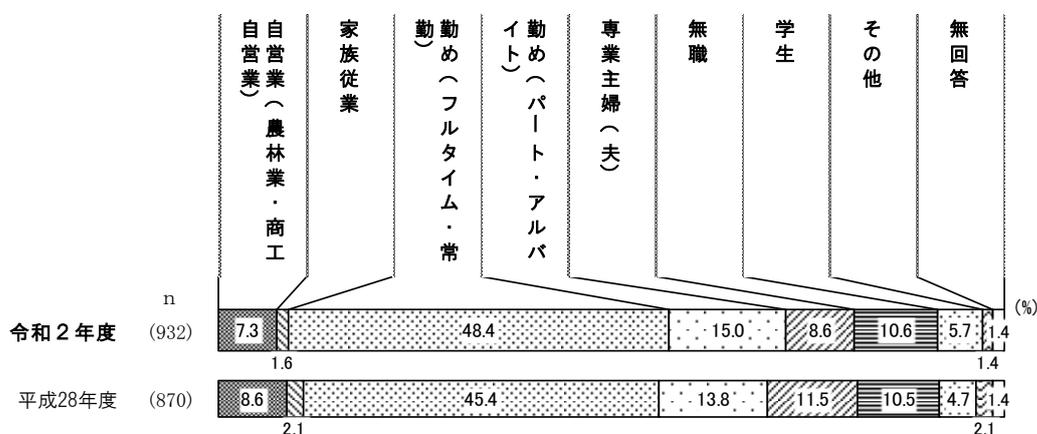
(4) 職業

F 4 あなたの現在の職業は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○)

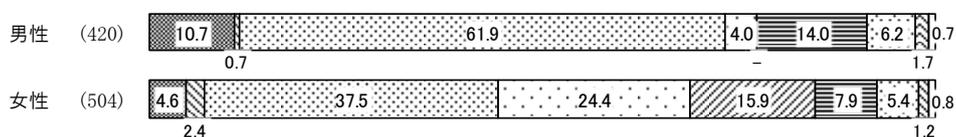
職業では、「勤め(フルタイム・常勤)」が48.4%で最も多く、以下、「勤め(パート・アルバイト)」(15.0%)、「無職」(10.6%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性別でみると、男女ともに「勤め(フルタイム・常勤)」が最も多いものの、男性では6割を超え、女性より24.5ポイント上回っている。また、女性では「専業主婦(夫)」も多くなっている。



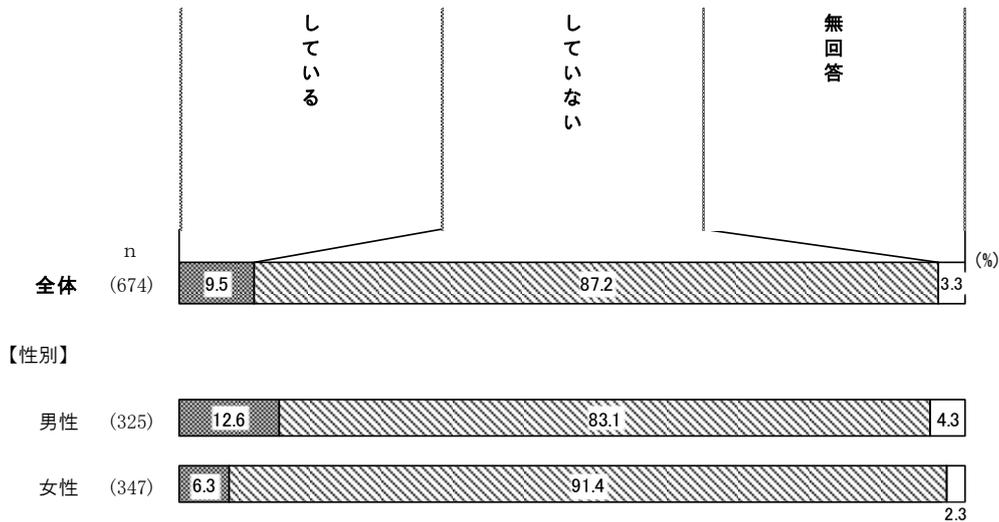
【性別】



(5) 在宅ワークの実施

F 4 - 1 在宅ワークをしていますか。(1つだけに○)

在宅ワークの実施の有無では、「している」が9.5%、「していない」が87.2%となっている。性別で見ると、男性で「している」が12.6%と、女性（6.3%）の2倍を示している。

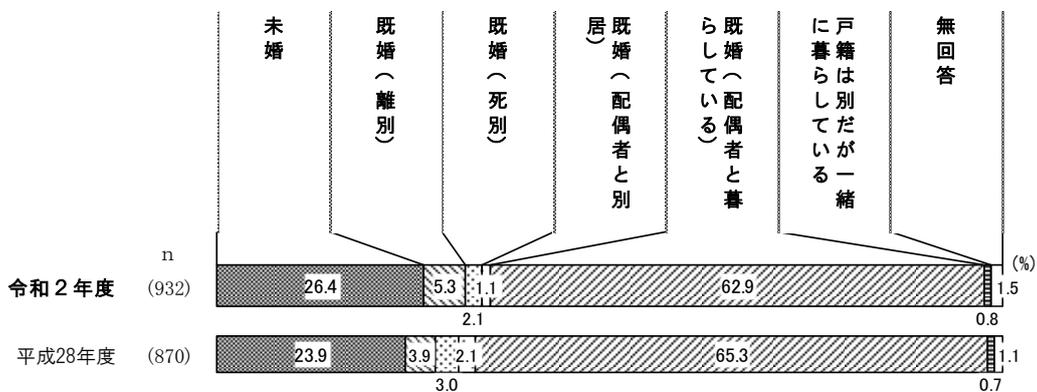


(6) 婚姻状況

F 5 あなたは次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○)

婚姻状況では、「既婚（配偶者と暮らしている）」が62.9%で最も多く、次いで「未婚」（26.4%）となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

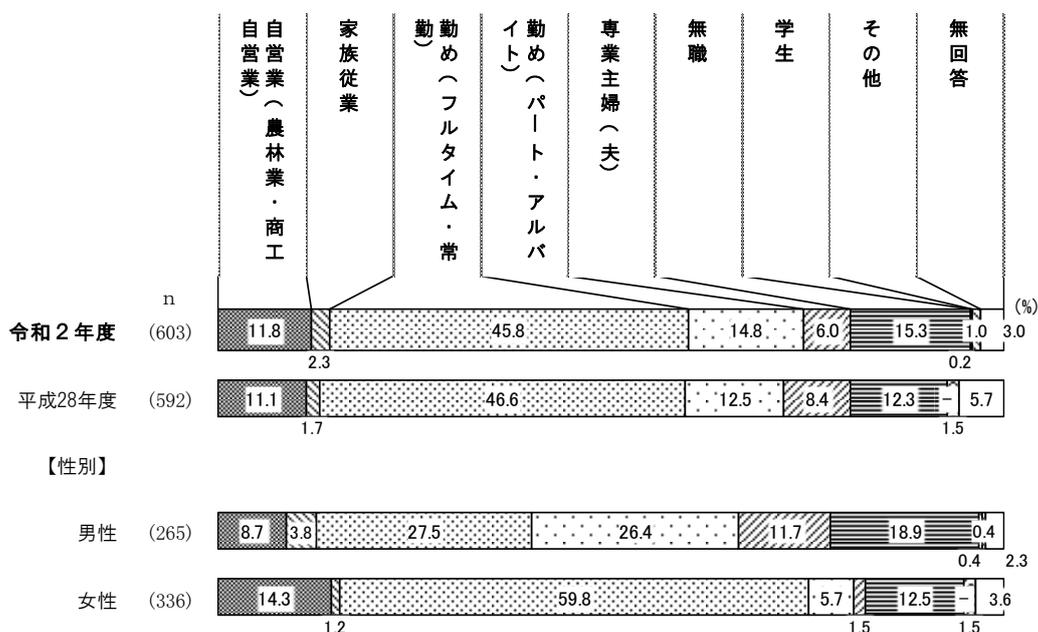


(7) 配偶者の職業

F 5 - 1 あなたの配偶者の職業は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○)

配偶者の職業では、「勤め（フルタイム・常勤）」が45.8%で最も多く、以下、「無職」（15.3%）、「勤め（パート・アルバイト）」（14.8%）、「自営業（農林業・商工自営業）」（11.8%）となっている。前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

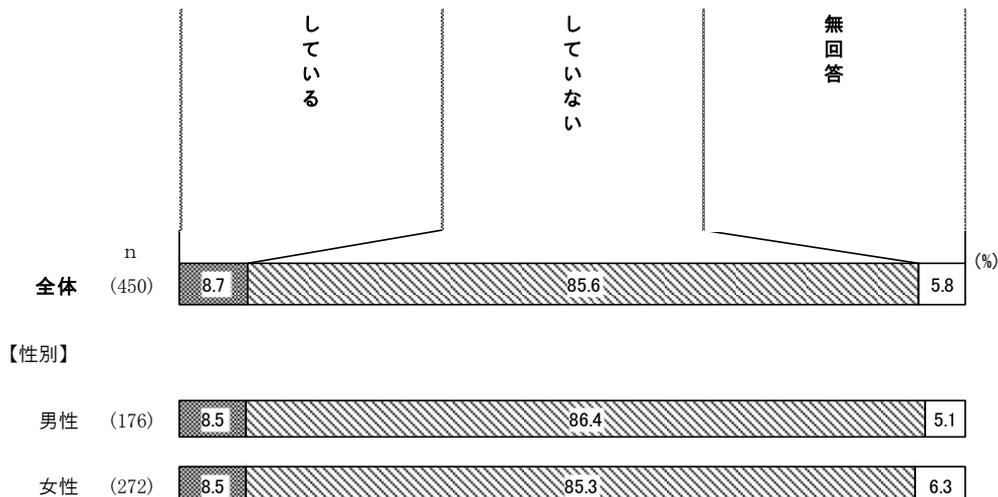
性別でみると、男女ともに「勤め（フルタイム・常勤）」が最も多いものの、女性では6割弱とが男性より32.3ポイント上回っている。また、男性では「専業主婦（夫）」も多くなっている。



(8) 配偶者の在宅ワークの実施

F 5 - 2 在宅ワークをしていますか。(1つだけに○)

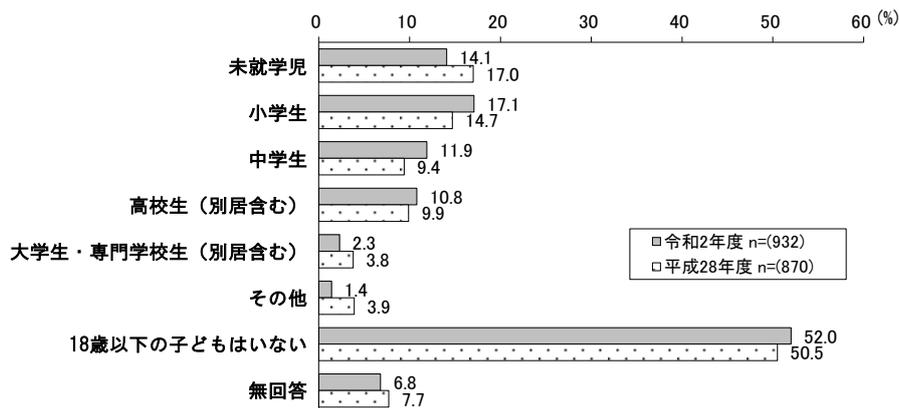
在宅ワークの有無では、「している」が8.7%、「していない」が85.6%となっている。性別でみても男女差はみられない。



(9) 18歳以下の子どもの有無

F 6 あなたの世帯において、18歳以下のお子さんはいますか。該当する項目すべてに○をつけてください。

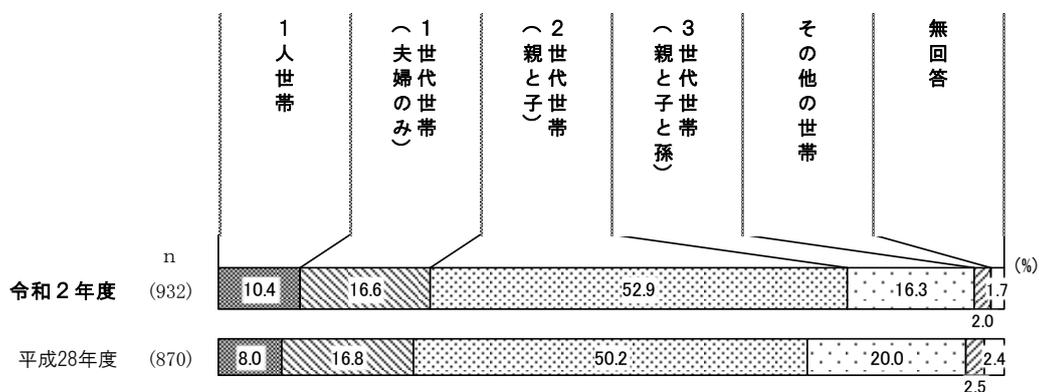
18歳以下の子どもの有無では、「18歳以下の子どもはいない」が52.0%で最も多く、以下、「小学生」(17.1%)、「未就学児」(14.1%)、「中学生」(11.9%)となっている。
 前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。



(10) 世帯構成

F 7 あなたの世帯構成は次のどれにあてはまりますか。（1つだけに○）

世帯構成では、「2世代世帯（親と子）」が52.9%で最も多く、以下、「1世代世帯（夫婦のみ）」(16.6%)、「3世代世帯（親と子と孫）」(16.3%)となっている。
 前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。



2. 男女平等に関する意識

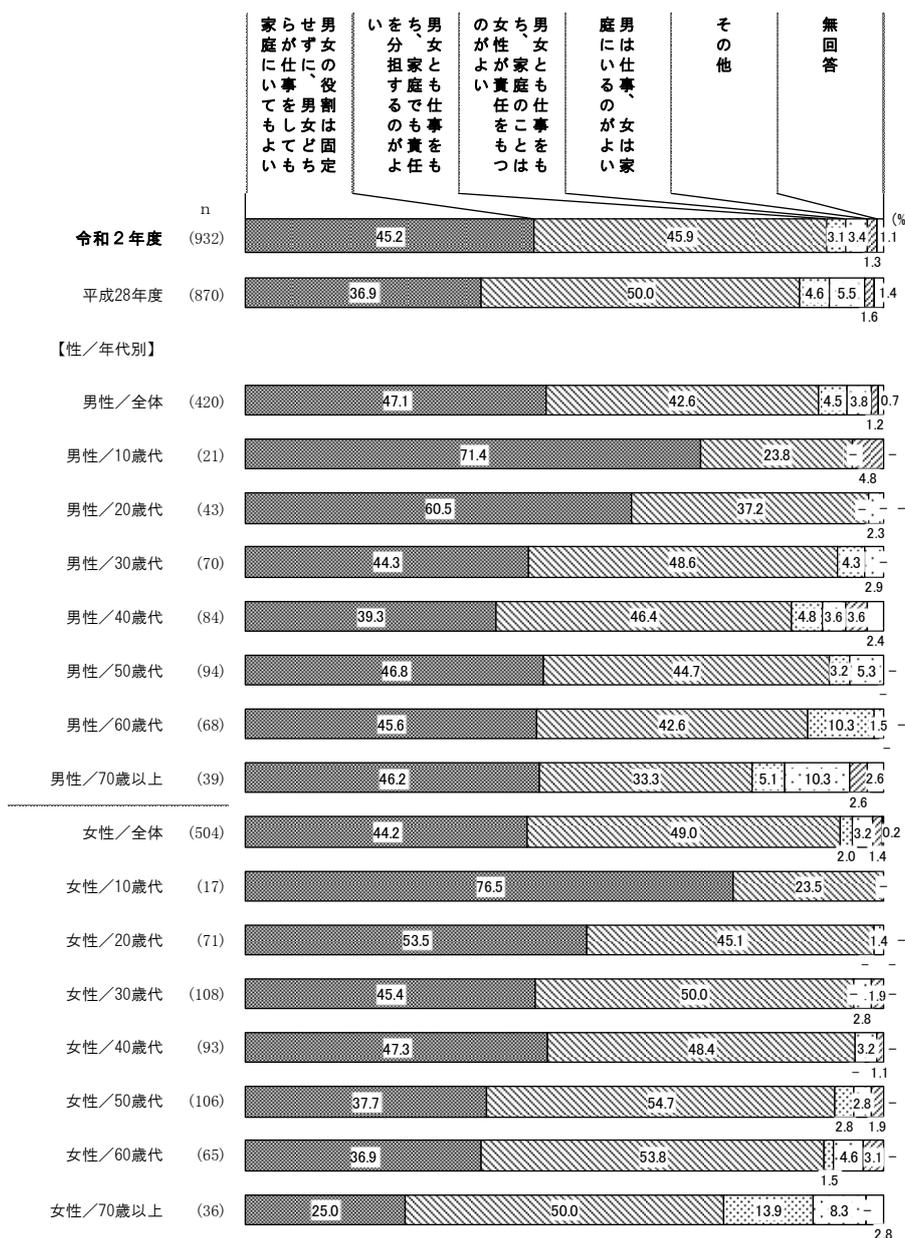
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考えについて

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけに○)

『男は仕事、女は家庭』という考えについて、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が45.9%、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」が45.2%と二分している。

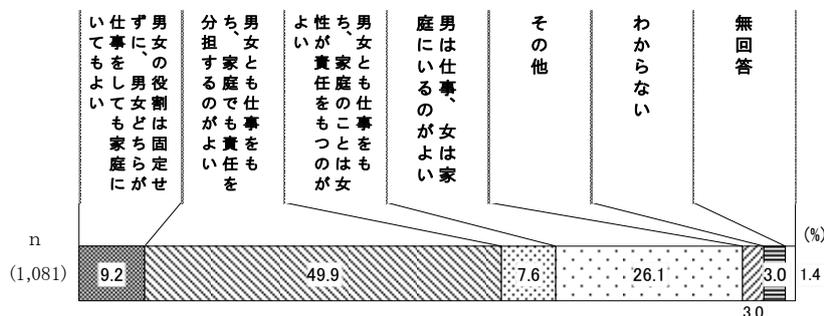
前回調査（平成28年度）結果との比較では、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」が36.9%から45.2%と、8.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも20歳代で「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」が多く、それぞれ男性で6割、女性で5割を超えている。また、女性の50歳代、60歳代で、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が5割台半ばで多くなっている。



■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

栃木県の調査結果との比較では、「男女の役割は固定せず、男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」は県の9.2%に対し真岡市では45.2%、「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」は県の26.1%に対し真岡市では3.4%と、明確な違いがみてとれる。

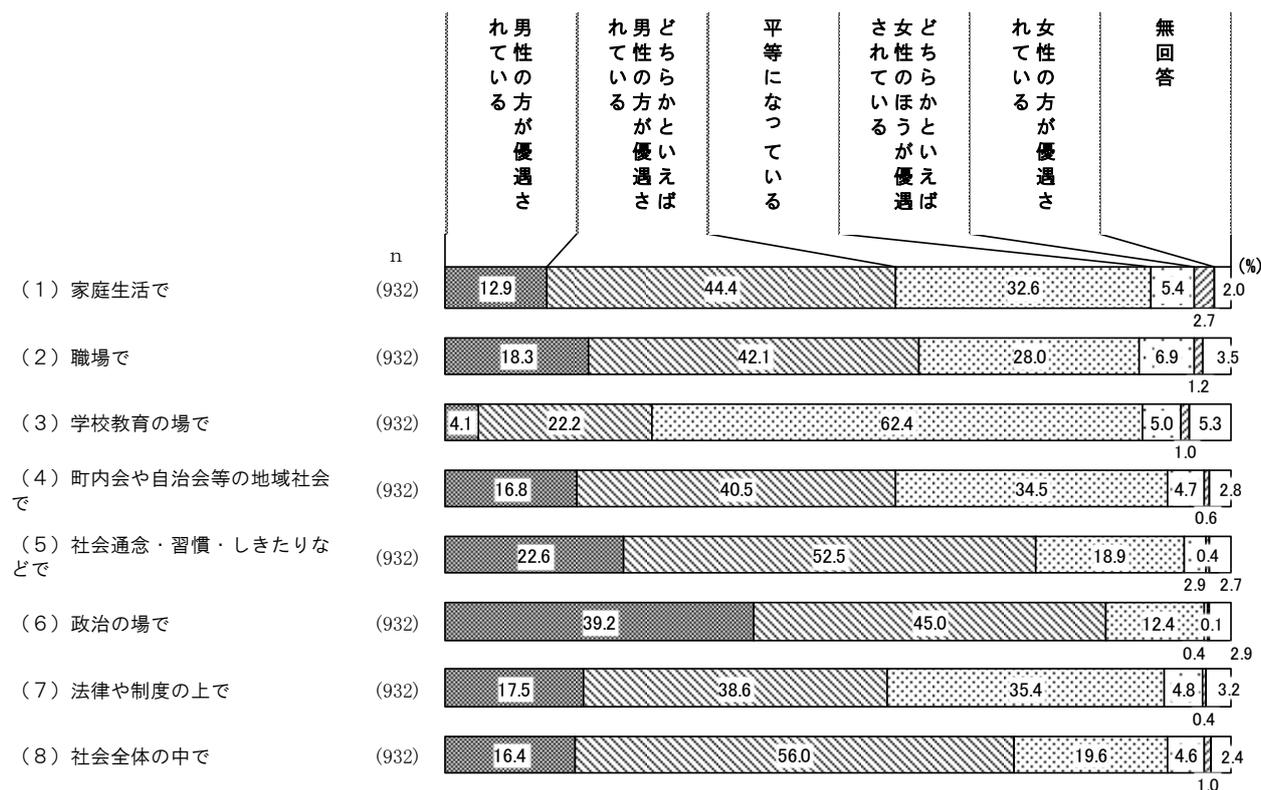


※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

(2) 男女の地位の平等に対する考え

問2 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ１つだけに○）

男女の平等感について分野別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》が“社会通念・習慣・しきたり等”“社会全体”で7割、“政治の場”で8割を超えている。また、“学校教育の場”では「平等」が6割を超え、他の分野より多くなっている。

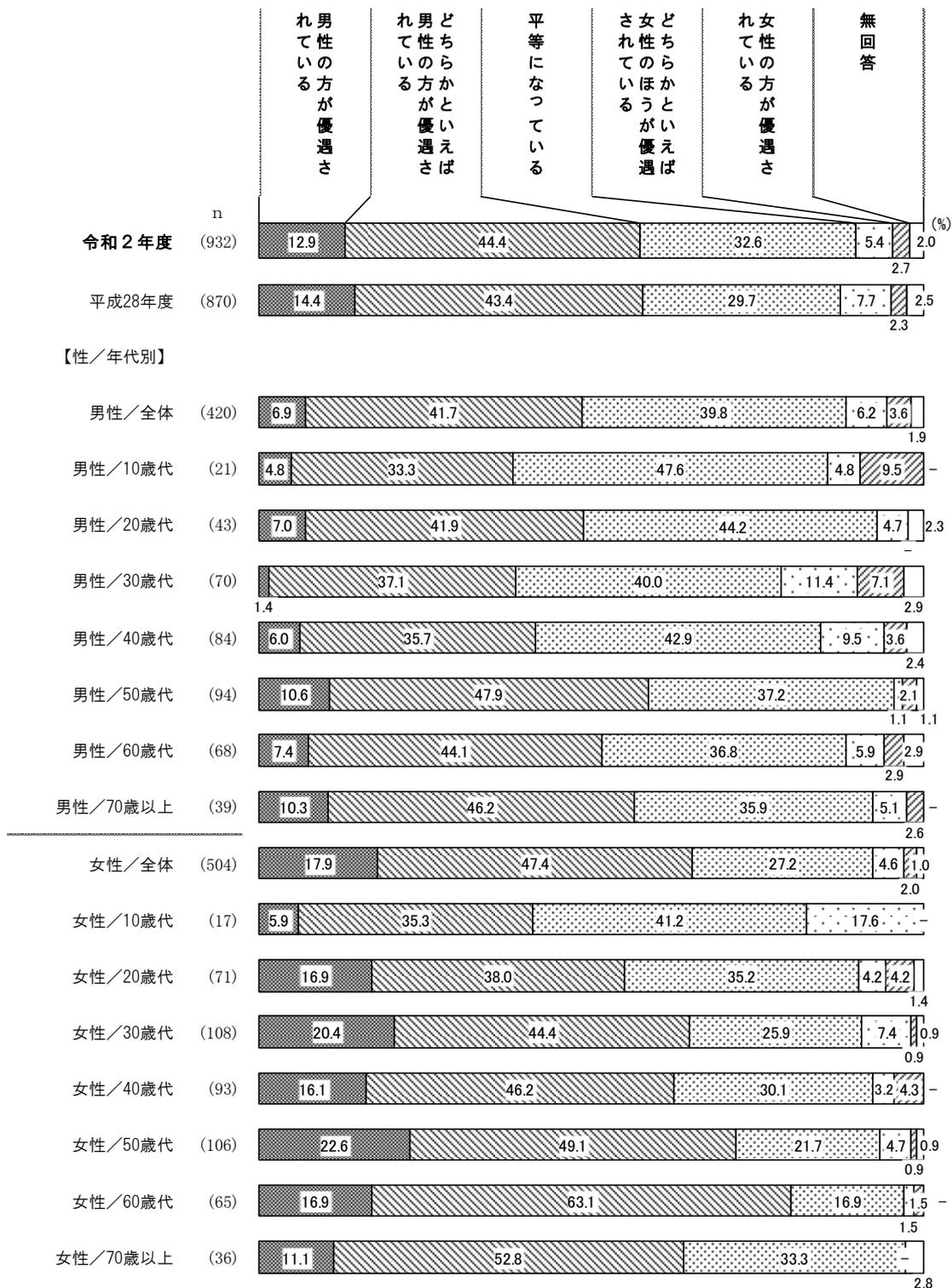


■家庭生活で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.4%で最も多く、《男性優遇》としては57.3%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、《男性優遇》は女性のすべての年代で男性より多く、特に50代で7割、60代で8割を超えている。

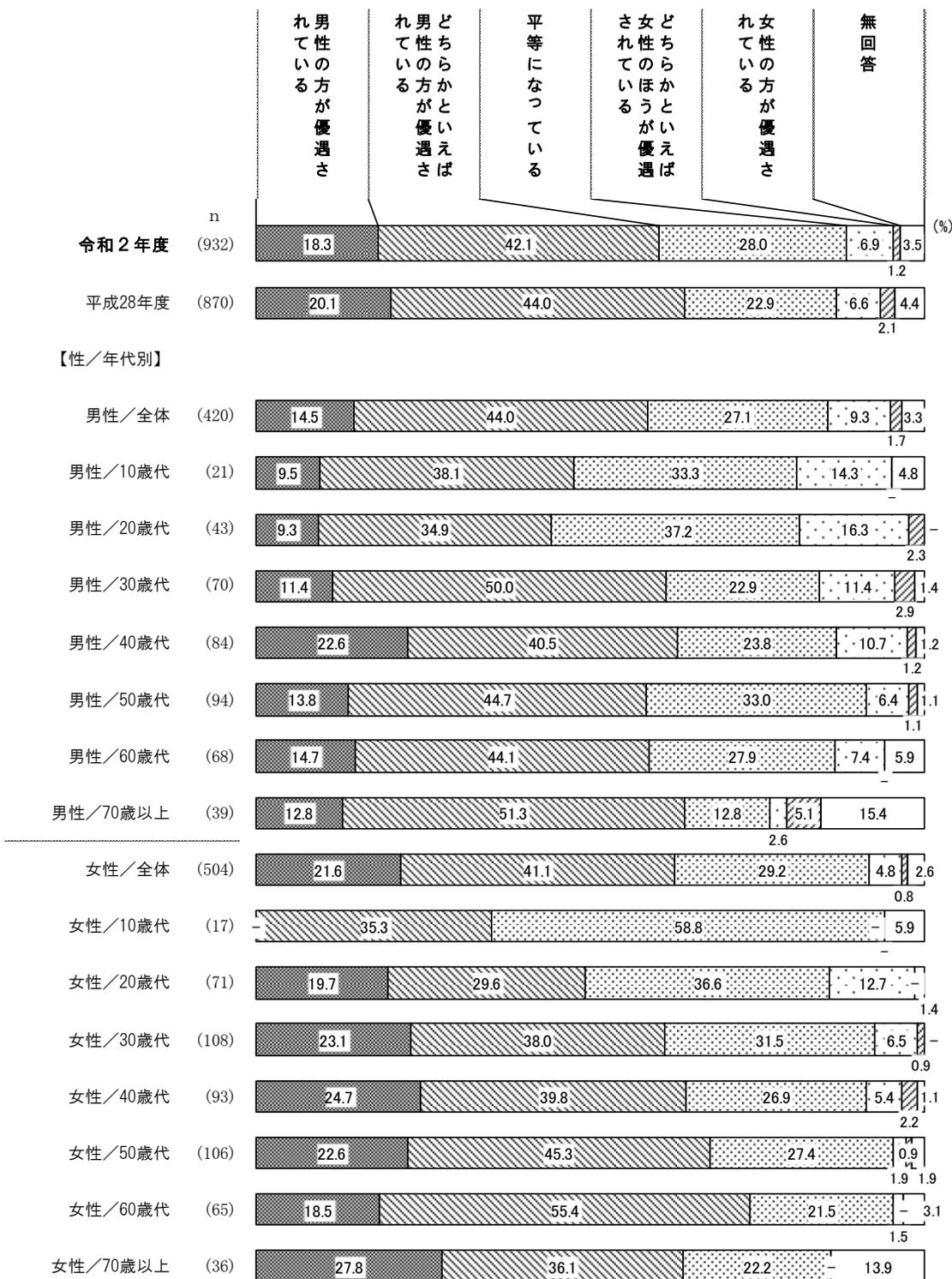


■職場で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.1%で最も多く、《男性優遇》としては60.4%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「平等になっている」が22.9%から28.0%と、5.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、女性の60歳代で《男性優遇》が多く、7割を超えている。

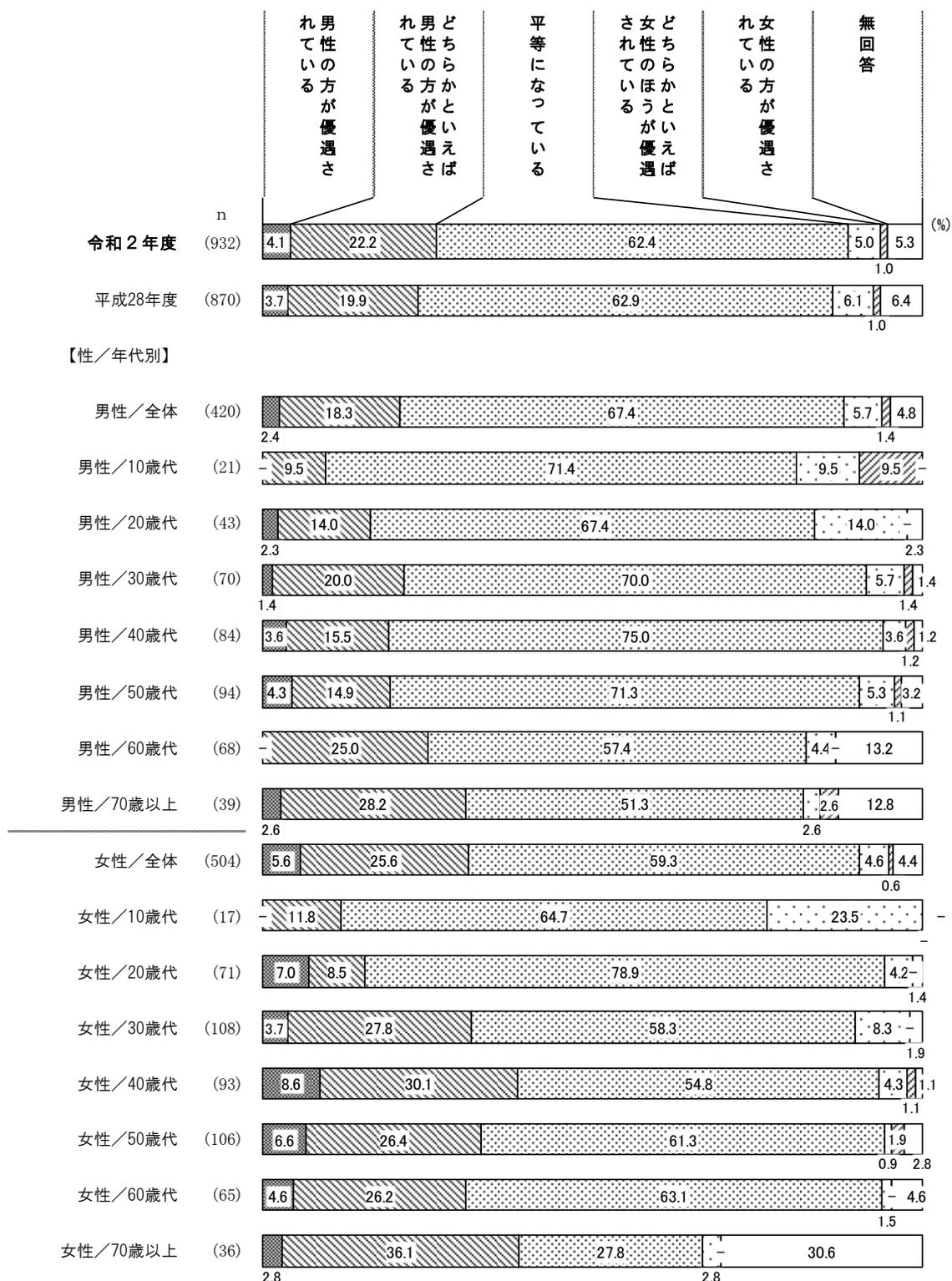


■学校教育の場で

「平等になっている」が62.4%と最も多くなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、すべての年代で「平等になっている」が多いものの、男性の60歳以上、女性の40歳代、70歳以上で《男性優遇》が多く、特に女性の40歳代、70歳以上では4割弱となっている。

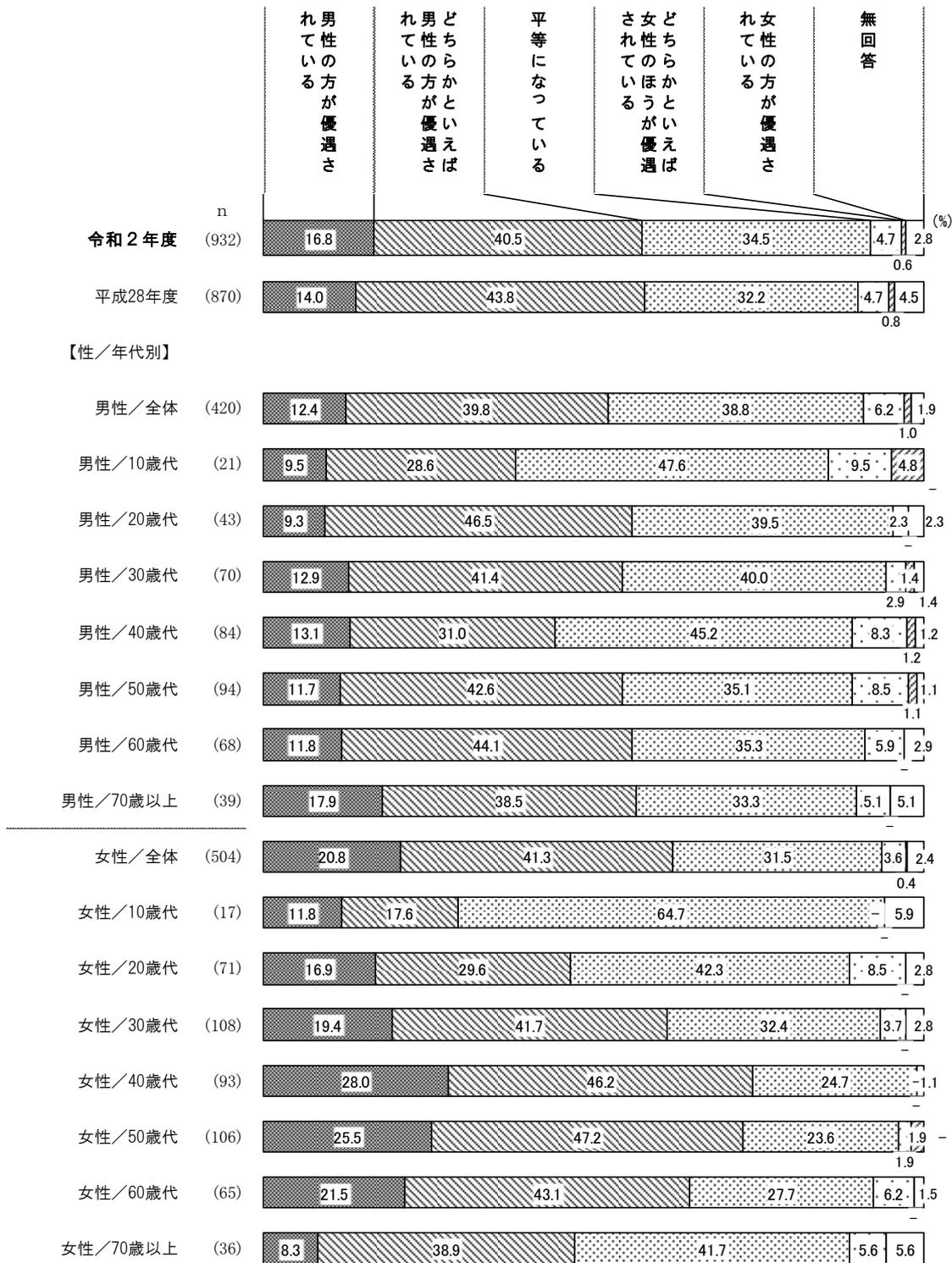


■町内会や自治会等の地域社会で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.5%で最も多く、《男性優遇》としては57.3%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、《男性優遇》は女性の30歳代から60歳代で男性より多く、特に40歳代、50歳代で7割台となっている。

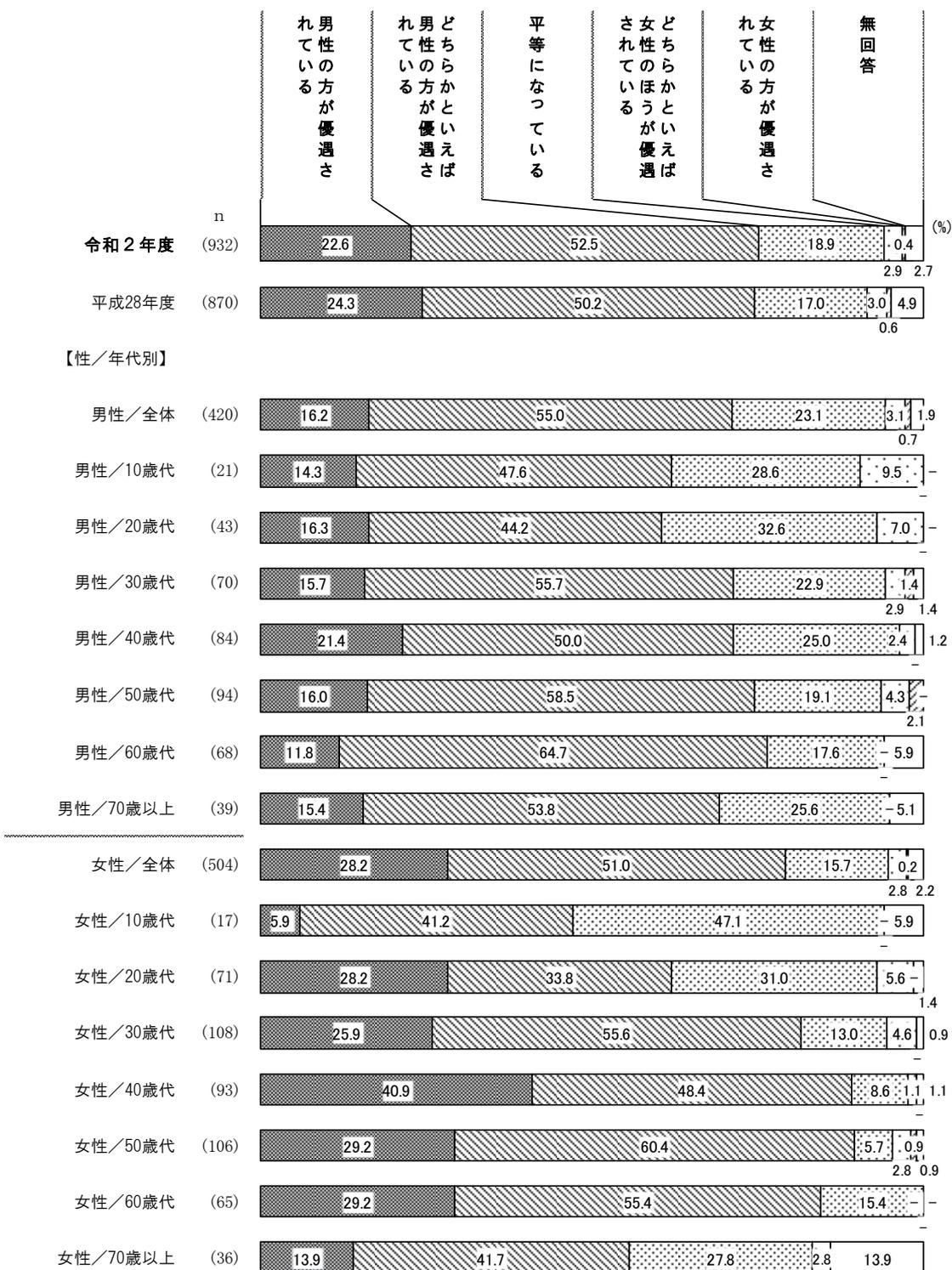


■社会通念・習慣・しきたりなどで

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が52.5%で最も多く、《男性優遇》としては75.1%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、《男性優遇》はすべての年代で男性より女性が多く、30歳代以上で8割を超え、40歳代、50歳代では9割弱となっている。

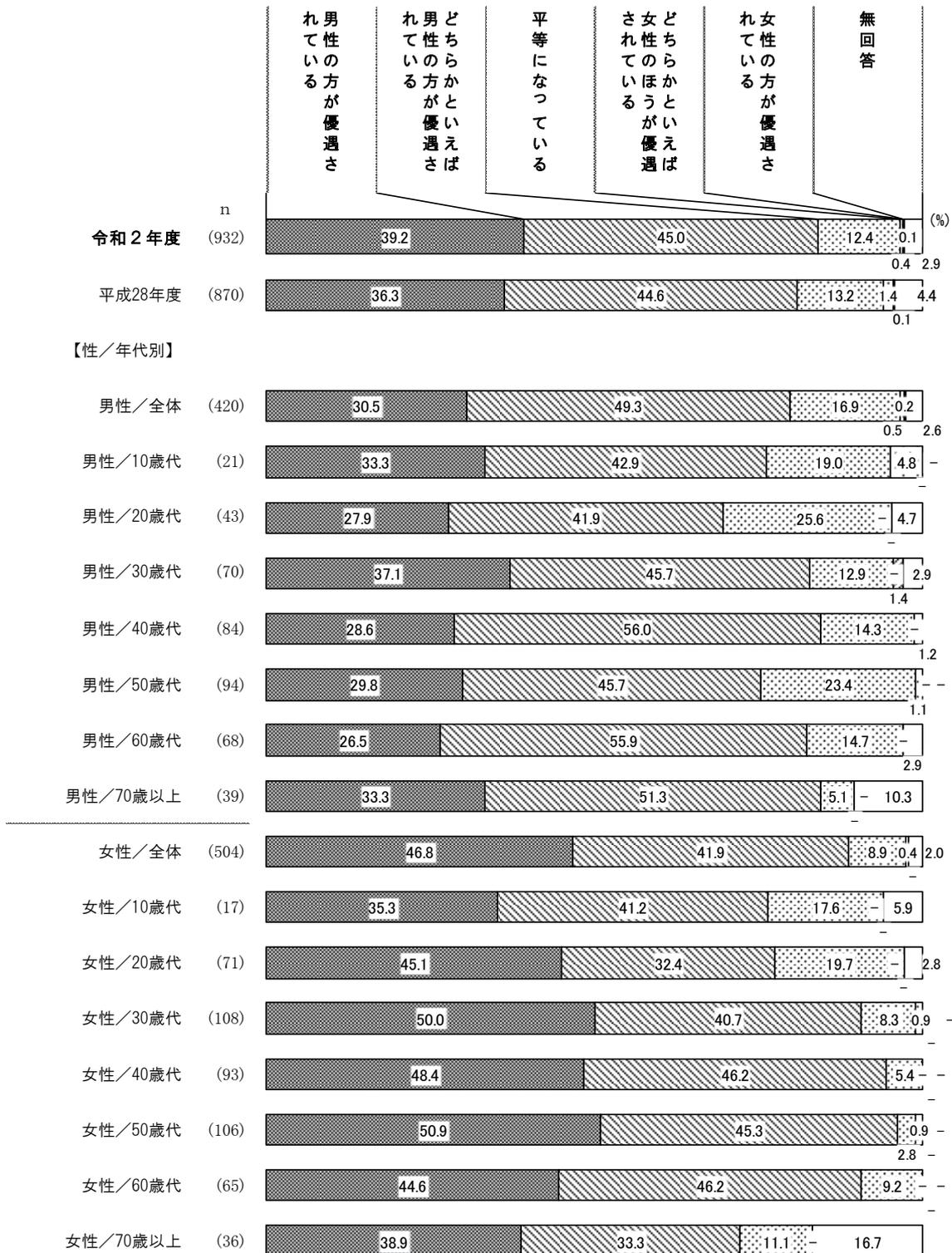


■政治の場で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.0%で最も多く、「男性の方が優遇されている」も39.2%で《男性優遇》としては84.1%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、《男性優遇》はすべての年代で男性より女性が多く、30歳代以上で9割を超えている。

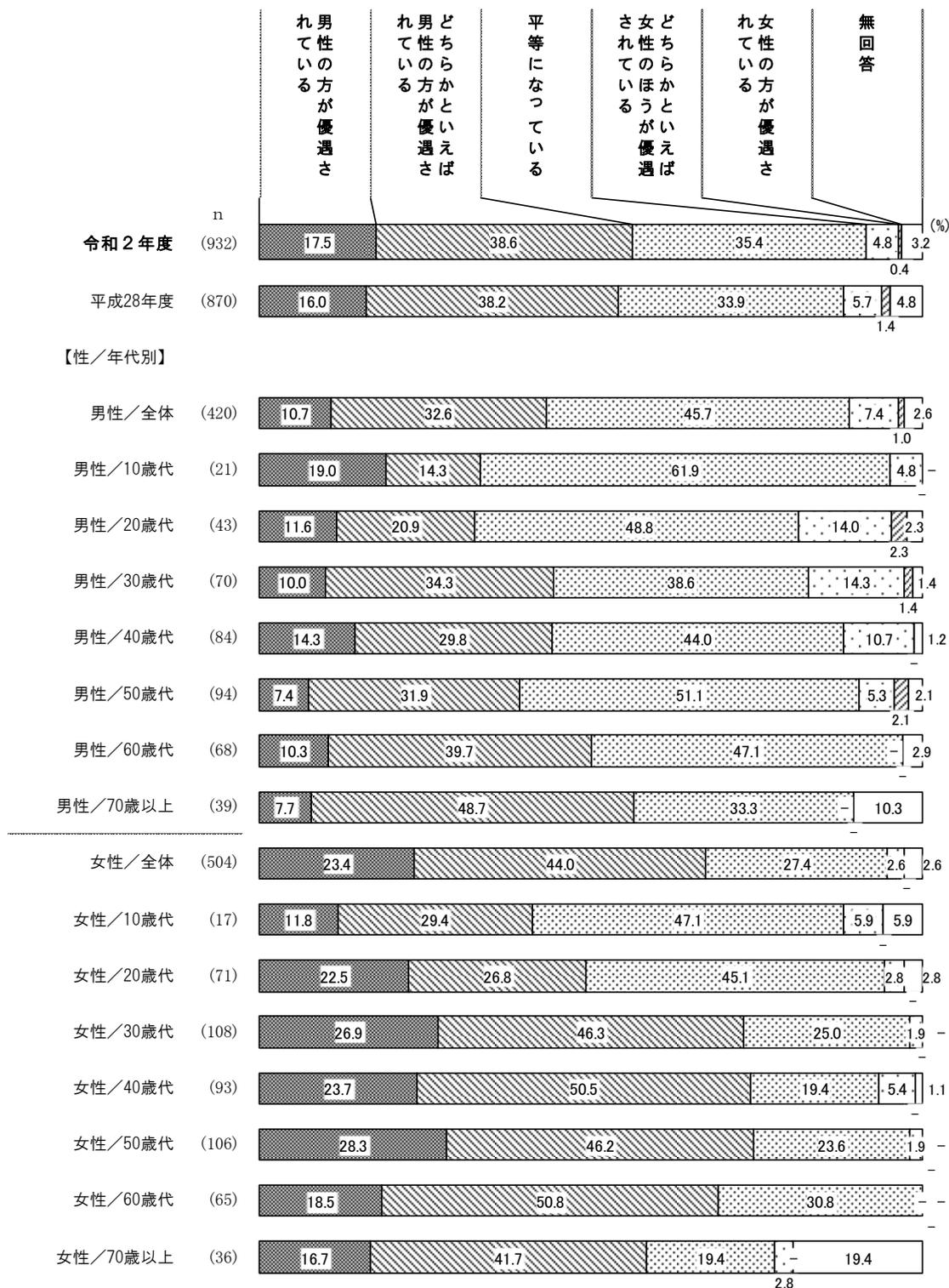


■法律や制度の上で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.6%で最も多いものの、「平等になっている」も35.4%となっている。《男性優遇》としては56.1%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、《男性優遇》はすべての年代で女性が男性より多く、30歳代から50歳代で7割を超えている。

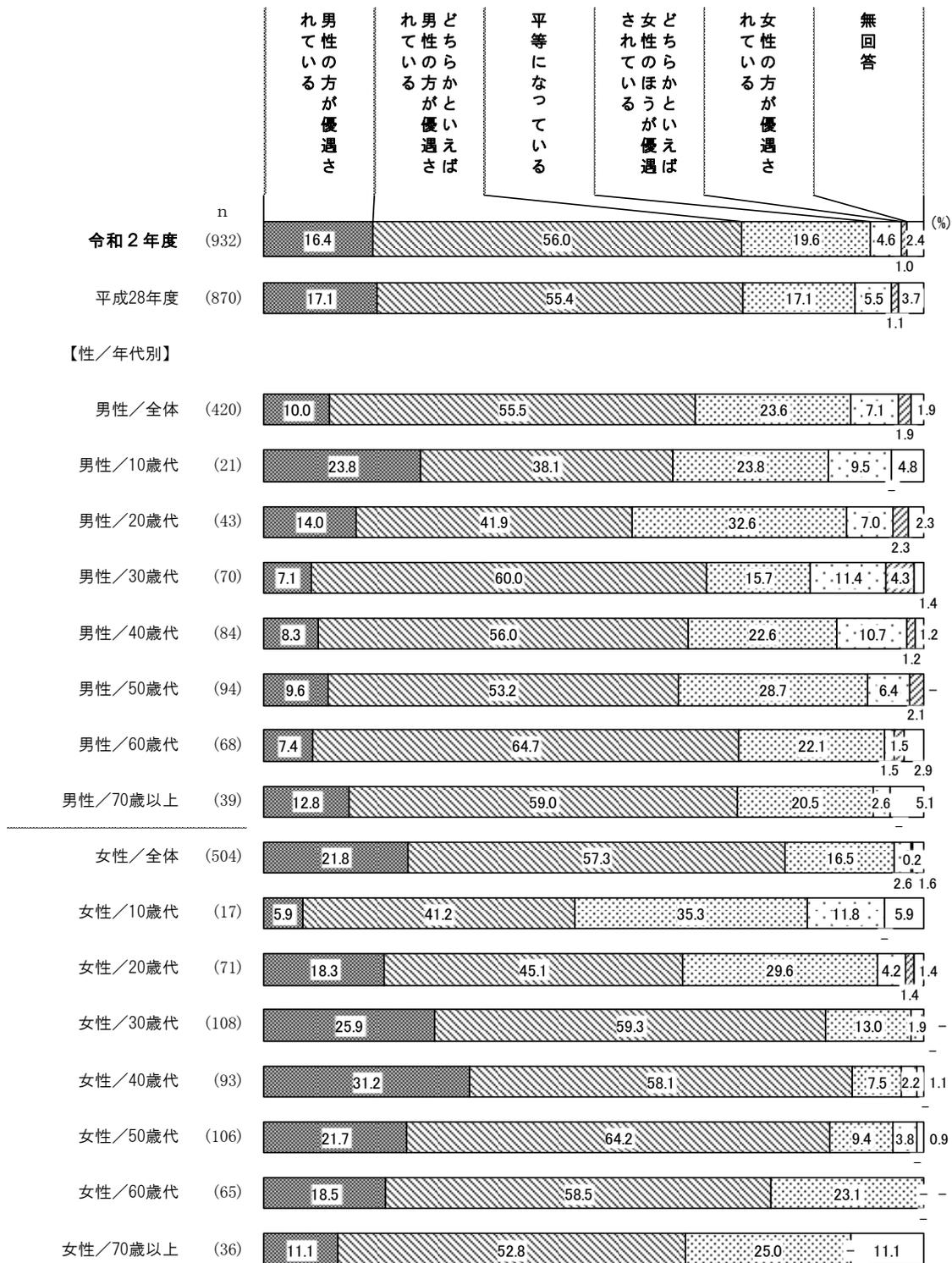


■社会全体の中で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が56.0%で最も多く、《男性優遇》としては72.4%となっている。

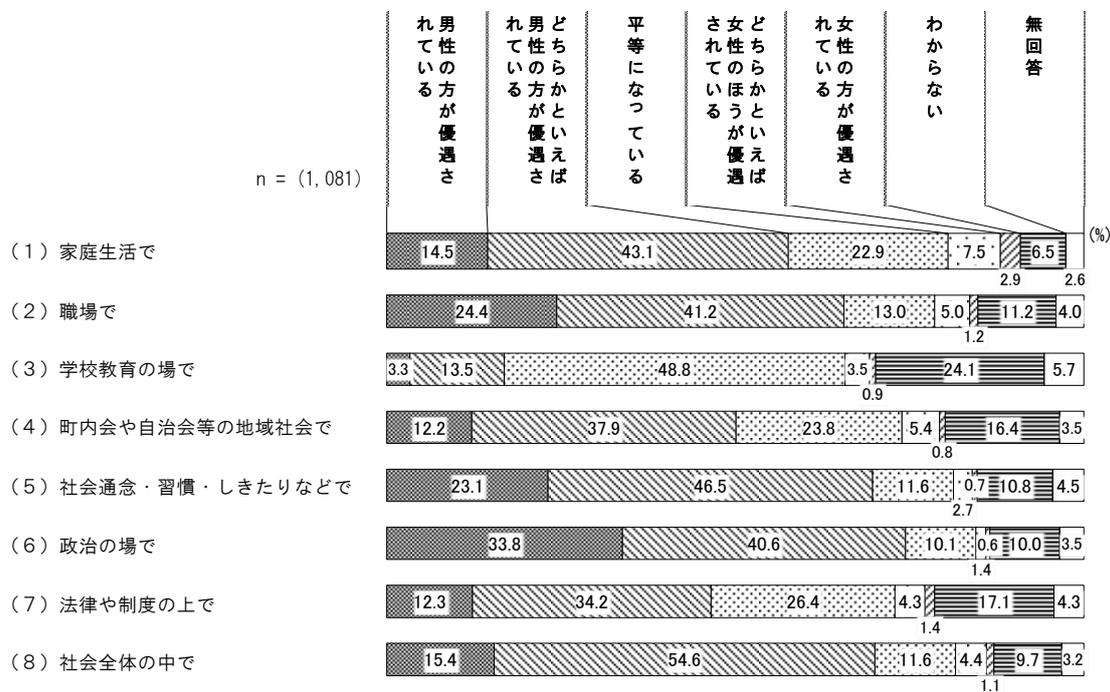
前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、《男性優遇》は70歳以上を除いて女性が男性より多く、30歳代から50歳代で8割台となっている。



■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

栃木県の調査結果との比較では、「平等になっている」が、すべての項目で県より真岡市で多くなっていることがわかる。



※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

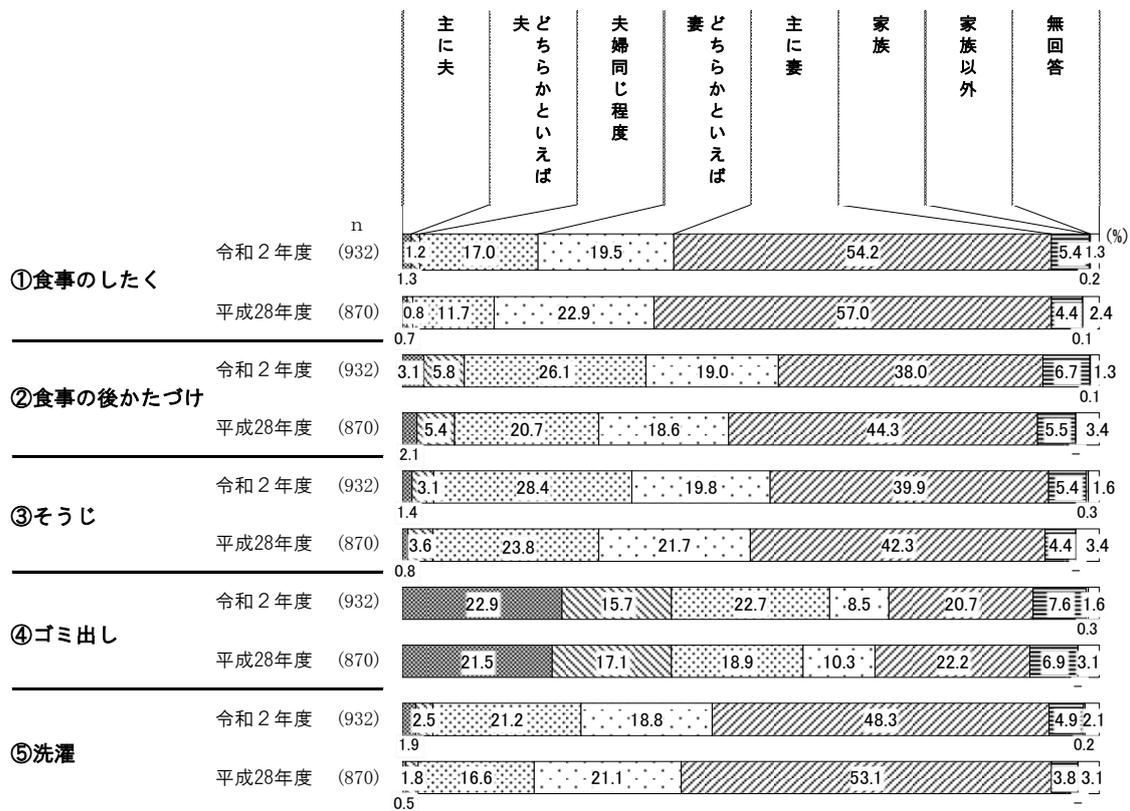
3. 家庭生活

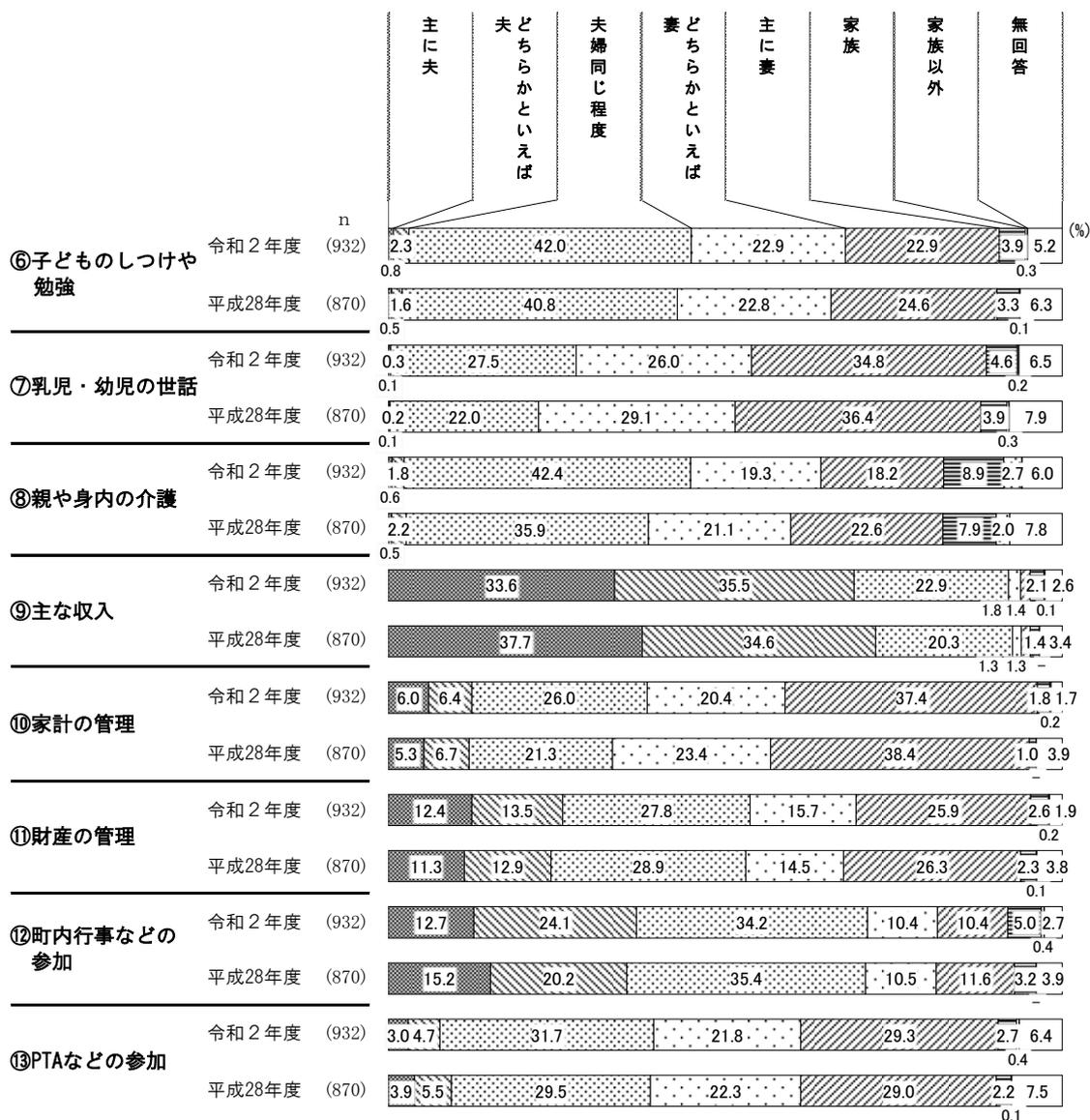
(1) 家事などの分担に対する考え

問3 あなたは、次の(1)～(13)について、夫婦の間でどのように分担していますか。
 配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。
 (それぞれ1つだけに○)

夫婦間の家事などの分担については、「主に夫」と「どちらかといえば夫」を合わせた《夫担当》は“主な収入”で7割弱、“ゴミ出し”と“町内行事などの参加”で3割台後半となっており、「主に妻」と「どちらかといえば妻」を合わせた《妻担当》は、“食事のしたく”で7割台、“洗濯”で6割台半ばとなっている。また、「夫婦同じ程度」では“子どものしつけや勉強”“親や身内の介護”で4割台と他より多くなっている。

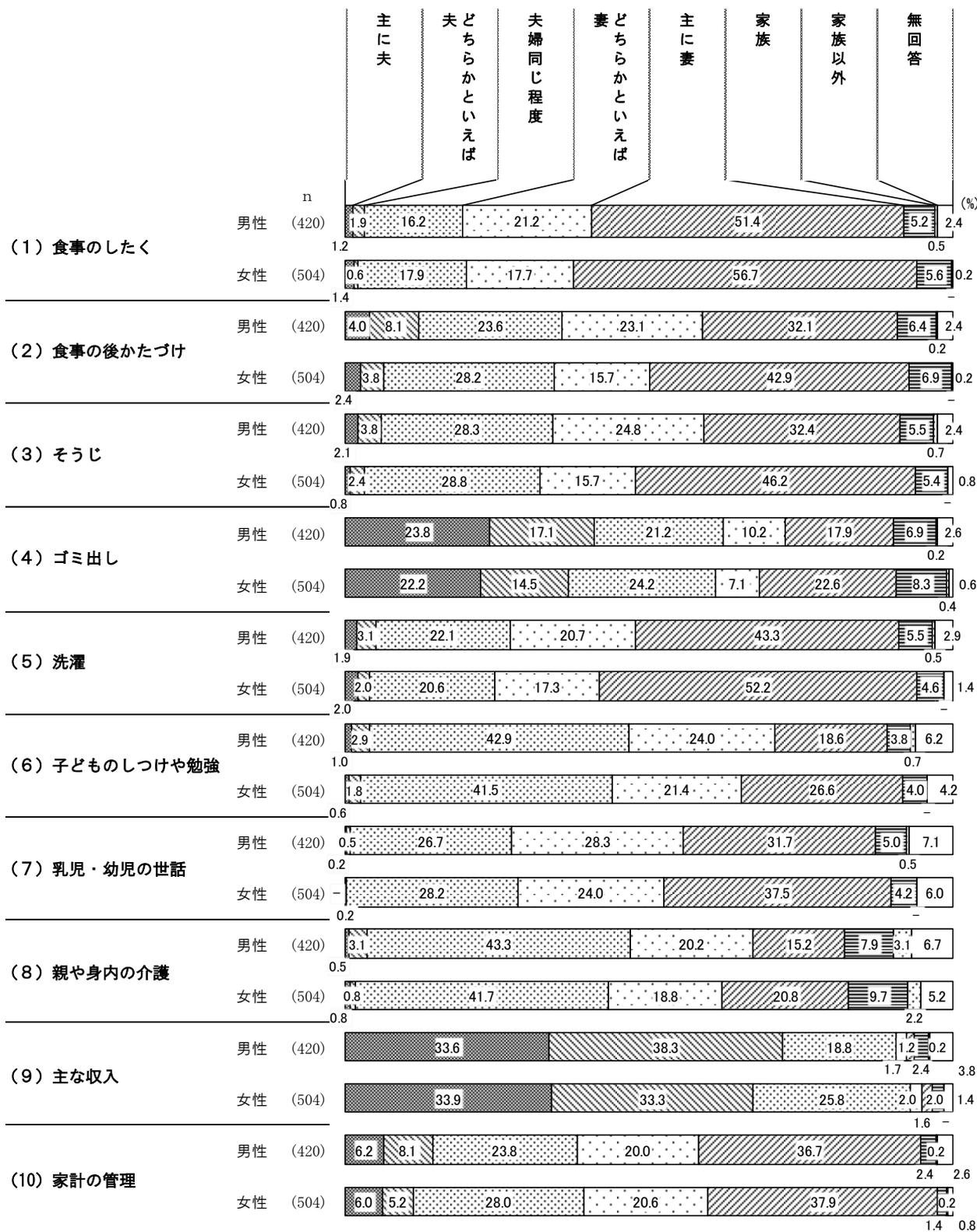
前回調査（平成28年度）結果との比較では、「夫婦同じ程度」で高くなっている項目が目立ち、“食事のしたく”“食事の後かたづけ”“乳児・幼児の世話”“親や身内の介護”が、前回から5ポイント以上高くなっている。



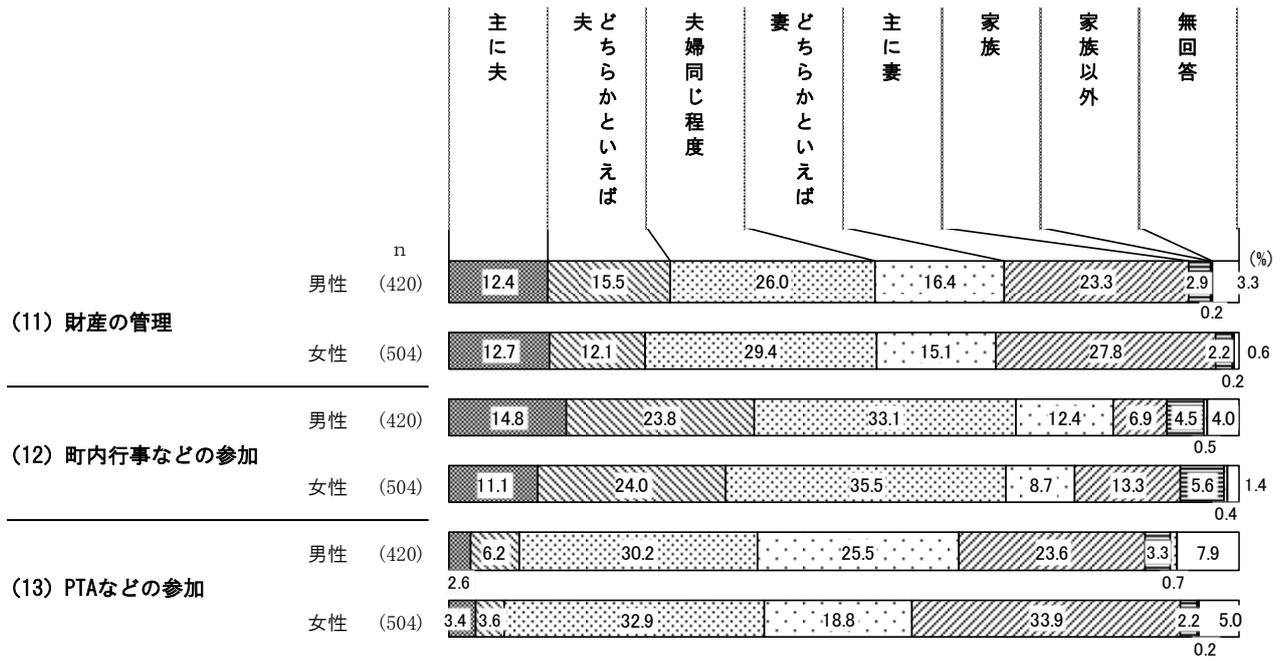


■性別

男女の意識差をみてみると、《妻担当》では、すべての項目で女性が男性を上回っていることがわかり、さらに「主に妻」となるとその差が顕著になり、“食事の後かたづけ”“そうじ”“PTAなどの参加”では10ポイント以上の差がみられる。一方、《夫担当》や「主に夫」に、そこまでの差はみられない。



第2章 調査結果の詳細／市民調査



(2) 夫婦間の役割分担の満足度

配偶者がいる方のみ

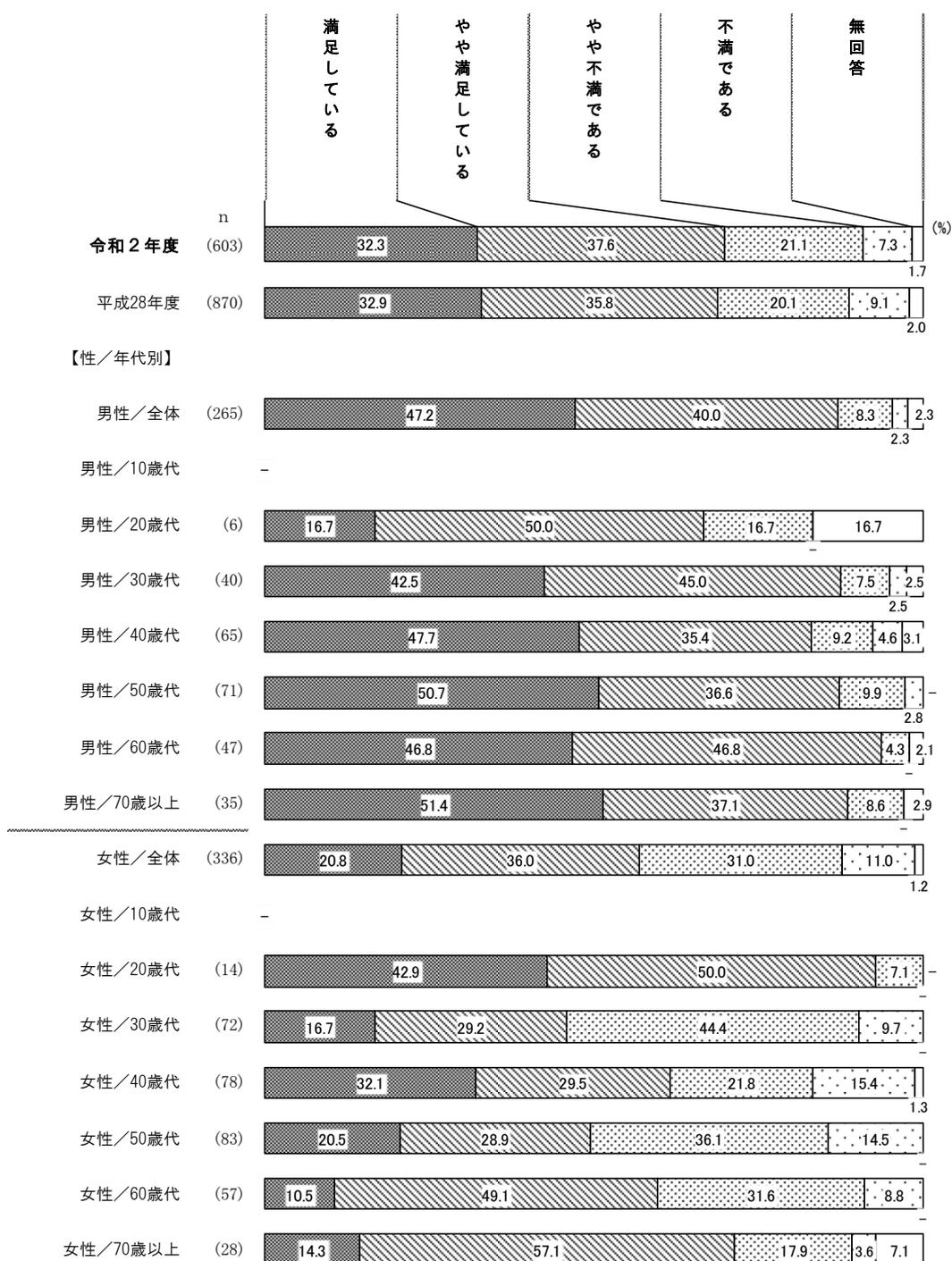
問4 あなたは、夫婦間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

(1つだけに○)

夫婦間の役割分担の満足度では、「やや満足している」が37.6%で最も多く、「満足している」(32.3%)を合わせた《満足》は69.9%となっている。

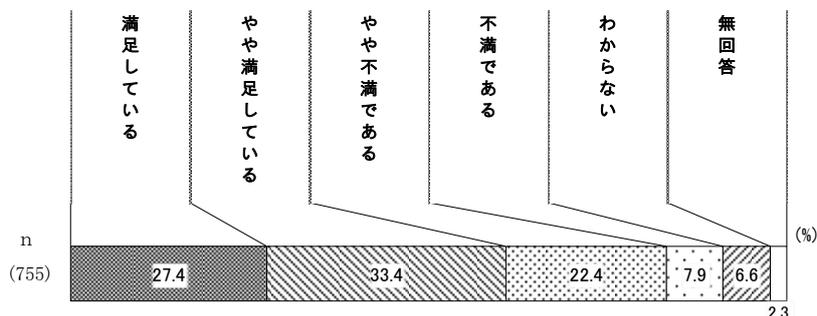
前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、男性のすべての年代で《満足》が8割を超え、60歳代では93.6%を占めている。一方、女性では《満足》は男性より低く、30歳代、50歳代で4割台にとどまっている。



■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

栃木県の調査結果との比較では、大きな差異はみられない。



※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

(3) 役割分担の不満解消に必要なだと思うこと

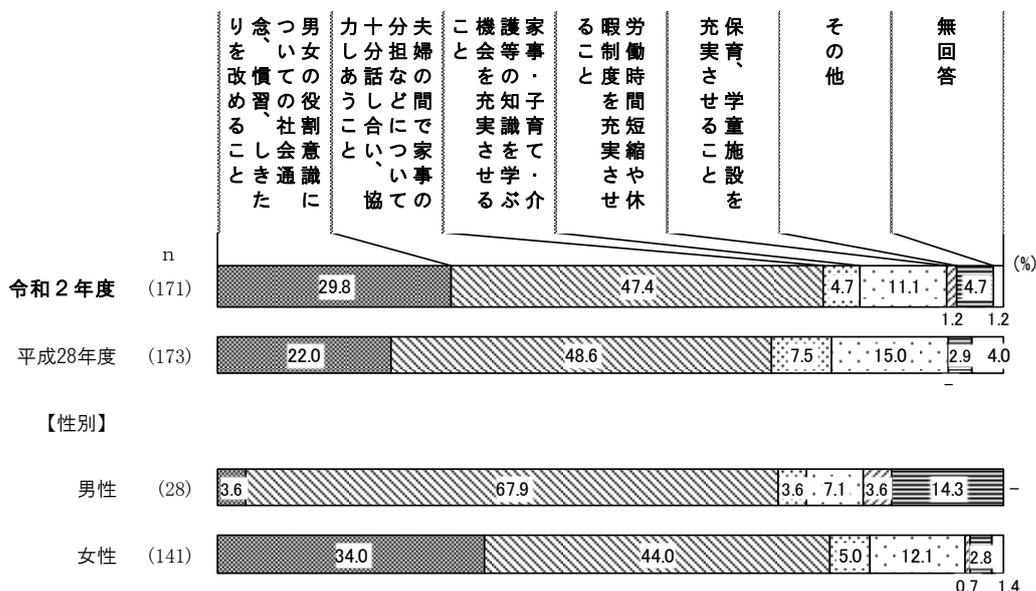
問4で、「3」もしくは「4」と回答した方のみ

問4-1 不満を解消するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（1つだけに○）

役割分担の不満解消に必要なと思うことでは、「夫婦の間で家事の分担などについて十分話し合い、協力しあうこと」が47.4%で最も多く、次いで「男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（29.8%）となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が22.0%から29.8%と、7.8ポイント高くなっている。

性別でみると、男性の回答者数は少ないが、「夫婦の間で家事の分担などについて十分話し合い、協力しあうこと」が多くなっている。

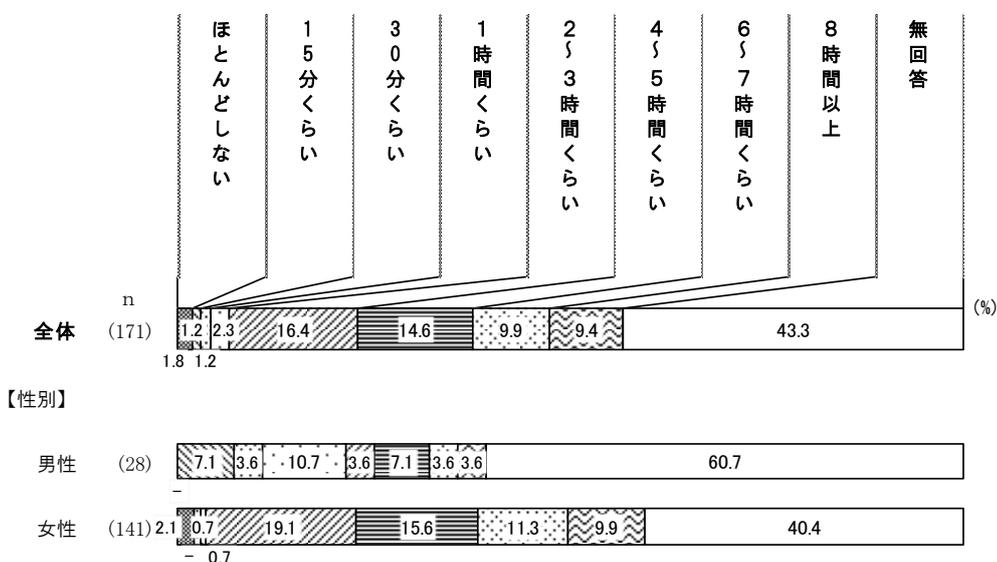


(4) 家事、育児、介護にかかっている一日の合計時間

問4で、「3」もしくは「4」と回答した方のみ
 問4-2 1日のうち家事、育児、介護にかかっている合計時間はどの程度ですか。
 (1つだけに○)

家事、育児、介護にかかっている一日の合計時間では、「2～3時間くらい」が16.4%で最も多く、以下、「4～5時間くらい」(14.6%)、「6～7時間くらい」(9.9%)、「8時間以上」(9.4%)となっている。

性別でみると、女性で「2～3時間くらい」が2割弱となっている。



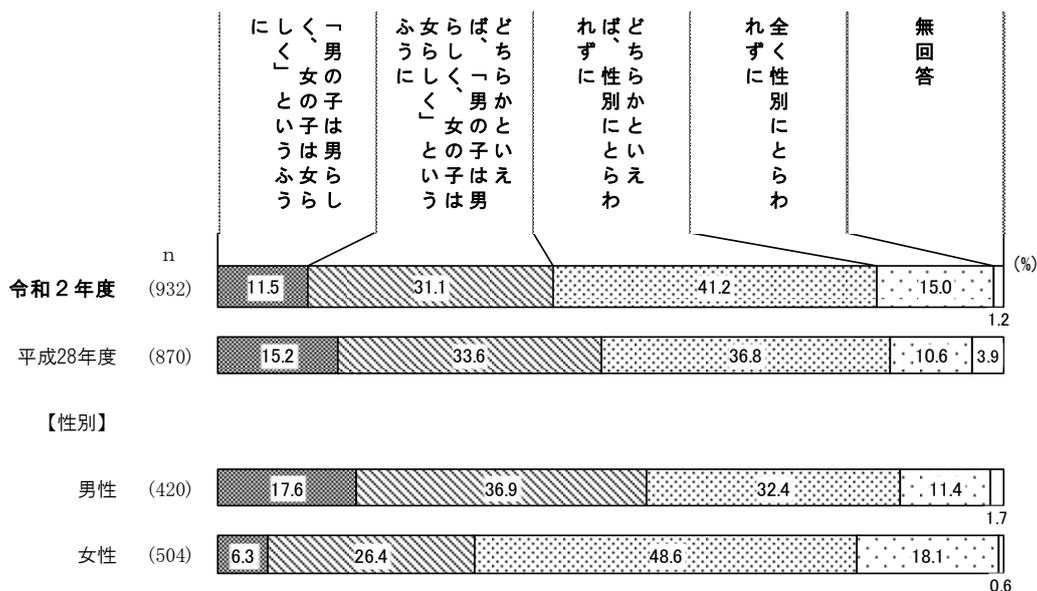
(5) 子どもの育て方に対する考え

問5 あなたは、自分の子どもをどう育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。(1つだけに○)

子どもの育て方に対する考えでは、「どちらかといえば、性別にとらわれずに」が41.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに」(31.1%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性別でみると、男性では「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに」が36.9%で女性より10.5ポイント、女性では「どちらかといえば、性別にとらわれずに」が48.6%で男性より15.2ポイント、それぞれ多くなっている。また、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに」は女性の6.3%に対し男性が17.6%と、ここでも11.3ポイント差があり、性差がみられる結果となっている。

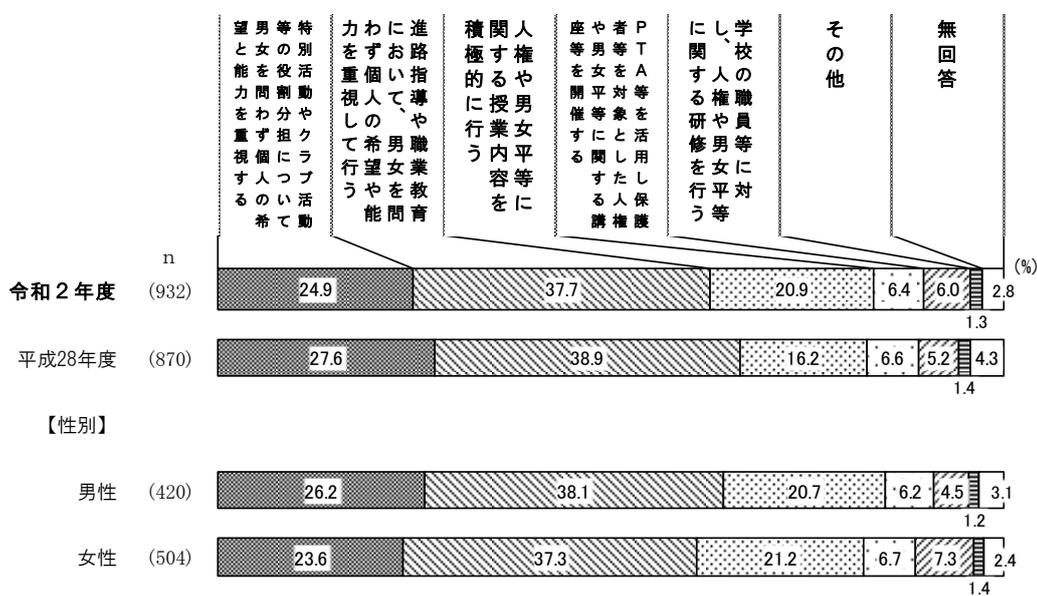


(6) 人権や男女平等意識育成のために教育現場で重要なこと

問6 あなたは、家庭以外の教育の現場において、人権や男女平等意識を育成する上で、どのようなことが重要だと思いますか。(1つだけに○)

人権や男女平等意識育成のために教育現場で重要なことでは、「進路指導や職業教育において、男女を問わず個人の希望や能力を重視して行う」が37.7%で最も多く、以下、「特別活動やクラブ活動等の役割分担について男女を問わず個人の希望と能力を重視する」(24.9%)、「人権や男女平等に関する授業内容を積極的に行う」(20.9%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較及び性別では、ともに大きな差異はみられない。



(7) 男性の育児・介護への参加

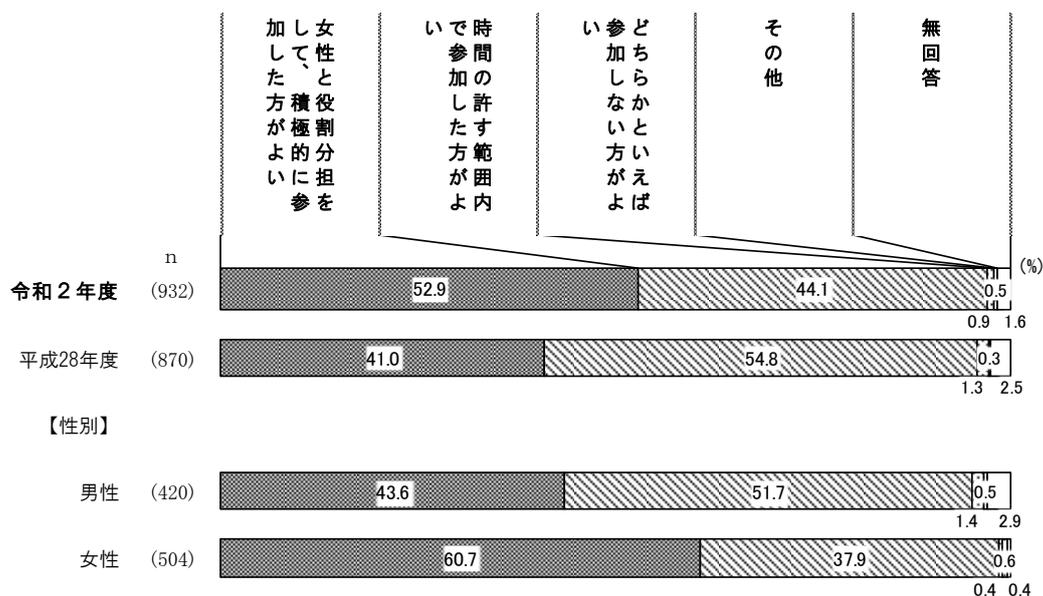
問7 男性が、育児・介護に参加することについてどう思いますか。(それぞれ1つだけに○)

■育児参加

男性が育児に参加することについての考えでは、「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が52.9%と多く、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」は44.1%となっている。また、それらを合わせた《参加した方がよい》は97.0%を占めている。

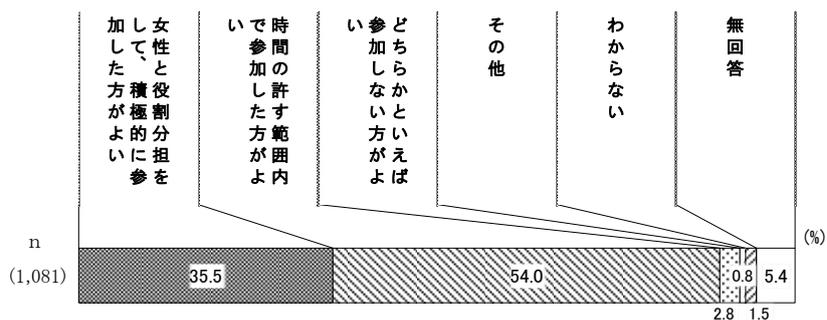
前回調査（平成28年度）結果との比較では、「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が41.0%から52.9%の11.9ポイント増、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」が54.8%から44.1%の10.7ポイント減となっている。

性別でみると、男性で「時間の許す範囲内で参加した方がよい」が51.7%、女性で「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が60.7%と相違がみられるものの、《参加した方がよい》としては男性95.3%、女性98.6%と、ほとんど性差はみられなくなる。



■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）／育児参加

栃木県の調査結果との比較では、「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が県より多く、《参加した方がよい》でみても同様の結果となっている。



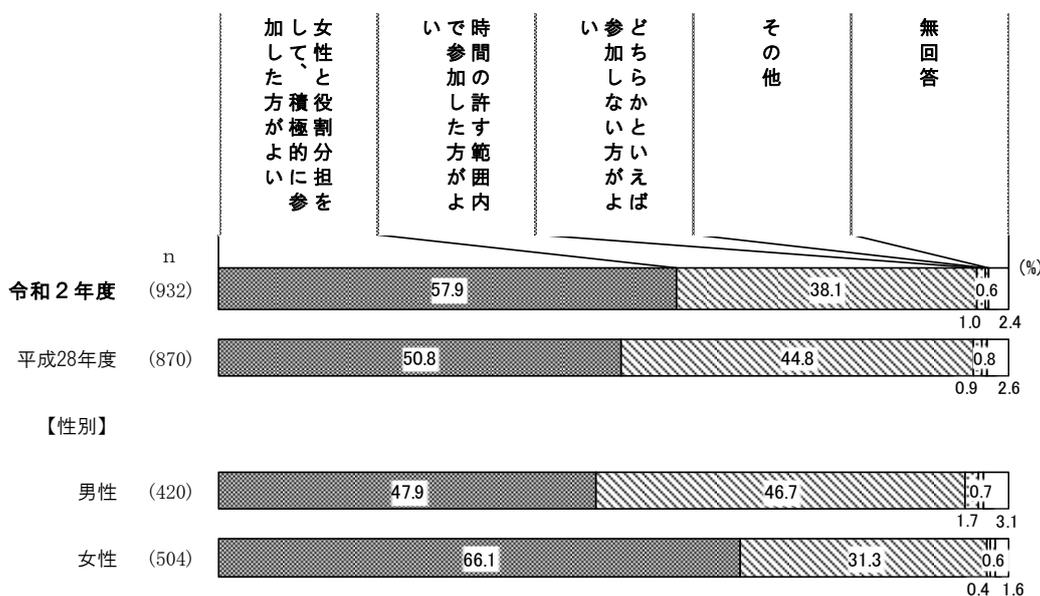
※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

■介護参加

男性が介護に参加することについての考えでは、「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が57.9%と多く、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」は38.1%となっている。また、それらを合わせた《参加した方がよい》は96.0%を占めている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が50.8%から57.9%の7.1ポイント増、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」が44.8%から38.1%の6.7ポイント減となっている。

性別で見ると、男女ともに「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」が多いものの、女性66.1%、男性47.9%で18.2ポイント差となっているものの、《参加した方がよい》としては男性94.6%、女性97.4%と、ほとんど性差はみられなくなる。



(8) 男性の育児休業・介護休業の取得

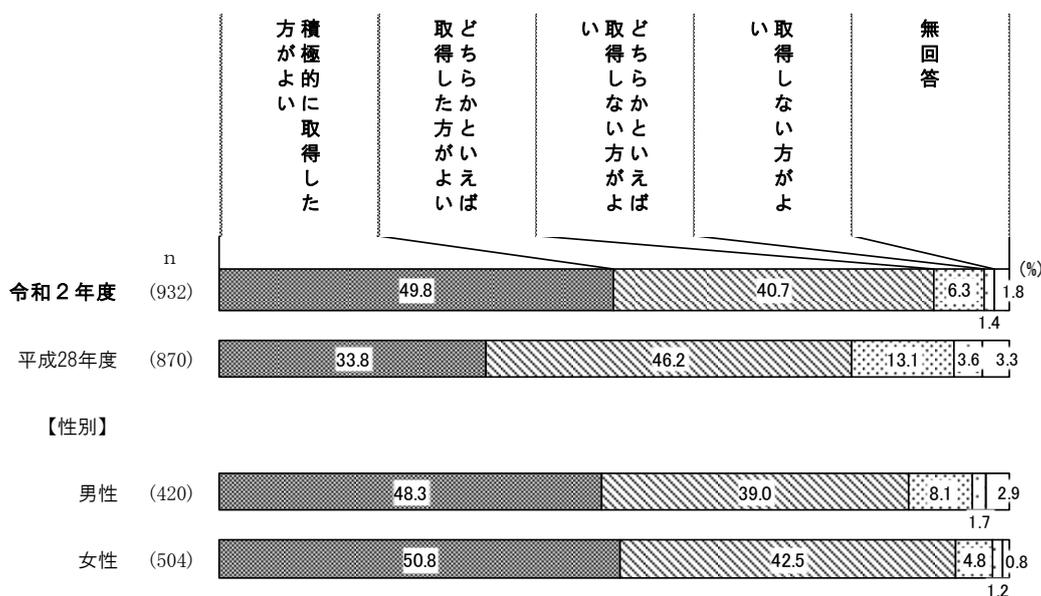
問8 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。(それぞれ1つだけに○)

■男性の育児休業取得

男性が育児休業を取得することについての考えでは、「積極的に取得した方がよい」が49.8%と多く、「どちらかといえば取得した方がよい」(40.7%)を合わせた《参加した方がよい》は90.7%を占めている。

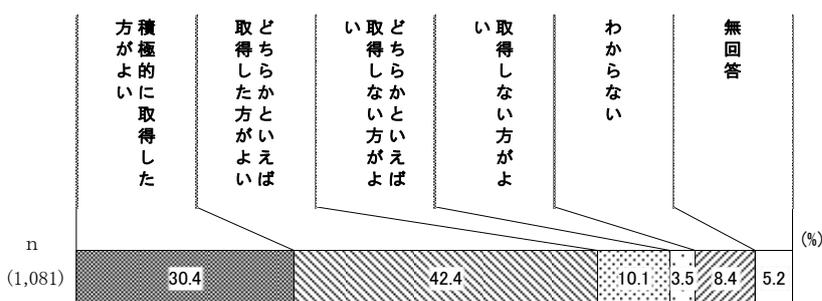
前回調査(平成28年度)結果との比較では、「積極的に取得した方がよい」が33.8%から49.8%で16.0ポイント、《参加した方がよい》でも80.0%から90.7%で10.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性別でみると、《参加した方がよい》は女性で93.3%と、男性(87.3%)より6ポイント高くなっている。



■県調査結果との比較(平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査)／男性の育児休業取得

「積極的に取得した方がよい」と《参加した方がよい》、ともに真岡市が大きく上回っている。



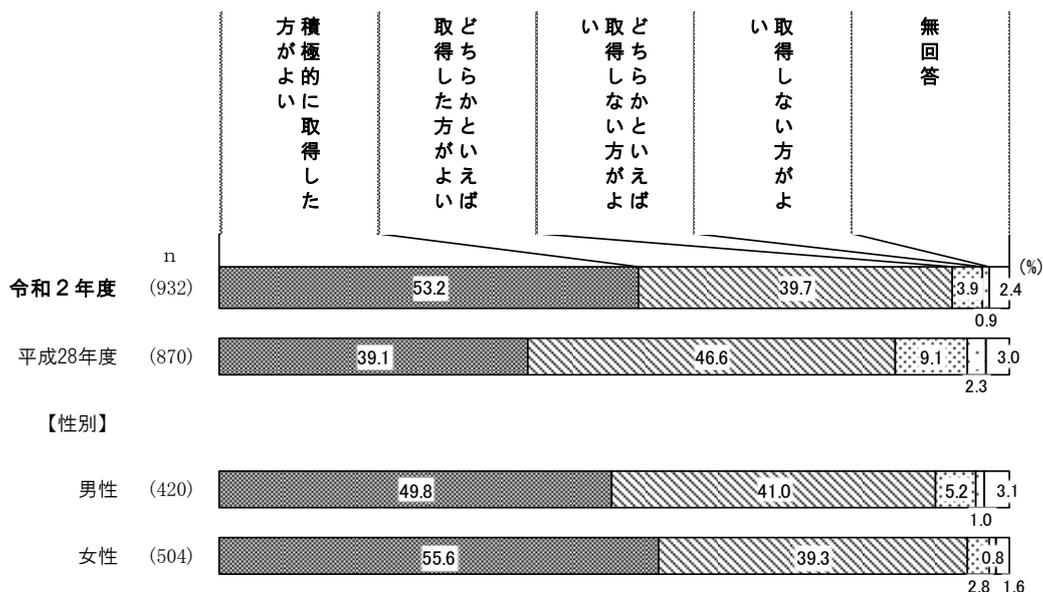
※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

■男性の介護休業取得

男性が育児休業を取得することについての考えでは、「積極的に取得した方がよい」が53.2%と多く、「どちらかといえば取得した方がよい」(39.7%)を合わせた《取得した方がよい》は92.9%を占めている。

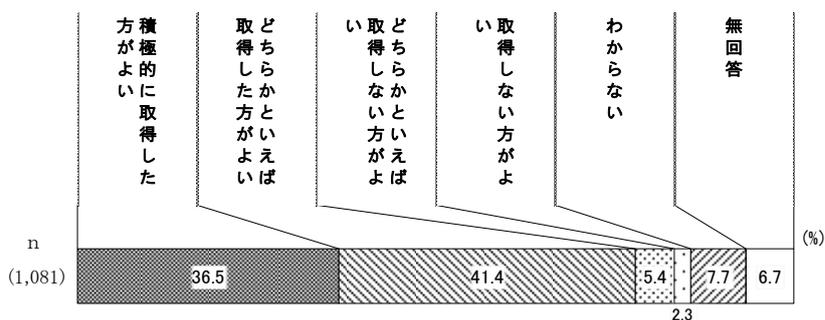
前回調査(平成28年度)結果との比較では、「積極的に取得した方がよい」が39.1%から53.2%で14.1ポイント、《参加した方がよい》でも85.7%から92.9%で7.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性別でみると、女性で「積極的に取得した方がよい」が55.6%と、男性(49.8%)より5.8ポイント高くなっている。



■県調査結果との比較(平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査)／男性の介護休業取得

「積極的に取得した方がよい」と《参加した方がよい》、ともに真岡市が大きく上回っている。



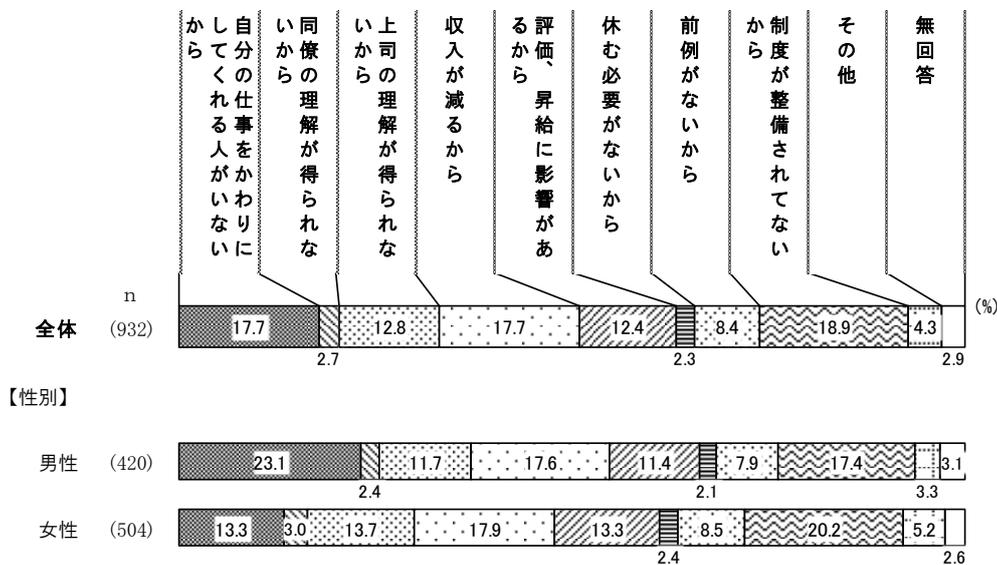
※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

(9) 男性の育児休業・介護休業取得が進まない理由についての考え

問9 男性の育児休業、介護休業取得が進まない理由は何だと思いますか。(1つだけに○)

男性の育児休業・介護休業取得が進まない理由についての考えでは、「制度が整備されていないから」が18.9%で最も多く、以下、「自分の仕事をかわりにしてくれる人がいないから」「収入が減るから」(ともに17.7%)、「上司の理解が得られないから」(12.8%)、「評価、昇給に影響があるから」(12.4%)となっている。

性別で見ると、男性では「自分の仕事をかわりにしてくれる人がいないから」が23.1%と最も多く、女性(13.3%)より6.8ポイント高くなっている。



4. 女性と仕事

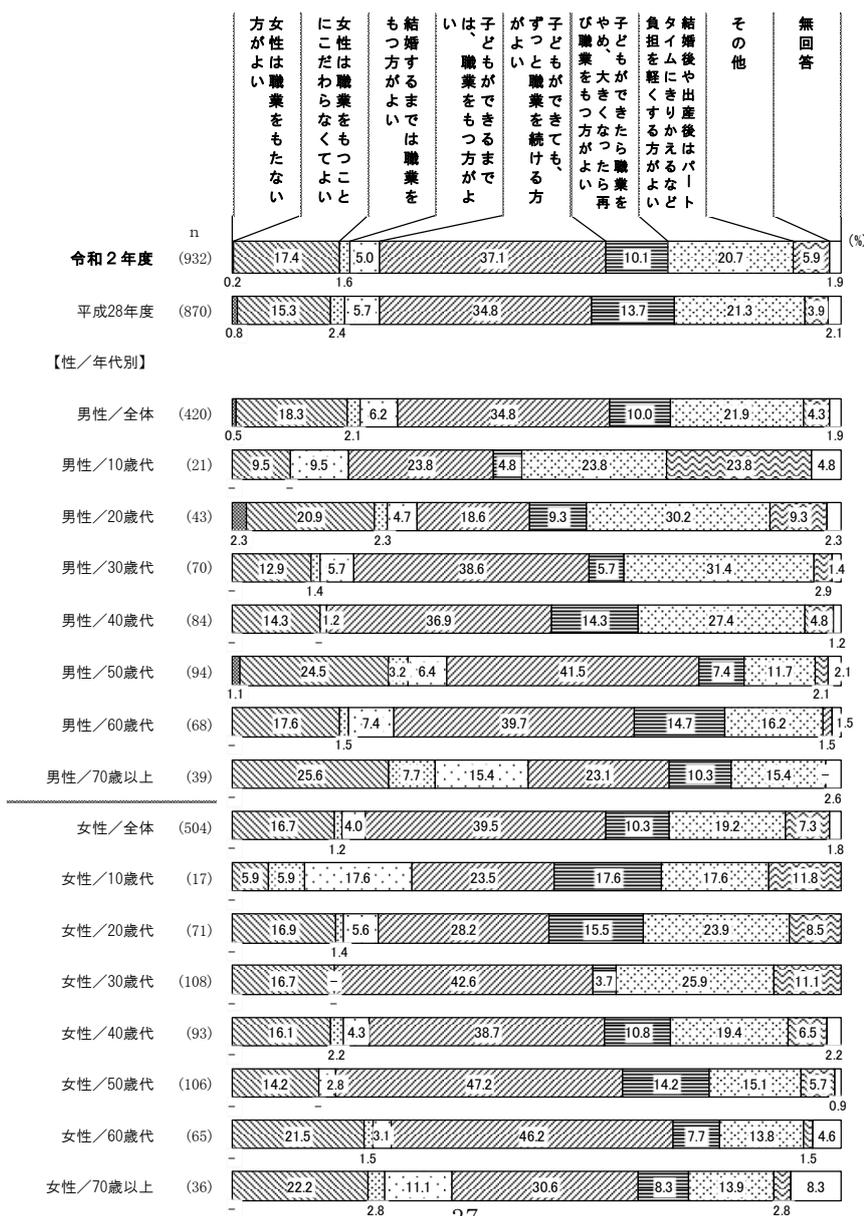
(1) 女性の就労についての考え

問10 あなたは、女性が職業をもつことについてどうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけに○)

女性の就労についての考えでは、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が37.1%で最も多く、以下、「結婚後や出産後はパートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」(20.7%)、「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」(17.4%)、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(10.1%)となっている。

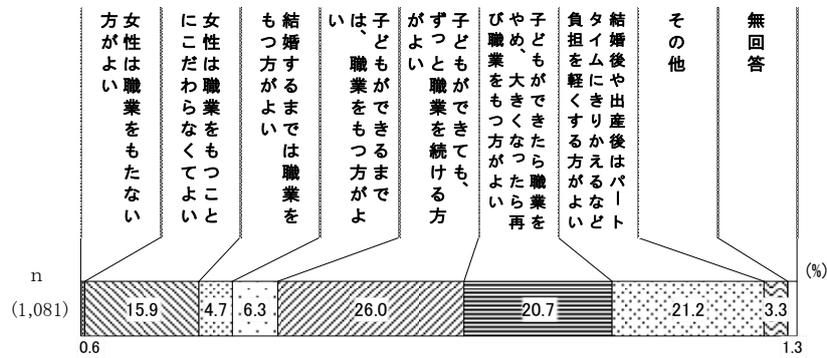
前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、女性の30歳代、50歳代、60歳代で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が多く、4割台となっている。一方、男性では、20歳代から40歳代で「結婚後や出産後はパートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」、50歳代、70歳以上で「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」が、平均より多くなっている。



■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は真岡市が、「子どもができれば、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は県が多くなっている。



(2) 女性が結婚・出産後も働き続けるために重要なこと

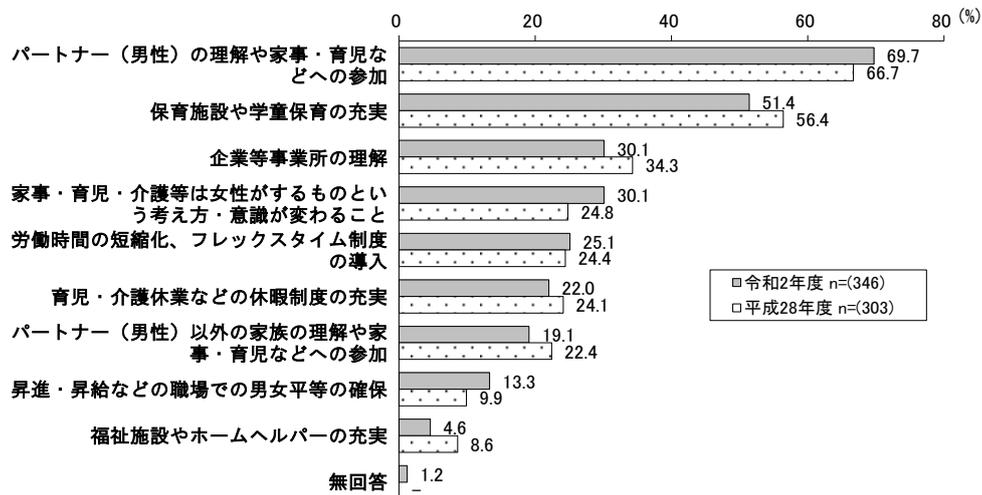
問10で、「5」と回答した方のみ

問10-1 あなたは、女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(3つまで○)

女性が結婚・出産後も働き続けるために重要なことでは、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」が69.7%で最も多く、以下、「保育施設や学童保育の充実」(51.4%)、「企業等事業所の理解」「家事・育児・介護等は女性がするものという考え方・意識が変わること」(ともに30.1%)となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「家事・育児・介護等は女性がするものという考え方・意識が変わること」が24.8%から30.1%で5.3ポイント高くなっている。

性別でみると、女性で「家事・育児・介護等は女性がするものという考え方・意識が変わること」と「労働時間の短縮化、フレックスタイム制度の導入」が男性より10ポイント以上高くなっている。



		調査数	パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加	保育施設や学童保育の充実	企業等事業所の理解	家事・育児・介護等は女性がするものという考え方・意識が変わること	労働時間の短縮化、フレックスタイム制度の導入	育児・介護休業などの休暇制度の充実	パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	福祉施設やホームヘルパーの充実	無回答
全体		346	69.7	51.4	30.1	30.1	25.1	22.0	19.1	13.3	4.6	1.2
性別	男性	146	68.5	55.5	34.2	21.9	17.8	22.6	20.5	11.6	5.5	0.7
	女性	199	70.4	48.7	27.1	35.7	30.7	21.6	18.1	14.1	4.0	1.5

(3) 女性が結婚・出産後に再就職するために重要なこと

問10で、「6」と回答した方のみ

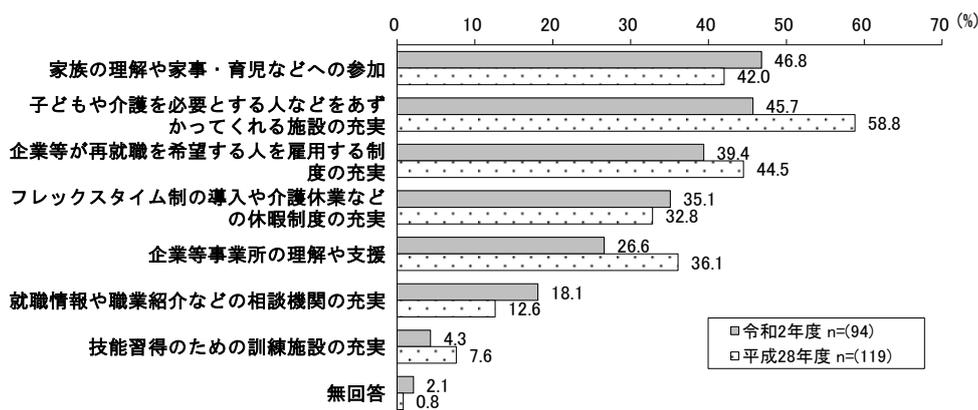
問10-2 あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

(3つまで○)

女性が結婚・出産後に再就職するために重要なことでは、「家族の理解や家事・育児などへの参加」が46.8%で最も多く、以下、「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」(45.7%)、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」(39.4%)、「フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」(35.1%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」「企業等事業所の理解や支援」で減少しており、特に「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」では13.1ポイント減となっている。

性別でみると、「フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」での男女差が目立ち、女性が40.4%と男性(28.6%)より11.8ポイント高くなっている。



		調査数	家族の理解や家事・育児などへの参加	子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実	企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	企業等事業所の理解や支援	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	技能習得のための訓練施設の充実	無回答
全体		94	46.8	45.7	39.4	35.1	26.6	18.1	4.3	2.1
性別	男性	42	40.5	47.6	42.9	28.6	23.8	23.8	2.4	-
	女性	52	51.9	44.2	36.5	40.4	28.8	13.5	5.8	3.8

(4) 男女の仕事と家庭両立のために必要なこと

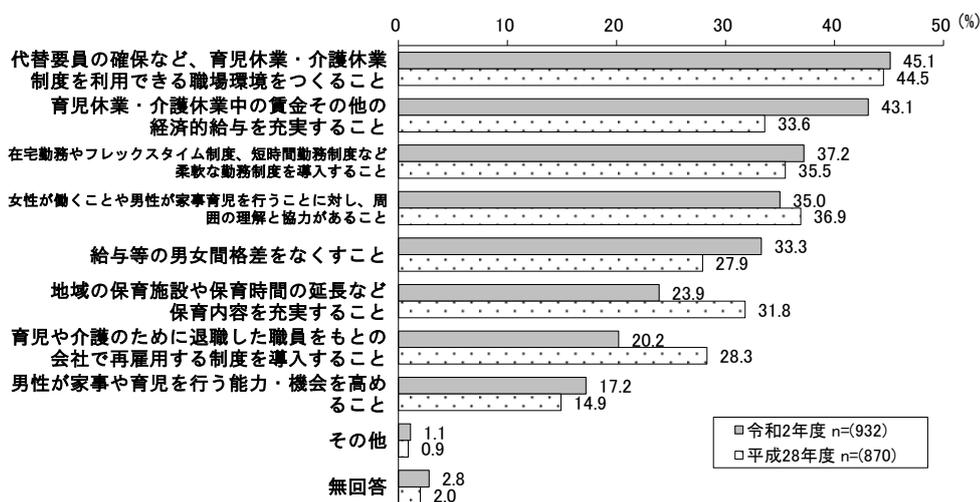
問11 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。(3つまで○)

男女の仕事と家庭両立のために必要なことでは、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が45.1%で最も多く、以下、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」(43.1%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を導入すること」(37.2%)、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」(35.0%)、「給与等の男女間格差をなくすこと」(33.3%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が33.6%から43.1%で9.5ポイント、「給与等の男女間格差をなくすこと」が27.9%から33.3%で5.4ポイント高くなっている。また、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」で8ポイント前後の減少となっている。

性・年代別にみると、男性の30歳代で「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が60.0%、20歳代で「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を導入すること」が55.8%と高くなっている。一方、女性の20歳代で「給与等の男女間格差をなくすこと」が45.1%と高くなっている。

職業別にみると、学生で「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」と「給与等の男女間格差をなくすこと」が多くなっている。



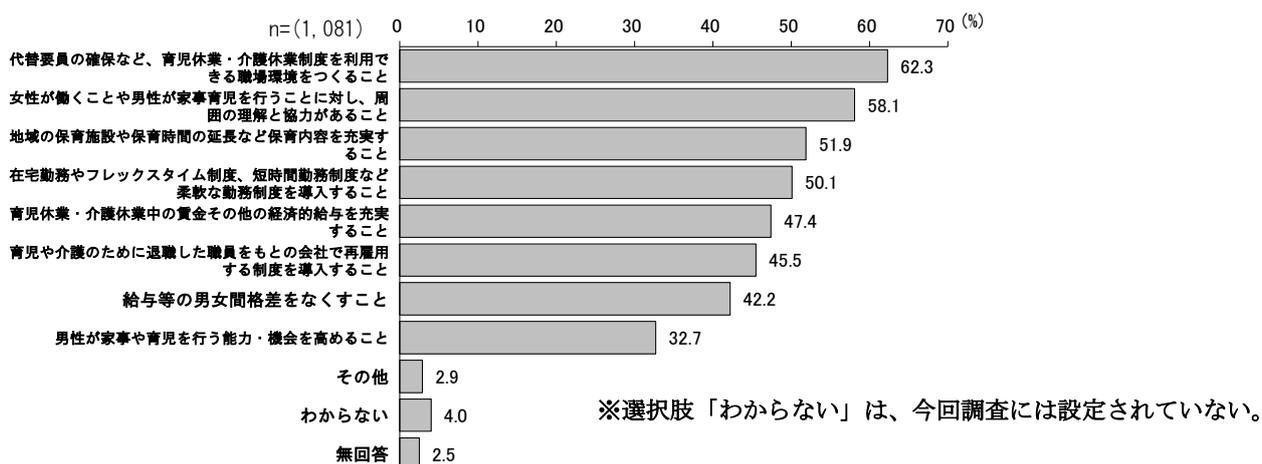
第2章 調査結果の詳細／市民調査

(%)

		調査数	代替要員の確保など、育児休業・介護休業を利用できる職場環境をつくること	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を導入すること	女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること	給与等の男女間格差をなくすこと	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること	その他	無回答
全体		932	45.1	43.1	37.2	35.0	33.3	23.9	20.2	17.2	1.1	2.8
性／年代別（男性）	男性全体	420	46.0	44.5	34.3	29.5	32.1	24.8	20.7	15.0	1.0	2.9
	10歳代	21	23.8	28.6	28.6	57.1	47.6	23.8	19.0	19.0	-	-
	20歳代	43	51.2	46.5	55.8	32.6	27.9	18.6	11.6	18.6	2.3	2.3
	30歳代	70	47.1	60.0	30.0	37.1	41.4	27.1	11.4	17.1	-	-
	40歳代	84	50.0	40.5	36.9	29.8	31.0	17.9	27.4	16.7	-	3.6
	50歳代	94	38.3	46.8	35.1	22.3	34.0	21.3	21.3	9.6	2.1	2.1
	60歳代	68	51.5	44.1	32.4	25.0	26.5	32.4	29.4	16.2	1.5	4.4
	70歳以上	39	48.7	28.2	17.9	23.1	20.5	38.5	17.9	12.8	-	7.7
性／年代別（女性）	女性全体	504	44.4	42.5	40.3	39.5	34.3	23.2	19.8	19.2	1.2	2.4
	10歳代	17	47.1	23.5	41.2	47.1	41.2	11.8	35.3	17.6	-	-
	20歳代	71	47.9	42.3	33.8	33.8	45.1	22.5	19.7	16.9	-	2.8
	30歳代	108	43.5	38.0	44.4	42.6	28.7	25.0	17.6	28.7	3.7	-
	40歳代	93	45.2	51.6	43.0	41.9	40.9	14.0	16.1	18.3	-	3.2
	50歳代	106	39.6	48.1	42.5	37.7	39.6	27.4	20.8	17.0	1.9	0.9
	60歳代	65	44.6	36.9	43.1	40.0	27.7	33.8	23.1	16.9	-	3.1
	70歳以上	36	50.0	36.1	19.4	36.1	11.1	19.4	22.2	11.1	-	11.1
職業別	自営業	68	48.5	41.2	29.4	27.9	25.0	32.4	22.1	8.8	1.5	4.4
	家族従業	15	60.0	60.0	46.7	33.3	13.3	13.3	13.3	46.7	-	-
	フルタイム・常勤	451	45.9	46.1	40.4	33.0	34.8	23.5	20.4	15.3	1.3	1.6
	パート・アルバイト	140	43.6	46.4	36.4	34.3	37.1	23.6	17.1	22.9	1.4	3.6
	専業主婦	80	40.0	37.5	45.0	38.8	26.3	22.5	16.3	20.0	1.3	3.8
	無職	99	48.5	35.4	23.2	38.4	30.3	30.3	24.2	14.1	-	5.1
	学生	53	35.8	34.0	37.7	50.9	45.3	15.1	24.5	20.8	-	1.9
	その他	13	53.8	30.8	46.2	38.5	30.8	15.4	15.4	23.1	-	7.7

■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

すべての項目で真岡市の方が少なくなっているが、なかでも「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」は20ポイント以上低くなっている。

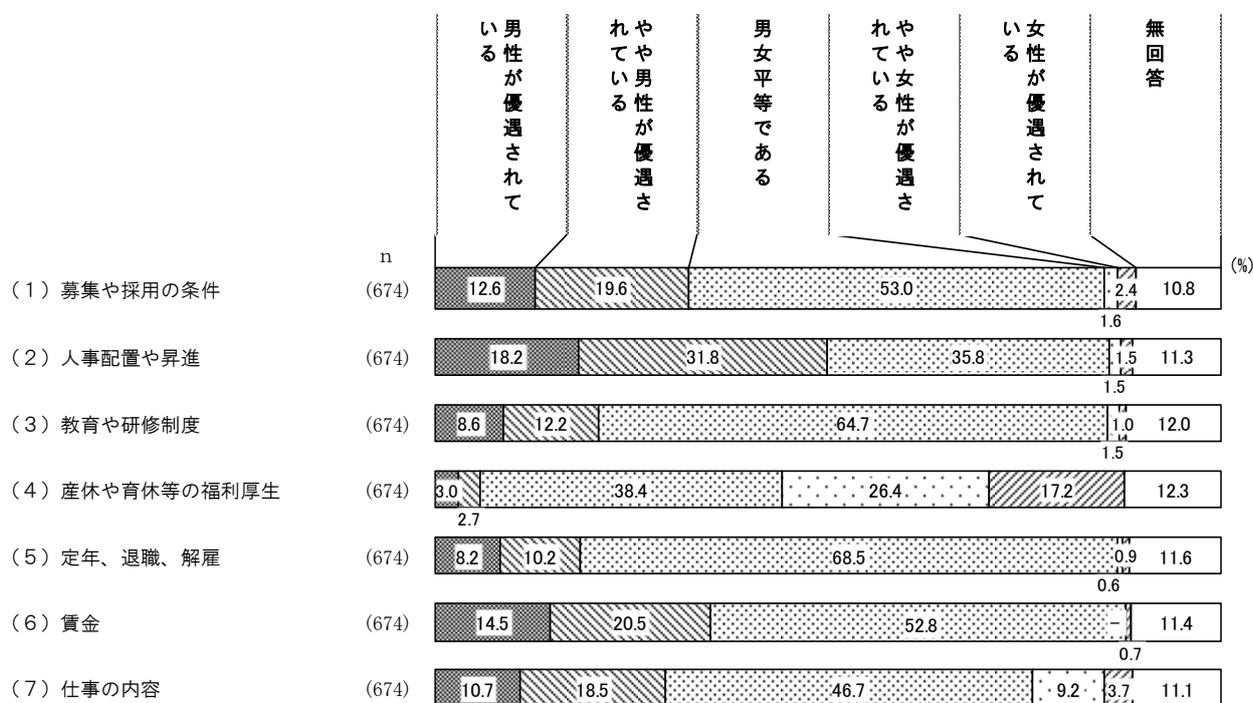


(5) 職場での男女平等に対する考え

今現在、お勤めの方のみ

問12 あなたの職場では、次の(1)～(7)のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。(それぞれ1つだけに○)

職場の男女の待遇に関して項目別でみると、「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、“人事配置や昇進”が4割で最も多く、“賃金”“募集や採用の条件”で3割を超えている。また、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」を合わせた《女性優遇》は、“産休や育休等の福利厚生”が4割台となっている。一方、「男女平等である」は“定年、退職、解雇”“教育や研修制度”が6割台で多くなっている。



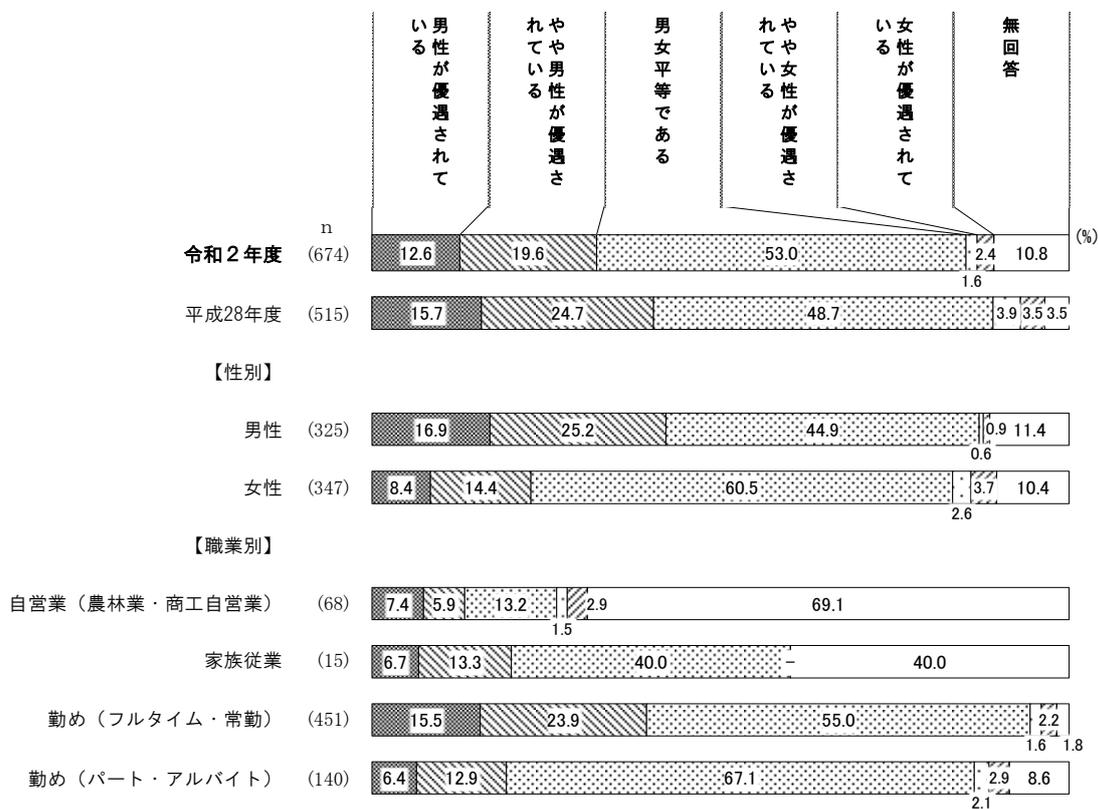
■ 募集や採用の条件

「男女平等である」が53.0%で最も多くなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、《男性優遇》が8.2ポイント低くなっている。

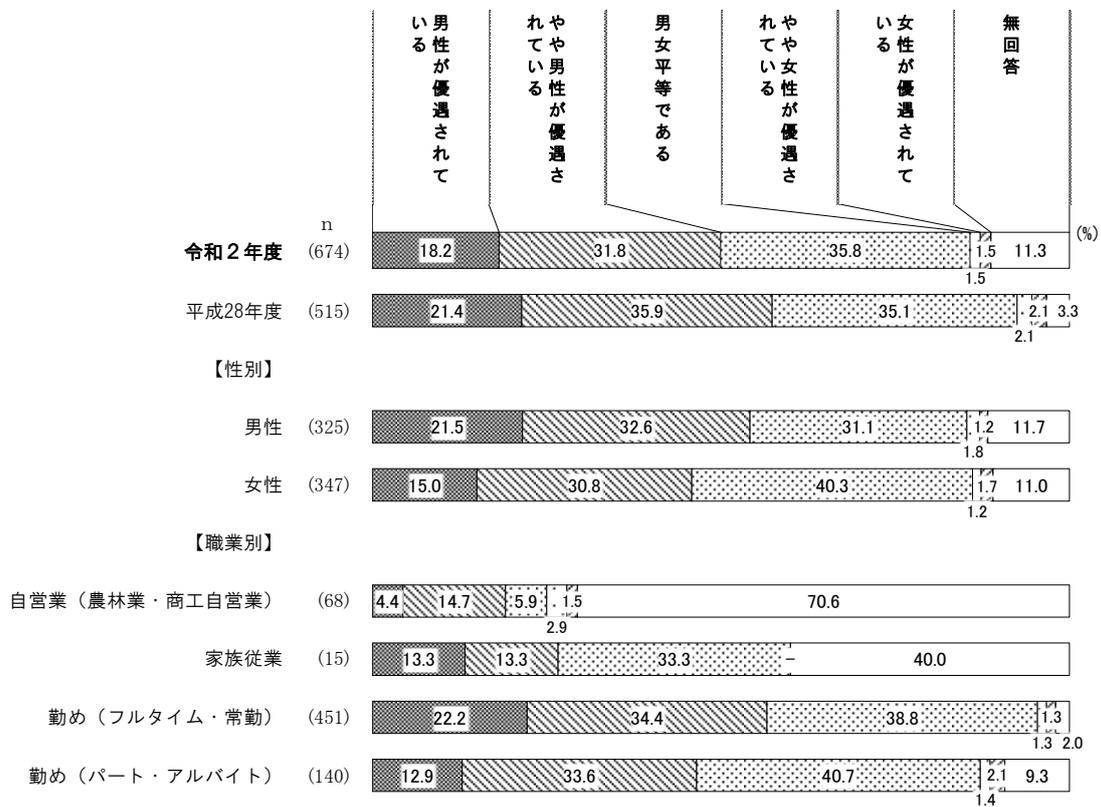
性別でみると、男性で《男性優遇》が4割台で女性より19.3ポイント高くなっている。

職業別でみると、“勤め（フルタイム・常勤）”で《男性優遇》が4割弱と他層より多くなっている。



■人事配置や昇進

「男女平等である」が35.8%で最も多いものの、《男性優遇》は50.0%となっている。前回調査（平成28年度）結果との比較では、《男性優遇》が7.3ポイント低くなっている。性別で見ると、男性で《男性優遇》が5割台半ばで女性より8.3ポイント高くなっている。職業別で見ると、“勤め（フルタイム・常勤）”で《男性優遇》が5割台半ばとなっている。



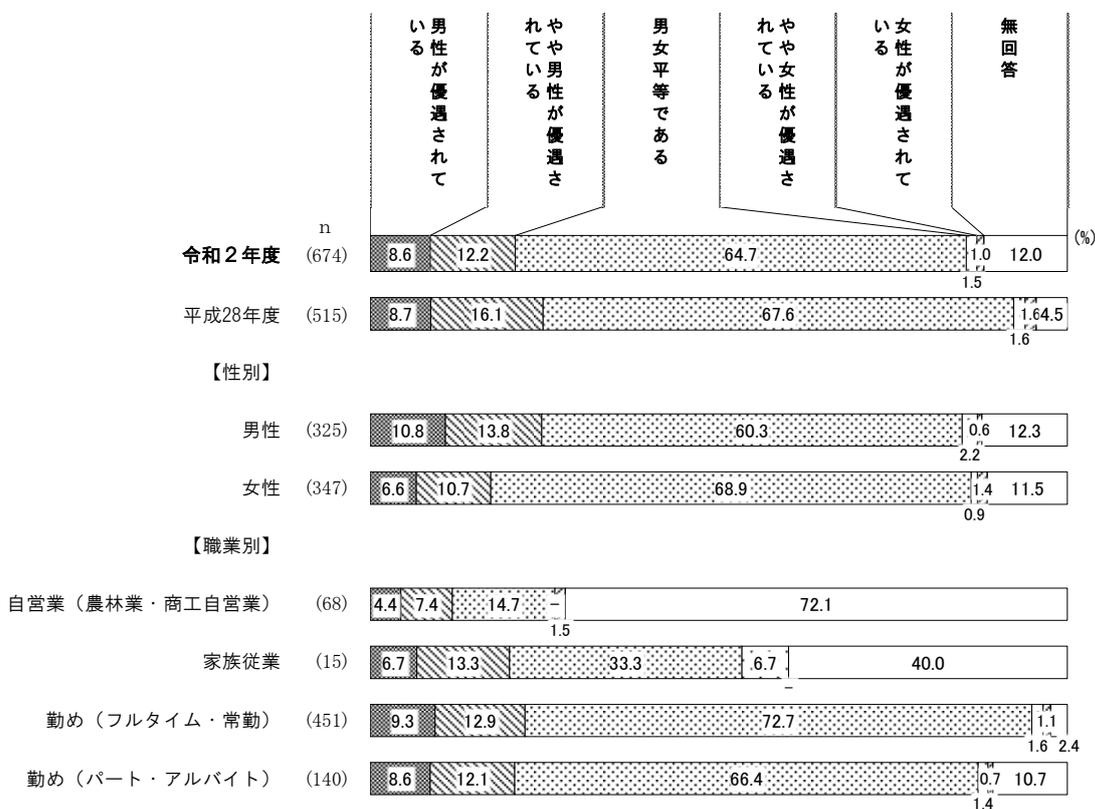
■教育や研修制度

「男女平等である」が64.7%で最も多くなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

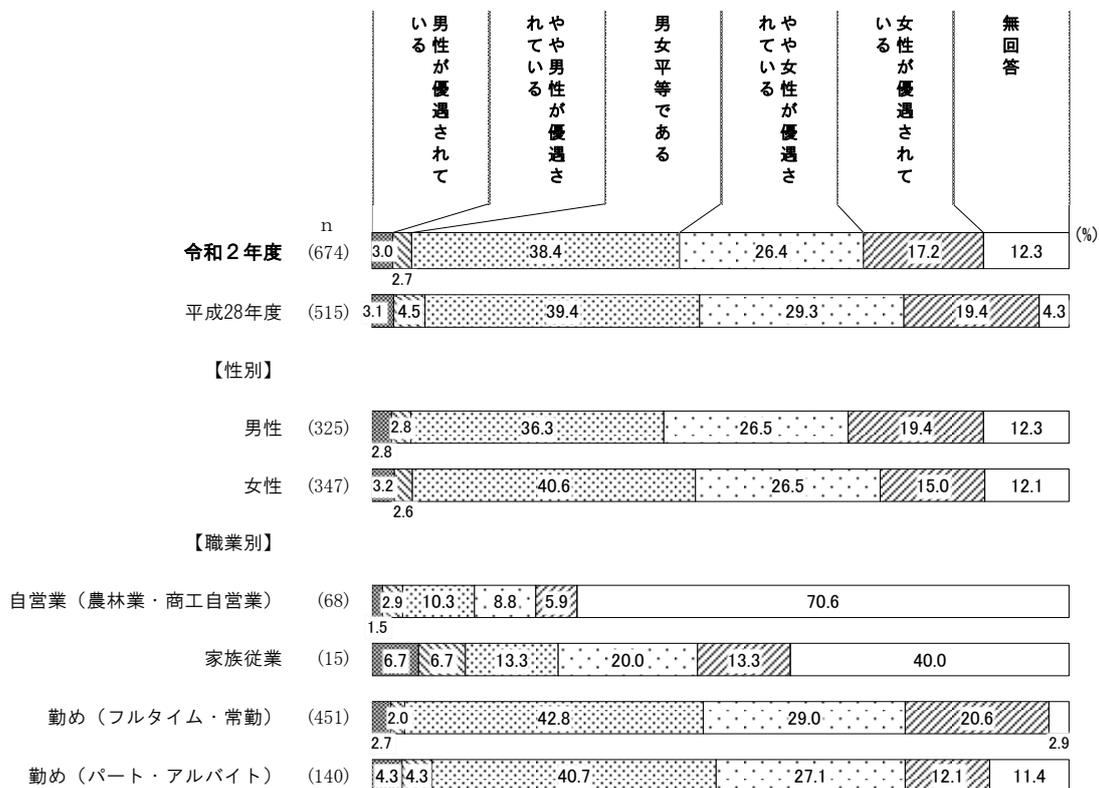
性別でみると、女性で「男女平等である」が7割弱で男性より8.6ポイント高くなっている。

職業別でみると、“勤め（フルタイム・常勤）”で「男女平等である」が7割前半となっている。



■産休や育休等の福利厚生

「男女平等である」が38.4%で最も多いものの、《女性優遇》は43.6%となっている。前回調査（平成28年度）結果との比較では、《女性優遇》が5.1ポイント低くなっている。性別で見ると、大きな差異はみられない。職業別で見ると、“勤め（フルタイム・常勤）”で《女性優遇》が5割弱となっている。

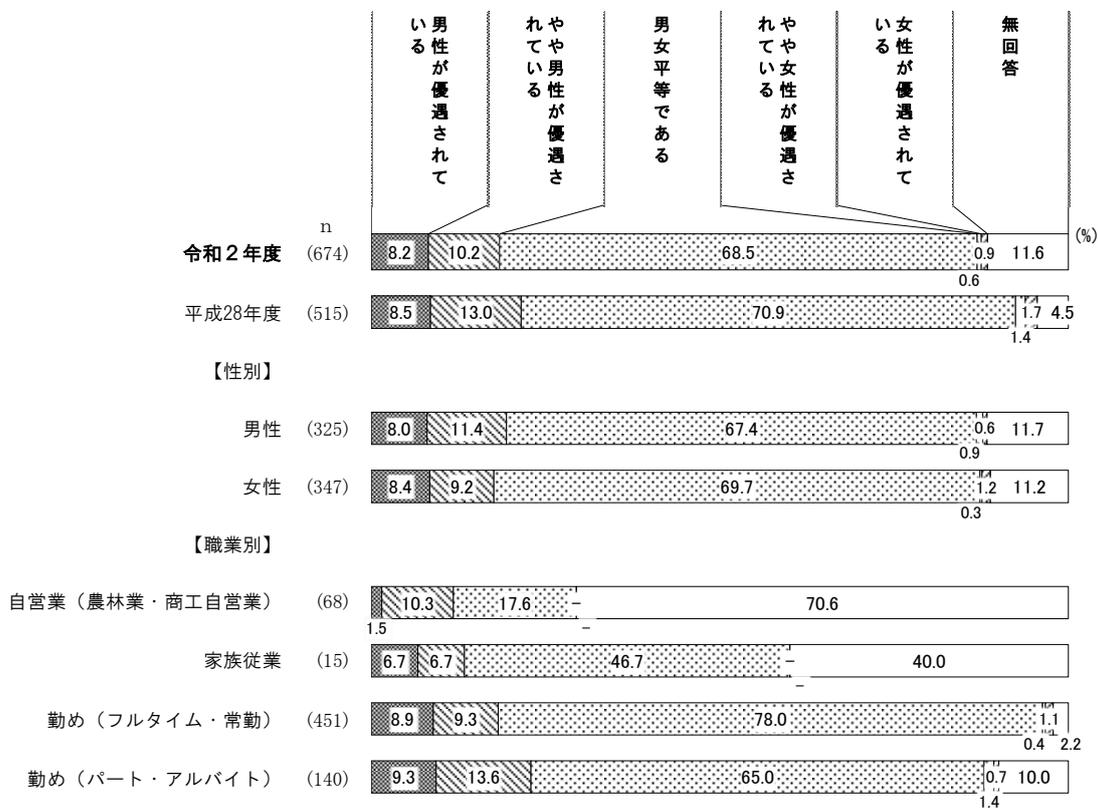


■定年、退職、解雇

「男女平等である」が68.5%で最も多くなっている。

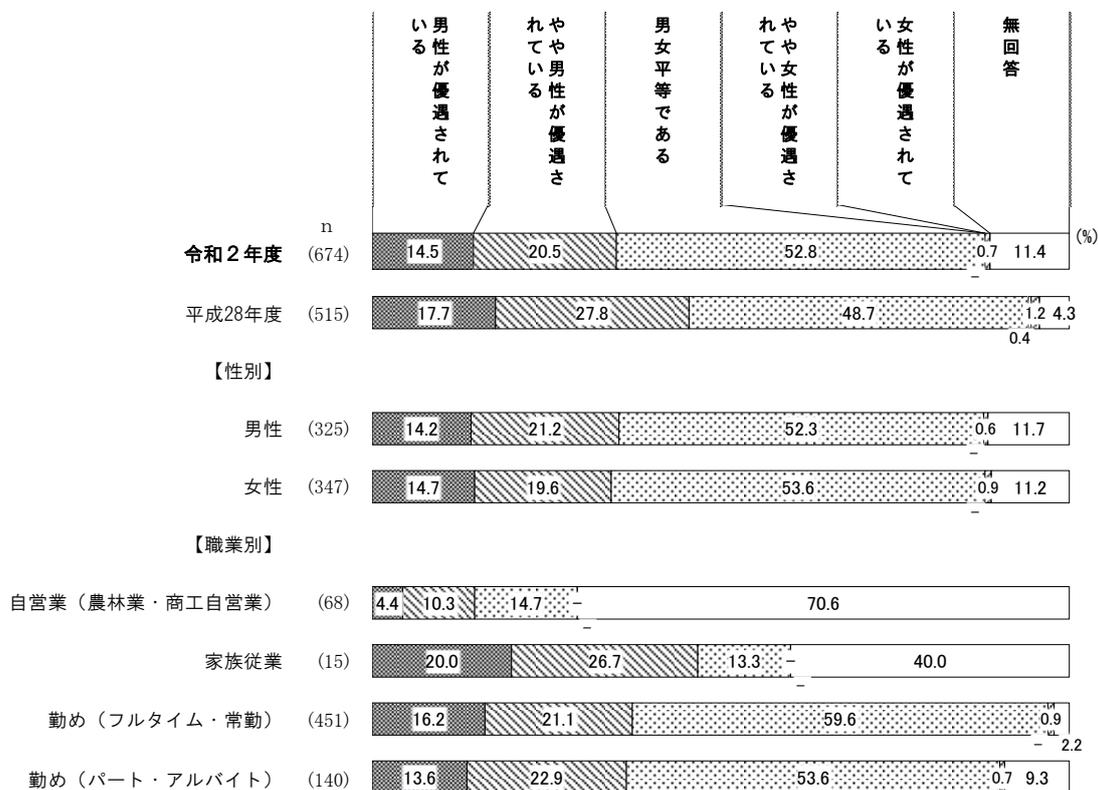
前回調査（平成28年度）結果との比較及び性別で見ると、大きな差異はみられない。

職業別で見ると、“勤め（フルタイム・常勤）”で「男女平等である」が7割台後半となっている。



■賃金

「男女平等である」が52.8%で最も多いものの、《男性優遇》も35.0%となっている。
 前回調査（平成28年度）結果との比較では、《男性優遇》が10.5ポイント低くなっている。
 性別で見ると、大きな差異はみられない。
 職業別で見ると、“勤め（フルタイム・常勤）”で「男女平等である」が6割弱となっている。



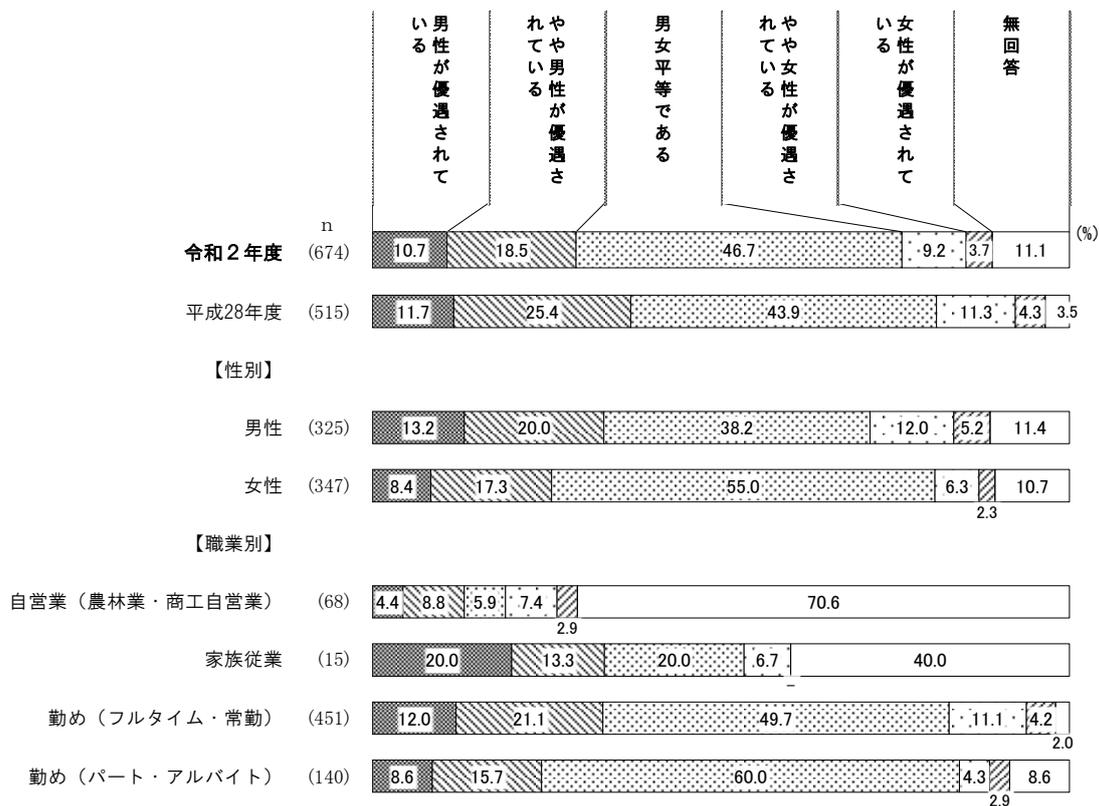
■仕事の内容

「男女平等である」が46.7%で最も多いものの、《男性優遇》が29.2%、《女性優遇》が12.9%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、《男性優遇》が7.9ポイント低くなっている。

性別でみると、男性で《男性優遇》が7.5ポイント高くなっている。

職業別でみると、「勤め（パート・アルバイト）」で「男女平等である」が6割となっている。



5. 男女の地域・社会参画

(1) 各種活動への参加状況

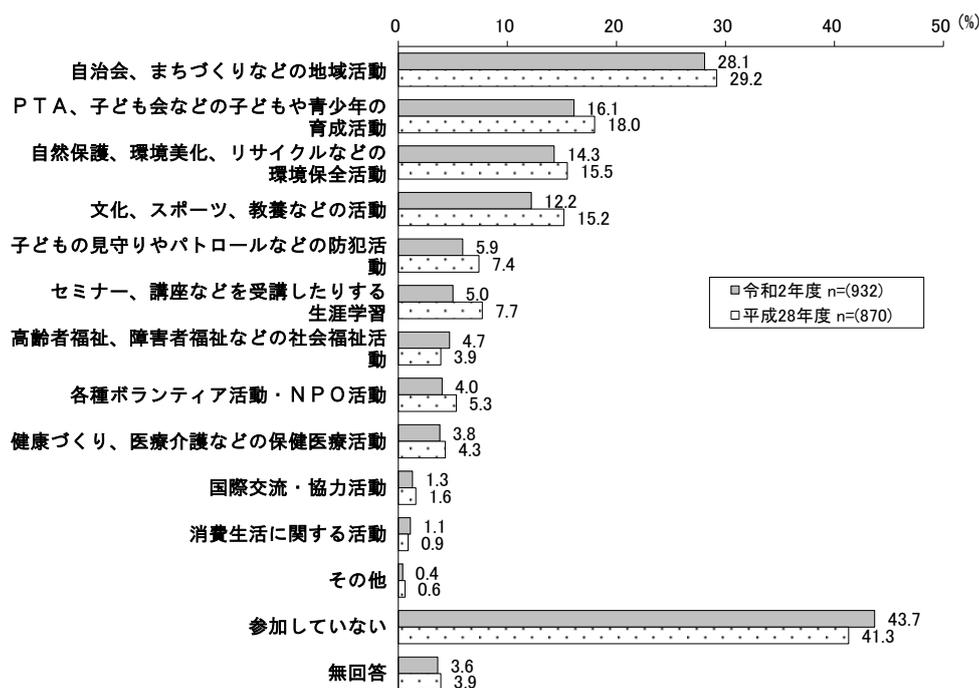
問13 あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

各種活動への参加状況では、「参加していない」が43.7%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自治会、まちづくりなどの地域活動」(28.1%)が最も多く、以下、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動」(16.1%)、「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」(14.3%)、「文化、スポーツ、教養などの活動」(12.2%)となっている。

性前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性別では、大きな差異はみられない。

年代別でみると、20歳代で「参加していない」が66.7%と多くなっている。また、60歳代で「自治会、まちづくりなどの地域活動」が4割、40歳代で「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動」が3割台半ばとなっている。



第2章 調査結果の詳細／市民調査

(%)

		調査数	自治会、まちづくりなどの地域活動	P T A、子ども会などの子どもや青少年の育成活動	自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動	文化、スポーツ、教養などの活動	子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動	セミナー、講座などを受講し生涯学習	高齢者福祉、障害者福祉などの社会福祉活動
全体		932	28.1	16.1	14.3	12.2	5.9	5.0	4.7
性別	男性	420	32.1	11.2	14.8	11.7	5.5	1.9	3.3
	女性	504	24.6	20.0	14.1	12.9	6.3	7.7	5.8
年代別	10歳代	38	10.5	2.6	18.4	21.1	-	2.6	5.3
	20歳代	114	7.0	5.3	11.4	14.0	0.9	1.8	5.3
	30歳代	179	22.9	24.0	10.1	10.1	7.8	2.2	4.5
	40歳代	177	30.5	33.9	13.0	11.3	8.5	6.8	3.4
	50歳代	200	34.5	12.5	18.0	11.0	3.5	7.0	5.0
	60歳代	133	40.6	4.5	19.5	12.0	11.3	6.8	3.8
	70歳以上	75	36.0	6.7	12.0	17.3	2.7	6.7	8.0
		調査数	各種ボランティア活動・NPO活動	健康づくり、医療介護などの保健医療活動	国際交流・協力活動	消費生活に関する活動	その他	参加していない	無回答
全体		932	4.0	3.8	1.3	1.1	0.4	43.7	3.6
性別	男性	420	3.1	3.3	1.0	1.4	0.7	45.7	1.9
	女性	504	4.8	4.2	1.6	0.8	0.2	42.3	4.8
年代別	10歳代	38	10.5	2.6	7.9	2.6	2.6	42.1	5.3
	20歳代	114	4.4	3.5	0.9	1.8	-	66.7	0.9
	30歳代	179	5.0	4.5	1.1	0.6	-	46.4	2.8
	40歳代	177	2.3	2.3	1.1	1.7	-	40.1	3.4
	50歳代	200	2.5	4.0	1.0	1.0	1.0	38.5	3.0
	60歳代	133	5.3	5.3	1.5	0.8	-	36.8	3.8
	70歳以上	75	4.0	4.0	-	-	1.3	38.7	9.3

(2) 活動に参加していない理由

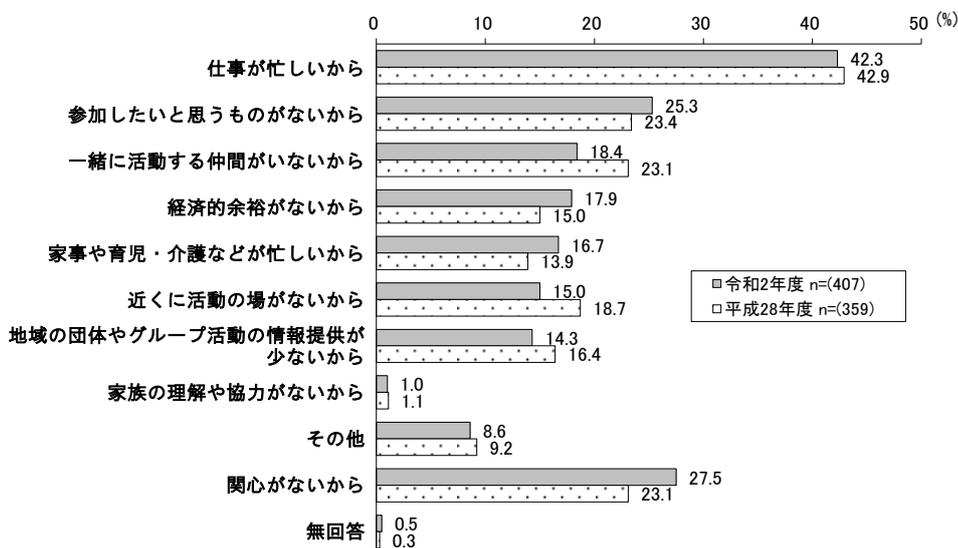
問13で、「13」と回答した方のみお答え
 問13-1 あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

活動に参加していない理由では、「仕事が忙しいから」が42.3%で最も多く、次いで「参加したいと思うものがないから」(25.3%)となっている。一方、「関心がないから」は27.5%だった。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性別でみると、女性で「家事や育児・介護などが忙しいから」で男性より多くなっている。

年代別でみると、30歳代と50歳代で「仕事が忙しいから」が5割台と多く、30歳代では「家事や育児・介護などが忙しいから」も他の年代より多くなっている。



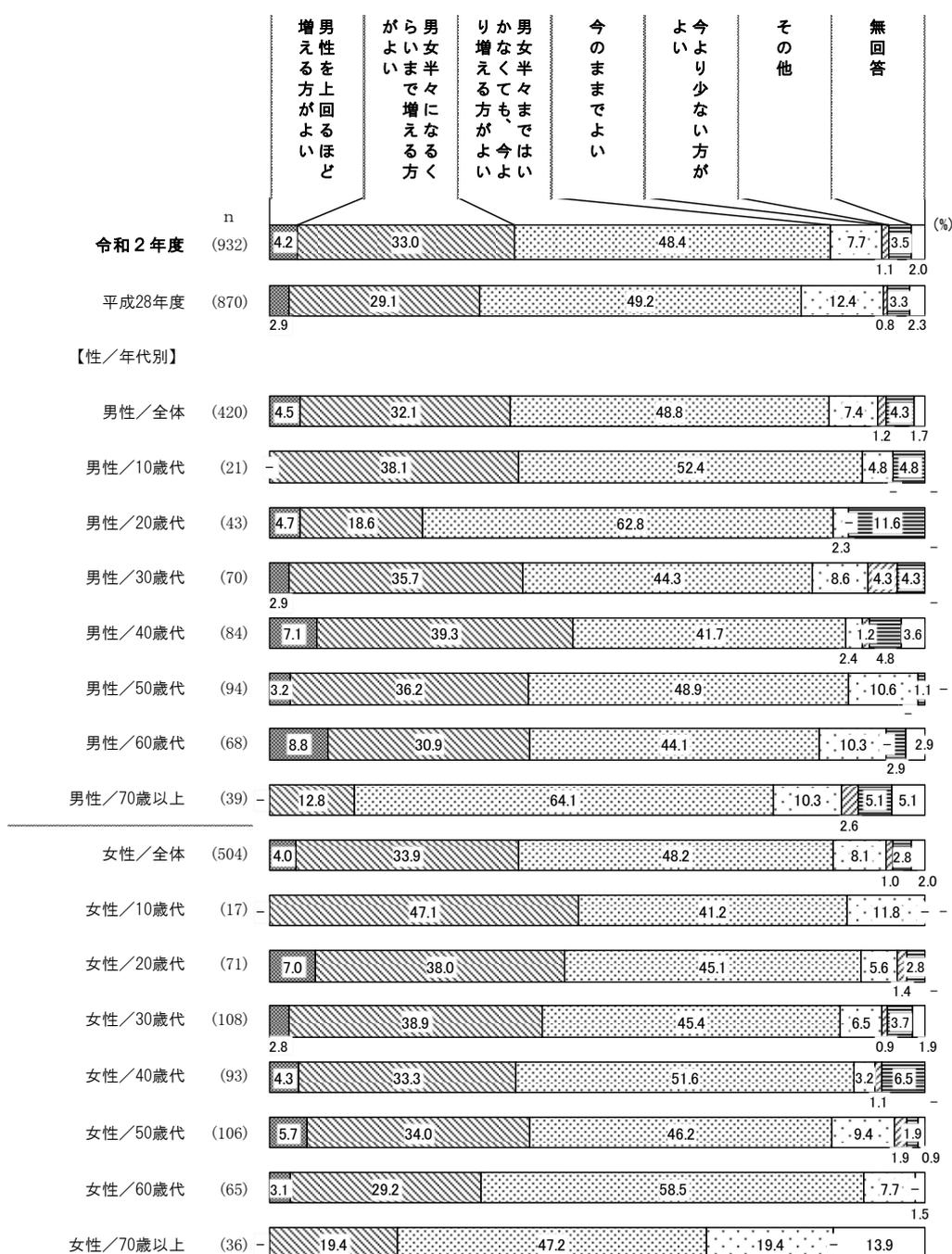
		調査数	仕事が忙しいから	参加したいと思うものがないから	一緒に活動する仲間がないから	経済的余裕がないから	家事や育児・介護などが忙しいから	近くに活動の場がないから	地域の団体やグループ活動の情報提供が少ないから	家族の理解や協力がいないから	その他	関心がないから	無回答
全体		407	42.3	25.3	18.4	17.9	16.7	15.0	14.3	1.0	8.6	27.5	0.5
性別	男性	192	46.9	27.6	18.2	19.8	6.8	12.0	13.0	0.5	7.8	31.3	0.5
	女性	213	38.0	23.5	18.3	16.0	25.4	17.8	15.0	1.4	9.4	23.9	0.5
年代別	10歳代	16	12.5	12.5	12.5	-	6.3	31.3	18.8	-	37.5	6.3	-
	20歳代	76	42.1	14.5	21.1	11.8	15.8	18.4	11.8	-	5.3	34.2	1.3
	30歳代	83	53.0	31.3	22.9	24.1	27.7	21.7	16.9	1.2	6.0	30.1	-
	40歳代	71	52.1	31.0	19.7	18.3	18.3	8.5	15.5	1.4	7.0	31.0	1.4
	50歳代	77	53.2	27.3	13.0	23.4	15.6	6.5	14.3	1.3	7.8	20.8	-
	60歳代	49	18.4	32.7	18.4	18.4	10.2	18.4	10.2	2.0	4.1	22.4	-
	70歳以上	29	13.8	13.8	10.3	10.3	3.4	13.8	13.8	-	20.7	31.0	-

(3) 政策方針決定の場への女性参画についての考え

問14 議員や各種審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたは、どう思いますか。(1つだけに○)

政策方針決定の場への女性参画についての考えでは、「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が48.4%で最も多く、これに「男女半々になるくらいまで増える方がよい」(33.0%)と「男性を上回るほど増える方がよい」(4.2%)を合わせた《増える方がよい》は85.6%となっている。前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別で見ると、すべての年代で「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が最も多く、なかでも男性の20歳代、70歳以上では6割台となっている。また、女性の20歳代、60歳代では《増える方がよい》が9割を超えている。



(4) 政策決定の場への女性参画促進に必要なこと

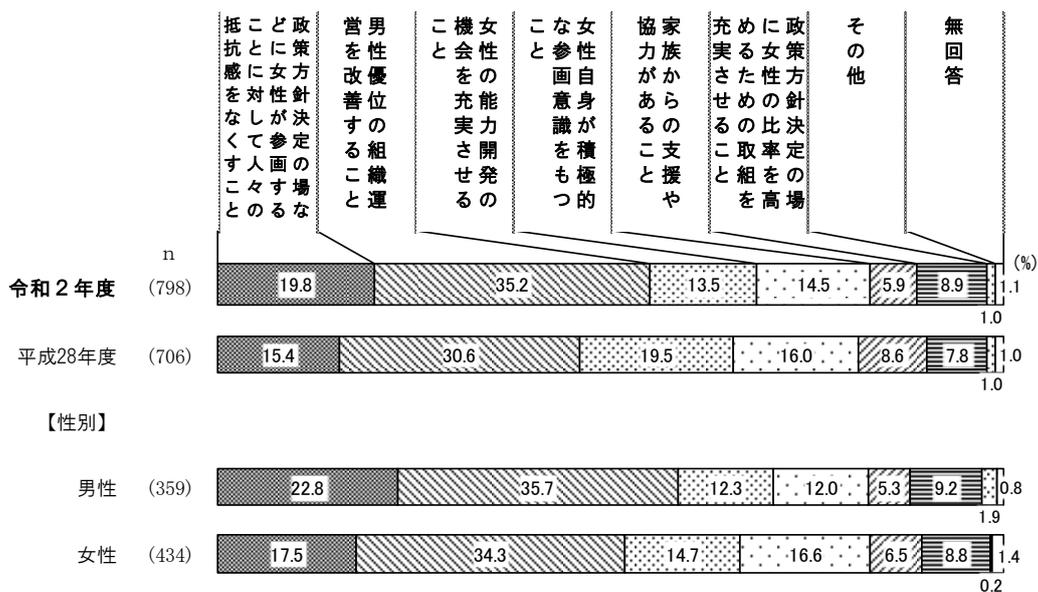
問14で、「1」～「3」と回答した方

問14-1 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが特に重要だと思うものを選んでください。(1つだけに○)

政策決定の場への女性参画促進に必要なことでは、「男性優位の組織運営を改善すること」が35.2%で最も多く、以下、「政策方針決定の場などに女性が参画することに対して人々の抵抗感をなくすこと」(19.8%)、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」(14.5%)、「女性の能力開発の機会を充実させること」(13.5%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、「女性の能力開発の機会を充実させること」が19.5%から13.5%と、6.0ポイント低くなっている。

性別でみると、男性で「政策方針決定の場などに女性が参画することに対して人々の抵抗感をなくすこと」が22.8%と、女性(17.5%)より5.3ポイント高くなっている。



6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

(1) 日常生活の中で希望する時間の使い方ができているか

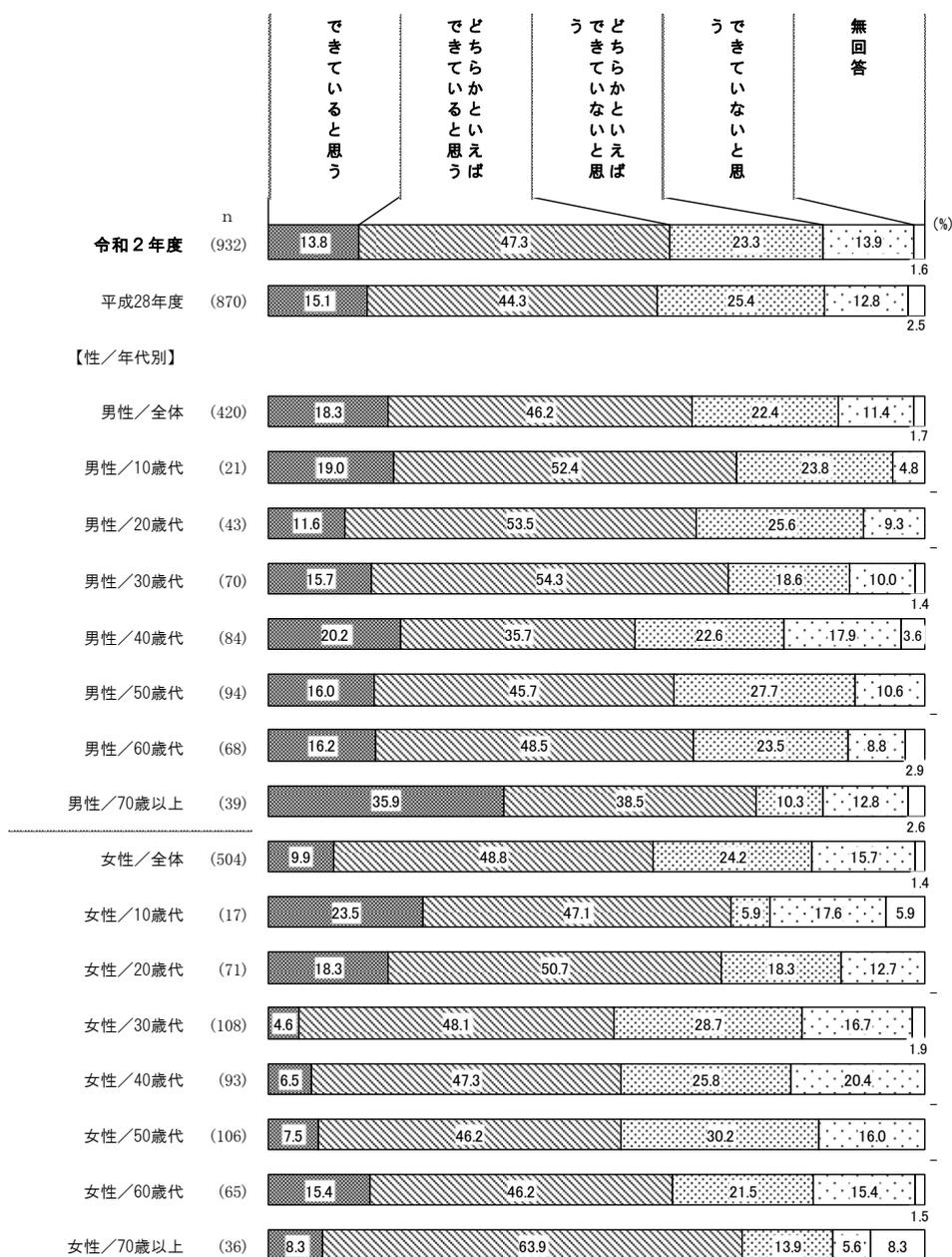
問15 あなたは、日常生活の中で自分の希望する時間の使い方ができていると思いますか。
 （1つだけに○）

*「時間の使い方」とは、仕事、家事、育児、介護、余暇、趣味活動などの時間配分をいいます。

日常生活の中で希望する時間の使い方ができているかでは、「どちらかといえばできていると思う」が47.3%で最も多く、これに「できていると思う」（13.8%）を合わせた《できている》は61.1%となっている。一方、「できていないと思う」（13.9%）と「どちらかといえばできていないと思う」（23.3%）を合わせた《できていない》は37.2%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、男性の30歳代、男女の70歳以上で《できている》が7割台となっている。



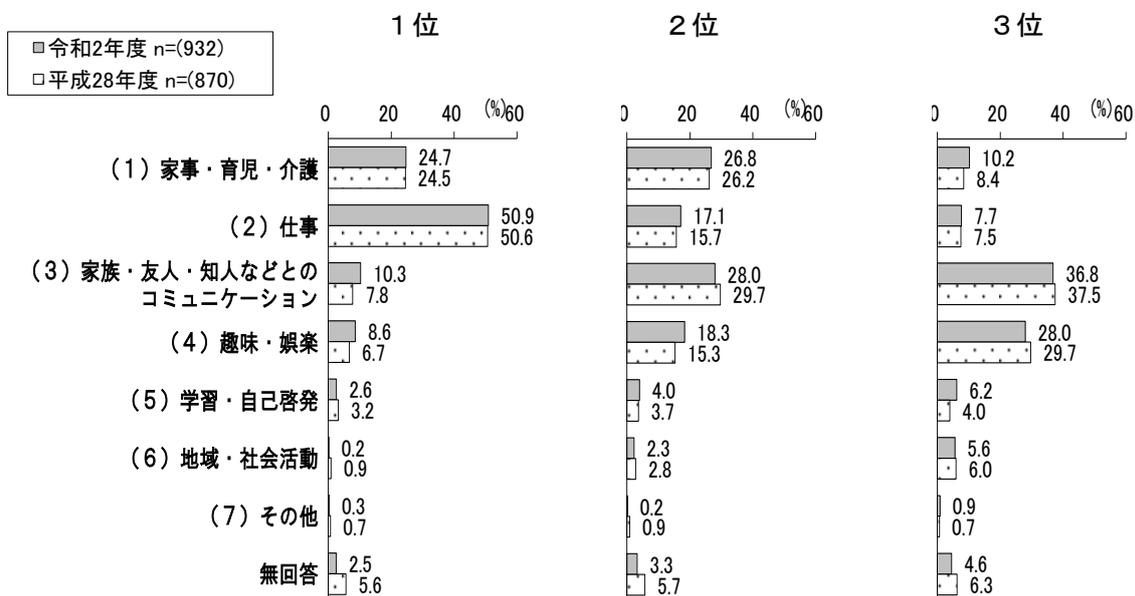
(2) 実際に優先させている活動

問16 あなたが、日常生活において、実際に優先させている活動を、以下の項目の中から3つ選び、1番から3番までの順番を記入してください。

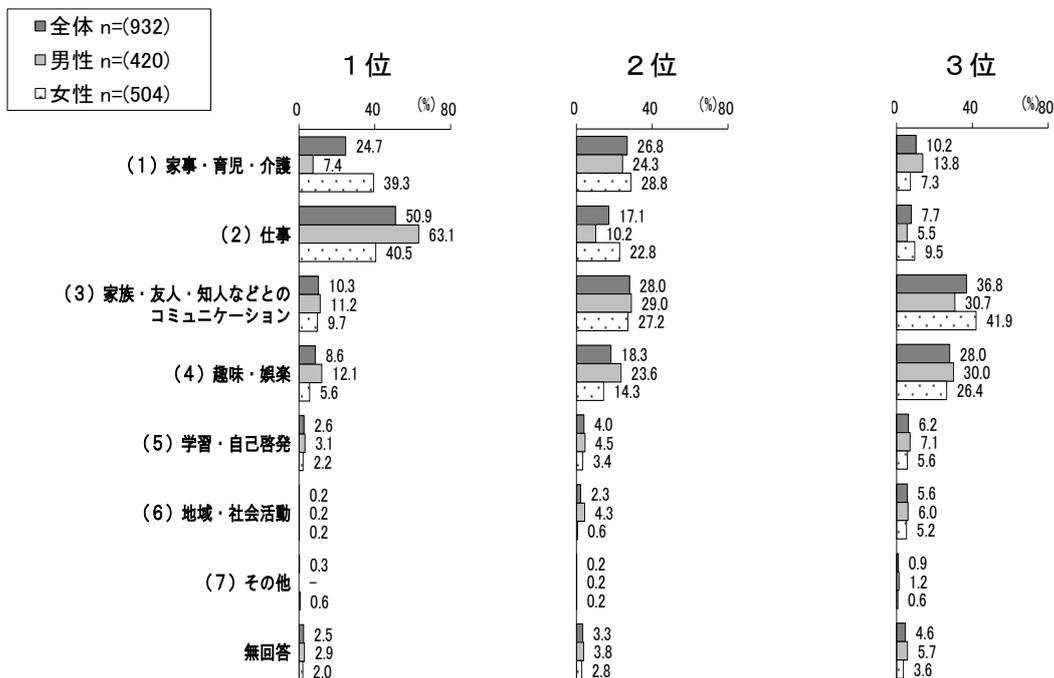
日常生活において、実際に優先させている活動として1番目に挙げられたものは、「仕事」が50.9%で最も多くなっている。また、2番目として「家族・友人・知人などとのコミュニケーション」(28.0%)、「家事・育児・介護」(26.8%)が、3番目として、2番目でも挙げられた「家族・友人・知人などとのコミュニケーション」(36.8%)と「趣味・娯楽」(28.0%)が多くなっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

性別でみると、1番目は男性が「仕事」で6割台と女性より22.6ポイント、女性が「家事・育児・介護」で4割弱と男性より31.9ポイント高くなっている。



【性別】



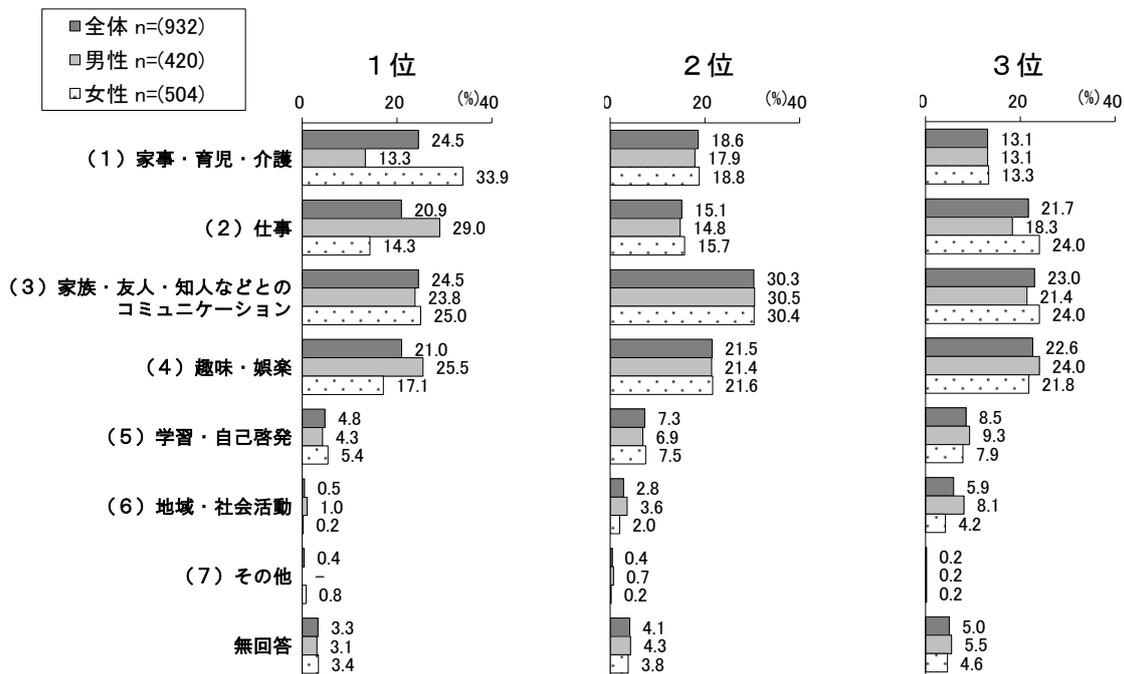
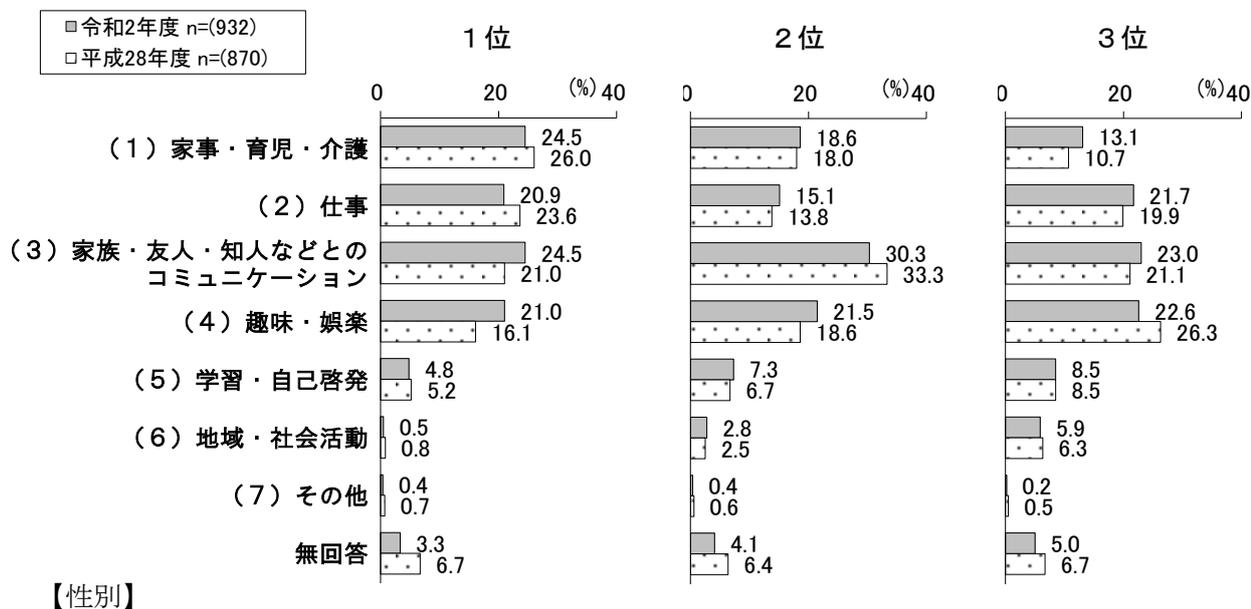
(3) 優先させたいと思う活動

問17 あなたが、日常生活において、優先させたいと思う活動を、以下の項目の中から3つ選び、1番から3番までの順番を記入してください。

日常生活において、優先させたい活動として1番目に挙げられたものは、「家事・育児・介護」「家族・友人・知人などとのコミュニケーション」（ともに24.5%）、「趣味・娯楽」（21.0%）、「仕事」（20.9%）で2割台となっている。また、2番目として「家族・友人・知人などとのコミュニケーション」（30.3%）が、3番目として、2番目でも挙げられた「家族・友人・知人などとのコミュニケーション」（23.0%）と「趣味・娯楽」（22.6%）、「仕事」（21.7%）が多くなっている。

性別でみると、1番目は男性が「仕事」で3割弱と女性より14.7ポイント、女性が「家事・育児・介護」で3割台半ばと男性より20.6ポイント高くなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。



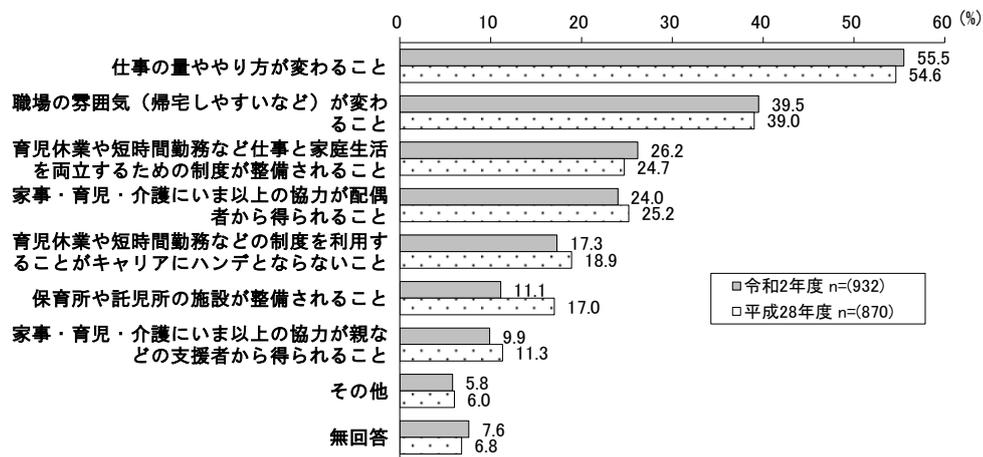
(4) 時間を確保するために必要だと思うこと

問18 あなたが、日常生活の中で優先させたい活動に対して時間を確保するために必要と思われることを選んでください。(3つまで○)

時間を確保するために必要だと思うことでは、「仕事の量ややり方が変わること」が55.5%で最も多く、以下、「職場の雰囲気（帰宅しやすいなど）が変わること」（39.5%）、「育児休業や短時間勤務など仕事と家庭生活を両立するための制度が整備されること」（26.2%）、「家事・育児・介護にいま以上の協力が配偶者から得られること」（24.0%）となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「保育所や託児所の施設が整備されること」が17.0%から11.1%で5.9ポイント低くなっている。

性別でみると、男性では「仕事の量ややり方が変わること」と「職場の雰囲気（帰宅しやすいなど）が変わること」が、女性では「家事・育児・介護にいま以上の協力が配偶者から得られること」が多くなっている。



		調査数	仕事の量ややり方が変わること	職場の雰囲気（帰宅しやすいなど）が変わること	育児休業や短時間勤務など仕事と家庭生活を両立するための制度が整備されること	家事・育児・介護にいま以上の協力が配偶者から得られること	育児休業や短時間勤務などの制度を利用することがキャリアにハンデとならないこと	保育所や託児所の施設が整備されること	家事・育児・介護にいま以上の協力が親などの支援者から得られること	その他	無回答
全体		932	55.5	39.5	26.2	24.0	17.3	11.1	9.9	5.8	7.6
性別	男性	420	63.1	46.4	24.3	10.0	16.7	13.6	6.4	5.7	8.3
	女性	504	49.4	33.7	27.4	35.5	18.1	8.7	12.7	6.0	6.9

7. 性の多様性

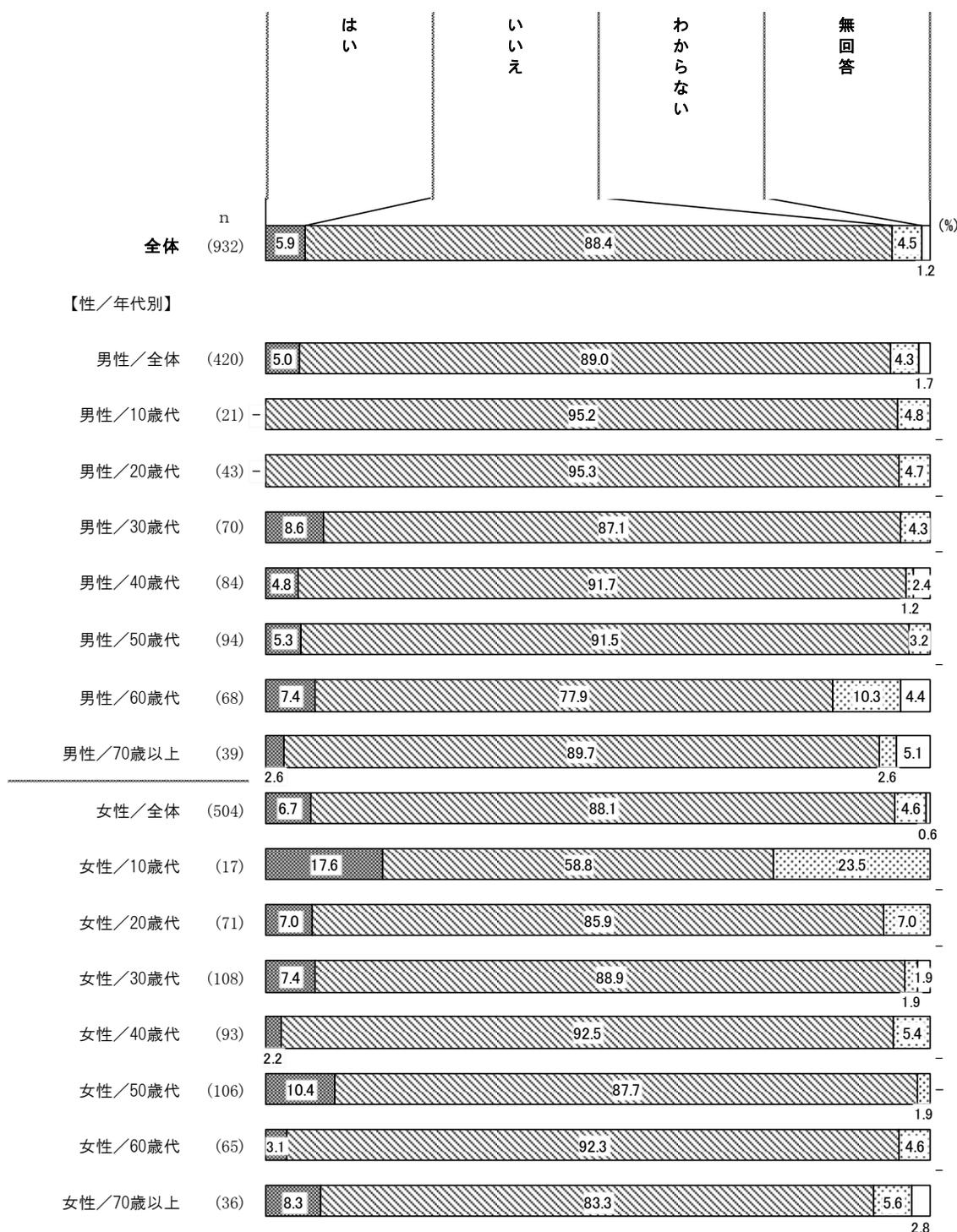
(1) 自分の身体の性、心の性に悩んだ経験の有無

問19 あなたは今までに自分の身体の性、心の性に悩んだことはありますか。

(1つだけに○)

自分の身体の性、心の性に悩んだ経験の有無では、「はい」が5.9%、「いいえ」が88.4%となっている。

性・年代別でみると、女性の50歳代で「はい」が10.4%と唯一1割を超えている。

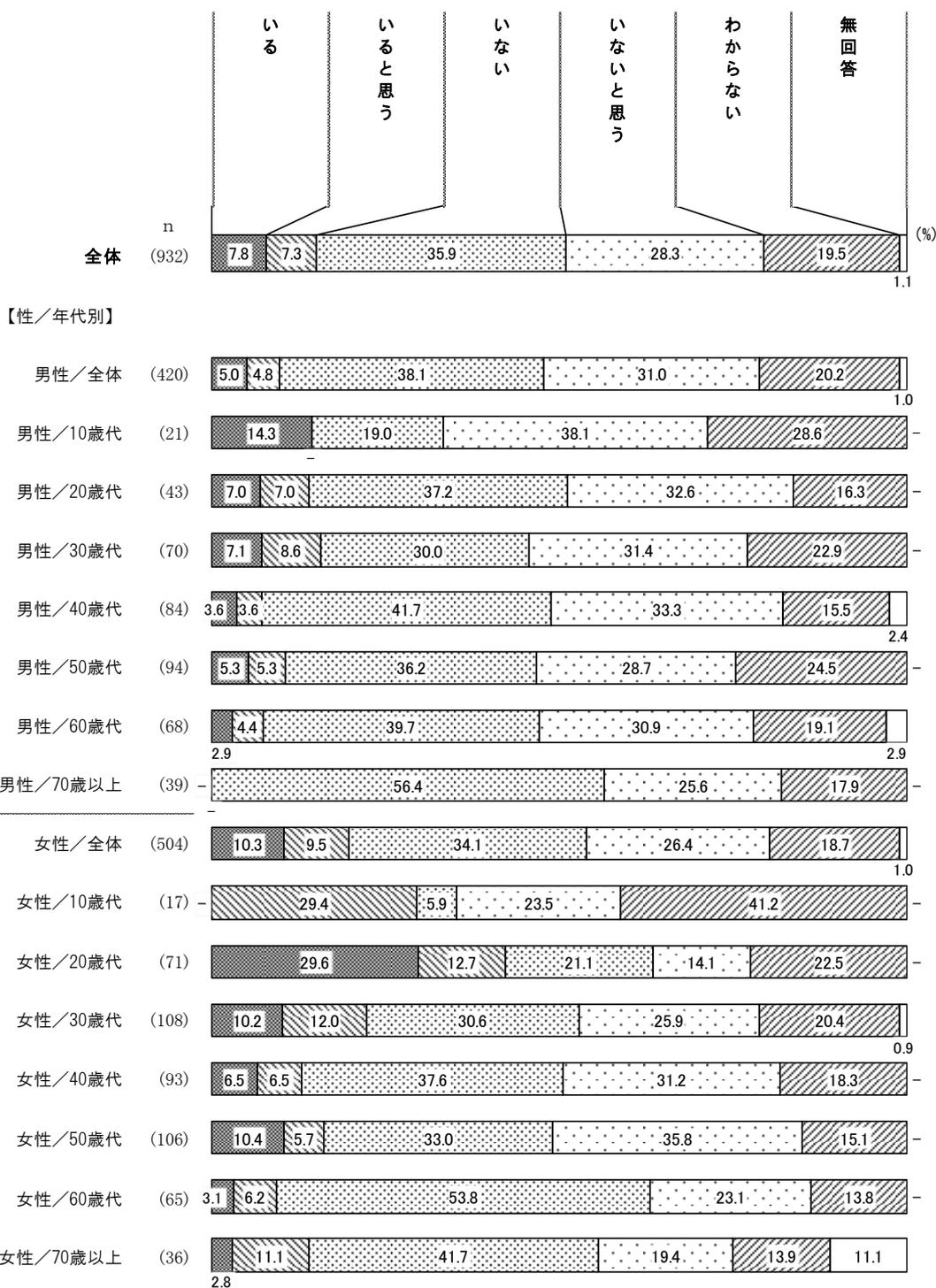


(2) 身近なLGBTQ等の存在の有無

問20 あなたの身近な人（職場の同僚、友人、親戚や家族、近所の知人）にLGBTQ等の人はいますか。（1つだけに○）

身近なLGBTQ等の存在の有無では、「いない」が35.9%で最も多く、次いで「いないと思う」(28.3%)となっている。一方、「いる」は7.8%、「いると思う」7.3%となっている。

性・年代別でみると、女性の20歳代で「いる」「いると思う」が最も多く、それぞれ29.6%、12.7%となっている。

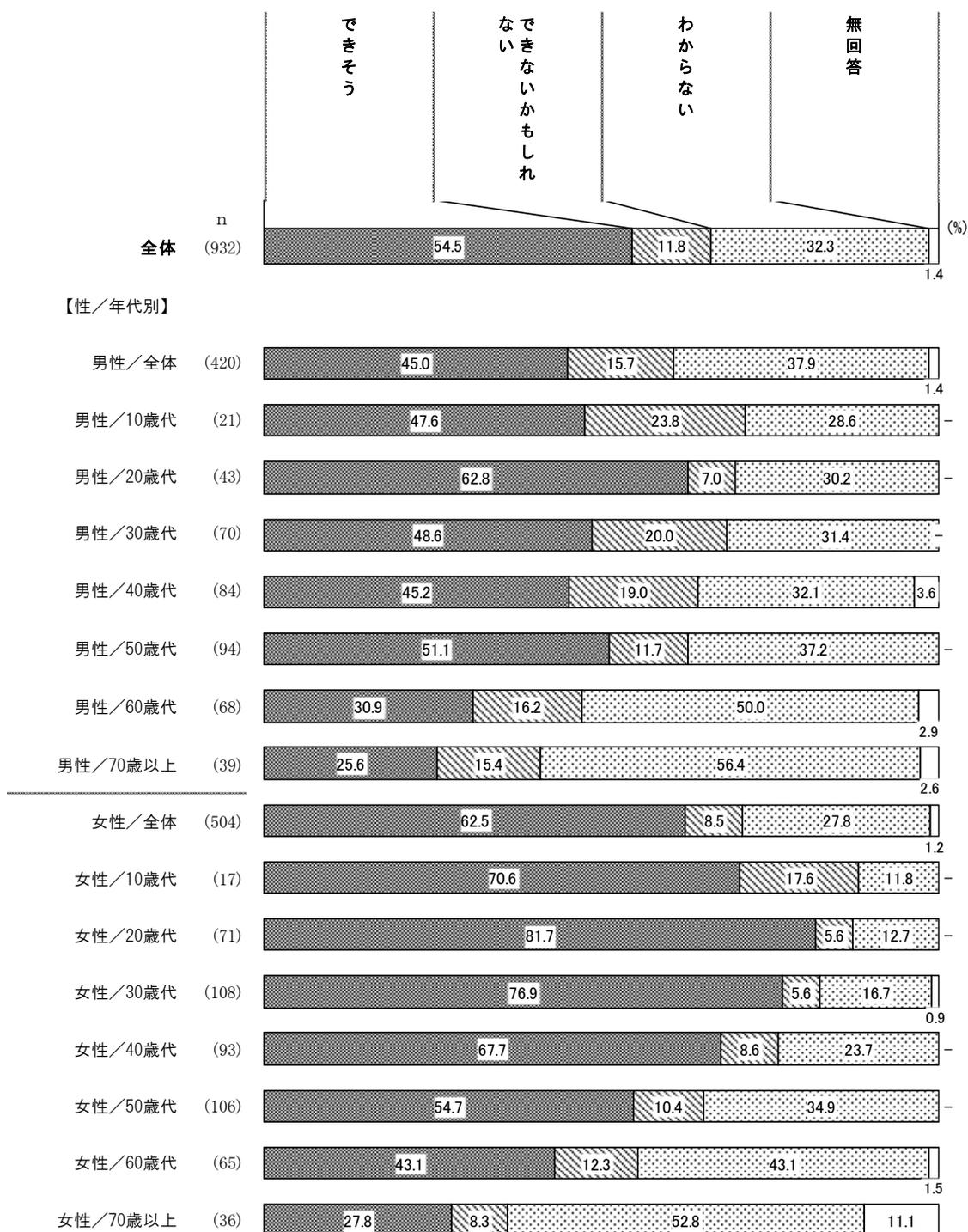


(3) L G B T Q等と打ち明けられた場合のこれまでと同様の接し方

問21 あなたの身近な人からL G B T Q等であることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。(1つだけに○)

身近な人からL G B T Q等と打ち明けられた場合、変わりなく接することができるかについては、「できそう」が54.5%、「できないかもしれない」が11.8%となっている。一方、「わからない」も32.3%を占めている。

性・年代別でみると、「できそう」は女性で年代が低くなるにつれて多くなり、20歳代で8割、30歳代で7割台半ばとなっている。また、男性の20歳代でも「できそう」は6割台となっている。

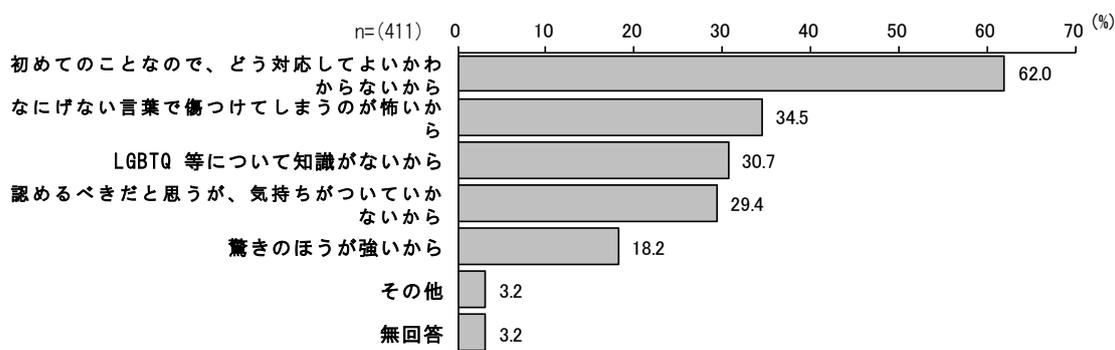


(4) できないかもしれない・わからないと思う理由

問21で、「2」もしくは「3」と回答した方のみ
 問21-1 できないかもしれない、わからないと思う理由は何ですか。
 (あてはまるものすべて○)

できないかもしれない・わからないと思う理由では、「初めてのことなので、どう対応してよいかわからないから」が62.0%で最も多く、以下、「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖いから」(34.5%)、「LGBTQ等について知識がないから」(30.7%)、「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかないから」(29.4%)となっている。

性・年代別は、各調査数が少なくなり参考にとどめるが、男性の30歳代、40歳代で「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかないから」が4割台で他の年代より多くなっているが、女性の同年代は「初めてのことなので、どう対応してよいかわからないから」が7割台半ばとなり、男女でやや異なった傾向となっている。



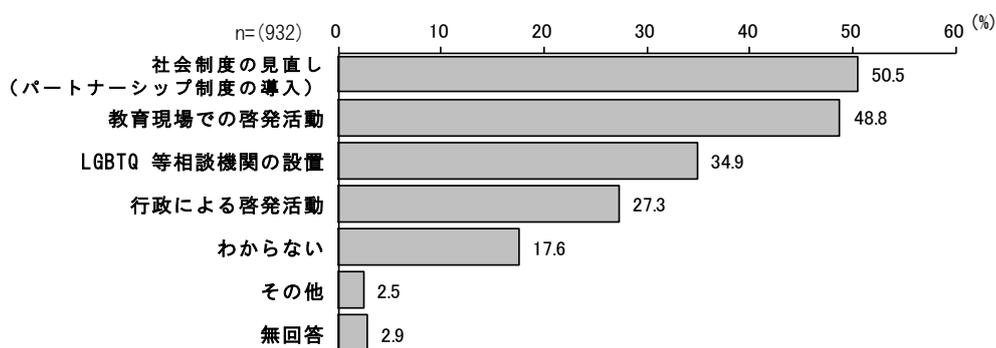
		調査数	初めての こと なので、 どう 対応 して よ い か わ ら な い か ら	なに げ な い 言 語 で 傷 つ け て し ま う の が 怖 い か ら	LGBTQ 等 に つ い て 知 識 が な い か ら	認 め る べ き だ と 思 う が 、 気 持 ち が つ い て い か な い か ら	驚 き の ほ う が 強 い か ら	その他	無回答
全体		411	62.0	34.5	30.7	29.4	18.2	3.2	3.2
性 / 年 代 別 (男 性)	男性全体	225	61.8	28.9	32.4	31.1	20.0	3.1	3.1
	10歳代	11	63.6	27.3	9.1	18.2	18.2	-	9.1
	20歳代	16	68.8	18.8	25.0	25.0	12.5	6.3	-
	30歳代	36	61.1	27.8	30.6	41.7	22.2	2.8	-
	40歳代	43	58.1	37.2	32.6	41.9	23.3	9.3	4.7
	50歳代	46	58.7	26.1	30.4	17.4	21.7	-	4.3
	60歳代	45	68.9	37.8	44.4	31.1	17.8	2.2	4.4
70歳以上	28	57.1	14.3	32.1	32.1	17.9	-	-	
性 / 年 代 別 (女 性)	女性全体	183	61.7	41.0	28.4	27.3	15.3	3.3	3.3
	10歳代	5	60.0	80.0	-	-	-	-	-
	20歳代	13	76.9	46.2	61.5	23.1	15.4	-	7.7
	30歳代	24	75.0	37.5	29.2	33.3	29.2	4.2	-
	40歳代	30	73.3	33.3	13.3	33.3	10.0	3.3	-
	50歳代	48	45.8	41.7	25.0	27.1	16.7	4.2	6.3
	60歳代	36	63.9	44.4	25.0	27.8	8.3	2.8	2.8
70歳以上	22	59.1	45.5	45.5	27.3	22.7	-	4.5	

(5) L G B T Qの方が暮らしやすい社会のために必要だと思う取組

問22 L G B T Qの方が暮らしやすい社会のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

L G B T Qの方が暮らしやすい社会のために必要だと思う取組では、「社会制度の見直し（パートナーシップ制度の導入）」が50.5%で最も多く、以下、「教育現場での啓発活動」（48.8%）、「L G B T Q等相談機関の設置」（34.9%）、「行政による啓発活動」（27.3%）となっている。

性・年代別でみると、女性の20歳代から40歳代で「社会制度の見直し（パートナーシップ制度の導入）」が6割から7割と多くなっている。また、30歳代で「教育現場での啓発活動」が6割台半ば、50歳代で「L G B T Q等相談機関の設置」が4割台半ばと多くなっている。



		調査数	社会制度の見直し (パートナーシップ制度の導入)	教育現場での啓発活動	LGBTQ等相談機関の設置	行政による啓発活動	わからない	その他	無回答
全体		932	50.5	48.8	34.9	27.3	17.6	2.5	2.9
性 / 年代別 (男性)	男性全体	420	41.0	45.5	30.2	29.5	23.1	2.4	2.6
	10歳代	21	38.1	33.3	42.9	23.8	19.0	9.5	-
	20歳代	43	55.8	55.8	27.9	27.9	14.0	-	-
	30歳代	70	44.3	52.9	18.6	22.9	28.6	2.9	1.4
	40歳代	84	36.9	48.8	34.5	29.8	16.7	4.8	4.8
	50歳代	94	41.5	41.5	33.0	37.2	17.0	1.1	2.1
	60歳代	68	42.6	44.1	38.2	32.4	25.0	1.5	4.4
70歳以上	39	23.1	30.8	17.9	20.5	51.3	-	2.6	
性 / 年代別 (女性)	女性全体	504	58.1	51.8	38.9	25.6	13.1	2.6	3.0
	10歳代	17	64.7	47.1	35.3	17.6	23.5	11.8	-
	20歳代	71	71.8	54.9	38.0	21.1	11.3	1.4	1.4
	30歳代	108	66.7	65.7	43.5	23.1	5.6	3.7	2.8
	40歳代	93	61.3	57.0	33.3	23.7	6.5	3.2	3.2
	50歳代	106	57.5	46.2	46.2	34.0	14.2	0.9	1.9
	60歳代	65	44.6	44.6	36.9	27.7	16.9	-	4.6
70歳以上	36	25.0	25.0	27.8	25.0	38.9	-	8.3	

8. 配偶者に対する暴力

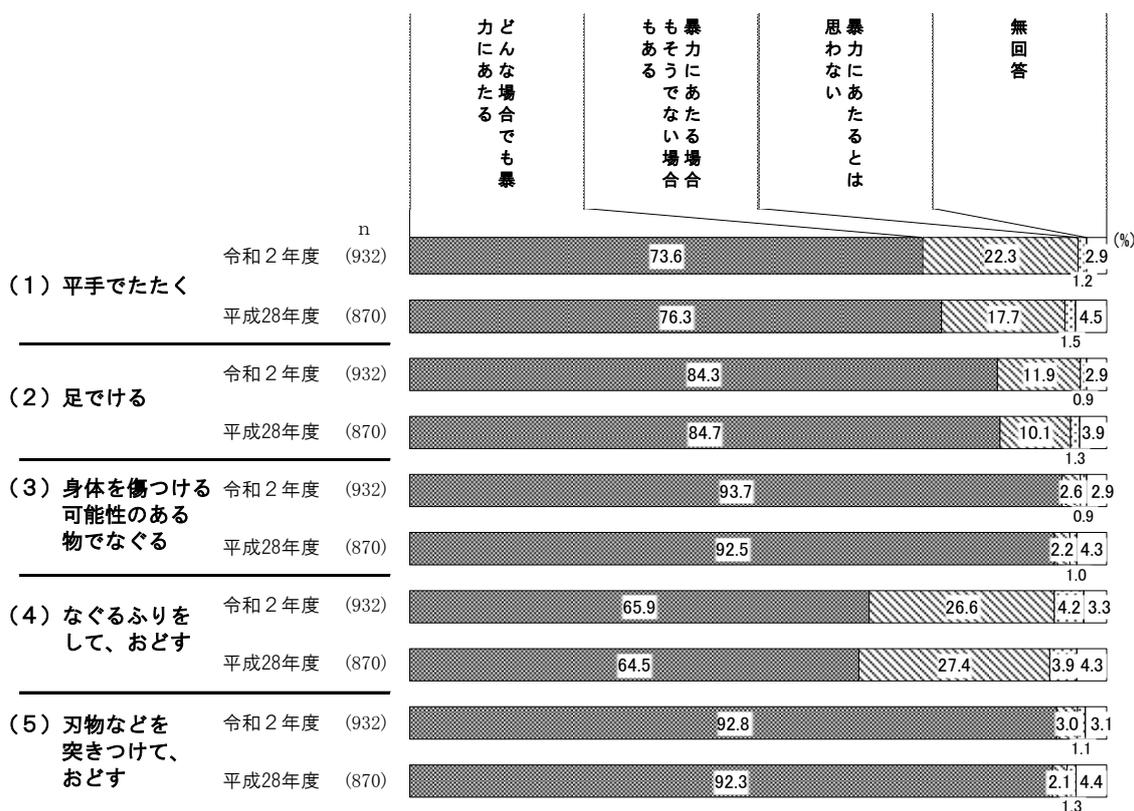
(1) 夫婦間の暴力に対する考え

問23 あなたは、次の（１）～（１１）のようなことが夫婦の間で行われた場合、どのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。配偶者がいない場合は、配偶者がいると仮定してお答えください。（それぞれ１つずつに○）

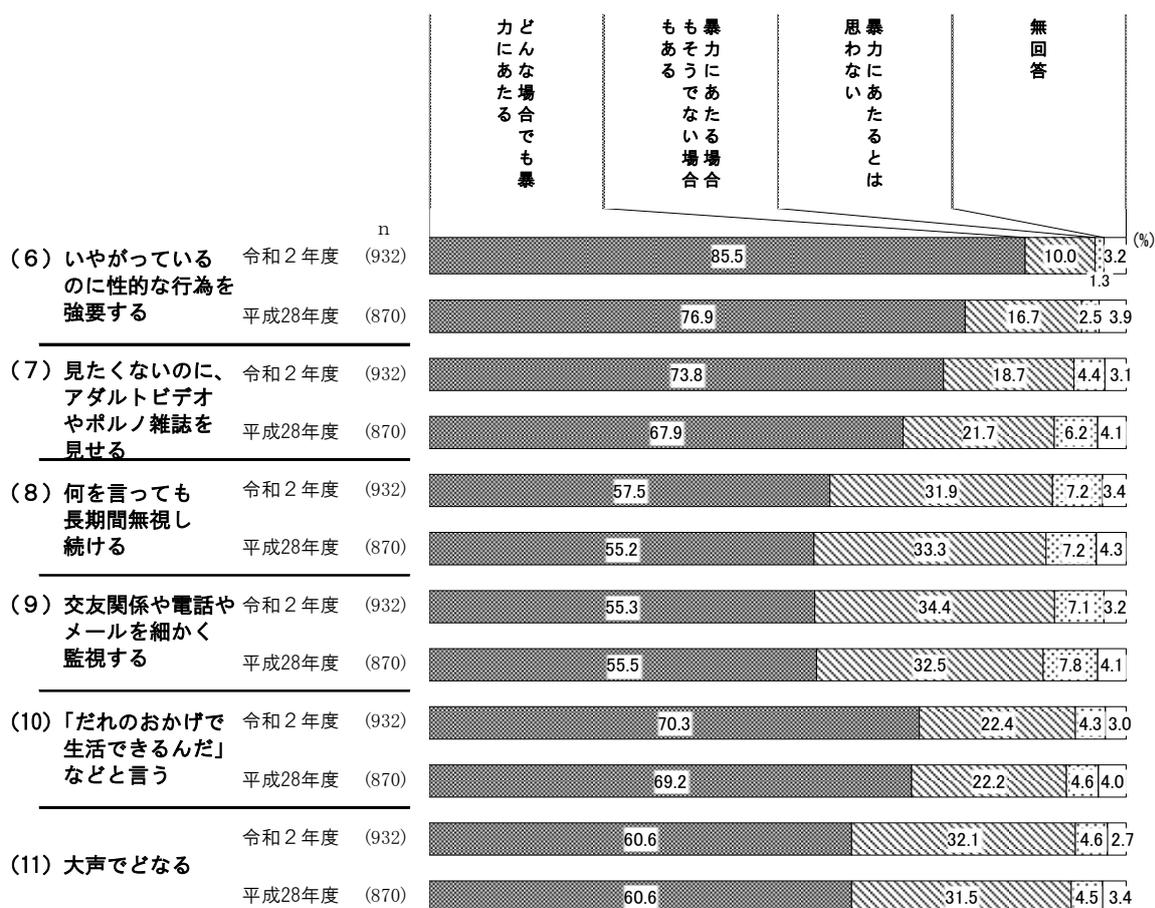
夫婦間の暴力に対する考えについては、いずれも「どんな場合でも暴力にあたる」が最も多く、なかでも“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”“刃物などを突き付けて、おどす”が9割台前半、“足でける”“いやがっているのに性的な行為を強要する”が8割台半ばとなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、“いやがっているのに性的な行為を強要する”と“見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる”では、「どんな場合でも暴力にあたる」が、それぞれ8.6ポイント、5.9ポイント高くなっている。

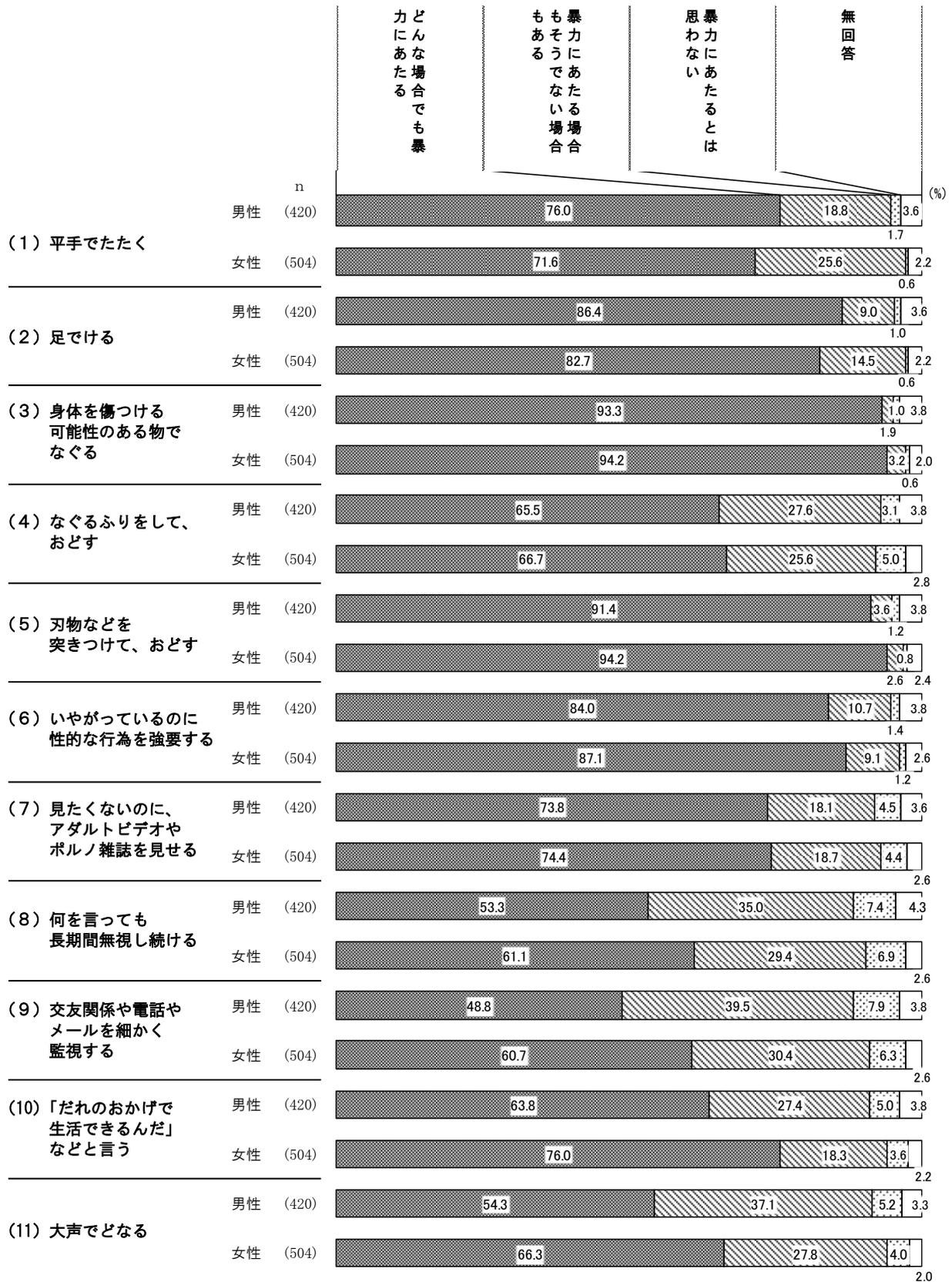
性別でみると、“何を言っても長期間無視し続ける”“交友関係や電話やメールを細かく監視する”“だれのおかげで生活できるんだ”などと言う”“大声でどなる”が男性より女性で多くなっている。



■性別



■性別



(2) 配偶者から受けた暴力の経験の有無

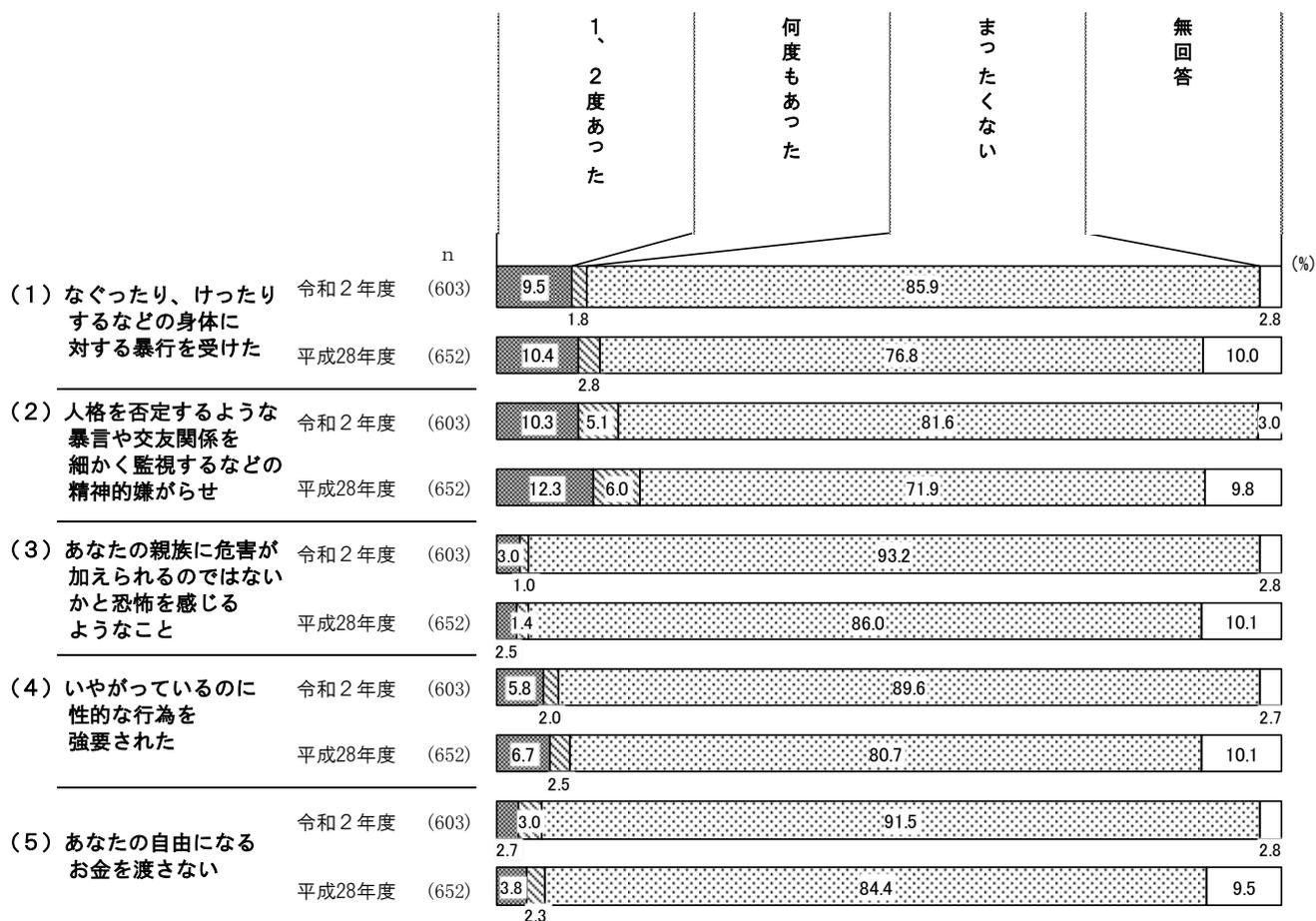
配偶者がいる方

問24 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次の(1)～(5)のようなことをされたことがありますか。(それぞれ1つずつに○)

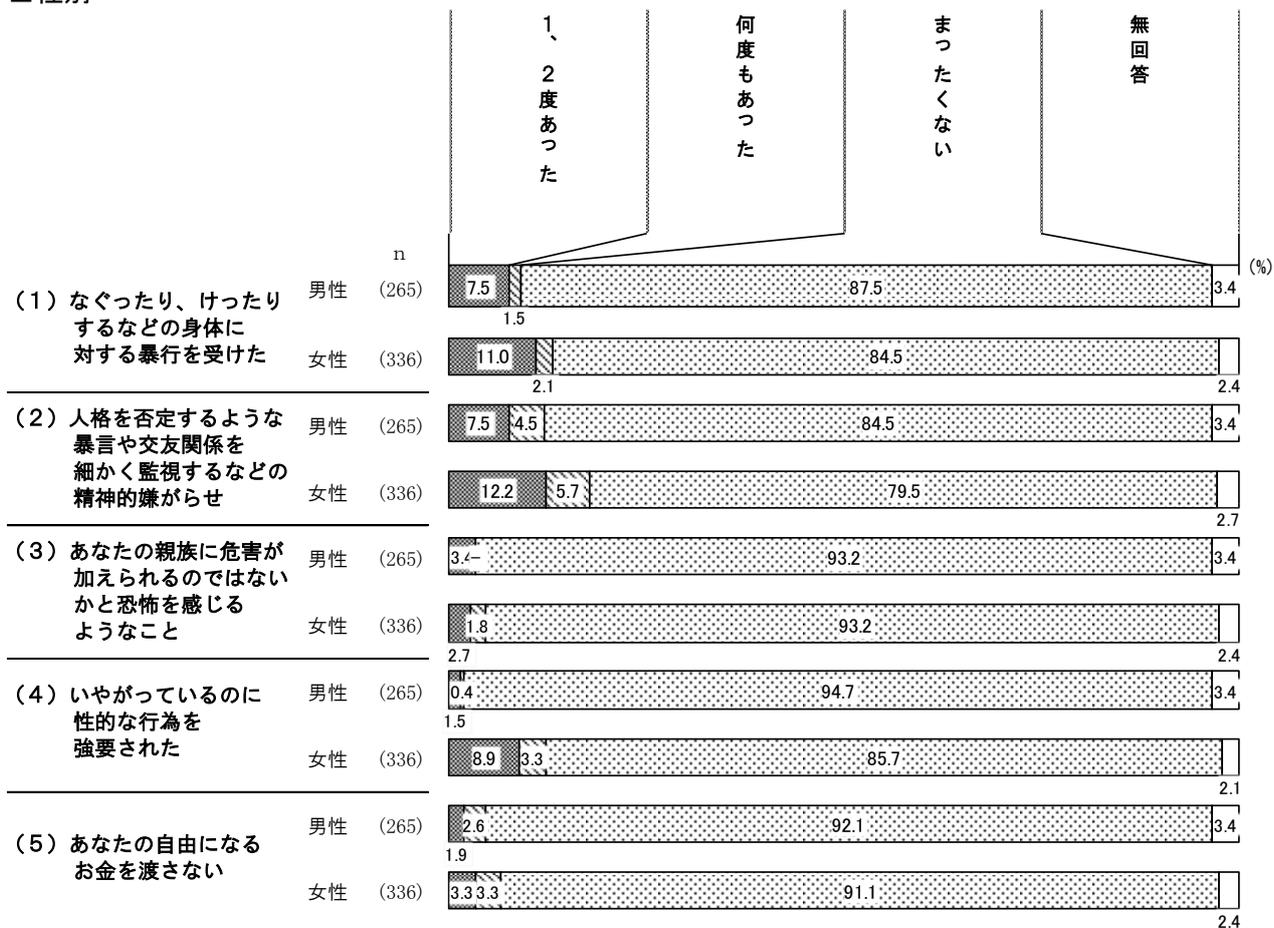
これまでに配偶者から各行為をされた経験については、いずれも「まったくない」が多くなっているものの、“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的嫌がらせ”と“なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた”では「1、2度あった」が1割前後、「何度もあった」と合わせた《経験がある》は、それぞれ15.4%、11.3%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はないものの、《経験がある》はいずれも低くなっていることがわかる。

性別でみると、《経験がある》は、いずれも男性より女性で多く、なかでも“いやがっているのに性的な行為を強要された”では10.3ポイント、“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的嫌がらせ”では5.9ポイント高くなっている。



■性別



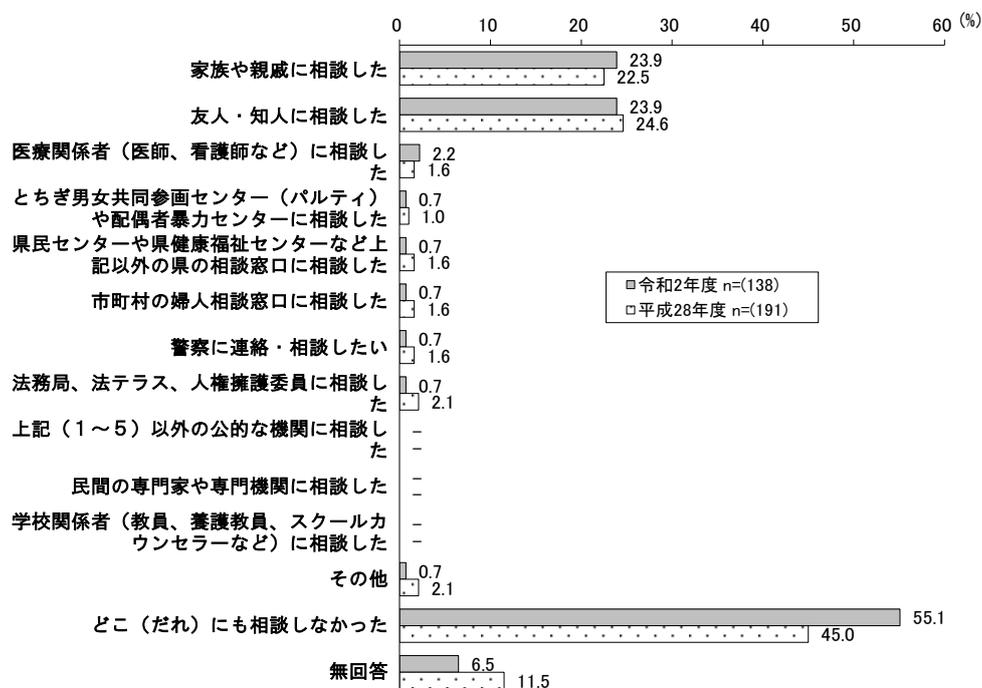
(3) 配偶者から受けた暴力についての相談先

問24で、「1」または「2」と、1つでも回答した方
 問24-1 あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

配偶者から受けた暴力についての相談先では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が55.1%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「家族や親戚に相談した」と「友人・知人に相談した」がともに23.9%で最も多くなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が45.0%から55.1%で9.9ポイント高くなっている。

性別でみると、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が女性より、女性は「家族や親戚に相談した」と「友人・知人に相談した」が男性より多くなっている。



		調査数	家族や親戚に相談した	友人・知人に相談した	医療関係者（医師、看護師など）に相談した	とちぎ男女共同参画センター（パルティ）や配偶者暴力センターに相談した	県民センターや県健康福祉センターなど上記以外の県の相談窓口	市町村の婦人相談窓口	警察に連絡・相談したい
全体		138	23.9	23.9	2.2	0.7	0.7	0.7	0.7
性別	男性	46	13.0	19.6	2.2	-	2.2	-	2.2
	女性	91	29.7	26.4	2.2	1.1	-	1.1	-
		調査数	法務局、法テラス、人権擁護委員に相談した	上記（1～5）以外の公的な機関に相談した	民間の専門家や専門機関に相談した	学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
全体		138	0.7	-	-	-	0.7	55.1	6.5
性別	男性	46	-	-	-	-	2.2	69.6	4.3
	女性	91	1.1	-	-	-	-	47.3	7.7

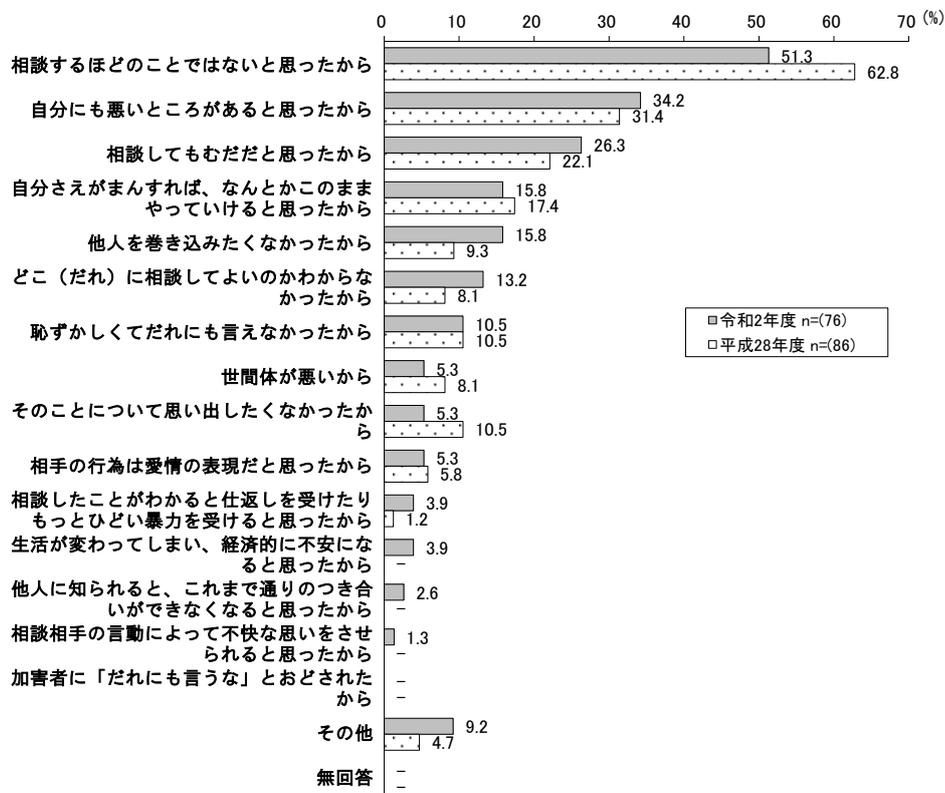
(4) 相談しなかった理由

問24-1で、「13」と回答した方のみ
 問24-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

相談しなかった理由では、「相談するほどのことではないと思ったから」が51.3%で最も多く、以下、「自分にも悪いところがあると思ったから」（34.2%）、「相談してもむだだと思ったから」（26.3%）となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「相談するほどのことではないと思ったから」が62.8%から51.3%で11.5ポイント低くなっている。

性別でみると、女性で「自分にも悪いところがあると思ったから」と「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が男性より多くなっている。



		(%)									
調査数		相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談してもむだだと思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	世間体が悪いから	そのことについて思い出したくなかったから	
全体	76	51.3	34.2	26.3	15.8	15.8	13.2	10.5	5.3	5.3	
性別	男性	32	50.0	31.3	28.1	9.4	15.6	12.5	9.4	6.3	-
	女性	43	51.2	37.2	25.6	18.6	14.0	14.0	11.6	4.7	9.3
調査数		相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談したことがわかると仕返しを受けたりもっとひどい暴力を受けると思ったから	生活が変わってしまい、経済的に不安になると思ったから	他人に知られると、これまで通りのつき合いができなくなると思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	その他	無回答		
全体	76	5.3	3.9	3.9	2.6	1.3	-	9.2	-		
性別	男性	32	6.3	3.1	-	-	-	12.5	-		
	女性	43	4.7	4.7	7.0	4.7	2.3	7.0	-		

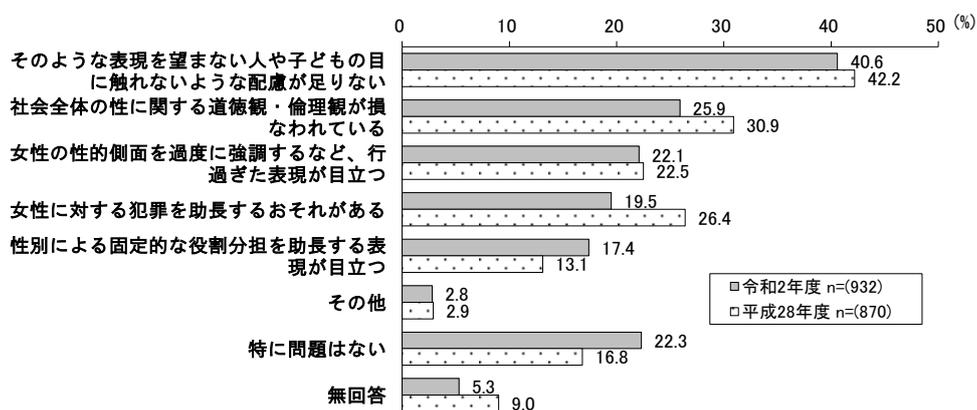
(5) メディアによる性表現等についての考え

問25 テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。(あてはまるものすべてに○)

メディアによる性表現等についての考えでは、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が40.6%で最も多く、以下、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(25.9%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行過ぎた表現が目立つ」(22.1%)となっている。一方、「特に問題はない」も22.3%となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」と「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」で低くなっており、「特に問題はない」が高くなっている。

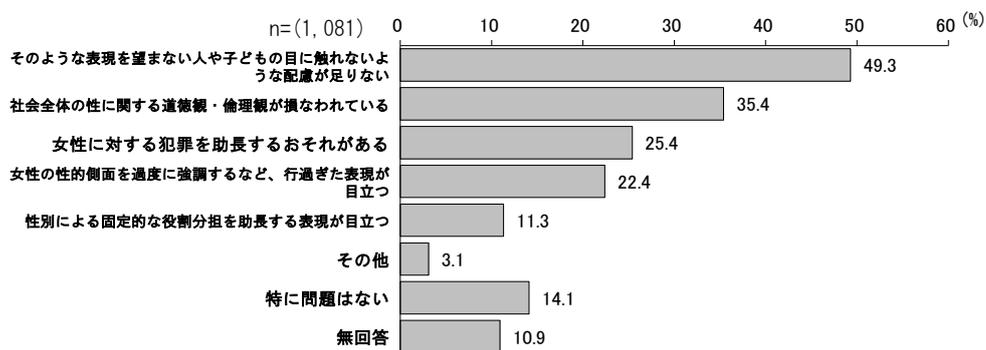
性・年代別で見ると、女性の高齢層で上位項目がより多く、なかでも50歳代、60歳代で「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が5割台となっている。



		調査数	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性の性的側面を過度に強調するなど、行過ぎた表現が目立つ	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	その他	特に問題はない	無回答
全体		932	40.6	25.9	22.1	19.5	17.4	2.8	22.3	5.3
性/年代別(男性)	男性全体	420	35.7	26.2	22.1	18.1	16.2	2.6	25.7	5.0
	10歳代	21	28.6	9.5	23.8	9.5	9.5	14.3	33.3	-
	20歳代	43	30.2	25.6	20.9	9.3	23.3	2.3	34.9	-
	30歳代	70	30.0	27.1	25.7	14.3	17.1	4.3	28.6	-
	40歳代	84	35.7	15.5	21.4	21.4	19.0	2.4	31.0	4.8
	50歳代	94	40.4	28.7	18.1	21.3	20.2	1.1	21.3	-
	60歳代	68	39.7	33.8	27.9	25.0	8.8	1.5	13.2	17.6
70歳以上	39	38.5	38.5	17.9	12.8	7.7	-	28.2	10.3	
性/年代別(女性)	女性全体	504	44.8	25.8	22.4	20.8	18.5	3.0	19.2	5.4
	10歳代	17	52.9	23.5	11.8	11.8	29.4	5.9	11.8	5.9
	20歳代	71	33.8	16.9	26.8	9.9	23.9	2.8	32.4	1.4
	30歳代	108	38.9	17.6	15.7	16.7	17.6	7.4	25.9	7.4
	40歳代	93	43.0	18.3	10.8	25.8	20.4	2.2	22.6	2.2
	50歳代	106	54.7	33.0	30.2	27.4	17.0	0.9	11.3	5.7
	60歳代	65	50.8	41.5	35.4	24.6	10.8	1.5	7.7	3.1
70歳以上	36	44.4	36.1	25.0	16.7	16.7	-	13.9	13.9	

■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

上位2項目で真岡市の方が少なくなっており、それに伴い「特に問題はない」が多くなっている。



9. 男女共同参画を推進するための取組

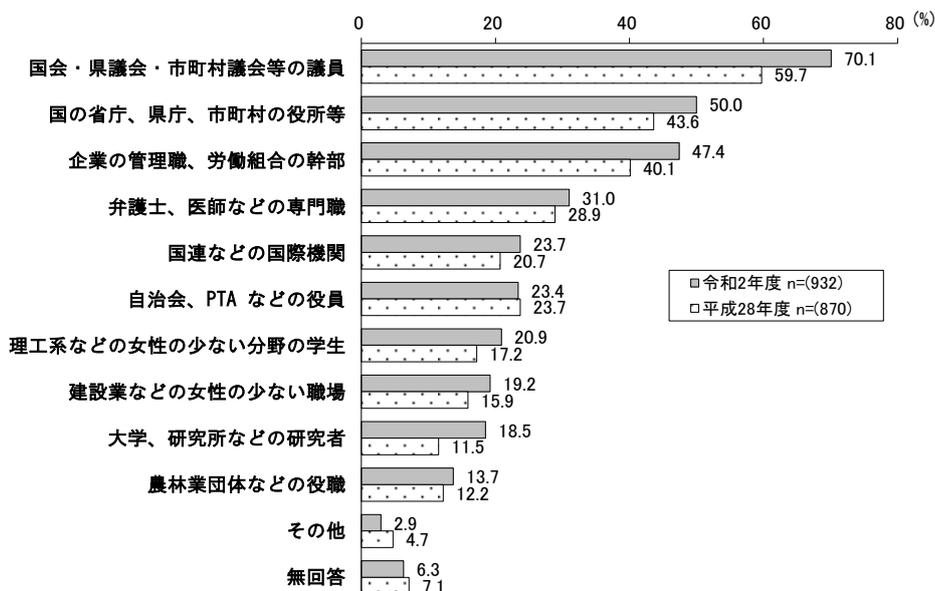
(1) 女性の参画を進める必要があると思う分野

問26 あなたは、今後どのような分野で、特に女性の参画を進める必要があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性の参画を進める必要があると思う分野では、「国会・県議会・市町村議会等の議員」が70.1%で最も多く、以下、「国の省庁、県庁、市町村の役所等」(50.0%)、「企業の管理職、労働組合の幹部」(47.4%)、「弁護士、医師などの専門職」(31.0%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、10分野中9分野で高くなっており、なかでも上位3分野にあたる「国会・県議会・市町村議会等の議員」の10.4ポイント増、「国の省庁、県庁、市町村の役所等」の6.4ポイント増、「企業の管理職、労働組合の幹部」の7.3ポイント増が目立っている。

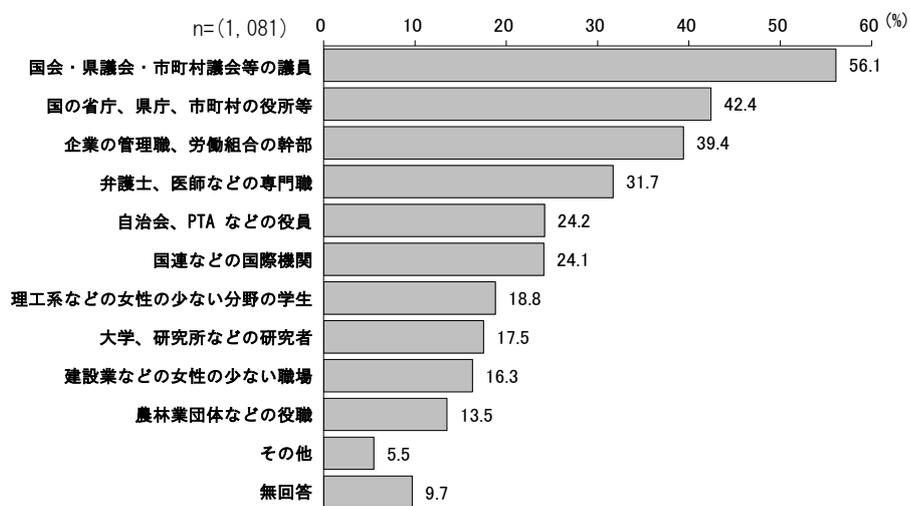
性別でみると、下位項目で女性より男性が多くなっている。



		(%)												
調査数		国会・県議会・市町村議会等の議員	国の省庁、県庁、市町村の役所等	企業の管理職、労働組合の幹部	弁護士、医師などの専門職	国連などの国際機関	自治会、PTA などの役員	理工系などの女性の少ない分野の学生	建設業などの女性の少ない職場	大学、研究所などの研究者	農林業団体などの役職	その他	無回答	
全体	932	70.1	50.0	47.4	31.0	23.7	23.4	20.9	19.2	18.5	13.7	2.9	6.3	
性別	男性	420	70.7	49.0	45.7	29.0	23.1	28.1	24.3	24.5	22.1	16.2	2.9	5.0
	女性	504	69.6	51.4	49.2	32.5	24.4	19.8	18.3	15.1	15.7	11.9	3.0	7.1

■ 県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

上位3項目で真岡市の方が多くなっている点が特徴的で、なかでも「国会・県議会・市町村議会等の議員」は10ポイント以上高くなっている。



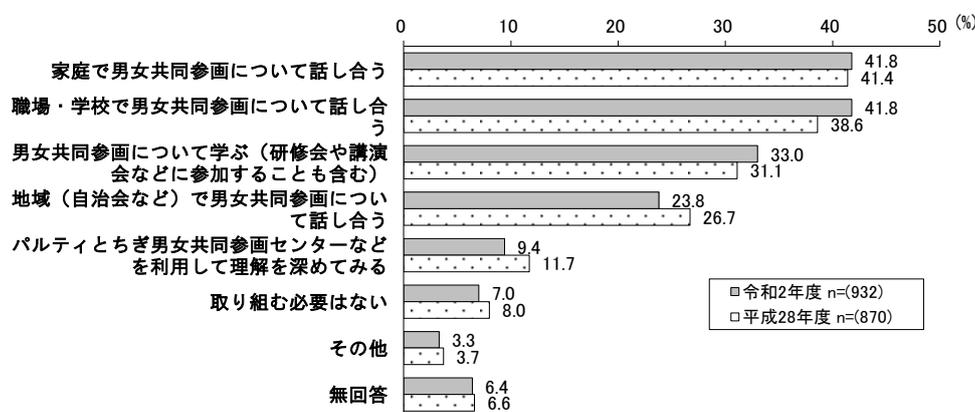
(2) 男女共同参画を推進するために自身でできること

問27 男女共同参画を推進するために、あなたはどのようなことができますか。
(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画を推進するために自身でできることでは、「家庭で男女共同参画について話し合う」と「職場・学校で男女共同参画について話し合う」がともに41.8%で最も多く、以下「男女共同参画について学ぶ（研修会や講演会などに参加することも含む）」(33.0%)、「地域（自治会など）で男女共同参画について話し合う」(23.8%)となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

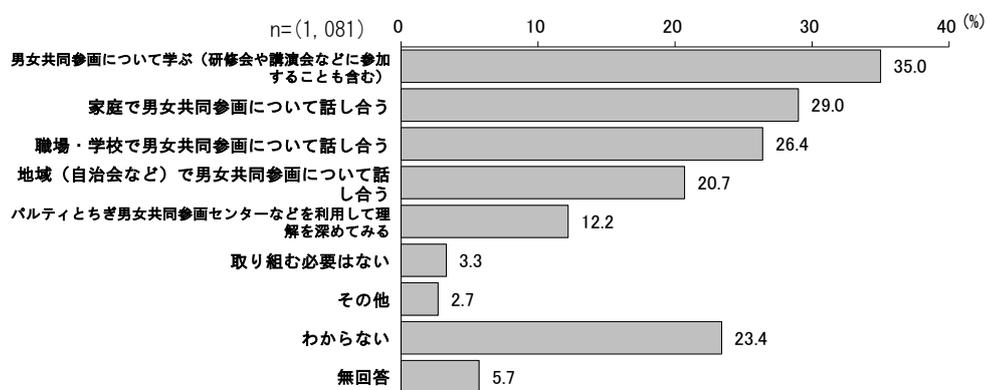
性・年代別でみると、女性の20歳代で「家庭で男女共同参画について話し合う」が5割前半となっている。また、男性の70歳以上、女性の60歳代で「地域（自治会など）で男女共同参画について話し合う」がともに3割台半ばとなっている。



		調査数	家庭で男女共同参画について話し合う	職場・学校で男女共同参画について話し合う	男女共同参画について学ぶ（研修会や講演会などに参加することも含む）	地域（自治会など）で男女共同参画について話し合う	パーティとちぎ男女共同参画センターなどを利用して理解を深めてみる	取り組む必要はない	その他	無回答
全体		932	41.8	41.8	33.0	23.8	9.4	7.0	3.3	6.4
性/年代別 (男性)	男性全体	420	41.9	42.6	30.2	26.2	8.6	6.9	3.1	5.2
	10歳代	21	19.0	52.4	47.6	9.5	19.0	4.8	9.5	4.8
	20歳代	43	39.5	48.8	37.2	14.0	4.7	4.7	2.3	-
	30歳代	70	47.1	51.4	28.6	27.1	10.0	7.1	1.4	1.4
	40歳代	84	45.2	42.9	13.1	31.0	9.5	11.9	6.0	3.6
	50歳代	94	41.5	43.6	28.7	23.4	1.1	8.5	2.1	5.3
	60歳代	68	38.2	35.3	47.1	30.9	10.3	2.9	1.5	10.3
70歳以上	39	48.7	23.1	28.2	35.9	17.9	2.6	2.6	12.8	
性/年代別 (女性)	女性全体	504	42.1	41.3	35.5	22.0	10.3	7.1	3.6	7.1
	10歳代	17	23.5	35.3	58.8	17.6	29.4	5.9	-	5.9
	20歳代	71	52.1	45.1	33.8	12.7	7.0	8.5	4.2	4.2
	30歳代	108	36.1	50.9	32.4	22.2	5.6	7.4	3.7	6.5
	40歳代	93	50.5	43.0	29.0	17.2	8.6	8.6	-	2.2
	50歳代	106	43.4	41.5	39.6	24.5	17.9	7.5	5.7	5.7
	60歳代	65	41.5	36.9	40.0	35.4	7.7	3.1	3.1	6.2
70歳以上	36	33.3	19.4	36.1	22.2	11.1	8.3	5.6	25.0	

■県調査結果との比較（平成26年度・男女共同参画社会に関する意識調査）

「家庭で男女共同参画について話し合う」と「職場・学校で男女共同参画について話し合う」では、県で2割台も真岡市はともに4割を超えている。



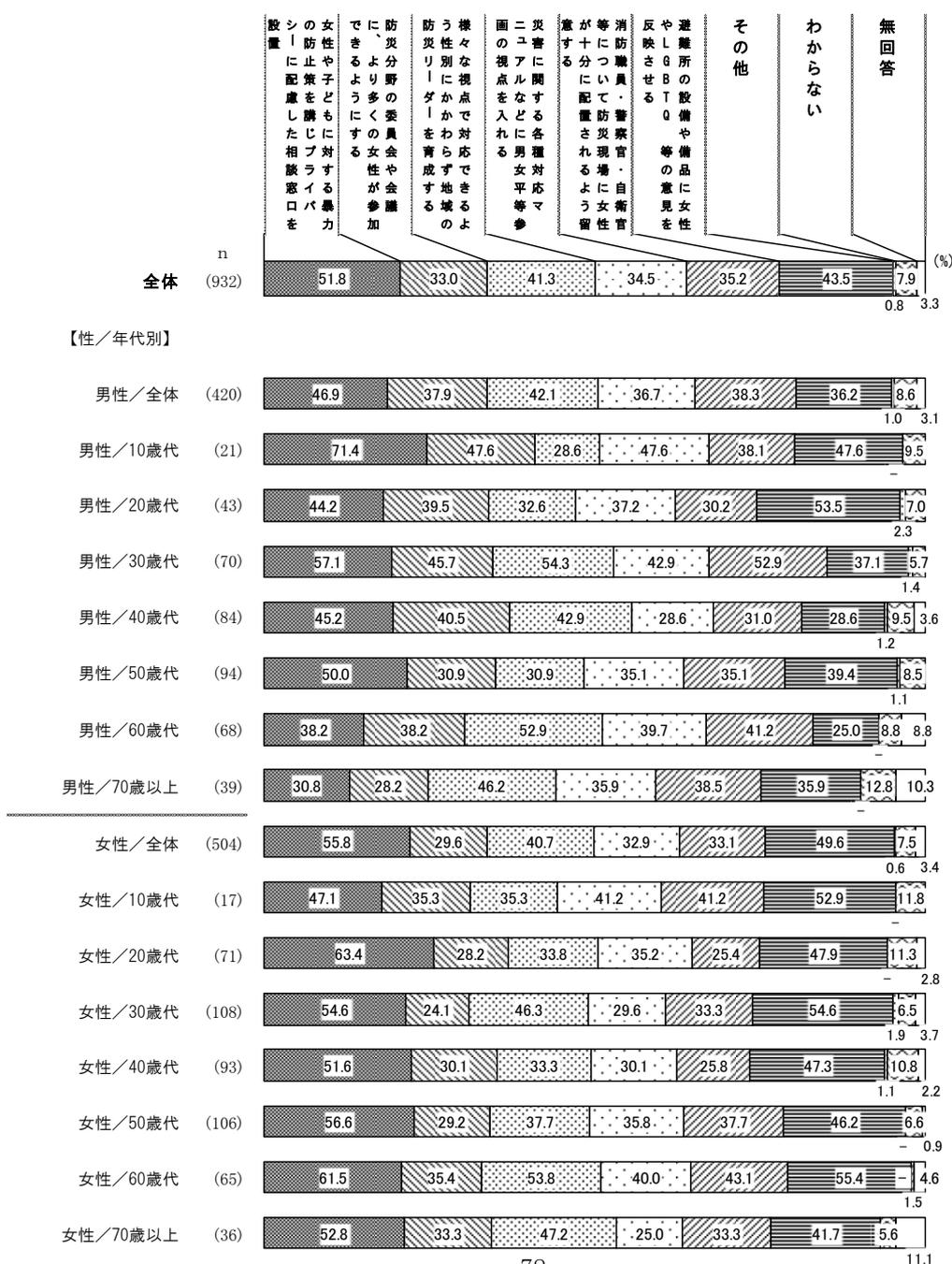
※選択肢「わからない」は、今回調査には設定されていない。

(3) 防災対応時に必要だと思うこと

問28 災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

防災対応時に必要だと思うことでは、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じプライバシーに配慮した相談窓口を設置」が51.8%で最も多く、以下、「避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる」(43.5%)、「様々な視点で対応できるよう性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」(41.3%)、「消防職員・警察官・自衛官等について防災現場に女性が十分に配置されるよう留意する」(35.2%)となっている。

性・年代別にみると、女性の20歳代で「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じプライバシーに配慮した相談窓口を設置」が63.4%と全年代中最も高くなっている。また、同年代で比較すると、30歳代を除いた年代で、男性より女性の方が高くなっている



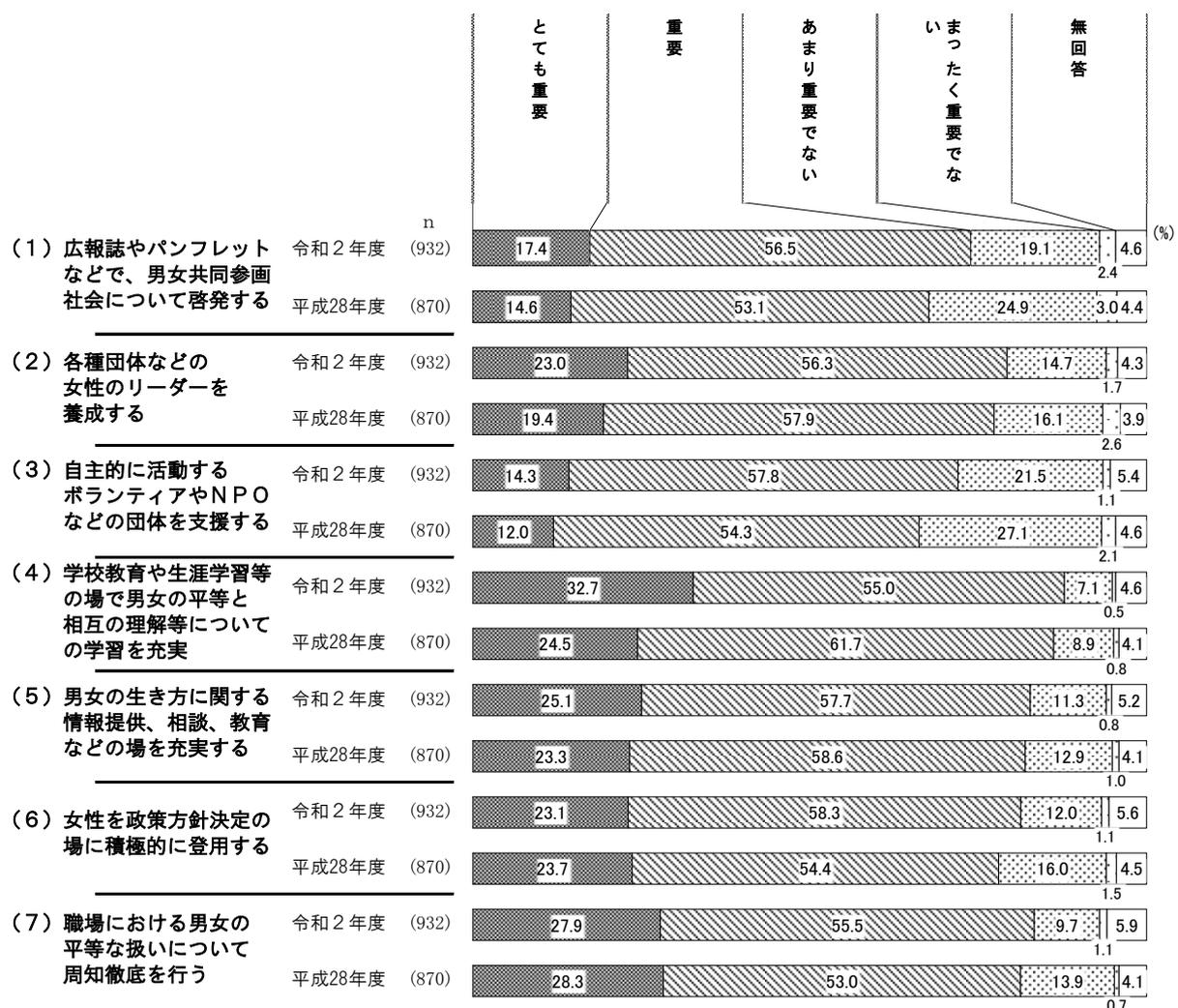
(4) 市が力を入れるべきと思う事柄

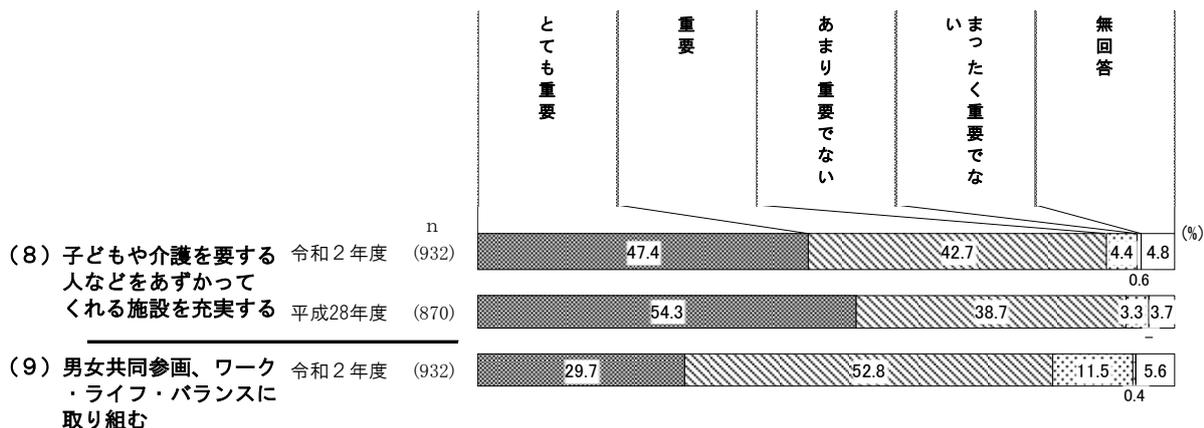
問29 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(それぞれ1つずつに○)

今後、市が力を入れるべきと思うこととしては、“子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する”で「とても重要である」が47.4%と他の項目より多く、「重要」(42.7%)と合わせた《重要》では90.1%を占めている。また、“学校教育や生涯学習等の場で男女の平等と相互の理解等についての学習を充実”でも《重要》は87.7%となっている。

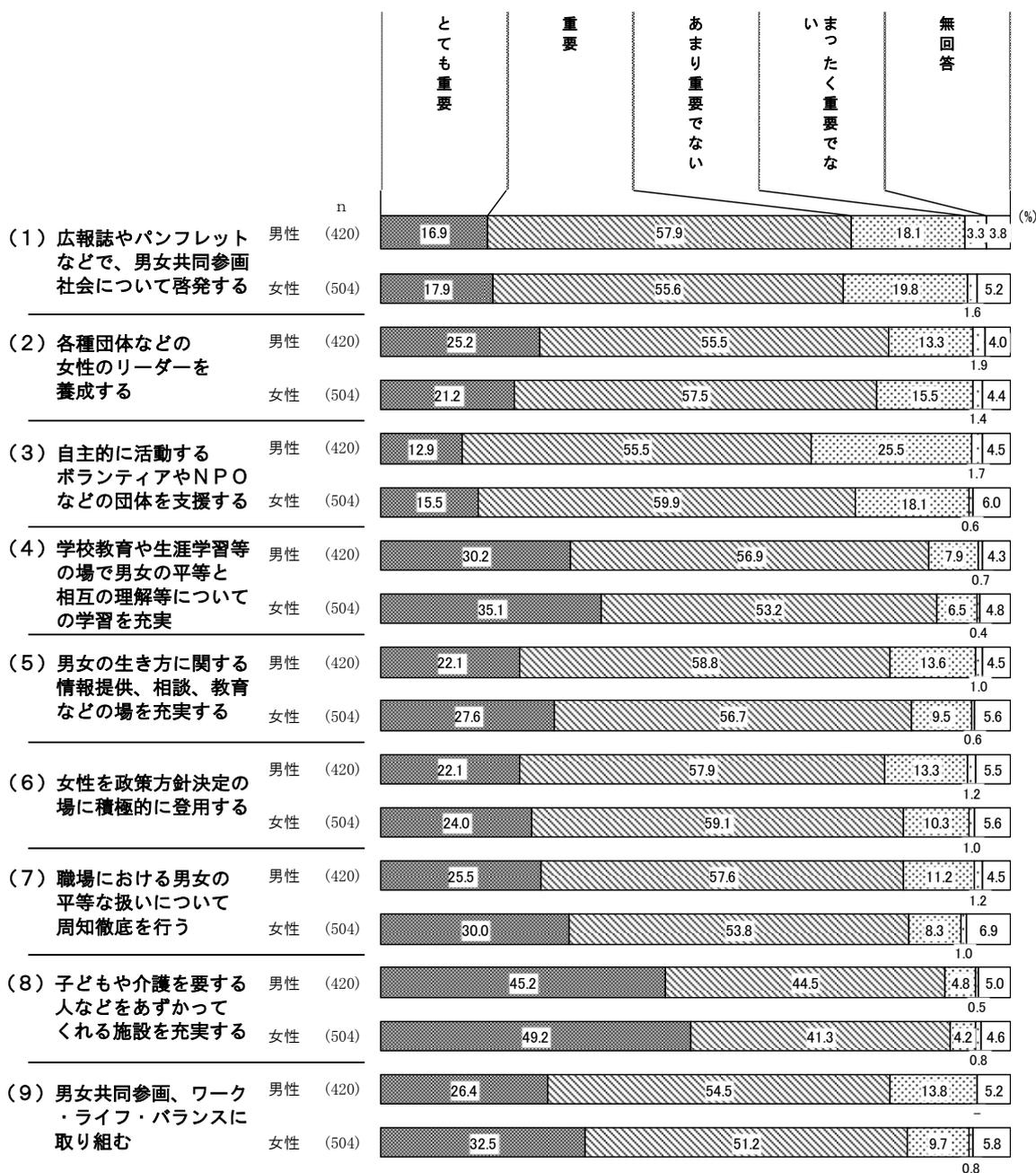
前回調査(平成28年度)結果との比較では、「とても重要」は“学校教育や生涯学習等の場で男女の平等と相互の理解等についての学習を充実”で8.2ポイント高く、“子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する”で6.9ポイント低くなっている。また、《重要》は“広報誌やパンフレットなどで、男女共同参画社会について啓発する”“自主的に活動するボランティアやNPOなどの団体を支援する”で、それぞれ6.2ポイント、5.8ポイント前回より高くなっている。

性別でみると、「とても重要」では9項目中8項目で男性より女性で多くなっており、なかでも“男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスに取り組む”“男女の生き方に関する情報提供、相談、教育などの場を充実する”が、それぞれ6.1ポイント、5.5ポイント高くなっている。また、《重要》では“自主的に活動するボランティアやNPOなどの団体を支援する”で、男性より女性が7.0ポイント高くなっている。





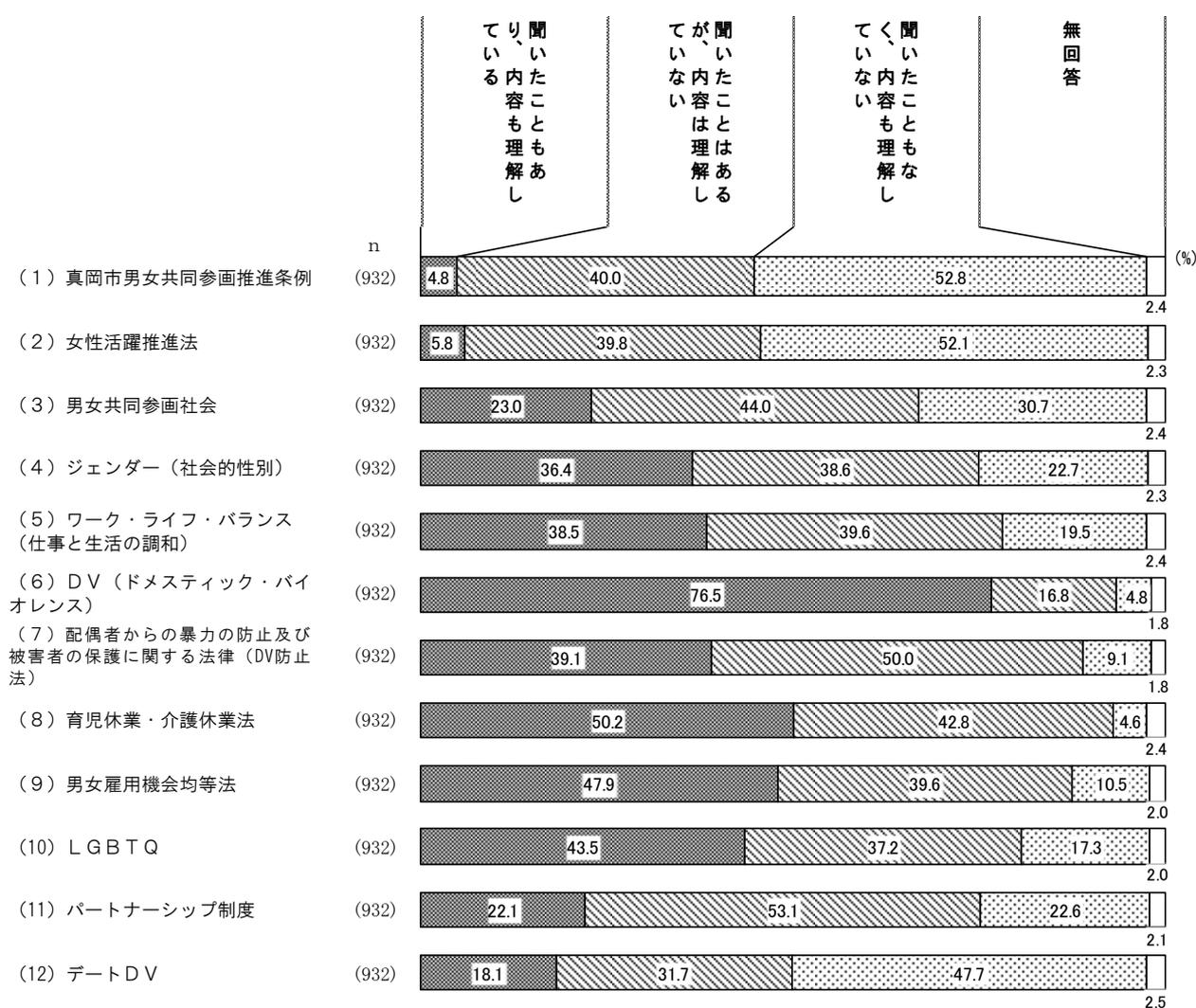
■性別



(5) 男女共同参画に関する認知度・理解度

問30 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉を聞いたことはありますか。また、内容について理解していますか。(それぞれ1つずつに○)

男女共同参画に関する言葉の認知・理解については、“DV（ドメスティック・バイオレンス）”で「聞いたこともあり、内容も理解している」が最も多く、76.5%を占めている。一方、“真岡市男女共同参画推進条例”“女性活躍推進法”“デートDV”では「聞いたこともなく、内容も理解していない」が多く、4割台後半から5割台前半となっている。また、“配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）”“パートナーシップ制度”では「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が5割台となっている。

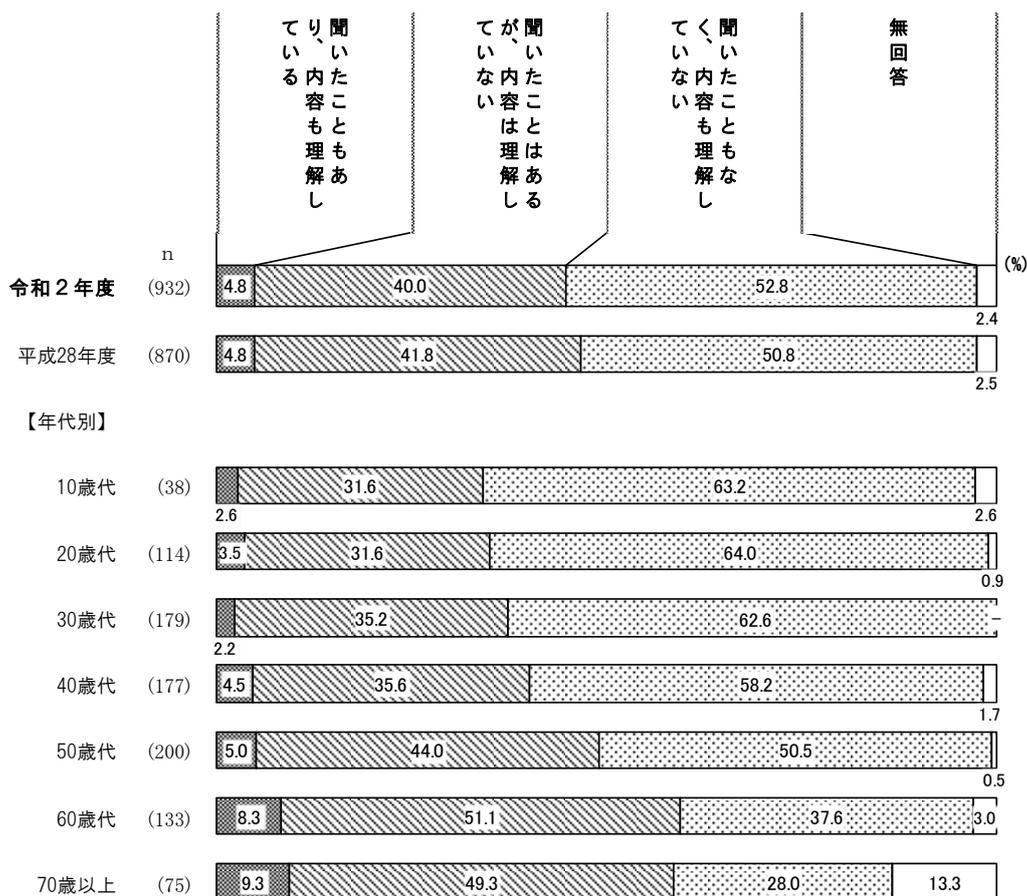


■真岡市男女共同参画推進条例

真岡市男女共同参画推進条例では、「聞いたこともなく、内容も理解していない」が52.8%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(40.0%)を合わせた《内容を理解していない》は92.8%を占めている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

年代別にみると、10歳代から50歳代までで《内容を理解していない》が9割を超えている。

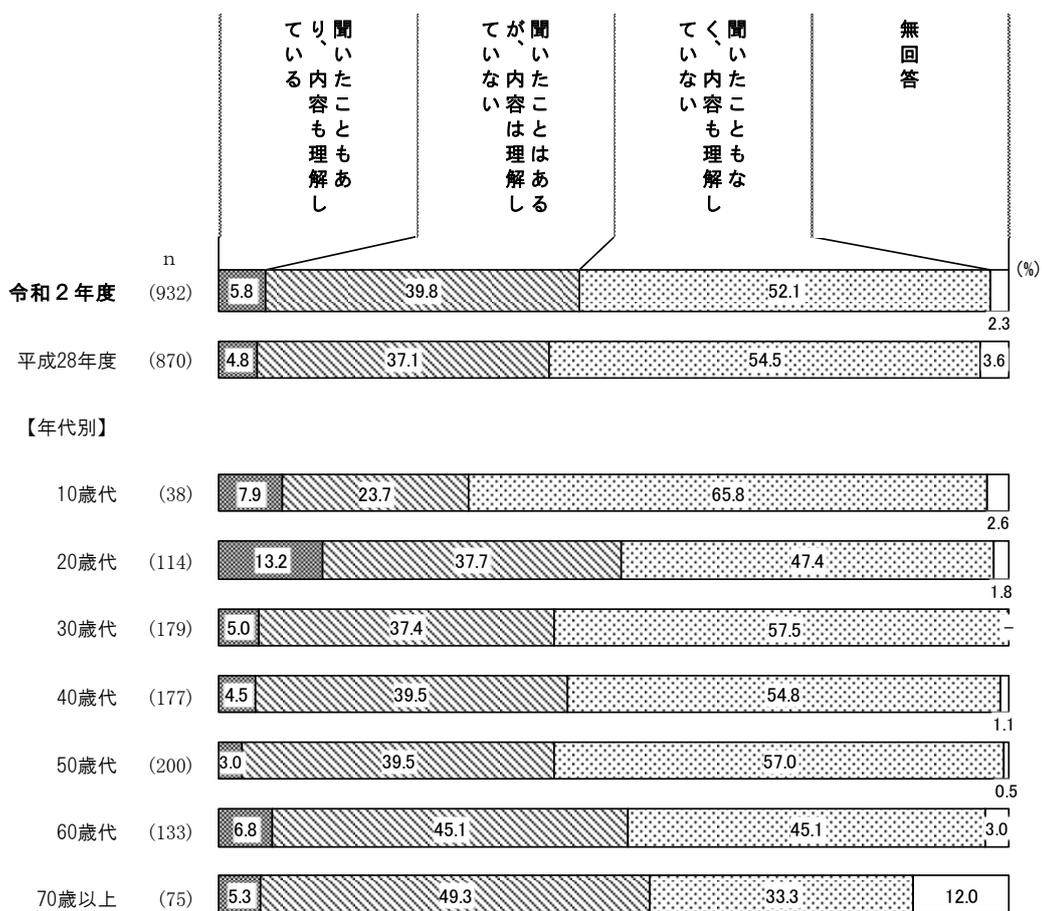


■女性活躍推進法

女性活躍推進法では、「聞いたこともなく、内容も理解していない」が52.1%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(39.8%)を合わせた《内容を理解していない》は91.9%を占めている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

年代別にみると、30歳代から50歳代までで《内容を理解していない》が9割台半ばとなっている。

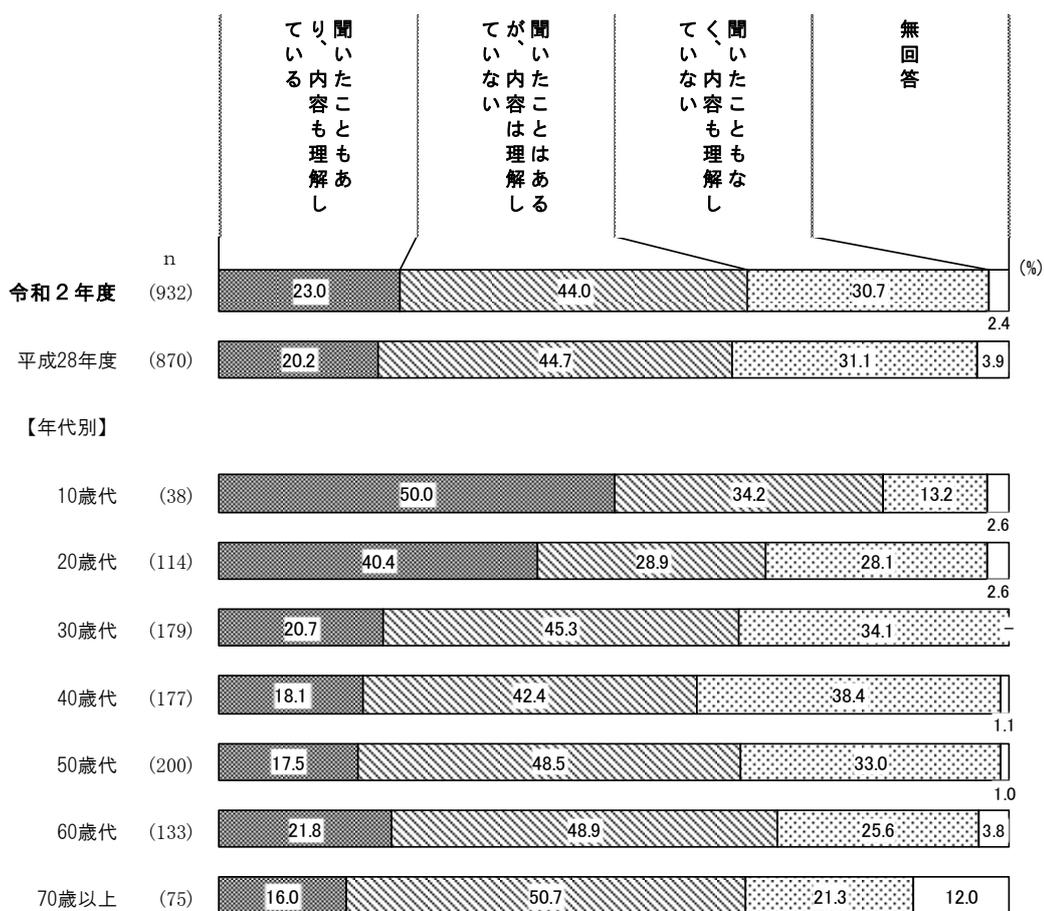


■男女共同参画社会

男女共同参画社会では、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が44.0%と最も多く、「聞いたこともなく、内容も理解していない」(30.7%)を合わせた《内容を理解していない》は75.1%となっている。一方、「聞いたこともあり、内容も理解している」(23.0%)を合わせた《聞いたことがある》は67.0%となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

年代別にみると、30歳代から50歳代までで《内容を理解していない》が8割前後となっている。また、10歳代で《聞いたことがある》が8割台半ばとなっている。

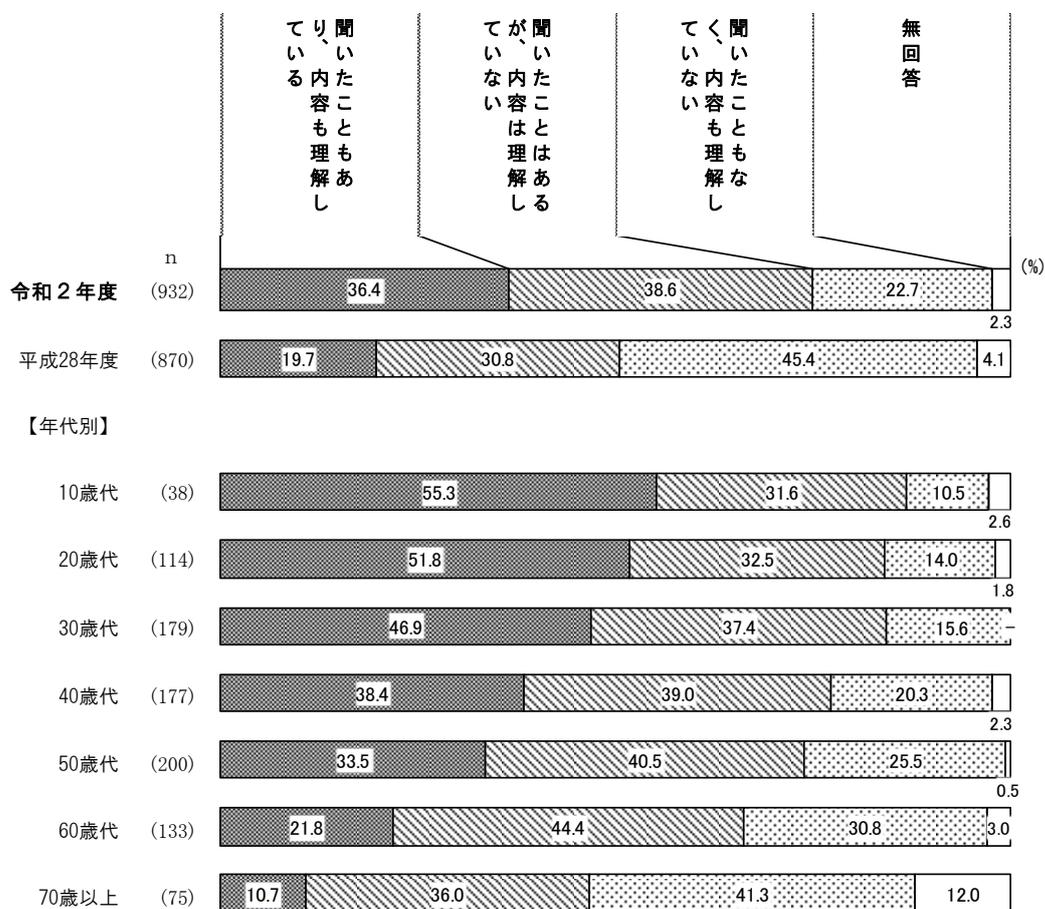


■ジェンダー（社会的性別）

ジェンダー（社会的性別）では、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が38.6%、「聞いたこともあり、内容も理解している」が36.4%で、《聞いたことがある》としては75.0%となっている。また、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」と「聞いたこともなく、内容も理解していない」（22.7%）を合わせた《内容を理解していない》は61.3%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「聞いたこともあり、内容も理解している」が19.7%から36.4%で16.7ポイント、《聞いたことがある》でも50.5%から75.0%で24.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、年代が上がるにつれて、《聞いたことがある》は減少し、《内容を理解していない》も増加していることがわかる。

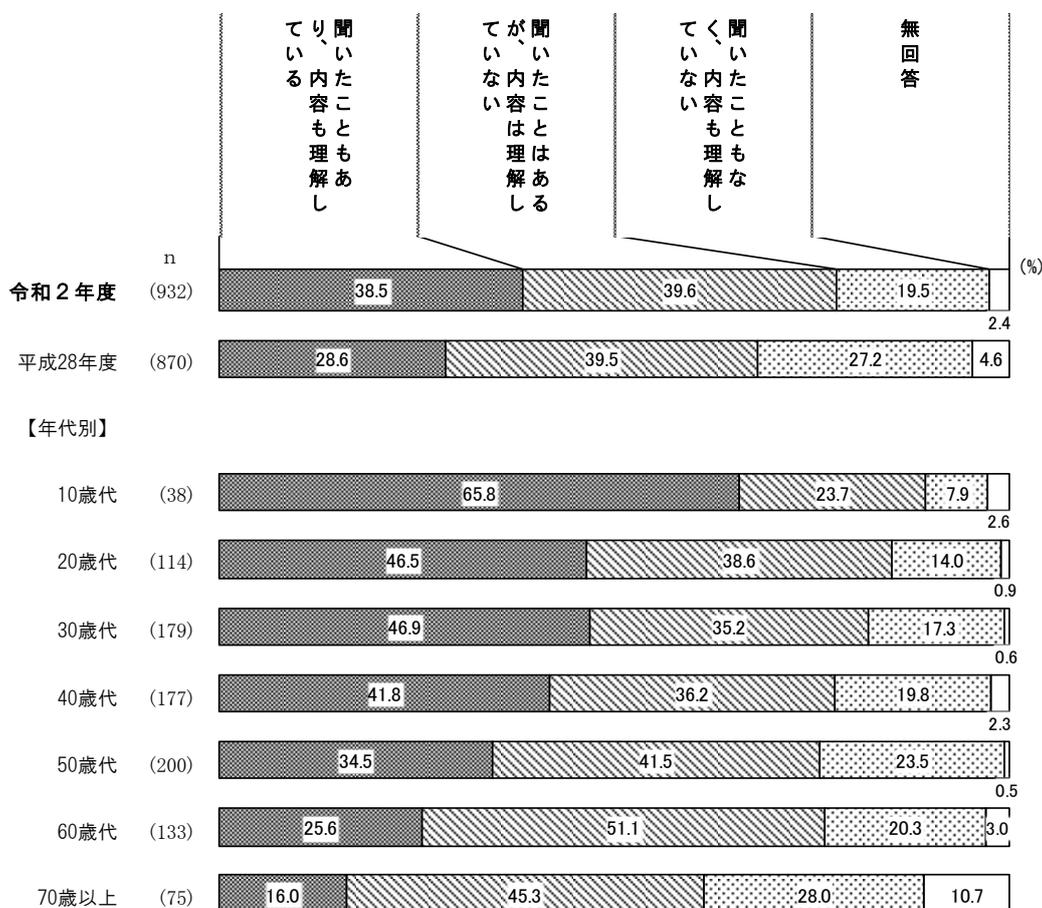


■ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）では、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が39.6%、「聞いたこともあり、内容も理解している」が38.5%で、「聞いたことがある」としては78.1%となっている。また、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」と「聞いたこともなく、内容も理解していない」（19.5%）を合わせた《内容を理解していない》は59.1%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「聞いたこともあり、内容も理解している」が28.6%から38.5%で9.9ポイント高くなっている。

年代別にみると、年代が上がるにつれて、「聞いたことがある」は減少し、「内容を理解していない」も増加する傾向にある。

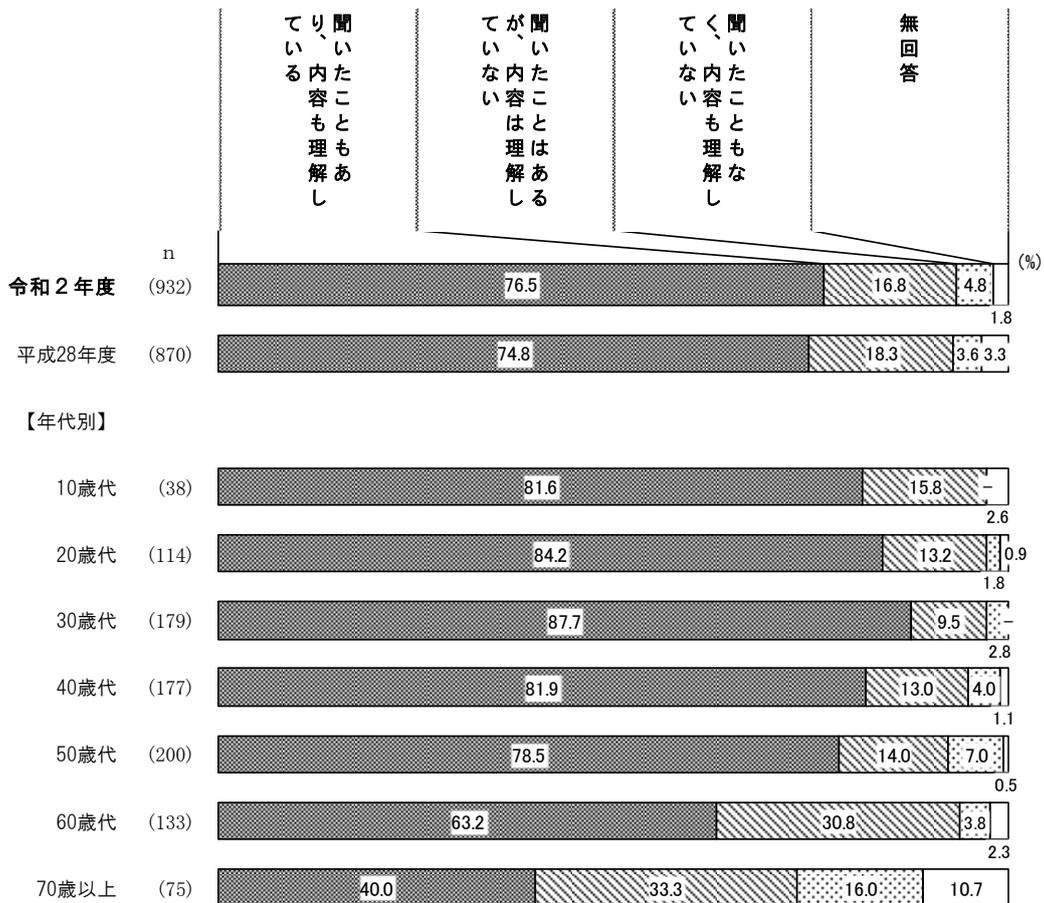


■DV（ドメスティック・バイオレンス）

DV（ドメスティック・バイオレンス）では、「聞いたこともあり、内容も理解している」が76.5%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」（16.8%）を合わせた、「聞いたことがある」は93.3%を占めている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

年代別にみると、70歳以上を除き、「聞いたことがある」は9割台となっている。

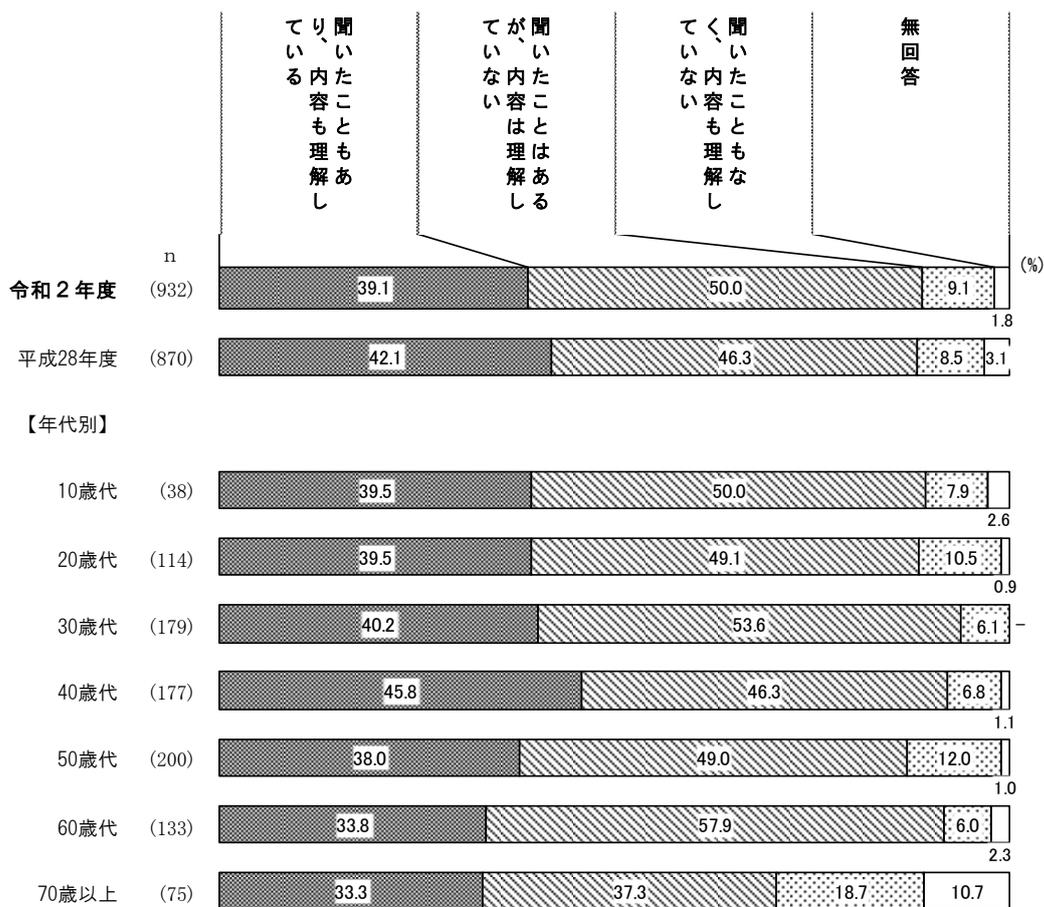


■配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）では、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が50.0%で最も多く、「聞いたこともなく、内容も理解していない」（9.1%）を合わせた《内容を理解していない》は59.1%となっている。一方、「聞いたこともあり、内容も理解している」（39.1%）を合わせた《聞いたことがある》は89.1%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

年代別にみると、40歳代で「聞いたこともあり、内容も理解している」が45.8%と多くなっている。

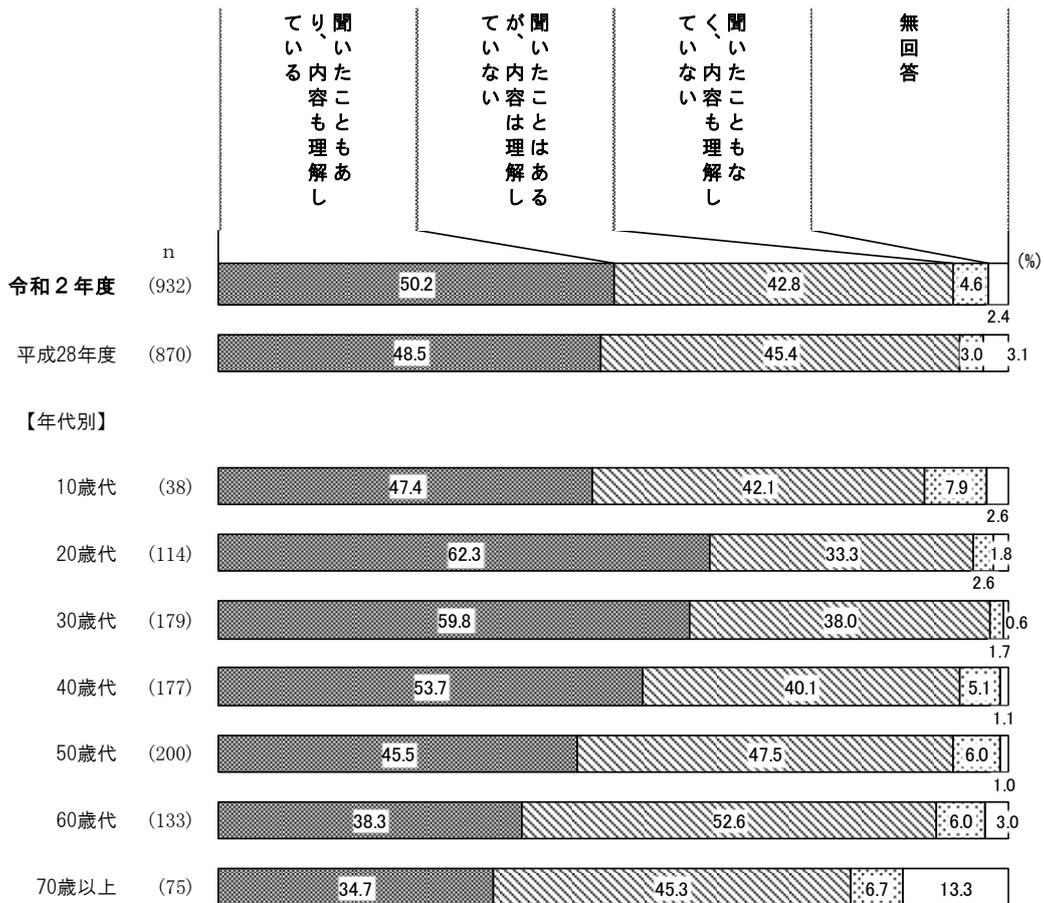


■育児休業・介護休業法

育児休業・介護休業法では、「聞いたこともあり、内容も理解している」が50.2%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」（42.8%）を合わせた《聞いたことがある》は93.0%を占めている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、大きな差異はみられない。

年代別にみると、20歳代、30歳代で「聞いたこともあり、内容も理解している」が、それぞれ62.3%、59.8%と多くなっている。

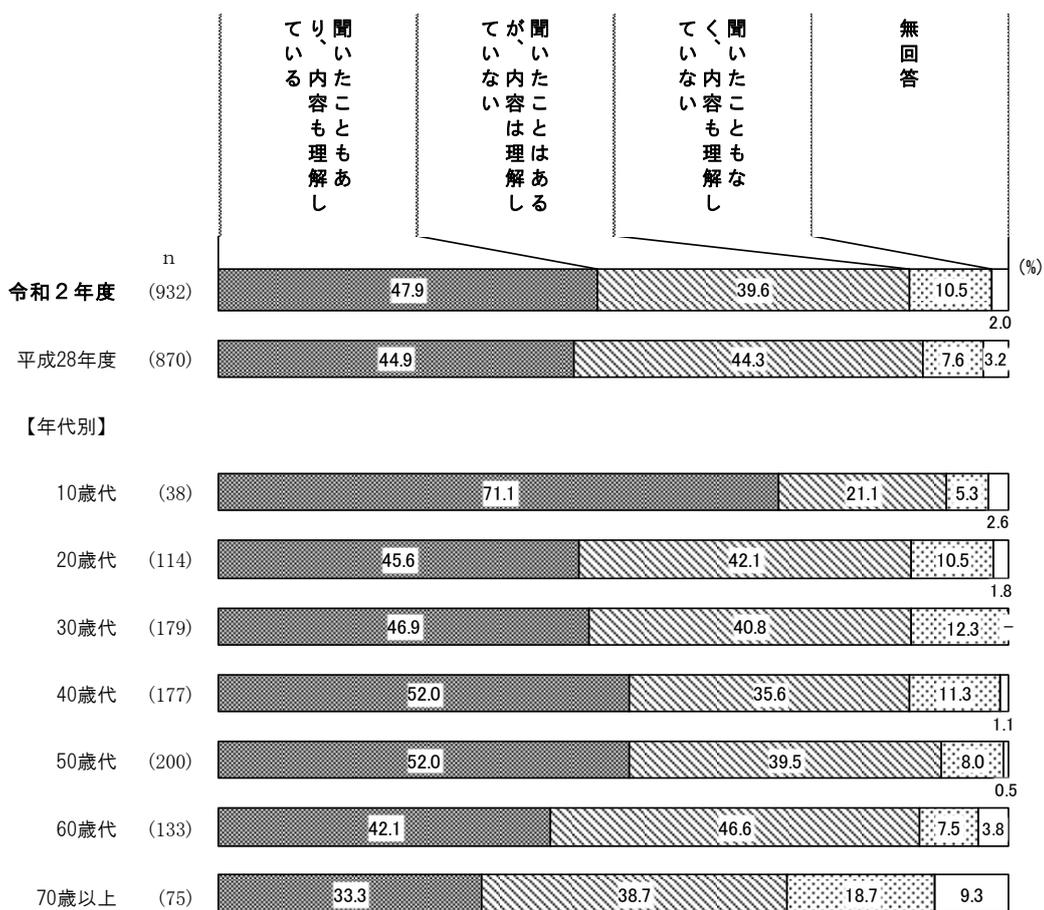


■男女雇用機会均等法

育児休業・介護休業法では、「聞いたこともあり、内容も理解している」が47.9%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(39.6%)を合わせた《聞いたことがある》は87.5%を占めている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、大きな差異はみられない。

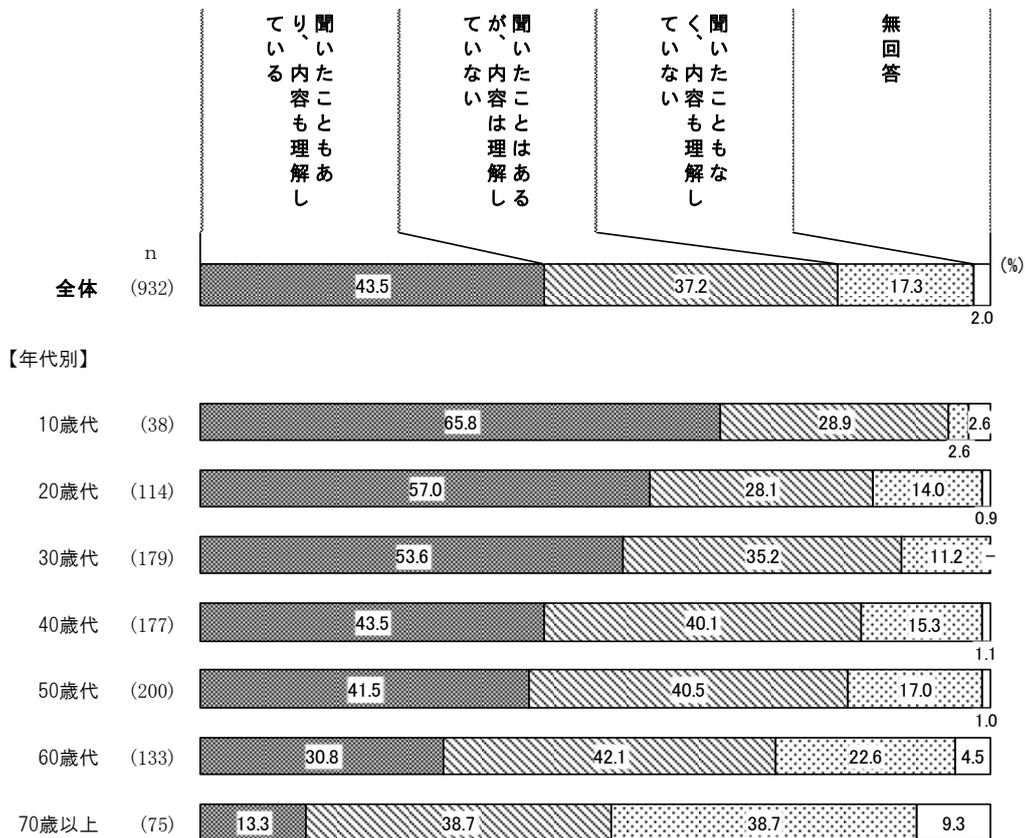
年代別にみると、10歳代で「聞いたこともあり、内容も理解している」が71.1%と突出している。



■ L G B T Q

LGBTQでは、「聞いたこともあり、内容も理解している」が43.5%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(37.2%)を合わせた《聞いたことがある》は80.7%となっている。

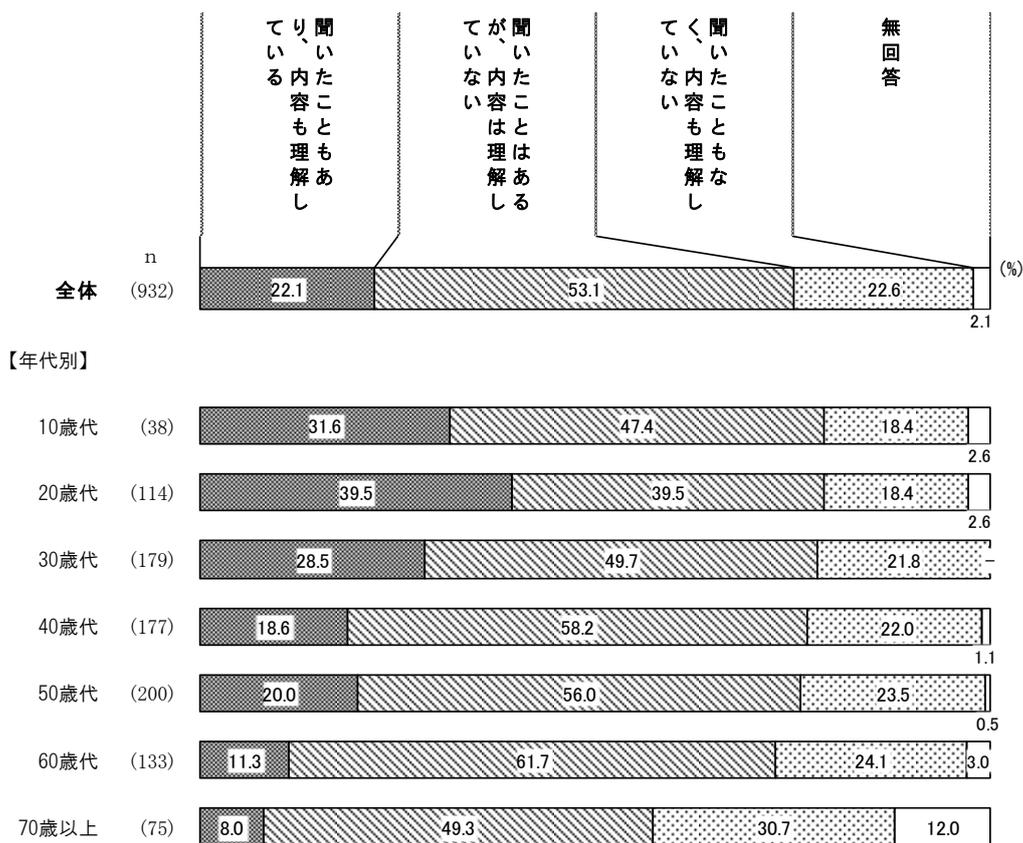
年代別にみると、10歳代で「聞いたこともあり、内容も理解している」が65.8%と多く、《聞いたことがある》としても、10歳代で9割台、30歳代で9割弱となっている。



■パートナーシップ制度

パートナーシップ制度では、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が53.1%と最も多く、「聞いたこともなく、内容も理解していない」（22.6%）を合わせた《内容を理解していない》は75.7%となっている。一方、「聞いたこともあり、内容も理解している」（22.1%）を合わせた《聞いたことがある》は75.2%となっている。

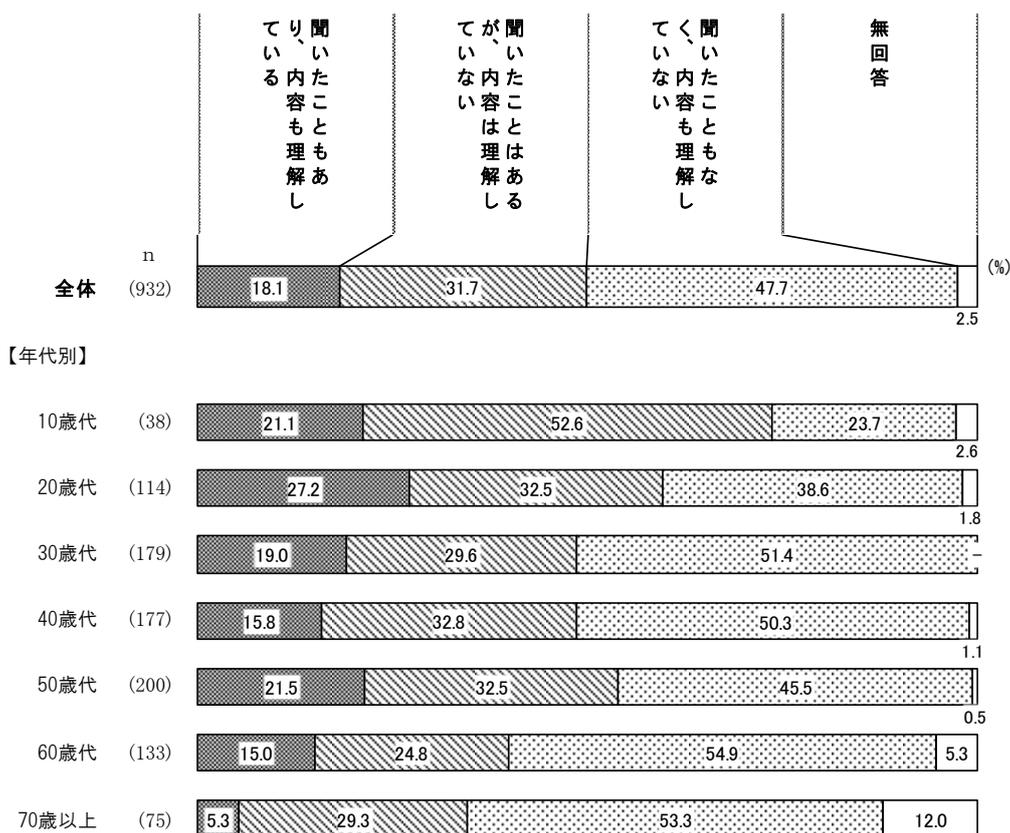
年代別にみると、20歳代で「聞いたこともあり、内容も理解している」が39.5%、60歳代で「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が61.7%と、他の年代より多くなっている。



■デートDV

デートDVでは、「聞いたこともなく、内容も理解していない」が47.7%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(31.7%)を合わせた《内容を理解していない》は79.4%となっている。

年代別にみると、《聞いたことがある》は10歳代で7割台、「聞いたこともあり、内容も理解している」は20歳代で27.2%と、若年層で多くなっていることがわかる。



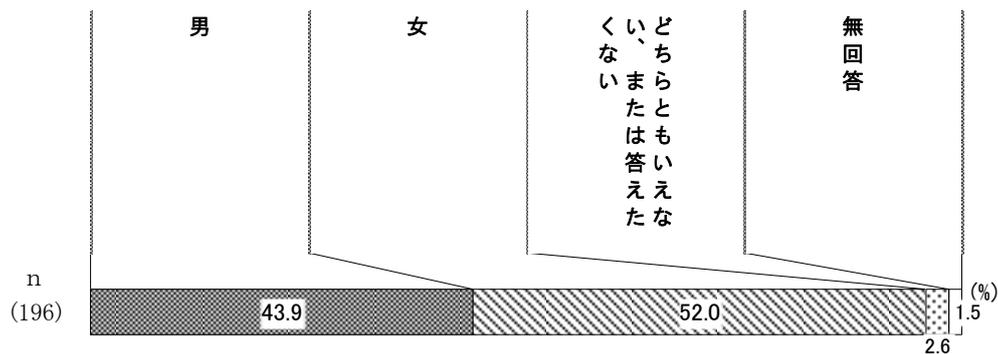
第3章 調査結果の詳細／中学生調査

1. 基本属性

(1) 性別

問23 あなたの性別はなんですか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。
(○は1つ)

性別では、「男」が43.9%、「女」が52.0%となっている。

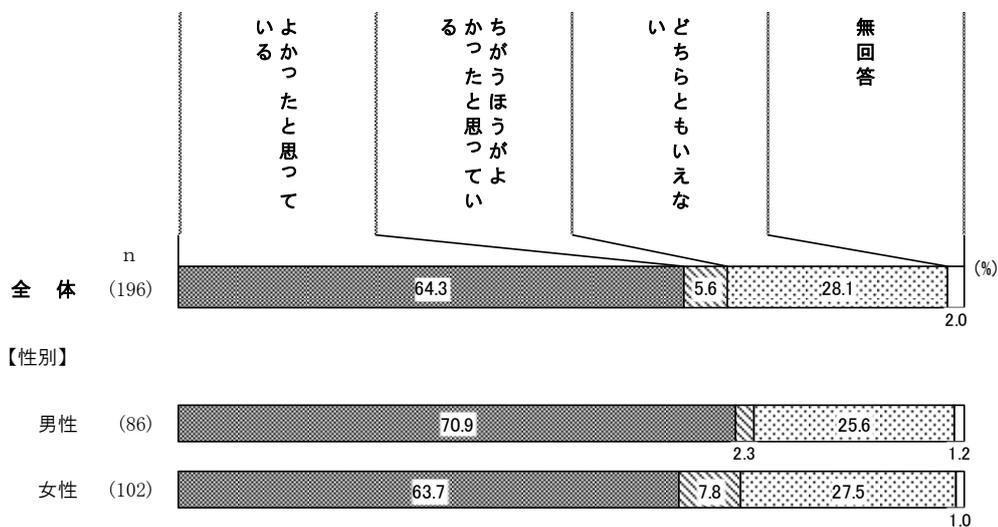


(2) 自身の性別についての感じ方

問24 あなたは、自分が男子または女子に生まれたことをどのように思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

自身の性別についての感じ方では、「よかったと思っている」が64.3%、「ちがうほうがよかったと思っている」(5.6%) となっている。一方、「どちらともいえない」は28.1%となっている。

性別でみると、男性で「よかったと思っている」が7割を超えている。



(3) 性別について思う理由

問24-1 なぜ、そのように思いますか。よろしければ理由を教えてください。

【よかったと思っている理由】

男性の意見	件数	女性の意見	件数
楽しい、自由	13	楽しい、充実している	17
人間関係が楽	7	可愛くなれる、おしゃれができる	15
体力がある、力が強い	5	友達と話すのが楽しい	6
今の自分が好き	4	今の自分が好き	4
スポーツ、職業に有利	3	性別を大切にしたい	4
出産等の苦勞がない	3	女性にしかできないことがある	3
何となく、理由なし	3	その他	7
頼られる	2		
その他	6		

【ちがうほうがよかったと思っている理由】

男性の意見	件数	女性の意見	件数
可愛いものが似合わない	1	陰口が多いなど、面倒くさい	4
告白されたい	1	男性の方が楽しそう	2
		その他	1

【どちらともいえない理由】

男性の意見	件数	女性の意見	件数
どちらでも楽しそう	3	どちらにも長所短所がある	9
女性の気持ちを理解してみたい気持ちがある	3	よくわからない	4
それぞれ大変なことがある	3	男性の方がよさそう	3
あまり変わらない	3	生理等が大変	2
その他	2	どちらでも楽しそう	2
		その他	1

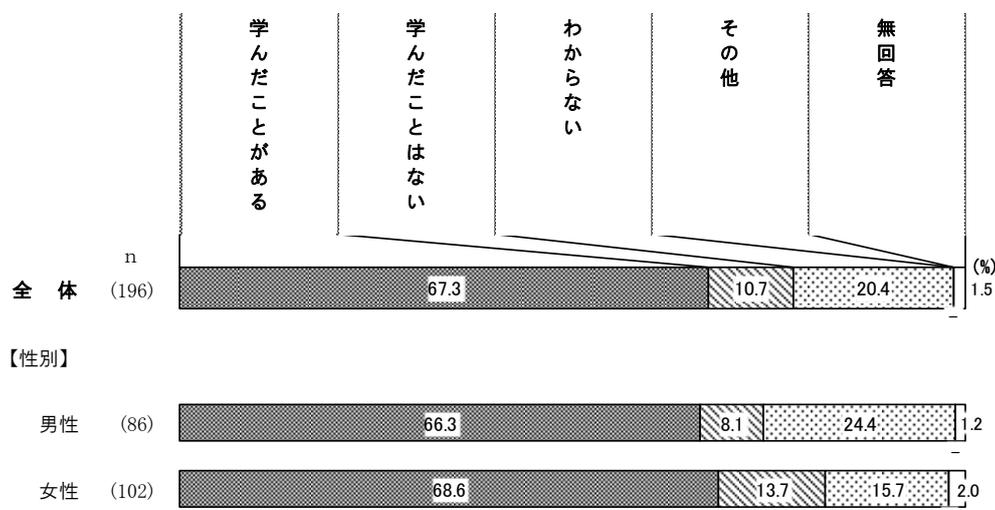
2. 男女平等

(1) 男女共同参画について学んだ経験の有無

問1 あなたは小・中学校で、これまでに「男女共同参画」（以下のような内容）について学んだことはありますか？あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。（○は1つ）

男女共同参画について学んだ経験の有無では、「学んだことがある」が67.3%、「学んだことはない」が10.7%となっている。

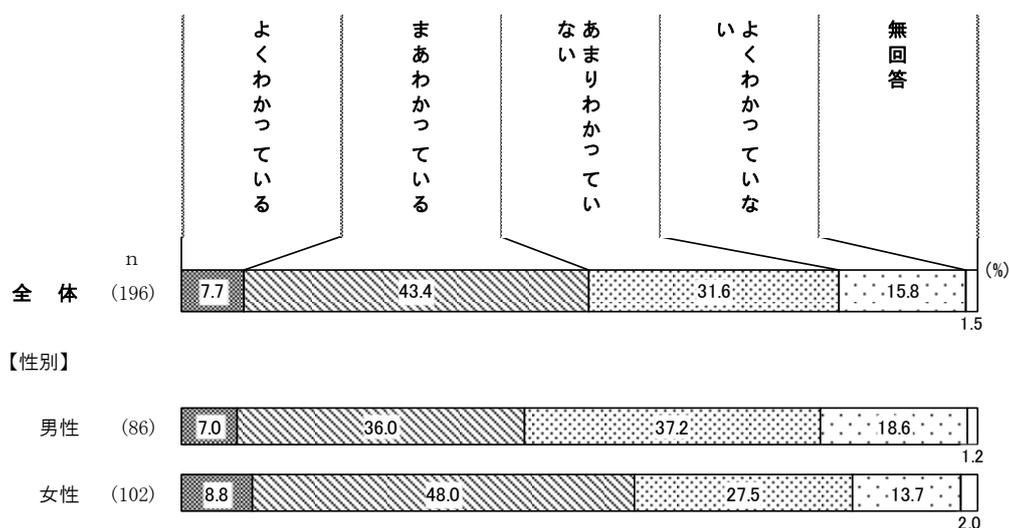
性別でみると、大きな差異はみられない。



(2) 男女共同参画についての理解度

問2 「男女共同参画」についてどの程度理解していますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。（○は1つ）

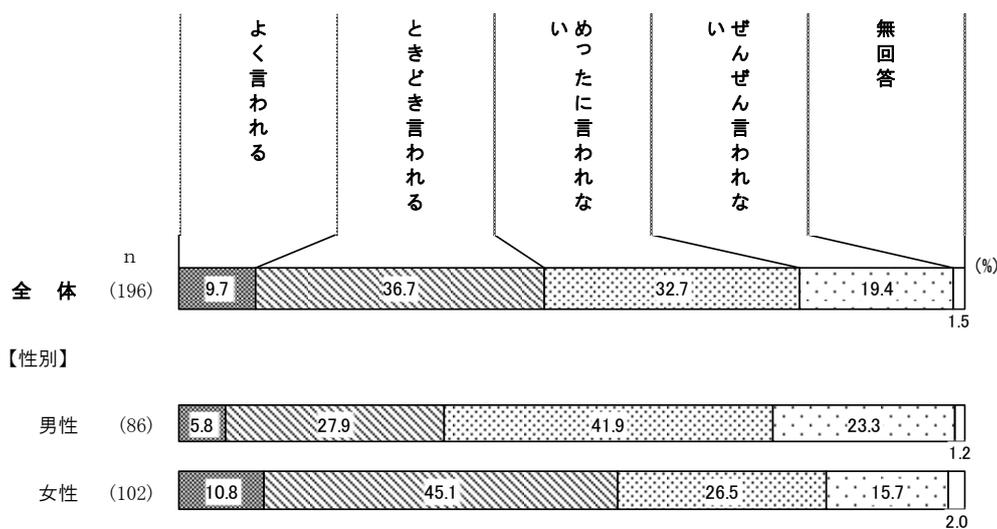
男女共同参画についての理解度では、「まあわかっている」が43.4%で最も多く、「よくわかっている」(7.7%)を合わせた《わかっている》は51.1%と半数を超えているものの、「よくわかっていない」(15.8%)と「あまりわかっていない」(31.6%)を合わせた《わかっていない》も47.4%と拮抗している。



(3) 「男だから」「女だから」と言われた経験

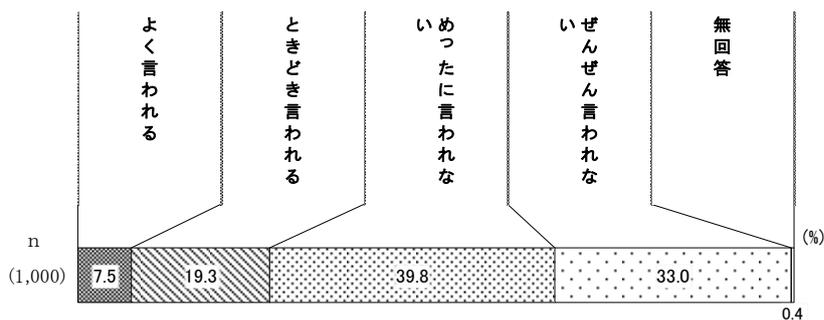
問3 あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」のように言われたことはありますか。あてはまる番号に1つだけ選んで○をつけてください。
(○は1つ)

「男だから」「女だから」と言われた経験では、「ときどき言われる」が36.7%で最も多いものの、「よく言われる」(9.7%)を合わせた《言われる》は46.4%で、「ぜんぜん言われな」(19.4%)と「めったに言われな」(32.7%)を合わせた《言われな》の52.3%を下回っている。



■ 県調査結果との比較（平成26年度・男女の役割分担意識に関するアンケート）

県の調査結果では、《言われる》は26.8%と、真岡市の方が19.6ポイント高くなっている。



(4) 具体的に言われる事柄

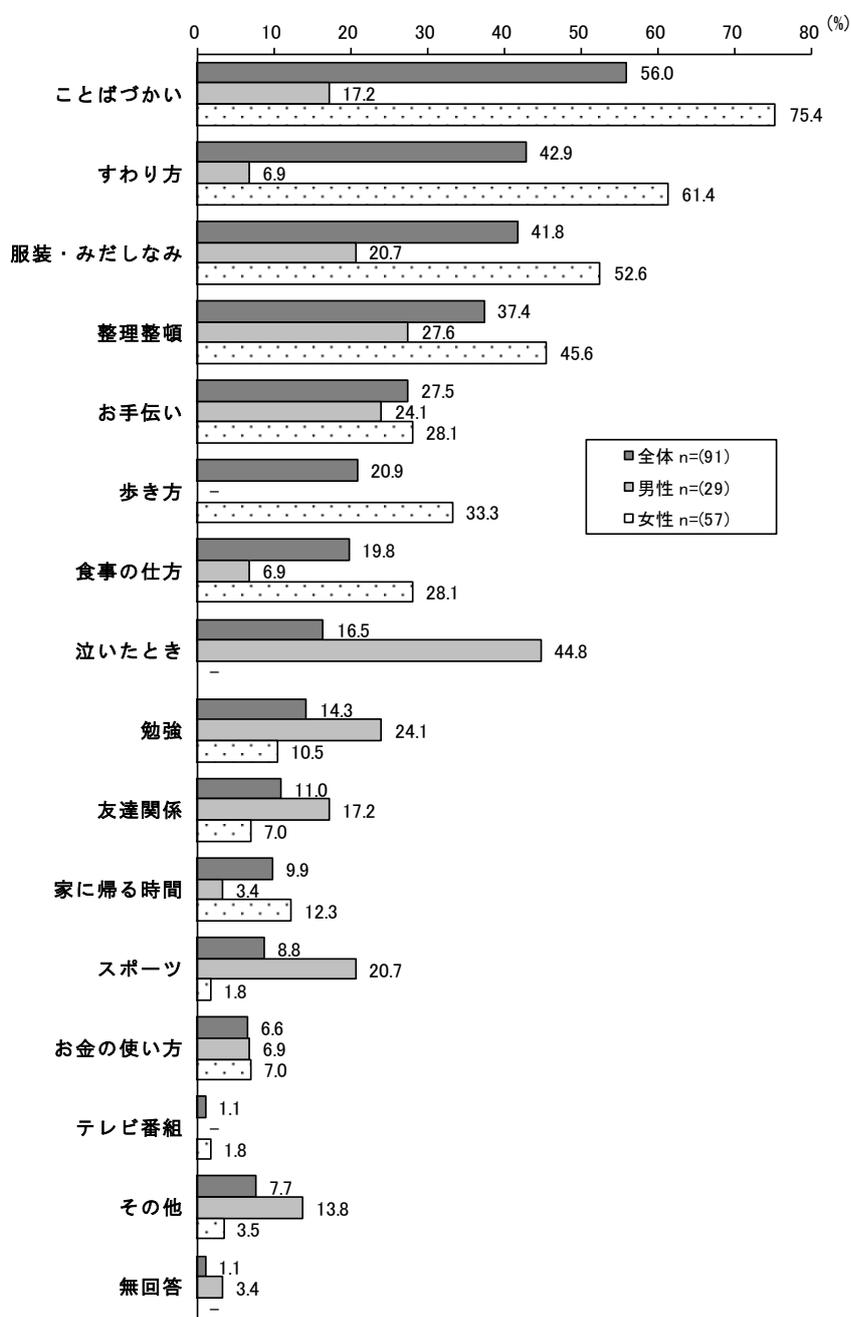
問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。

問4 どんなことについて言われましたか。あてはまる番号全部に○をつけてください。

(○はいくつでも)

具体的に言われる事柄では、「ことばづかい」が56.0%で最も多く、以下、「すわり方」(42.9%)、「服装・みだしなみ」(41.8%)、「整理整頓」(37.4%)となっている。

性別では、男性の回答が少ないため参考とするが、「ことばづかい」「すわり方」「服装・みだしなみ」で5割以上となっている。

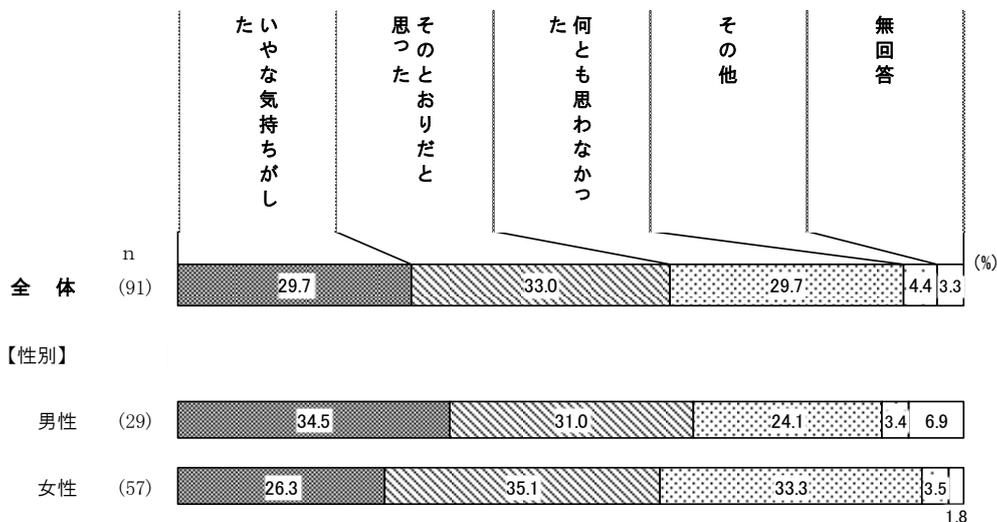


(5) 言われた時の気持ち

問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。
 問5 あなたはその時どんな気持ちになりましたか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

言われた時の気持ちでは、「そのとおりだと思った」が33.0%で最も多いものの、「いやな気持ちがあった」と「何とも思わなかった」もともに29.7%となっている。

性別では、男性の回答が少ないため参考とするが、大きな差異はみられない。

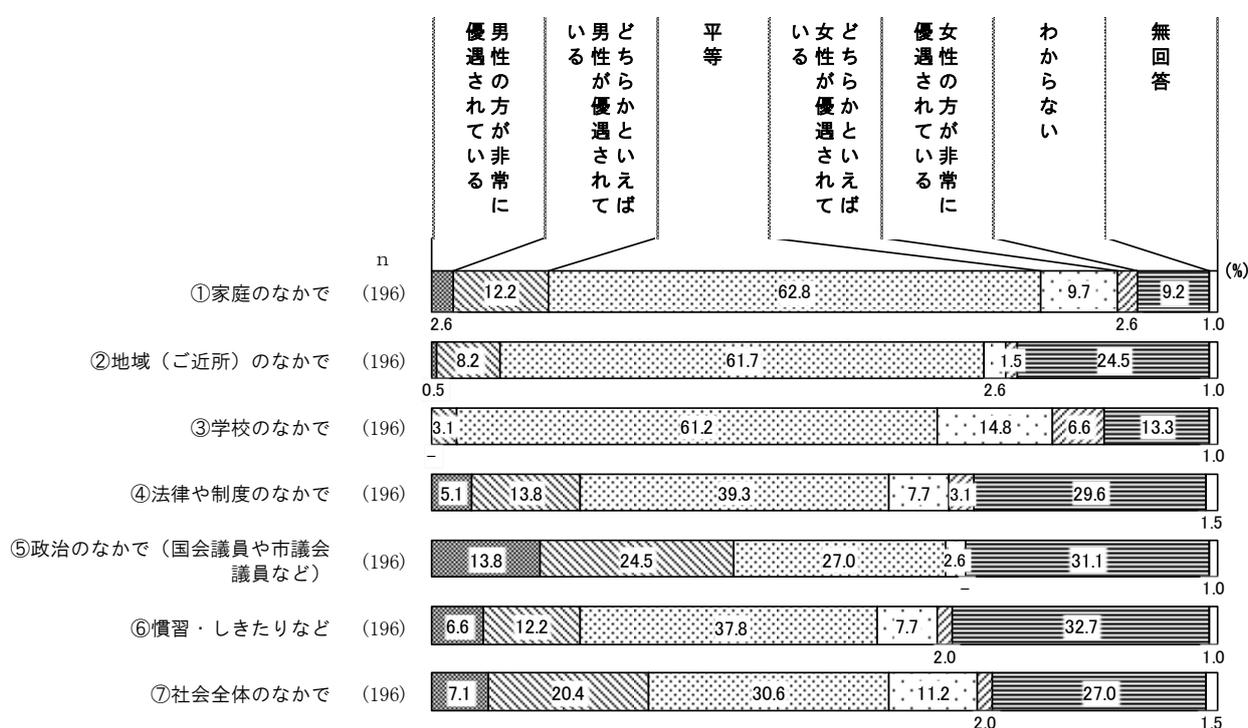


(6) 男女平等に対する考え

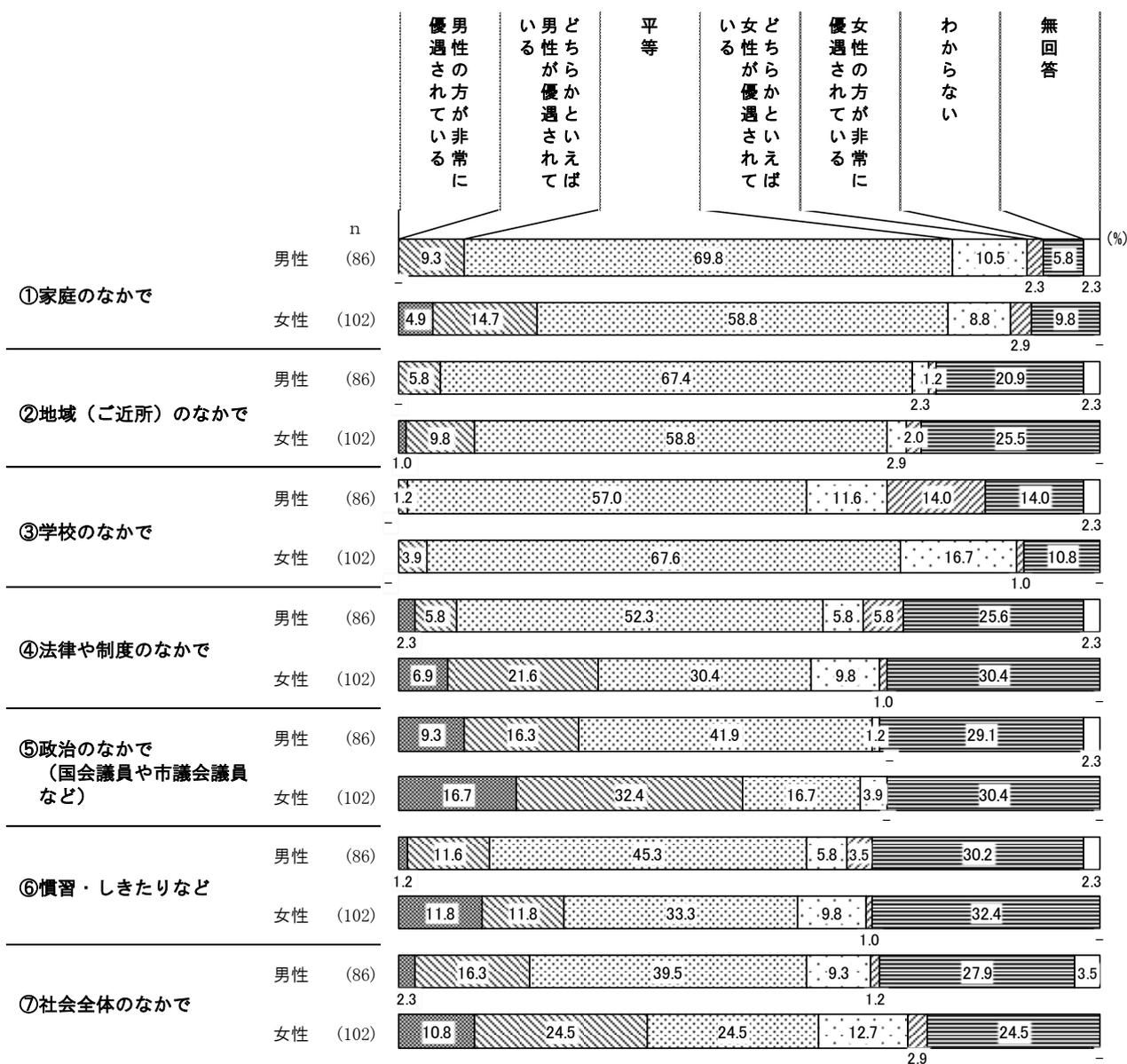
問6 次の①～⑦の場面で、男女の立場は平等になっていると思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(①～⑦ごとに○は1つ)

男女の平等感について分野別でみると、すべての分野で「平等」が最も多く、「家庭のなかで」「地域（ご近所）のなかで」「学校のなかで」は6割台となっている。一方、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は「政治のなかで（国会議員や市議会議員など）」で3割台後半と多く、唯一「平等」を上回っている。また、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた《女性優遇》は「学校のなかで」が2割を超えている。なお、「社会全体のなかで」は「平等」の30.6%に対し《男性優遇》が27.5%と拮抗している。

性別でみると、「平等」は「学校のなかで」を除いた項目で女性より男性が多く、なかでも「法律や制度のなかで」「政治のなかで（国会議員や市議会議員など）」では20ポイント以上の差がみられる。また、《男性優遇》はすべての項目で男性より女性が多く、「平等」で男性が多かった2項目は20ポイント以上、「社会全体のなかで」でも17.0ポイント高くなっている。一方、「男性の方が非常に優遇されている」では女性の「慣習・しきたりなど」で、「女性の方が非常に優遇されている」では男性の「学校のなかで」において、10ポイント以上の性差がみられる。



■性別



3. 学校生活

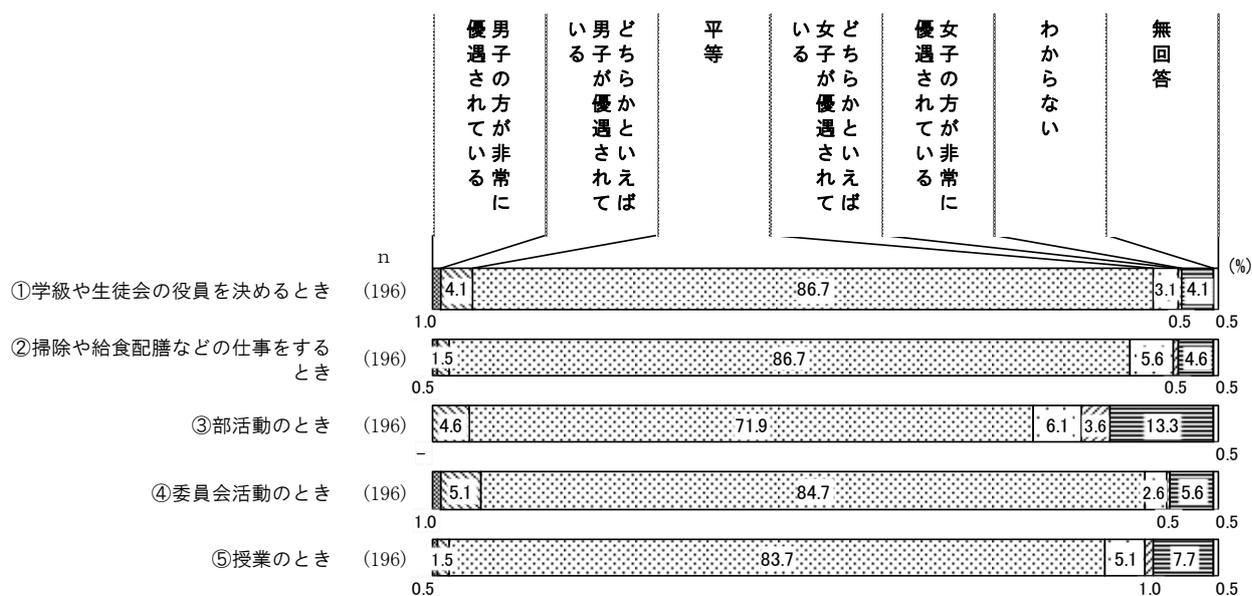
(1) 学校生活での男女平等に対する考え

問7 あなたは、次にあげるような学校生活の場面で、男女は平等になっていると思いますか。①～⑤について、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

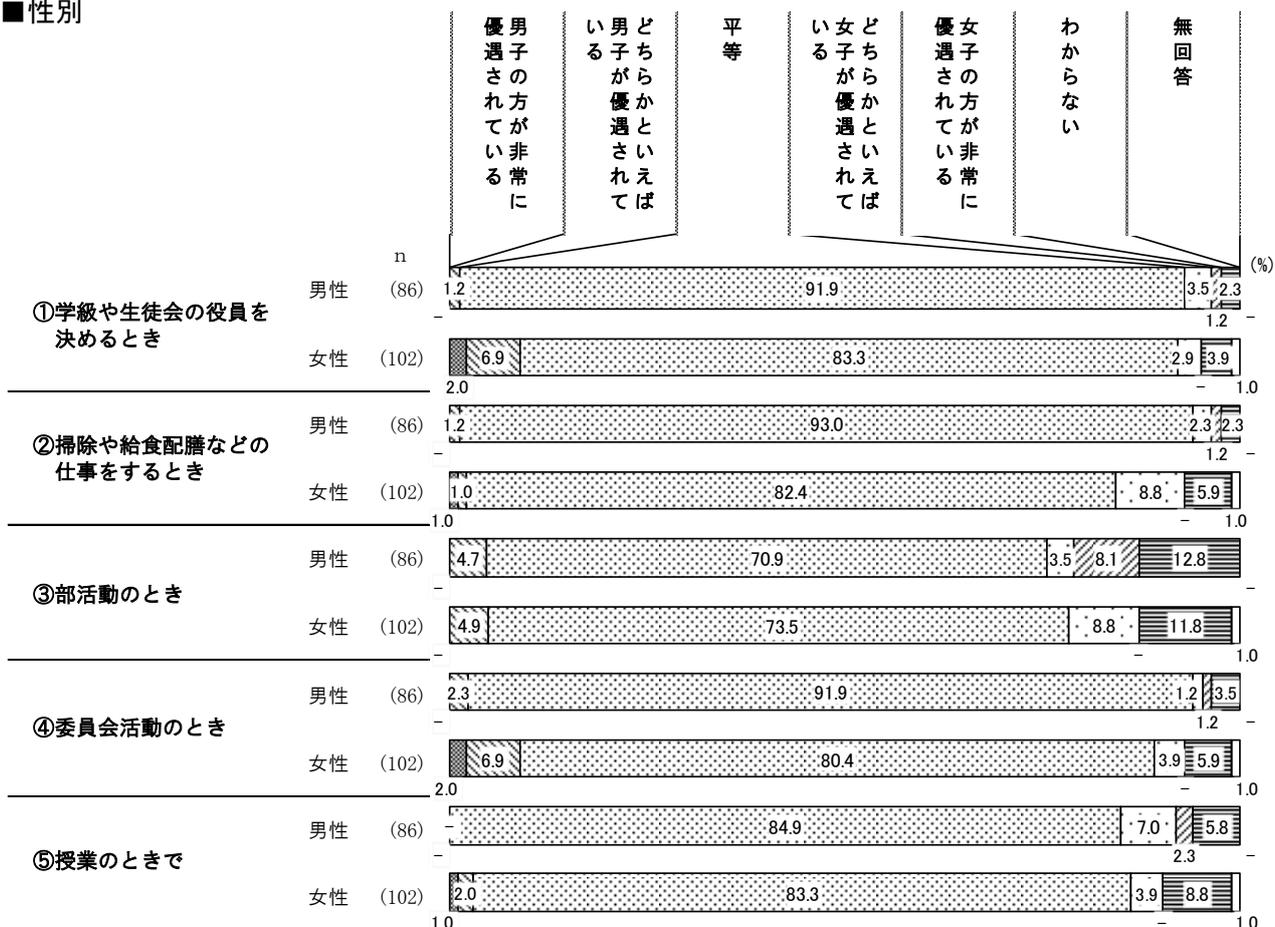
(①～⑤ごとに○は1つ)

学校生活での男女の平等感について分野別で見ると、すべての分野で「平等」が最も多く、「部活動のとき」以外は8割台を占めている。

性別で見ると、「平等」は“部活動のとき”を除いた項目で女性より男性が多く、なかでも“掃除や給食配膳などの仕事をするとき”“委員会活動のとき”では10ポイント以上の差がみられる。一方、「男性優遇」はすべての項目で男性より女性が多く、“学級や生徒会の役員を決めるとき”“委員会活動のとき”では、ともに8.9%を示している。また、男性の“部活動のとき”で「女性の方が非常に優遇されている」が8.1%と他より多くなっている。



■性別

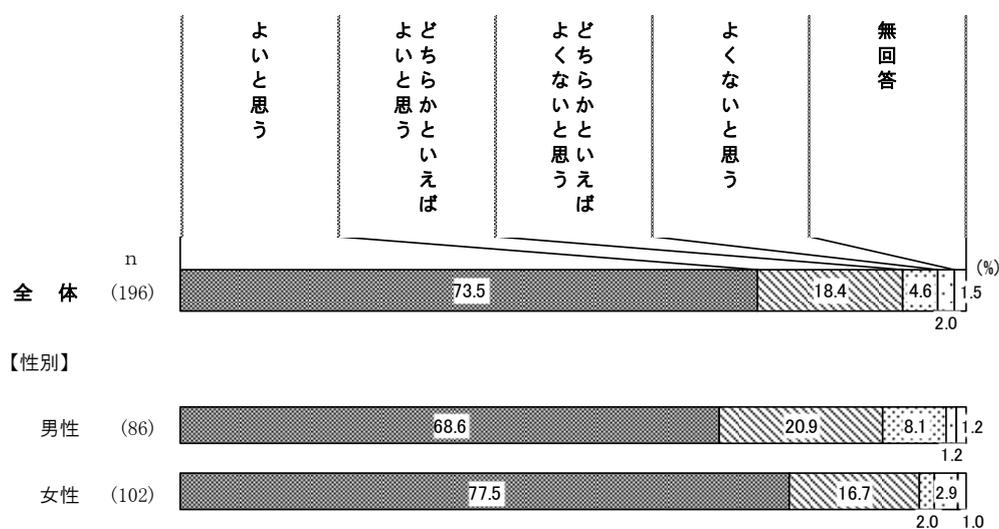


(2) 制服を自由に選択できることについての考え

問8 制服を自由に選択できること（スカートやスラックスを自由に選べるなど）について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。
 (○は1つ)

制服を自由に選択できることについての考えでは、「よいと思う」が73.5%で最も多く、「どちらかといえばよいと思う」(18.4%)と合わせた《よいと思う》は91.9%を占めている。

性別でみると、女性で「よいと思う」が男性より多くなっている。



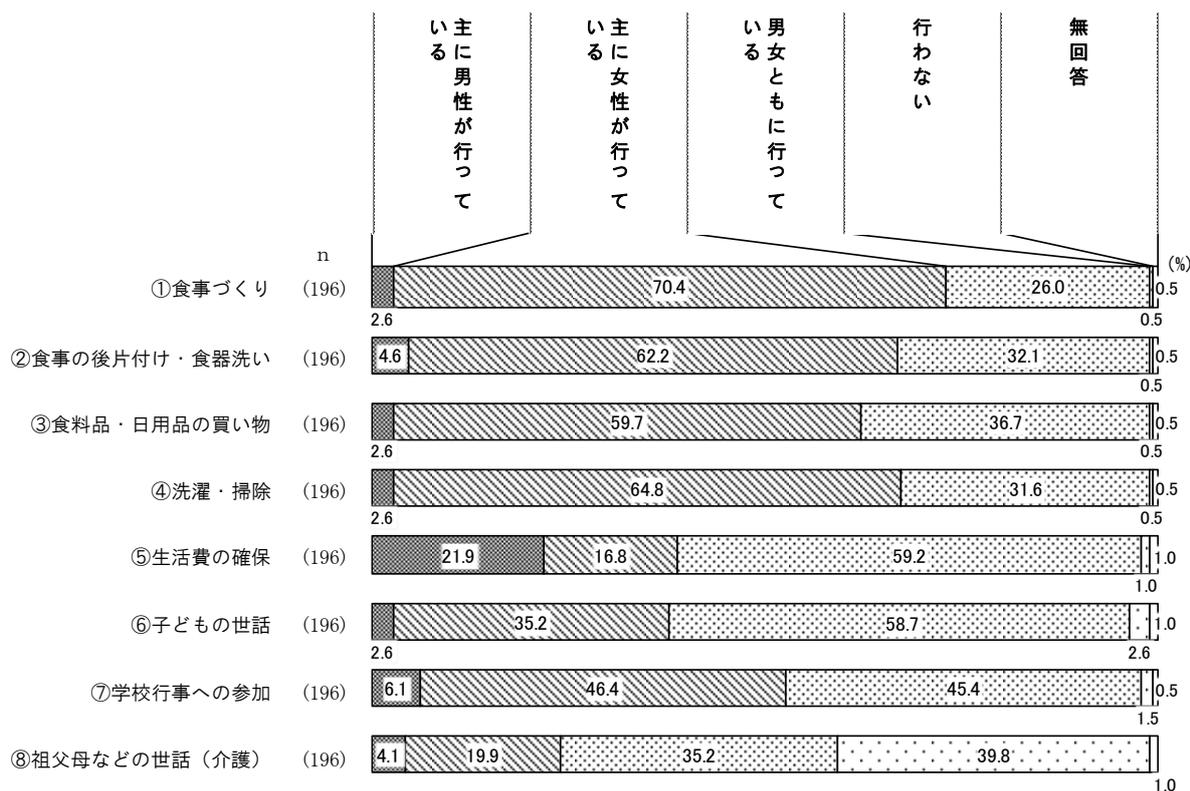
4. 家庭

(1) 家庭での男女の仕事の役割

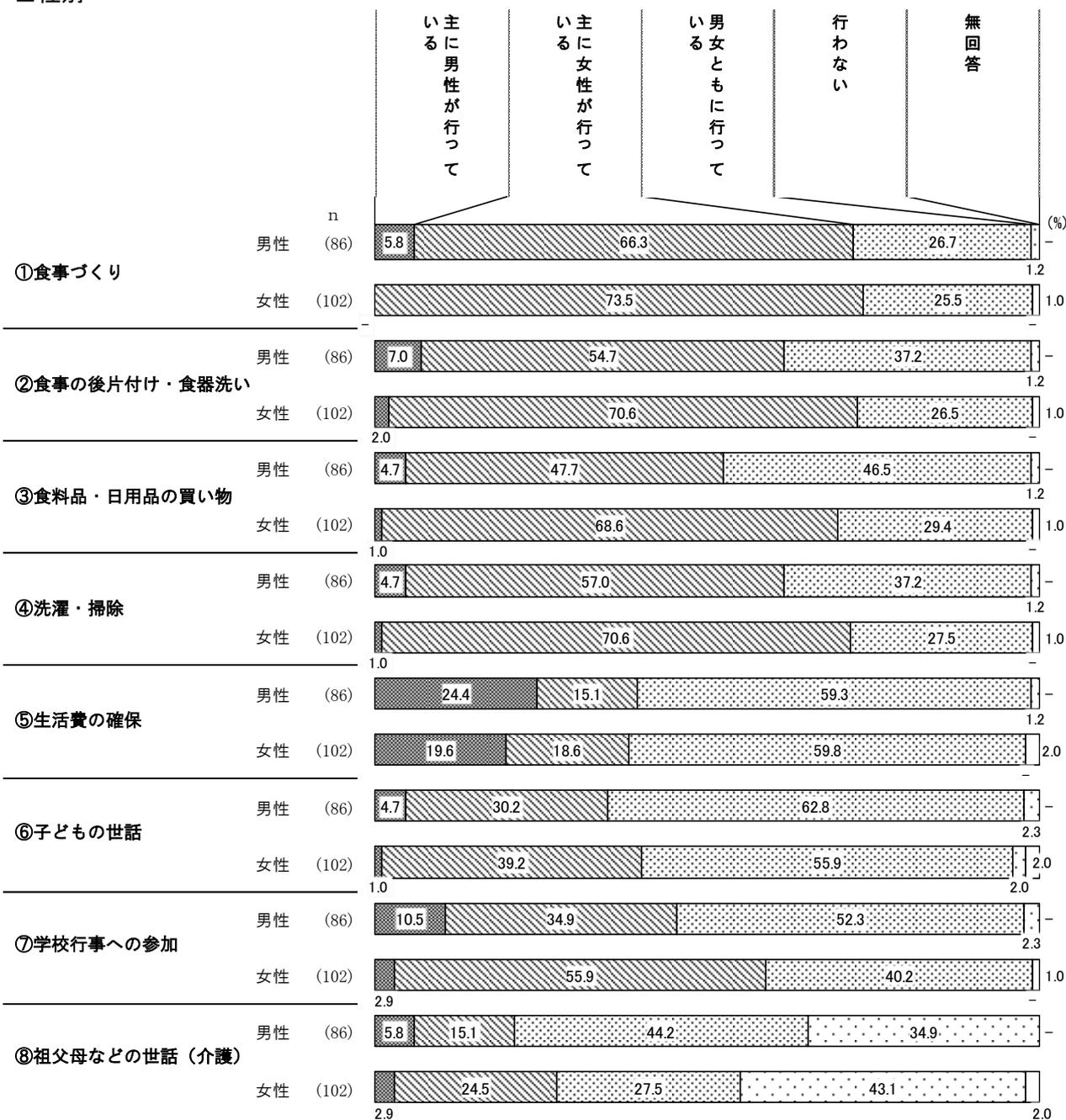
問9 あなたの家庭では、次の①～⑧の仕事は男性・女性どちらが行っていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つだけ選んで○をつけてください。(①～⑧ごとに○は1つ)

家庭での仕事の役割をみると、「男女ともに行っている」では“生活費確保”“子どもの世話”が、「主に女性が行っている」では“食事”“食事の後片付け”“買い物”“洗濯・掃除”“介護”が、“学校行事参加”では「男女とも」「主に女性」で二分という結果となっている。なお“生活費確保”では「主に男性が行っている」が2割台と、他の項目より多くなっている。

性別でみると、「主に女性が行っている」は、すべての項目で男性より女性で多く、なかでも“買い物”“学校行事参加”で20ポイント以上の差がみられる。一方、「男女ともに行っている」では、“生活費確保”を除き、女性より男性で多く、“食事の後片付け”“買い物”“学校行事参加”“介護”で10ポイント以上の差がみられる。



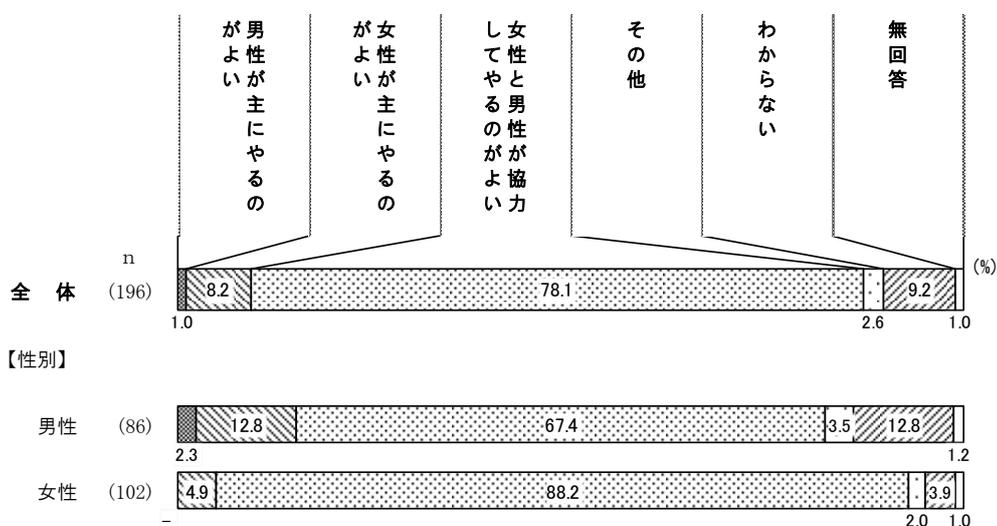
■性別



(2) 男女の家事分担についての考え

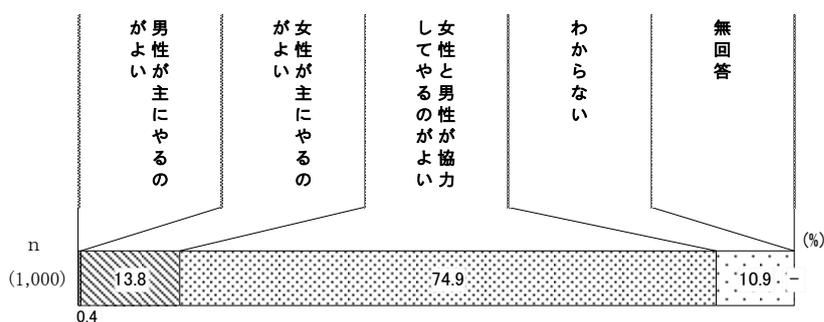
問10 あなたは家の中で、家事（料理・掃除・洗濯・子育てなど）は、誰がするのが一番よいと思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。（○は1つ）

男女の家事分担についての考えでは、「女性と男性が協力してやるのがよい」が78.1%を占めている。一方、「女性が主にやるのがよい」は8.2%、「男性が主にやるのがよい」は1.0%となっている。性別でみると、「女性と男性が協力してやるのがよい」は女性の88.2%に対し男性が67.4%と、20.8ポイントの差となっている。



■ 県調査結果との比較（平成26年度・男女の役割分担意識に関するアンケート）

県の調査結果では、「女性が主にやるのがよい」が13.8%と、真岡市の方が低くなっている。



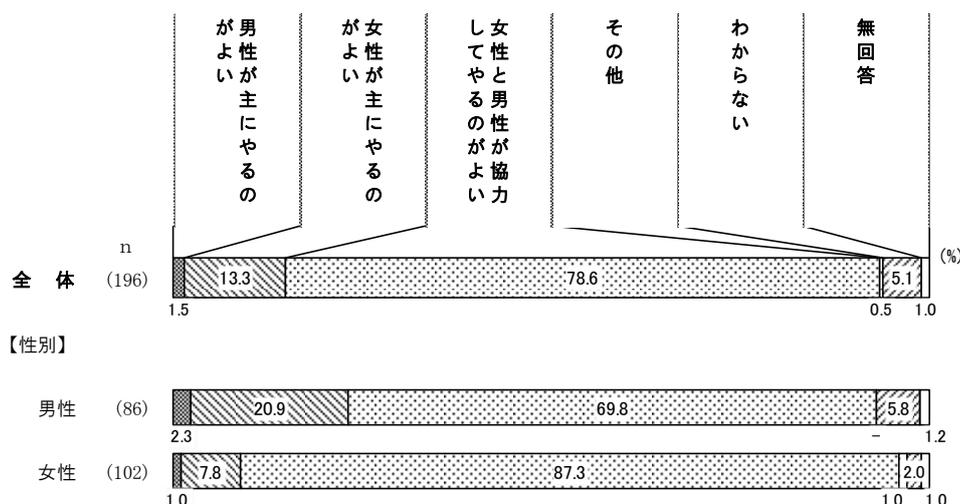
※選択肢「その他」は、県の調査には設定されていない。

(3) 男女の子育ての分担についての考え

問11 あなたは、子どもが小さい時の子育ては、誰がするのが一番よいと思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

男女の子育ての分担についての考えでは、「女性と男性が協力してやるのがよい」が78.6%を占めている。一方、「女性が主にやるのがよい」は13.3%、「男性が主にやるのがよい」は1.5%となっている。

性別でみると、「女性と男性が協力してやるのがよい」は女性の87.3%に対し男性が69.8%と、17.5ポイント差となっている。また、男性では「女性が主にやるのがよい」が2割を超え、多くなっている。

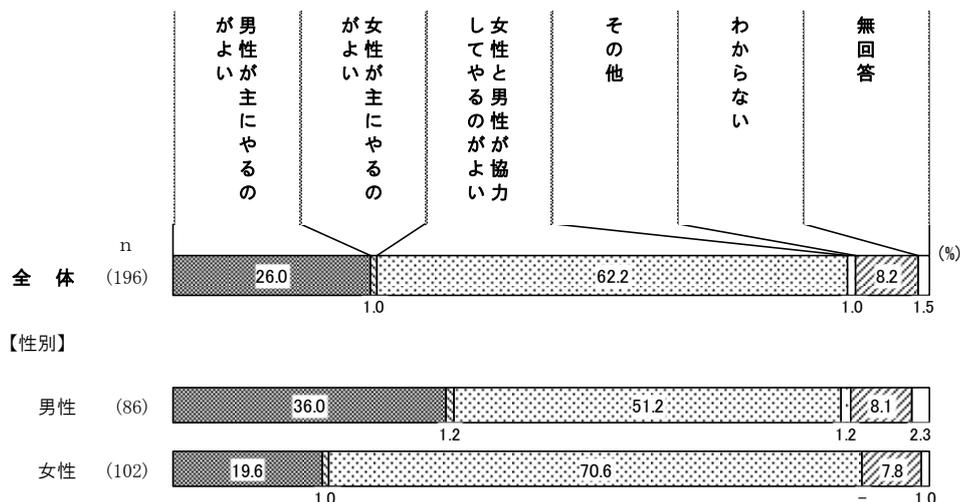


(4) 生活費を稼ぐ人についての考え

問12 あなたは、生活費をかせぐ仕事を、誰がするのが一番よいと思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

生活費を稼ぐ人についての考えでは、「女性と男性が協力してやるのがよい」が62.2%で最も多く、「男性が主にやるのがよい」が26.0%、「女性が主にやるのがよい」は1.0%となっている。

性別でみると、「女性と男性が協力してやるのがよい」は女性の70.6%に対し男性が51.2%と、19.4ポイント差となっている。また、男性では「男性が主にやるのがよい」が3割台半ばと、女性より多くなっている。

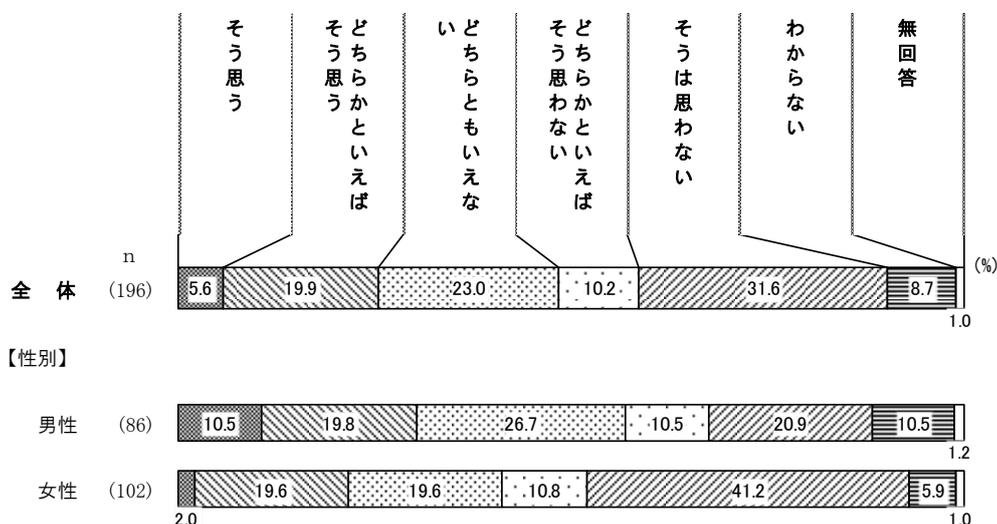


(5) 「男は仕事・女は家庭」という考え方

問13 「男は仕事・女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

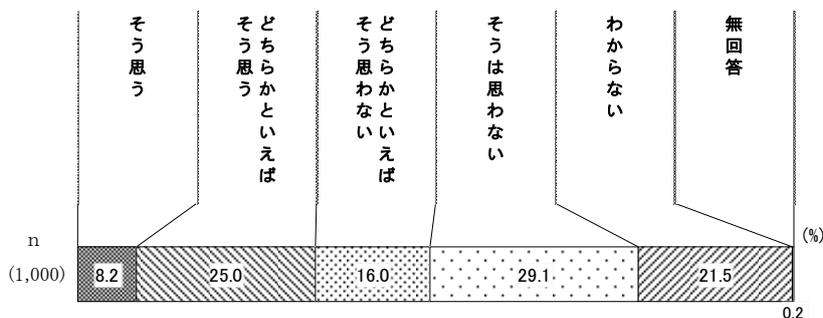
「男は仕事・女は家庭」という考え方では、「そうは思わない」が31.6%で最も多く、「どちらかといえばそう思わない」(10.2%)を合わせた《そう思わない》は41.8%となっている。一方、「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(19.9%)を合わせた《そう思う》は25.5%、「どちらともいえない」は23.0%となっている。

性別でみると、女性で《そう思わない》が52.0%と男性(31.4%)より20.6ポイント高く、これは「そうは思わない」という、より強い回答(男性20.9%、女性41.2%)の差が、そのまま表れていることがわかる。



■県調査結果との比較(平成26年度・男女の役割分担意識に関するアンケート)

県の調査では、選択肢「どちらともいえない」(真岡市で23.0%)を設けておらず参考までも、自ずと真岡市の結果よりも各選択肢で多くなるなか、「そうは思わない」のみ減らしており、県より真岡市で「そうは思わない」という意見がより強く出ていると言える。



※選択肢「どたらともいえない」は、県の調査には設定されていない。

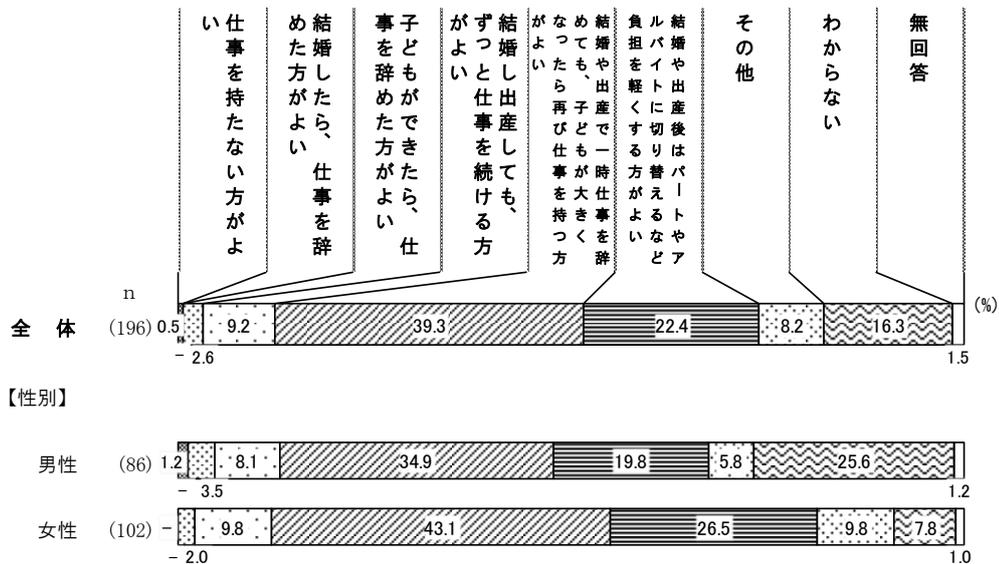
5. 女性と仕事

(1) 女性が仕事を持つことについての考え

問14 あなたは一般的に女性が仕事を持つことについて、どのように考えますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

女性が仕事を持つことについての考えでは、「結婚や出産で一時仕事を辞めても、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が39.3%で最も多く、以下、「結婚や出産後はパートやアルバイトに切り替えるなど負担を軽くする方がよい」(22.4%)、「結婚し出産しても、ずっと仕事を続ける方がよい」(9.2%)となっている。

性別でみると、女性で「結婚や出産で一時仕事を辞めても、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が4割台半ば、「結婚や出産後はパートやアルバイトに切り替えるなど負担を軽くする方がよい」が2割台半ばと、ともに男性より多くなっている。

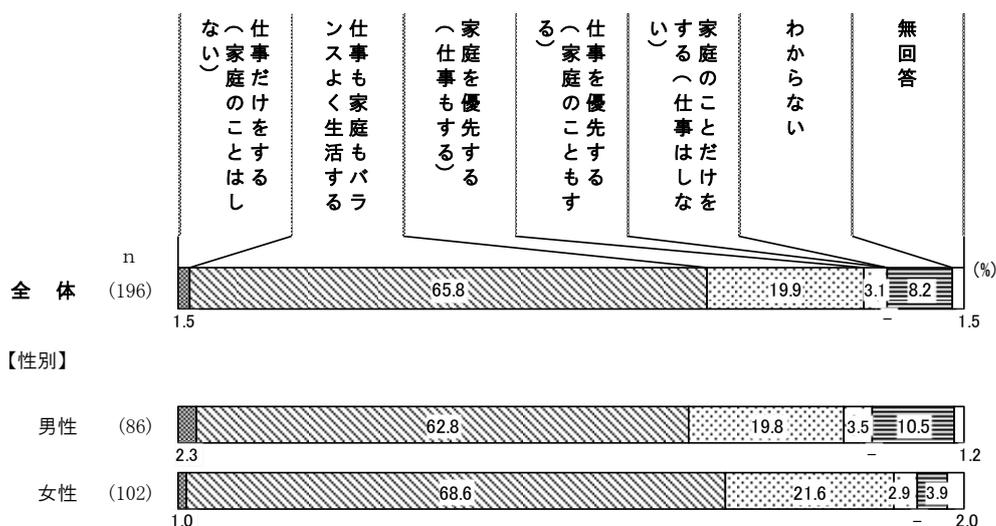


(2) 仕事と家庭の両立についての考え

問15 これからの仕事と家庭（子育てや家事など）について、あなたはどれがよいと思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。（○は1つ）

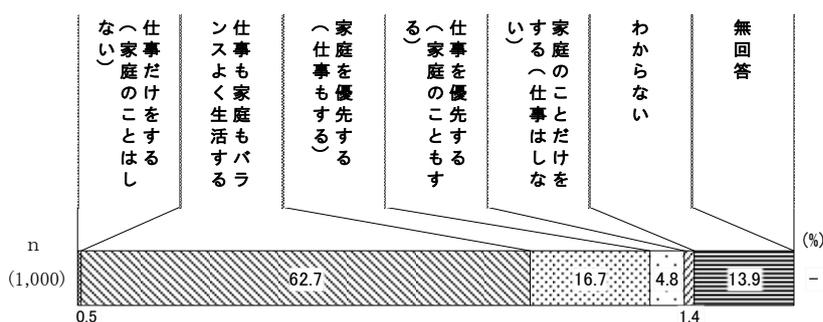
仕事と家庭の両立についての考えでは、「仕事も家庭もバランスよく生活する」が65.8%で最も多く、次いで「家庭を優先する（仕事もする）」（19.9%）となっている。

性別でみると、女性で「仕事も家庭もバランスよく生活する」が7割弱で、男性より多くなっている。



■県調査結果との比較（平成26年度・男女の役割分担意識に関するアンケート）

県調査の結果と比較しても、大きな差異はみられない。



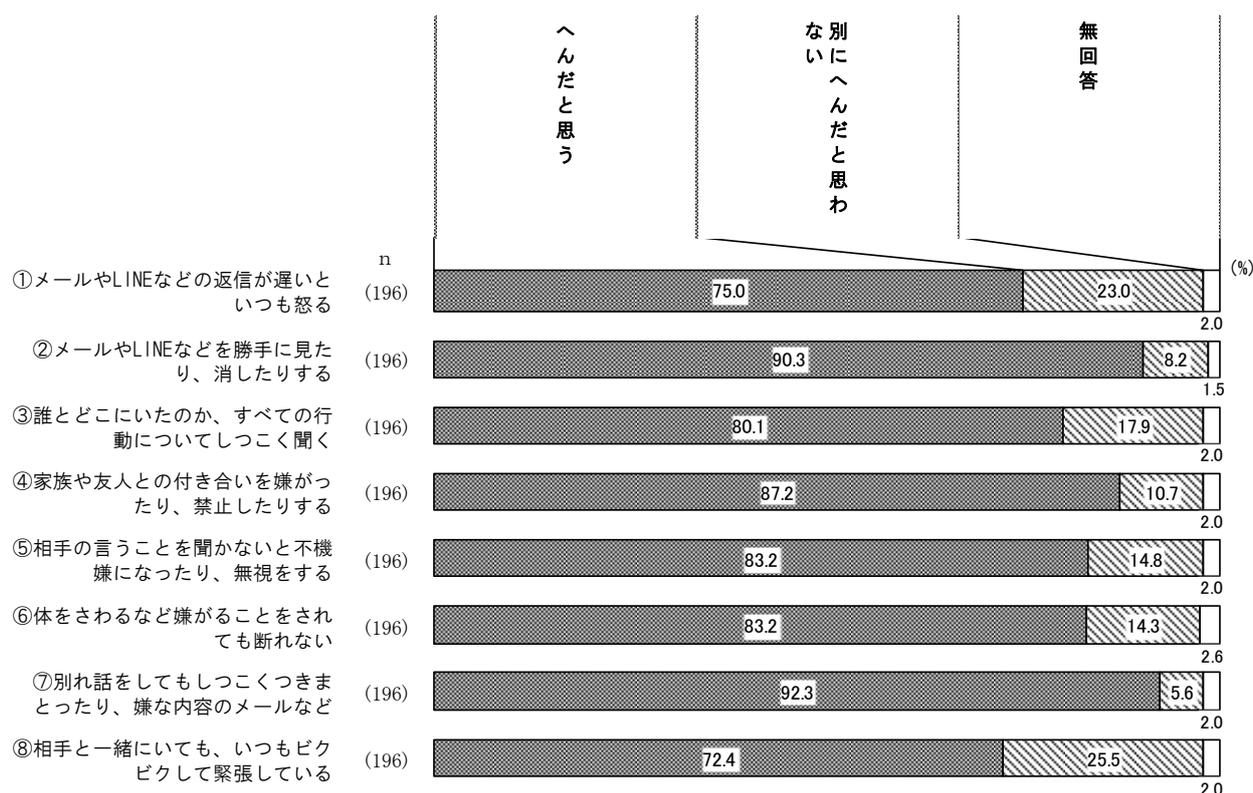
6. 恋人との関係

(1) 恋人同士の交際についての考え

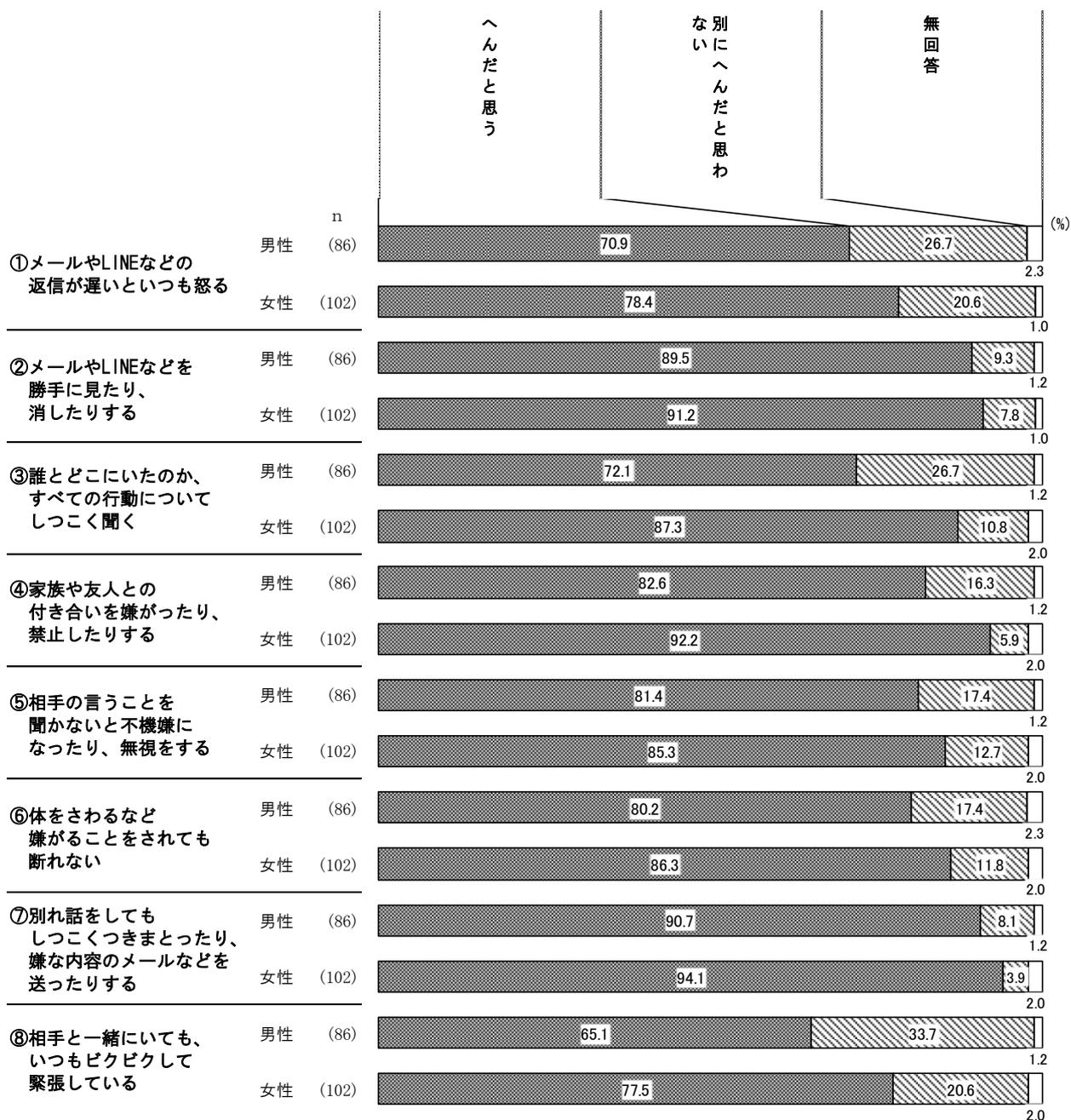
問16 恋人同士の交際について、次の①～⑧のような関係をどう思いますか。あてはまる番号をそれぞれ1つだけ選んで○をつけてください。(①～⑧ごとに○は1つ)

恋人同士の交際についての考えについては、全8項目で「へんだと思う」が多く7割以上を占めており、なかでも“別れ話をしてもしつこくつきまったり、嫌な内容のメールなどを送ったりする”が92.3%と最も多く、以下“メールやLINEなどを勝手に見たり、消したりする”(90.3%)、“家族や友人との付き合いを嫌がったり、禁止したりする”(87.2%)となっている。

恋人同士の交際についての考えについては、全8項目で男性より女性が多く、なかでも“誰とどこにいたのか、すべての行動についてしつこく聞く”が女性87.3%に対し男性72.1%、“相手と一緒にいても、いつもビクビクして緊張している”が女性77.5%に対し男性65.1%で、それぞれ15.2ポイント、12.4ポイントの差ができています。



■性別

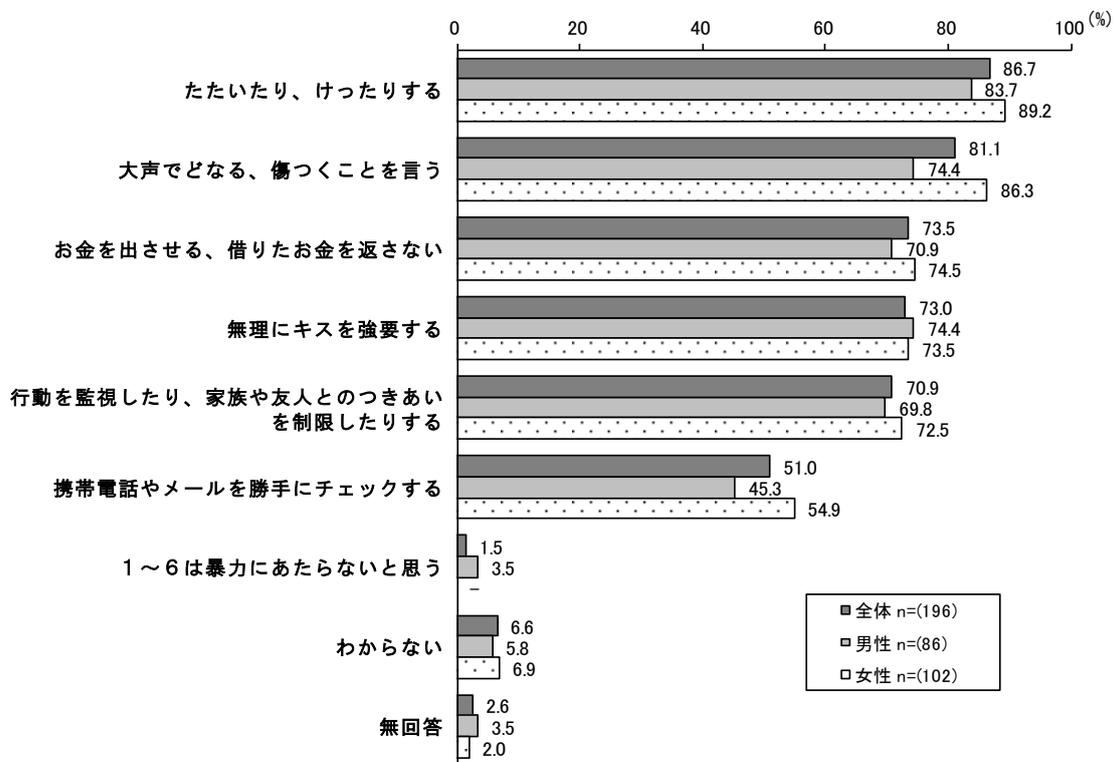


(2) 交際相手との間で暴力行為だと思うこと

問17 デートDV（交際相手との間での暴力）という言葉がありますが、あなたが交際するとしたら、交際相手との間で、次のような行為は暴力にあたると思いますか。あてはまる番号全部に○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）

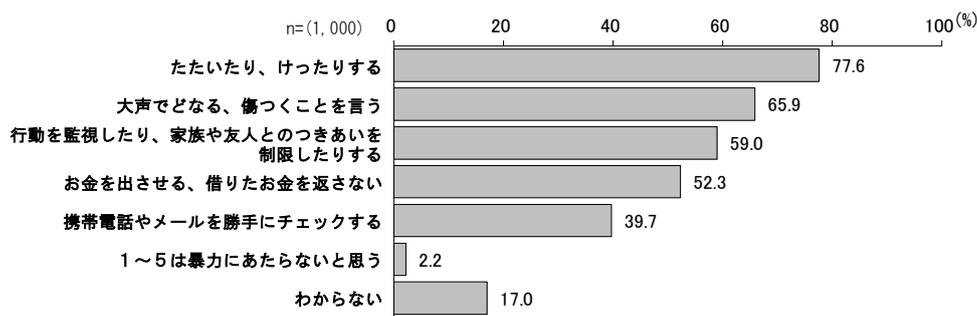
交際相手との間で暴力行為だと思うことでは、「たたいたり、けったりする」が86.7%で最も多く、以下、「大声でどなる、傷つくことを言う」（81.1%）、「お金を出させる、借りたお金を返さない」（73.5%）、「無理にキスを強要する」（73.0%）、「行動を監視したり、家族や友人とのつきあいを制限したりする」（70.9%）となっている。

性別でみると、6項目中5項目で男性より女性の方が多く、なかでも「大声でどなる、傷つくことを言う」は女性で86.3%と男性（74.4%）より11.9ポイント高くなっている。



■ 県調査結果との比較（平成26年度・男女の役割分担意識に関するアンケート）

すべての項目で、県より真岡市で多くなっていることがわかる。



※選択肢「無理にキスを強要する」は、県の調査には設定されていない。

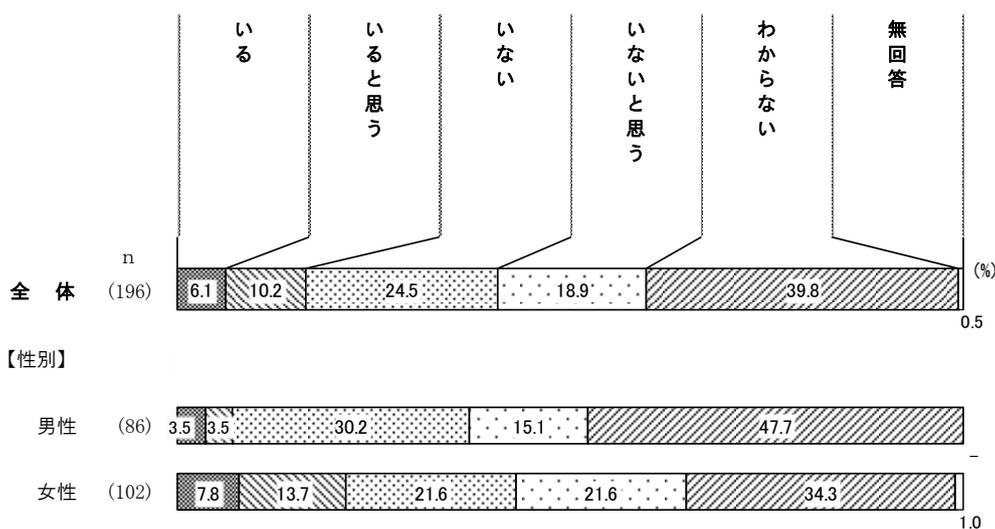
7. 性の多様性

(1) 身近なLGBTQ等の存在の有無

問18 あなたの身近な人（友人、親戚や家族、近所の知人）にLGBTQ等の人はいますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。（○は1つ）

身近なLGBTQ等の存在の有無では、「わからない」が39.8%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「いない」(24.5%)が最も多く、以下、「いないと思う」(18.9%)、「いると思う」(10.2%)、「いる」(6.1%)となっている。

性別でみると、男性では「わからない」「いない」で女性より多くなっている。

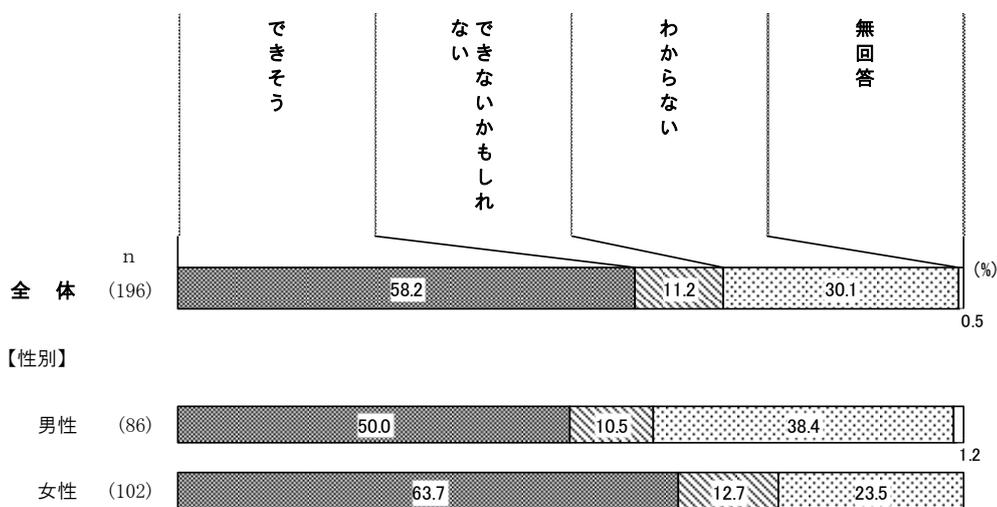


(2) 身近な人からLGBTQ等と打ち明けられた場合の接し方について

問19 あなたの身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

身近な人からLGBTQ等と打ち明けられた場合の接し方については、「できそう」が58.2%、「できないかもしれない」が11.2%となり、「わからない」は30.1%となっている。

性別で見ると、女性では「できそう」が6割台半ばと男性より多く、一方、男性では「わからない」が3割台後半となっている。

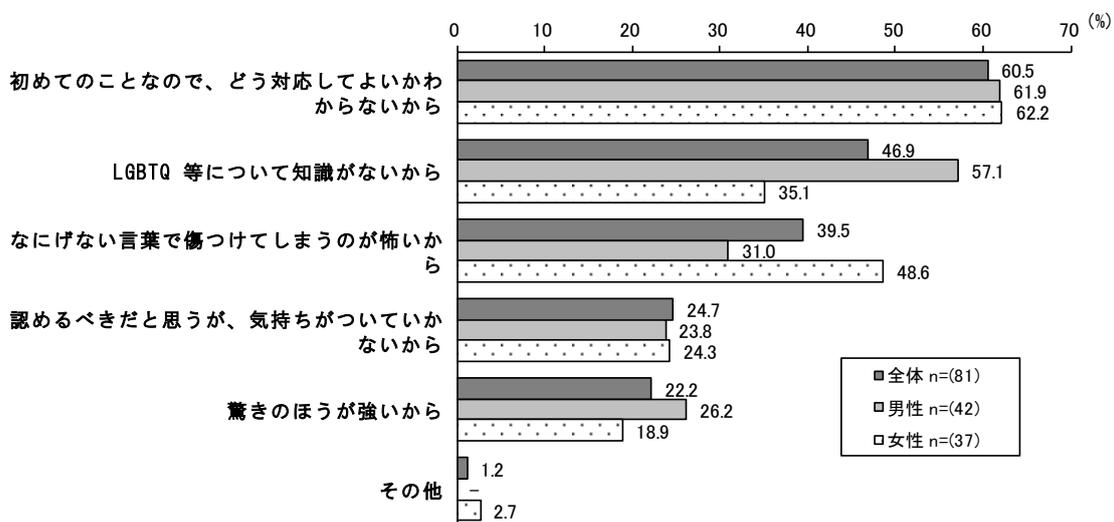


(3) できないかもしれない、わからないと思う理由

問19で「2」もしくは「3」と答えた方に聞きます。
 問20 できないかもしれない、わからないと思う理由は何ですか。あてはまる番号全部に○をつけてください。(あてはまるものすべて○)

できないかもしれない、わからないと思う理由では、「初めてのことなので、どう対応してよいかわからないから」が60.5%で最も多く、以下、「LGBTQ等について知識がないから」(46.9%)、「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖いから」(39.5%)となっている。

性別でみると、男性では「LGBTQ等について知識がないから」が5割台半ばで女性より、女性では「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖いから」5割弱で男性より多くなっている。

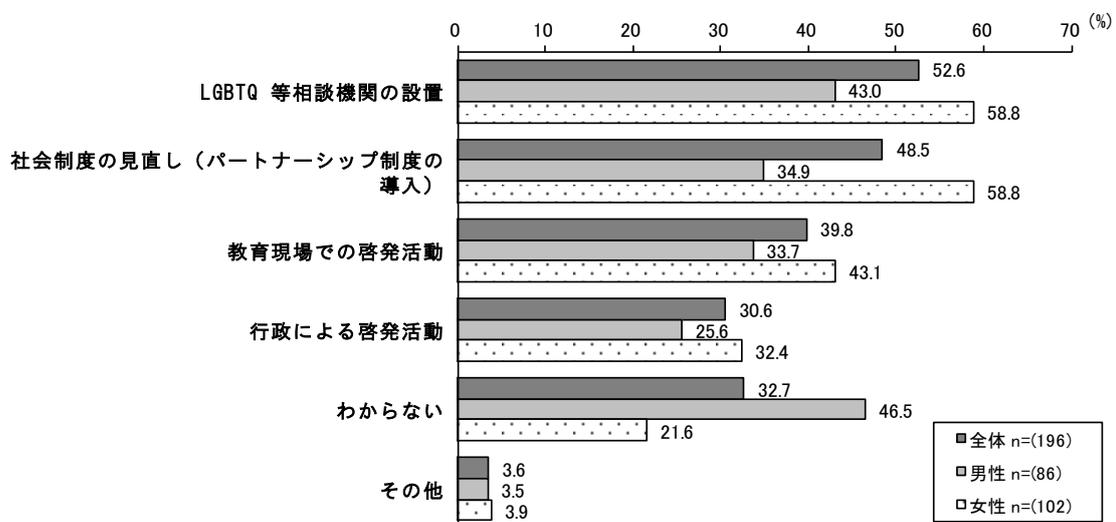


(4) LGBTQ等の方が暮らしやすい社会のために必要と思う取組

問21 LGBTQ等の方が暮らしやすい社会のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。
 あてはまる番号全部に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

LGBTQ等の方が暮らしやすい社会のために必要と思う取組では、「LGBTQ等相談機関の設置」が52.6%で最も多く、以下、「社会制度の見直し（パートナーシップ制度の導入）」(48.5%)、「教育現場での啓発活動」(39.8%)、「行政による啓発活動」(30.6%)となっている。

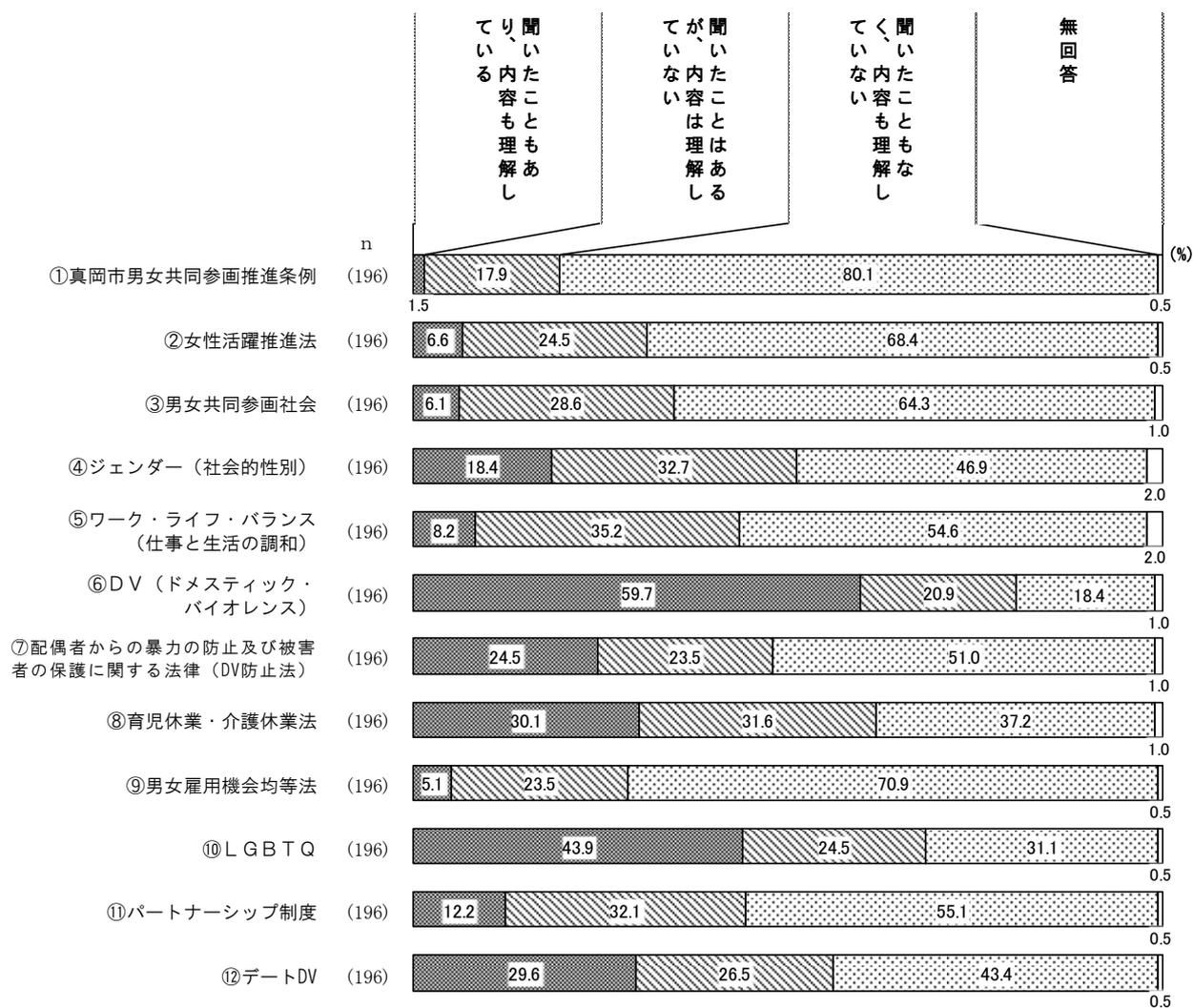
性別でみると、全4項目で男性より女性の方が多く、なかでも「LGBTQ等相談機関の設置」と「社会制度の見直し（パートナーシップ制度の導入）」はともに6割弱となっている。



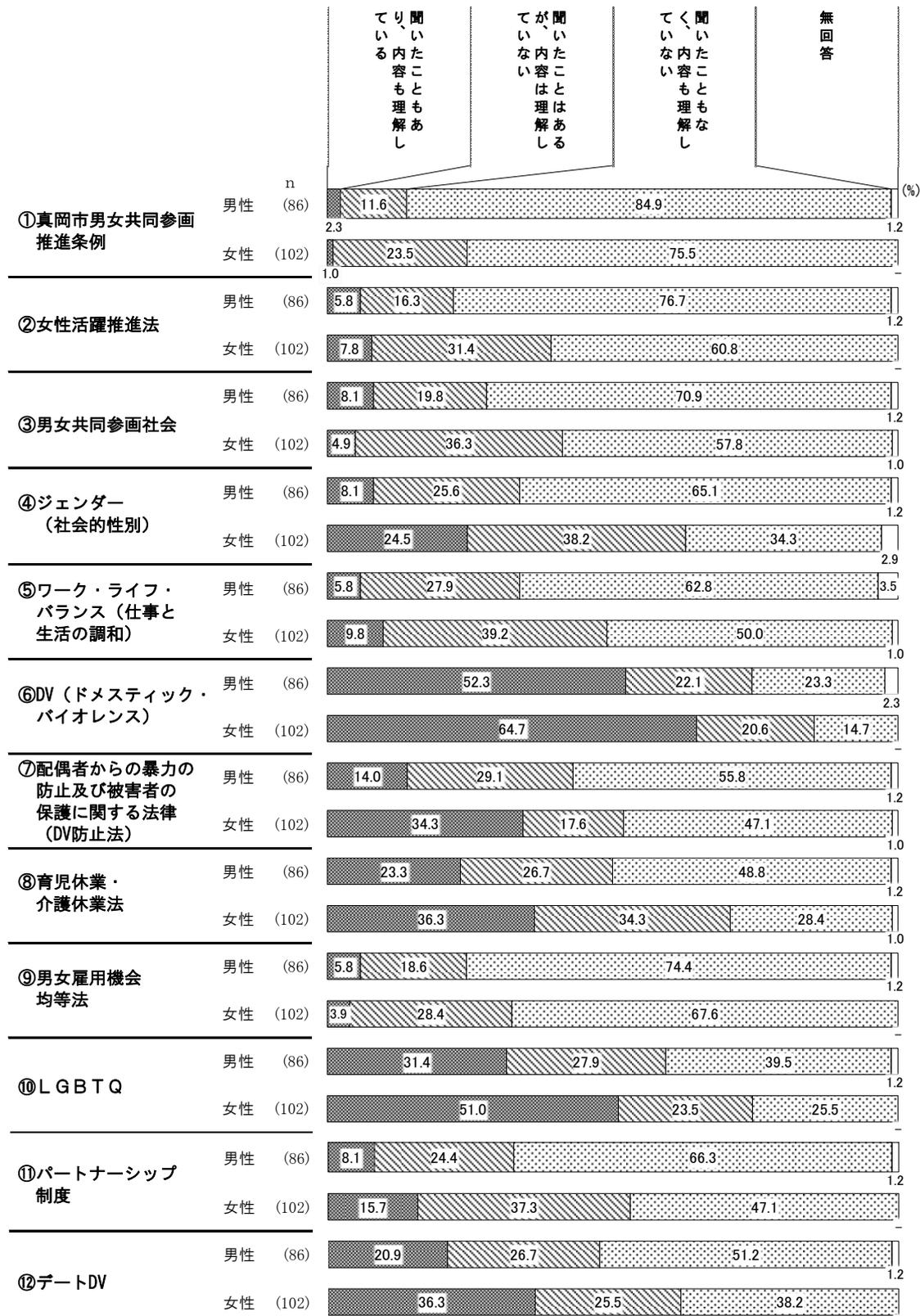
(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度・理解度

問22 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉を聞いたことはありますか。また、内容について理解していますか。あてはまる番号をそれぞれ1つだけ選んで○をつけてください。(①～⑫ごとに○は1つ)

男女共同参画に関する言葉の認知・理解については、「聞いたこともあり、内容も理解している」は“DV（ドメスティック・バイオレンス）”が59.7%で最も多く、“LGBTQ”も43.9%となっている。一方、「聞いたこともなく、内容も理解していない」は“真岡市男女共同参画推進条例”が8割、“男女雇用機会均等法”が7割、“女性活躍推進法”“男女共同参画社会”で6割台となっている。



性別でみると、「聞いたこともあり、内容も理解している」と「聞いたことはあるが、内容は理解していない」を合わせた《聞いたことがある》では、すべての項目で女性の方が多くなっている。なかでも、“ジェンダー（社会的性別）”“育児休業・介護休業法”では20ポイント以上の差がみられる。



8. 「男女共同参画社会」の実現に向けて（自由記述）

男子・女子といった性別に関係なく、一人ひとりの個性や能力を活かして、いろいろなことをみんなで協力しあっていく「男女共同参画社会」を実現するためにはどうしたらよいと思いますか？あなたの意見を自由にご記入ください。

96名の方から延べ106件のご意見をいただいた。主な意見は以下のとおりとなっている。

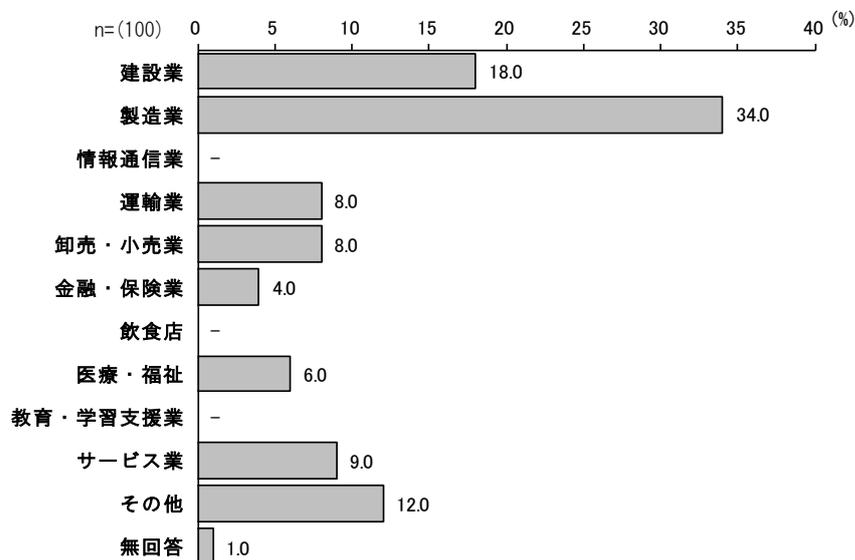
意見	件数
差別をなくす	36
違いや個性を認める、理解する	24
個々人で意識する	13
古い考えの人を説得、理解してもらう	8
話し合う、話を聞く	6
教育の場で扱う	4
政治、社会を変える	3
その他	7
分からない	3

第4章 調査結果の詳細／事業所調査

1. 基本属性

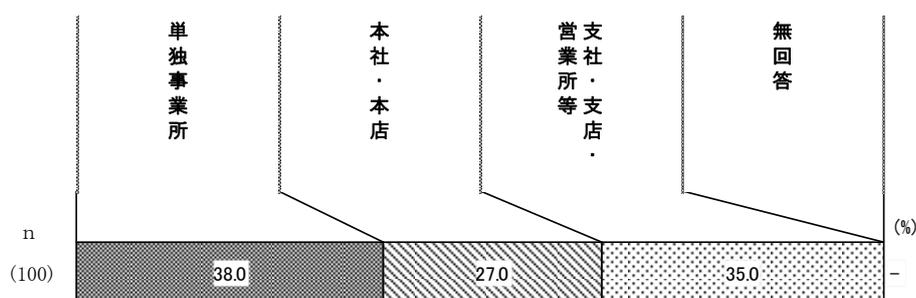
(1) 業種

業種では、「製造業」が34.0%で最も多く、次いで「建設業」が18.0%となっている。



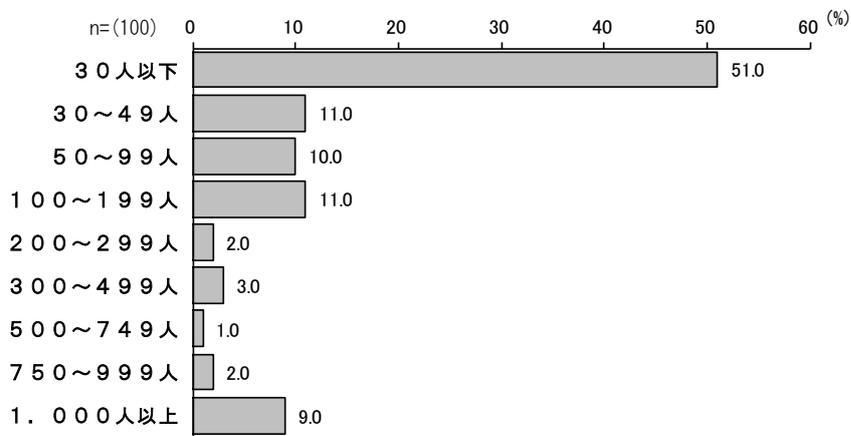
(2) 事業所の区分

事業所の区分では、「単独事業所」が38.0%、「本社・本店」が27.0%、「支社・支店・営業所等」が35.0%となっている。



(3) 事業所全体の従業員規模

事業所全体の従業員規模では、「30人以下」が51.0%で最も多く、以下、「30～49人」「100～199人」（ともに11.0%）、「50～99人」（10.0%）、「1,000人以上」（9.0%）となっている。

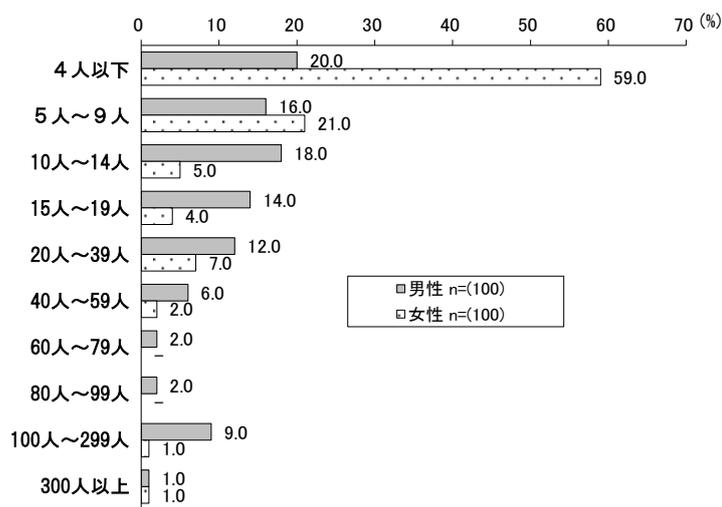


(4) 従業員数と勤続年数

■正規従業員（事業主含む）

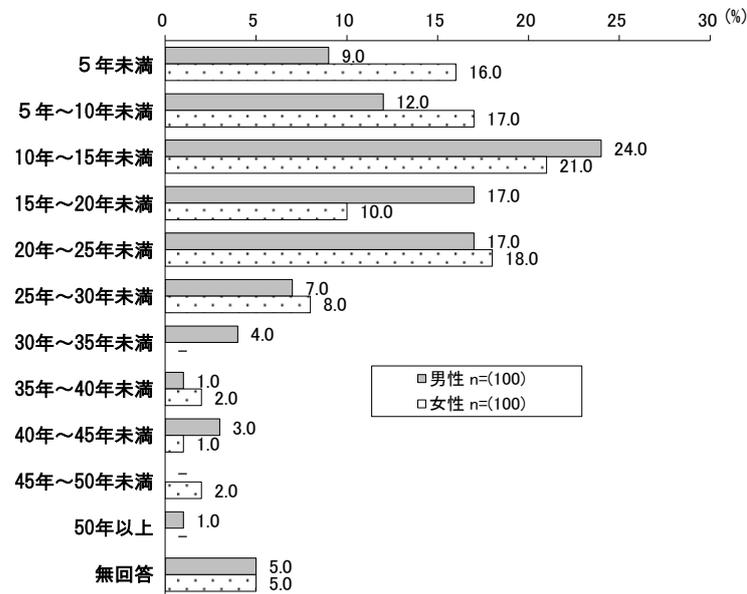
正規従業員人数／男性では、「4人以下」が20.0%で最も多く、以下、「10人～14人」（18.0%）、「5人～9人」（16.0%）、「15人～19人」（14.0%）となっている。

正規従業員人数／女性では、「4人以下」が59.0%で最も多く、次いで「5人～9人」（21.0%）となっている。



正規従業員平均勤続年数／男性では、「10年～15年未満」が24.0%で最も多く、以下、「15年～20年未満」(17.0%)、「20年～25年未満」(17.0%)、「5年～10年未満」(12.0%)となっている。

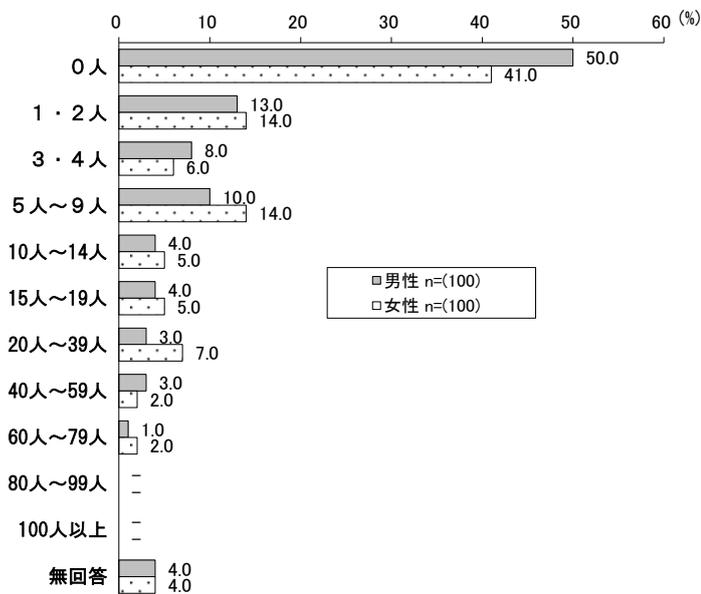
正規従業員平均勤続年数／女性では、「10年～15年未満」が21.0%で最も多く、以下、「20年～25年未満」(18.0%)、「5年～10年未満」(17.0%)、「5年未満」(16.0%)となっている。



■非正規従業員

非正規従業員人数／男性では、「0人」が50.0%で最も多くなっている。

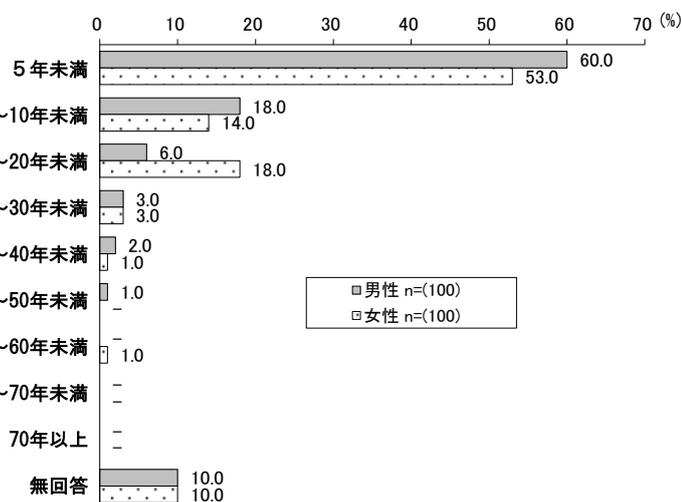
非正規従業員人数／女性では、「0人」が41.0%で最も多くなっている。



第4章 調査結果の詳細／事業所調査

非正規従業員平均勤続年数／男性では、「5年未満」が60.0%で最も多く、次いで「5年～10年未満」(18.0%)となっている。

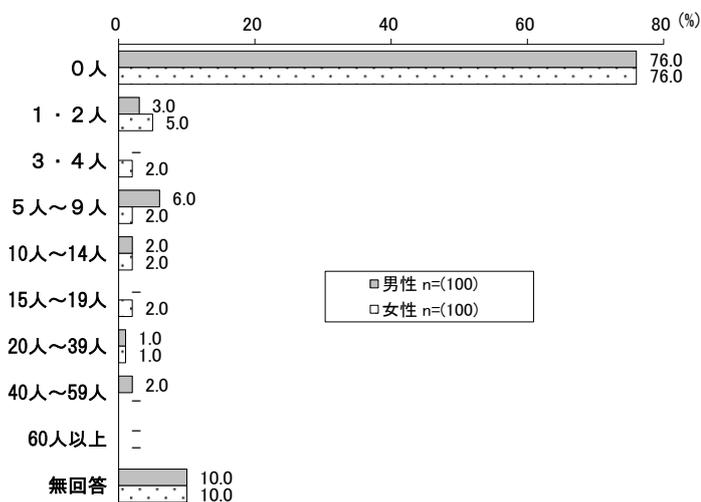
非正規従業員平均勤続年数／女性では、「5年未満」が53.0%で最も多く、次いで「10年～20年未満」(18.0%)となっている。



■派遣従業員

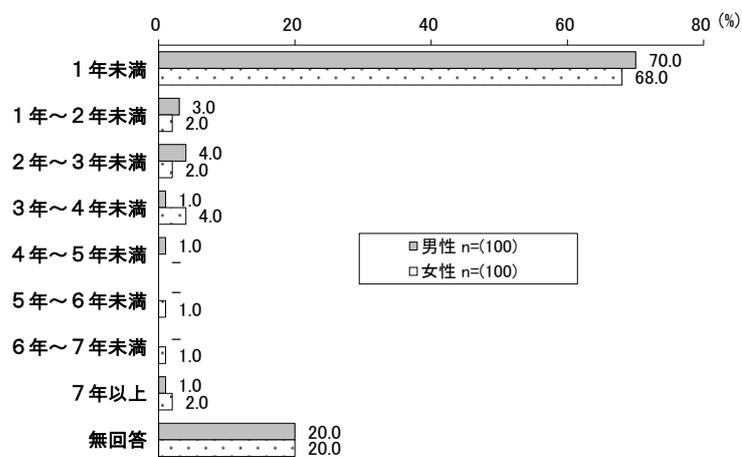
派遣従業員人数／男性では、「0人」が76.0%を占めている。

派遣従業員人数／女性では、「0人」が76.0%を占めている。



派遣従業員平均勤続年数／男性では、「1年未満」が70.0%を占めている。

派遣従業員平均勤続年数／女性では、「1年未満」が68.0%を占めている。



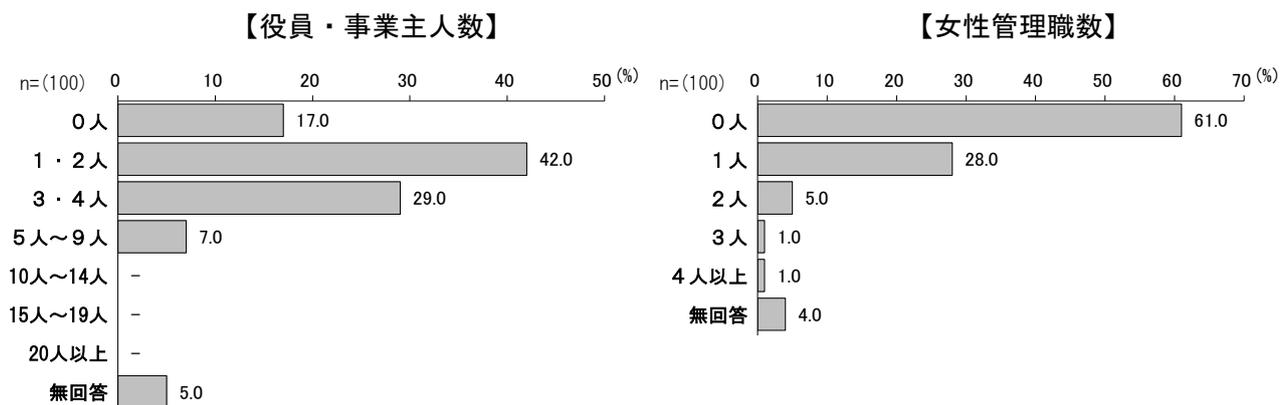
2. ポジティブ・アクションの取り組み

(1) 役職別人数

問1 貴事業所では、係長相当職以上の管理職および女性の管理職は何人いますか。

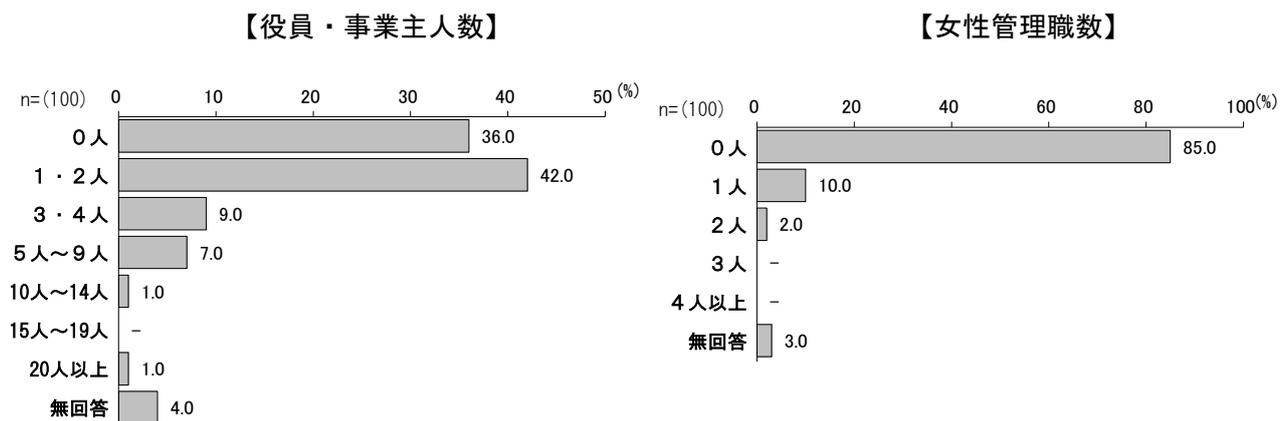
役員・事業主人数では、「1・2人」が42.0%で最も多く、以下、「3・4人」(29.0%)、「0人」(17.0%)となっている。

役員・事業主人数／女性では、「0人」が61.0%で最も多く、「1人」が28.0%となっている。



部長相当職人数では、「1・2人」が42.0%で最も多く、次いで「0人」(36.0%)となっている。

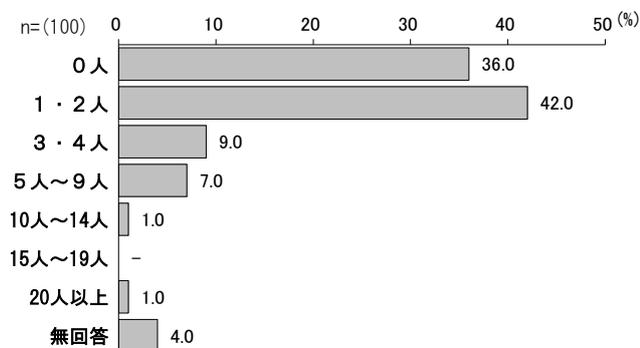
部長相当職人数／女性では、「0人」が85.0%で最も多くなっている。



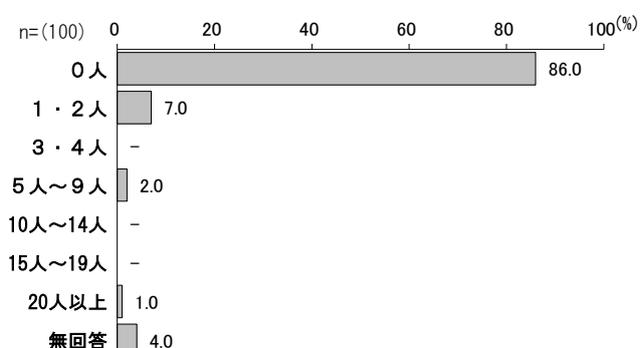
課長相当職人数では、「4人以下」が76.0%で最も多くなっている。

課長相当職人数／女性では、「0人」が86.0%で最も多くなっている。

【役員・事業主人数】



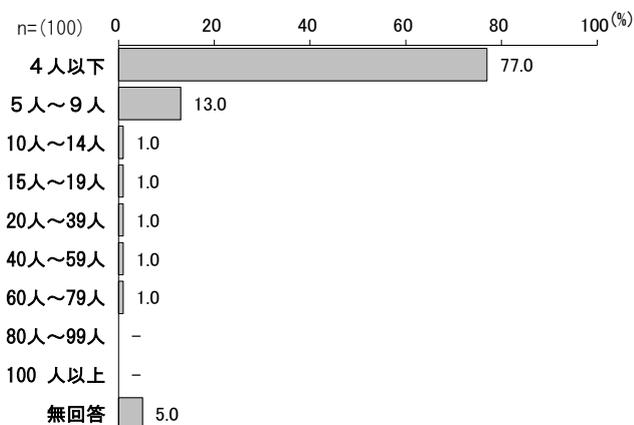
【女性管理職数】



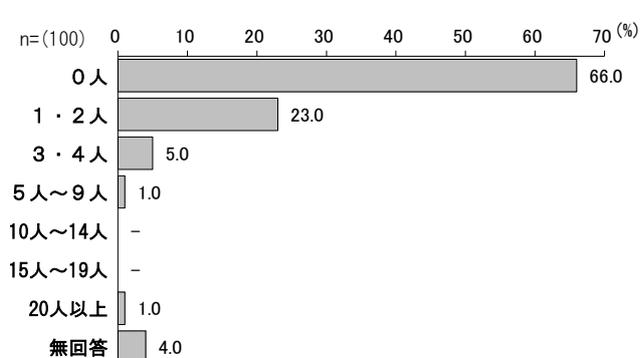
係長相当職人数では、「4人以下」が77.0%で最も多くなっている。

係長相当職人数／女性では、「0人」が66.0%で最も多く、次いで「1・2人」(23.0%)となっている。

【役員・事業主人数】



【女性管理職数】

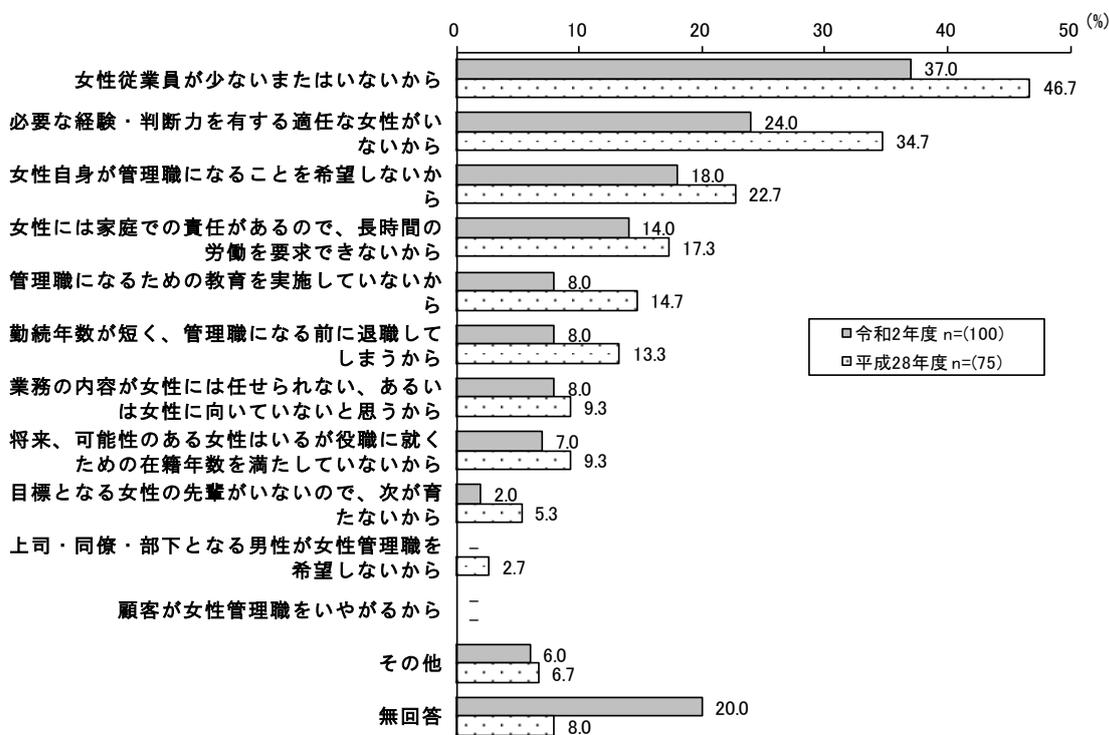


(2) 女性管理者が少ない理由

問2 女性管理職が少ない（または、いない）のは、どのような理由からだと思いますか。
 あてはまるものいくつかでも○をつけてください。

女性管理者が少ない理由では、「女性従業員が少ないまたはいないから」が37.0%で最も多く、以下、「必要な経験・判断力を有する適任な女性がいらないから」(24.0%)、「女性自身が管理職になることを希望しないから」(18.0%)、「女性には家庭での責任があるので、長時間の労働を要求できないから」(14.0%)となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、全項目で前回は下回っており、なかでも「必要な経験・判断力を有する適任な女性がいらないから」が34.7%から24.0%で10.7ポイント、「女性従業員が少ないまたはいないから」が46.7%から37.0%で9.7ポイント、それぞれ減少している。

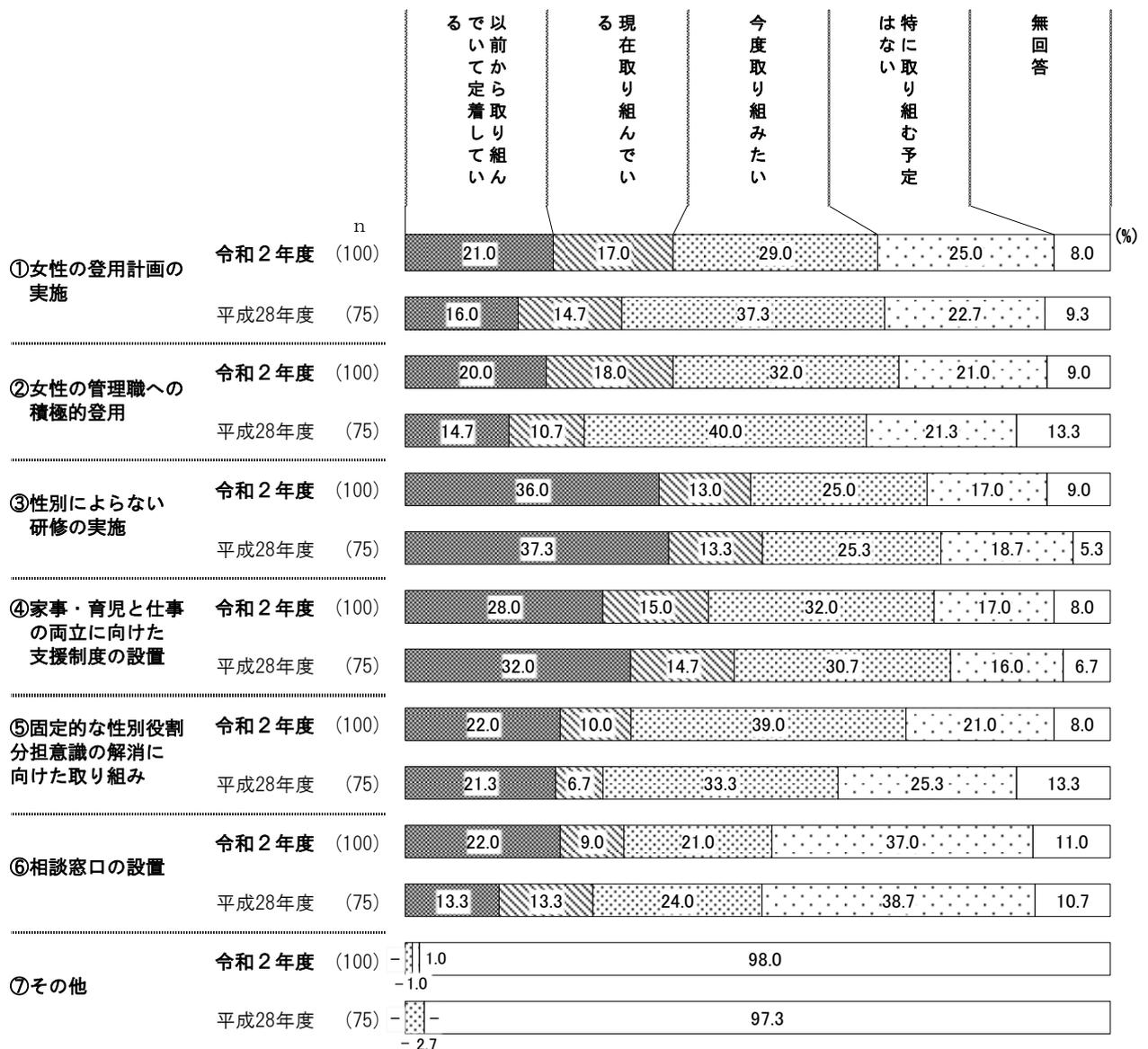


(3) ポジティブ・アクションへの取組状況

問3 貴事業所での、ポジティブ・アクションへの取り組み状況についてお答えください。
以下の項目について、あてはまる欄1つずつに○をつけてください。

ポジティブ・アクションへの取組状況で、「以前から取り組んでいて定着している」をみると“性別によらない研修の実施”が36.0%で最も多く、「現在取り組んでいる」(13.0%)“”を合わせた《取り組んでいる》は49.0%と約半数を占めている。また、それに次ぐのは“家事・育児と仕事の両立に向けた支援制度の設置”で、それぞれ28.0%、43.0%となっている。一方、「今後取り組みたい」は“固定的な性別役割分担の解消に向けた取り組み”が39.0%で、「特に取り組む予定はない」は“相談窓口の設置”が37.0%で多くなっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、《取り組んでいる》が前述の上位2項目がやや減少しているのに対し、他は増加しており、なかでも“女性の管理職への積極的登用”が25.4%から38.0%の12.6ポイント、“女性の登用計画の実態”が30.7%から38.0%の7.3ポイント、それぞれ高くなっている。



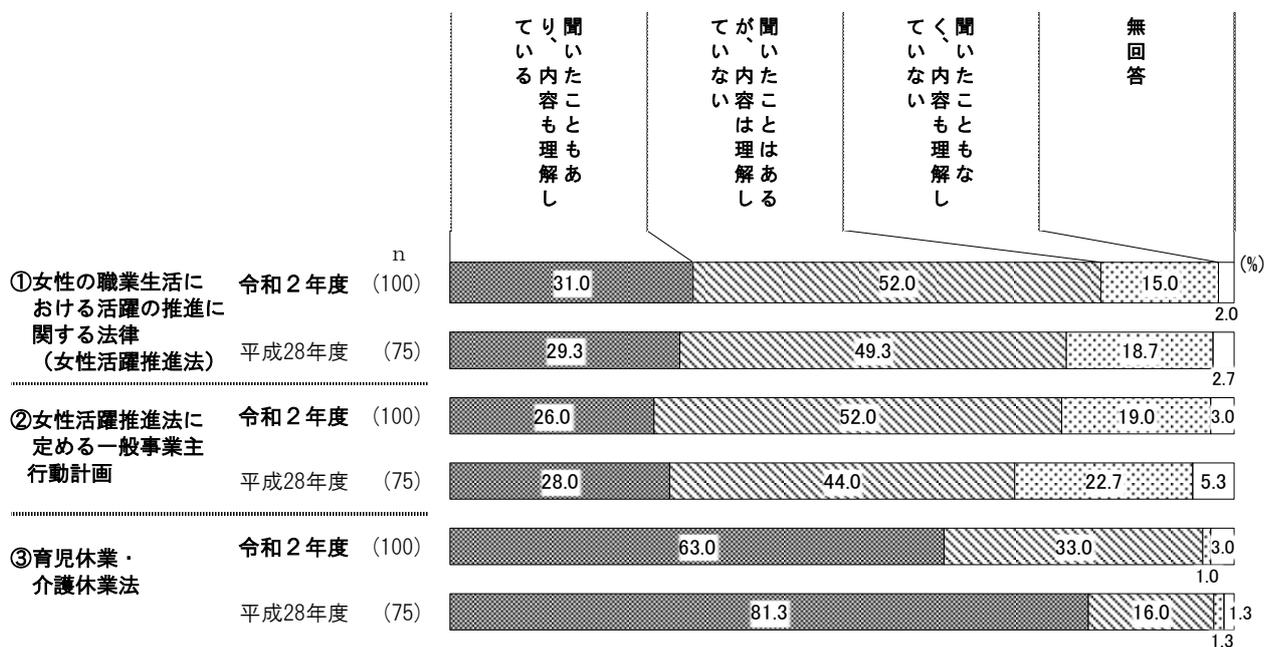
3. 女性活躍推進法

(1) 用語の認知度

問4 以下の用語について、ご存知ですか。以下の項目について、あてはまる欄1つずつに○をつけてください。

用語の認知度については、“育児休業・介護休業法”で「聞いたこともあり、内容も理解している」が63.0%と多くなっており、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(33.0%)を合わせた《聞いたことがある》は96.0%を占めている。また、“女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)”と“女性活躍推進法に定める一般事業主行動計画”では、《聞いたことがある》が、それぞれ83.0%、78.0%を占めているものの、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」と「聞いたこともなく、内容も理解していない」を合わせた《内容を理解していない》も78.0%、71.0%となっている。一方、“育児休業・介護休業法”では34.0%が《内容を理解していない》としている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、“育児休業・介護休業法”で「聞いたこともあり、内容も理解している」が81.3%から63.0%と18.3ポイント低くなっている。

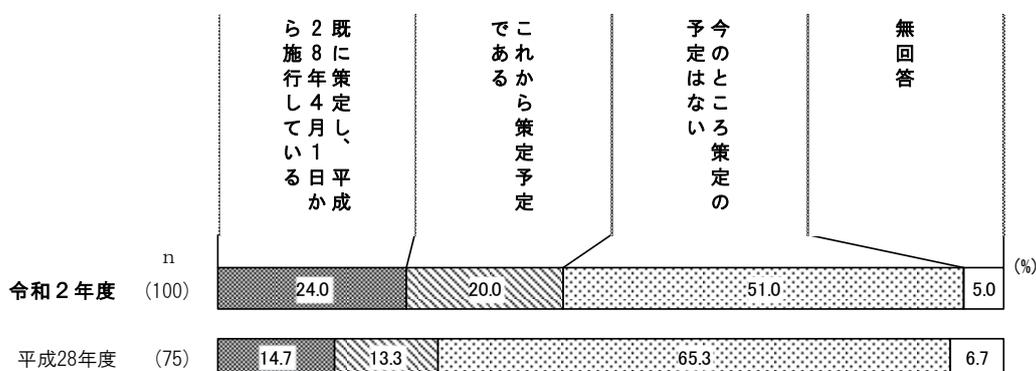


(2) 一般事業主行動計画の策定の状況

問5 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律*（女性活躍推進法）」では、一般事業主行動計画の策定を定めていますが、貴事業所での策定の状況をお聞かせください。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

一般事業主行動計画の策定の状況では、「今のところ策定の予定はない」が51.0%で最も多く、「既に策定し、平成28年4月1日から施行している」が24.0%、「これから策定予定である」が20.0%となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「既に策定し、平成28年4月1日から施行している」が14.7%から24.0%で9.3ポイント、「これから策定予定である」が13.3%から20.0%で6.7ポイント、それぞれ高くなっている。



4. ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取り組み

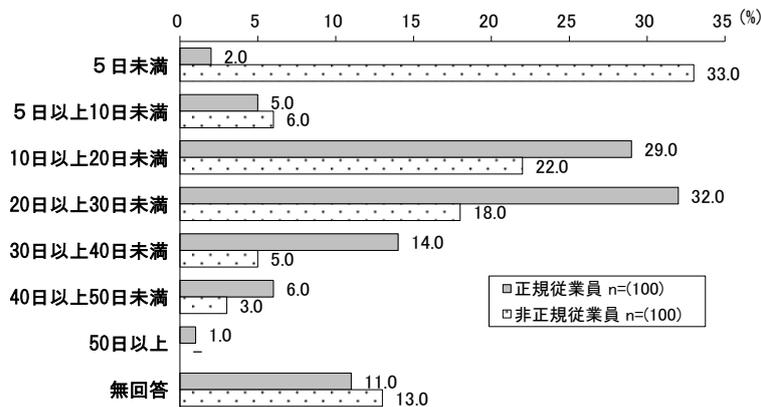
(1) 休暇の取得状況

問6 貴事業所での年次有給休暇・育児休業・介護休業・子の看護休暇の規定と、実際の取得状況についておうかがいします。それぞれ年間日数について、雇用形態別・男女別にお答えください。また、②育児休業については、過去1年間の出産数についてもお答えください。太枠内すべてに数字をご記入ください。

■年次有給休暇

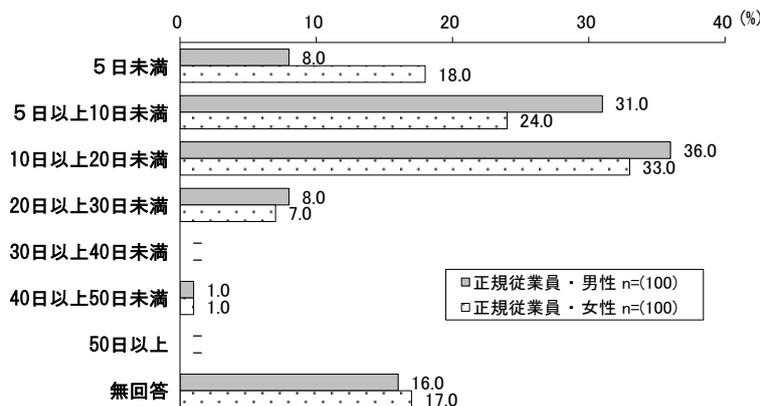
正規従業員1人当たりの取得可能日数では、「20日以上30日未満」が32.0%で最も多く、以下、「10日以上20日未満」(29.0%)、「30日以上40日未満」(14.0%)となっている。

非正規従業員1人当たりの取得可能日数では、「5日未満」が33.0%で最も多く、以下、「10日以上20日未満」(22.0%)、「20日以上30日未満」(18.0%)となっている。



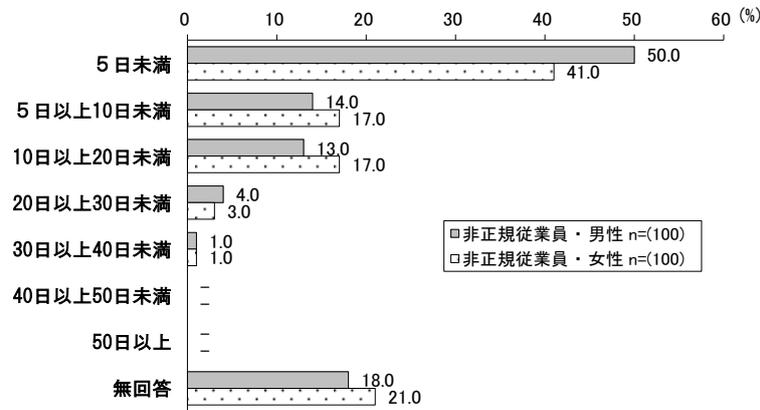
男性正規従業員の実際の年間取得日数では、「10日以上20日未満」が36.0%で最も多く、次いで「5日以上10日未満」(31.0%)となっている。

女性正規従業員の実際の年間取得日数では、「10日以上20日未満」が33.0%で最も多く、以下、「5日以上10日未満」(24.0%)、「5日未満」(18.0%)となっている。



男性非正規従業員の実際の年間取得日数では、「5日未満」が50.0%で最も多く、次いで「5日以上10日未満」(14.0%)となっている。

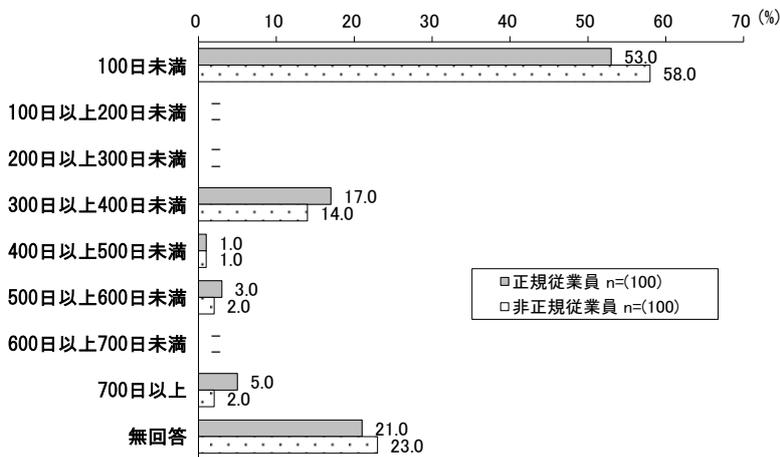
女性非正規従業員の実際の年間取得日数では、「5日未満」が41.0%で最も多く、以下、「5日以上10日未満」「10日以上20日未満」(ともに17.0%)となっている。



■育児休業

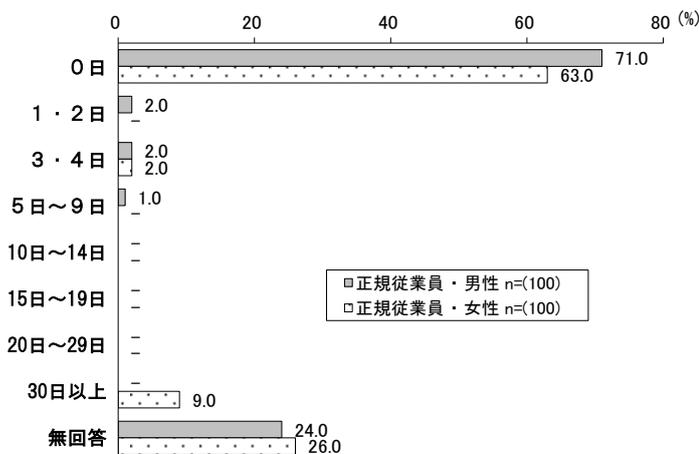
正規従業員の取得可能日数では、「100日未満」が53.0%で最も多く、次いで「300日以上400日未満」(17.0%)となっている。

非正規従業員の取得可能日数では、「100日未満」が58.0%で最も多く、次いで「300日以上400日未満」(14.0%)となっている。

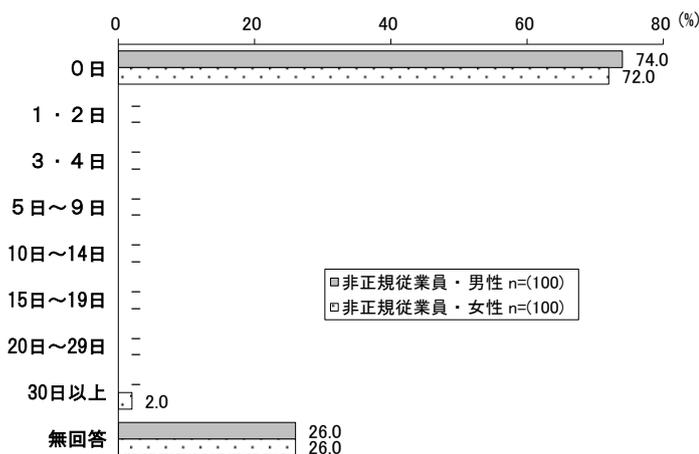


第4章 調査結果の詳細／事業所調査

男性正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が71.0%となっている。
 女性正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が63.0%となっている。

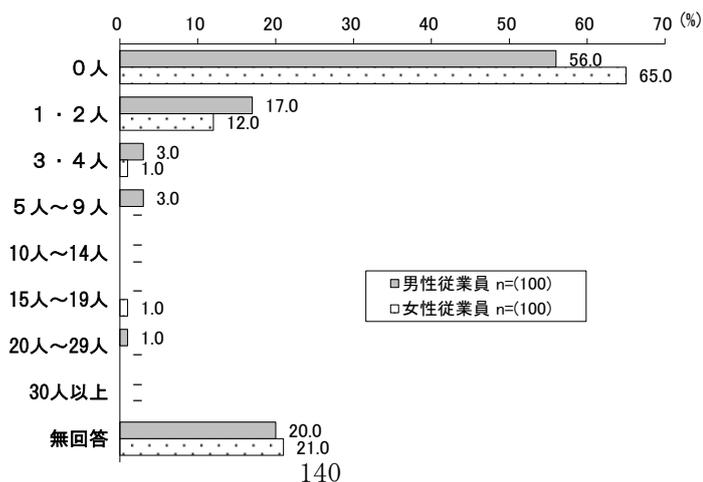


男性非正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が74.0%となっている。
 女性非正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が72.0%となっている。



男性従業員の過去1年間の出産数では、「0人」が56.0%で最も多く、「1・2人」が17.0%となっている。

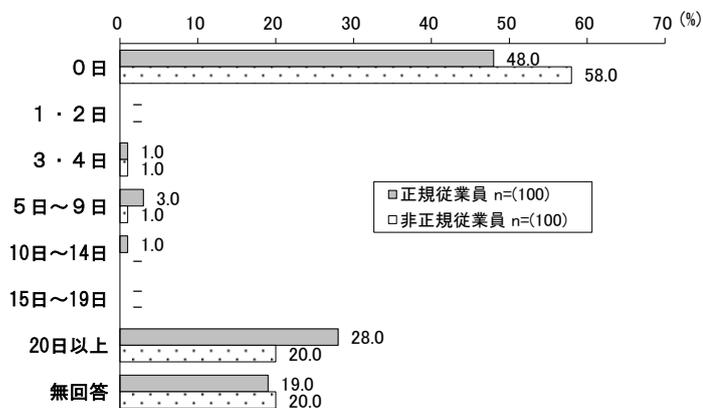
女性従業員の過去1年間の出産数では、「0人」が65.0%で最も多く、「1・2人」が12.0%となっている。



■介護休業

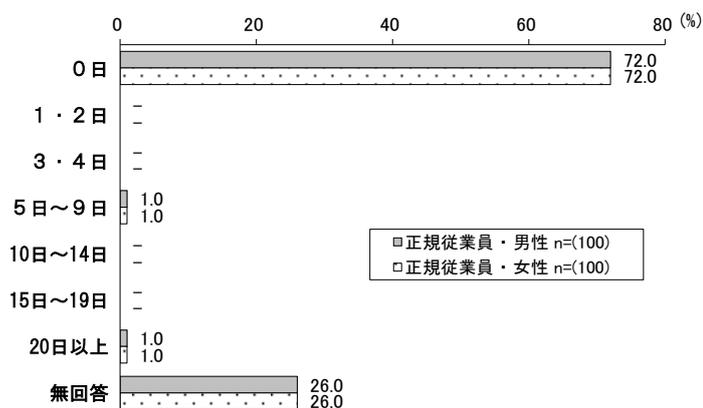
正規従業員の取得可能日数では、「0日」が48.0%で最も多く、次いで「20日以上」(28.0%)となっている。

非正規従業員の取得可能日数では、「0日」が58.0%で最も多く、次いで「20日以上」(20.0%)となっている。



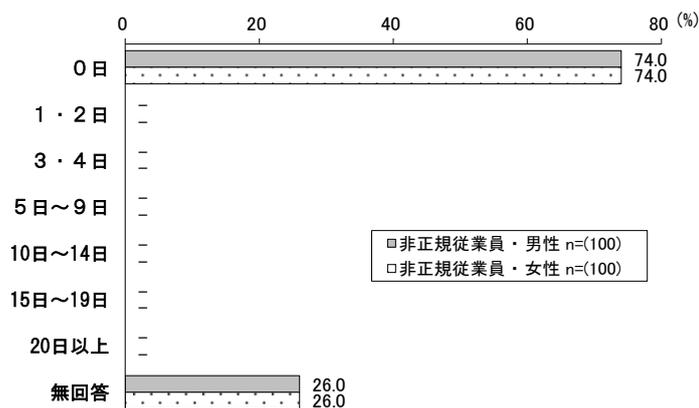
男性正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が72.0%となっている。

女性正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が72.0%となっている。



では、「0日」が74.0%となっている。

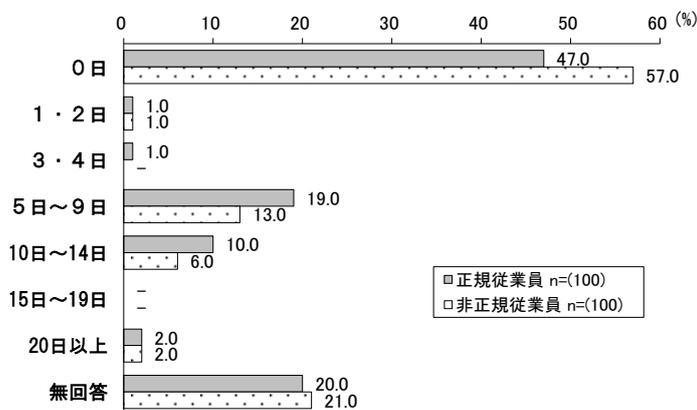
女性非正規従業員の実際の年間取得日数では、「0日」が74.0%となっている。



■子の看護休暇

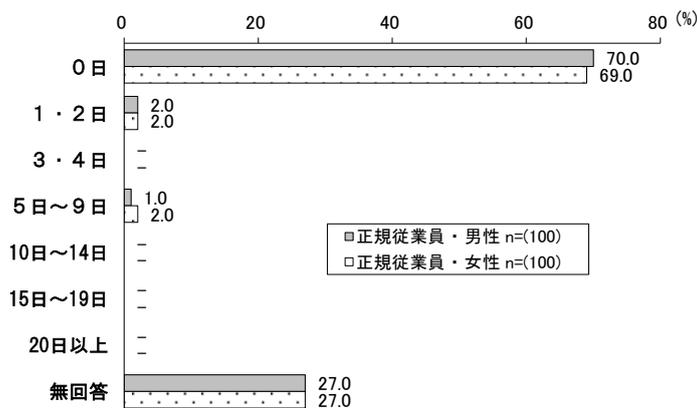
正規従業員の取得可能日数では、「0日」が47.0%で最も多く、次いで「5日～9日」(19.0%)となっている。

非正規従業員の取得可能日数では、「0日」が57.0%で最も多く、次いで「5日～9日」(13.0%)となっている。



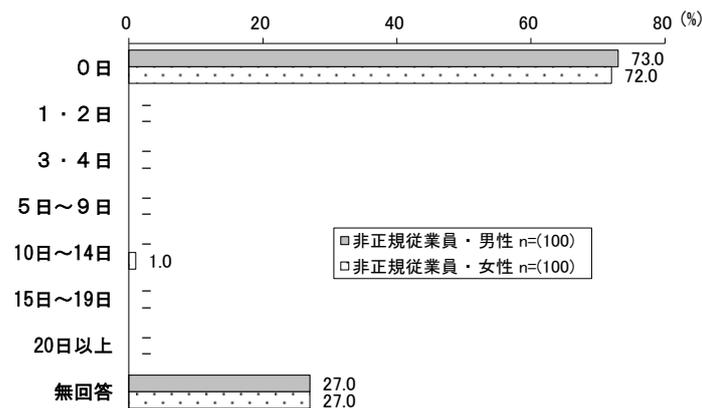
男性正規従業員の取得可能日数では、「0日」が70.0%となっている。

女性正規従業員の取得可能日数では、「0日」が69.0%となっている。



男性非正規従業員の取得可能日数では、「0日」が73.0%となっている。

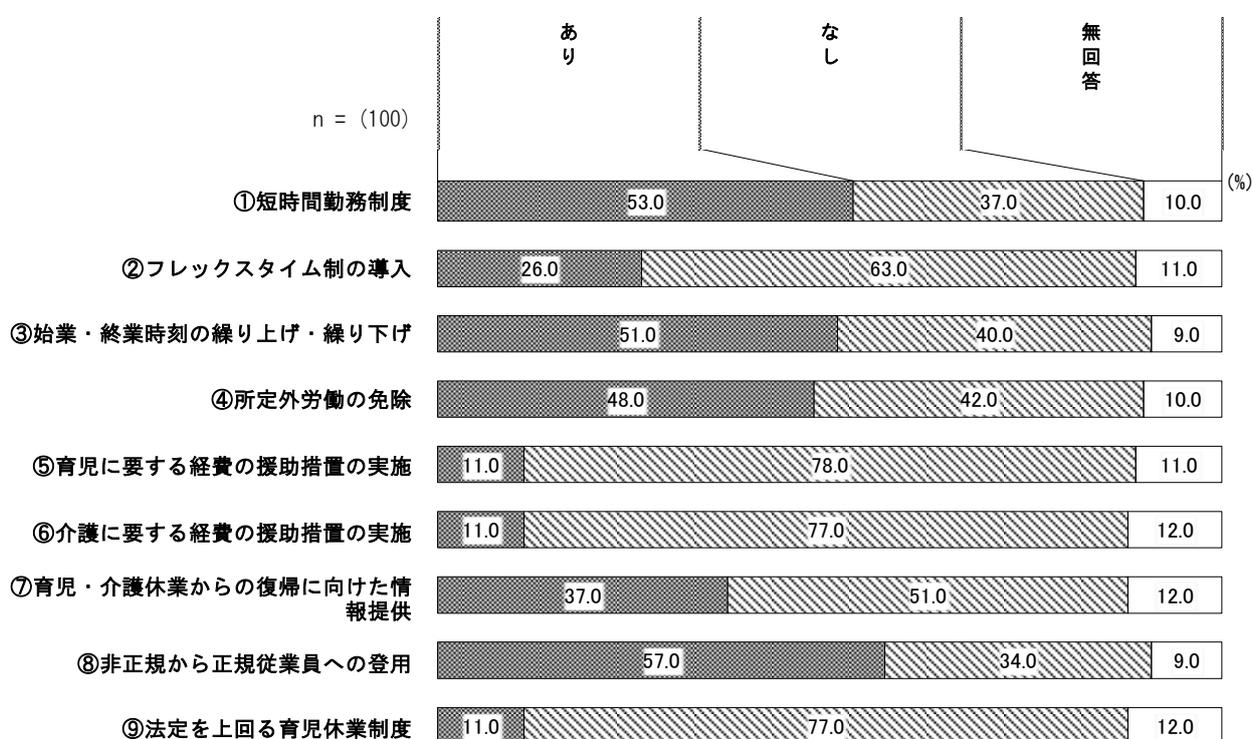
女性非正規従業員の取得可能日数では、「0日」が72.0%となっている。



(2) 取組状況（A制度の規定の有無）

問7 A 貴事業所における、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取り組みについてお答えください。A、Bそれぞれの①～⑨の項目について、あてはまる欄1つずつに○をつけてください。

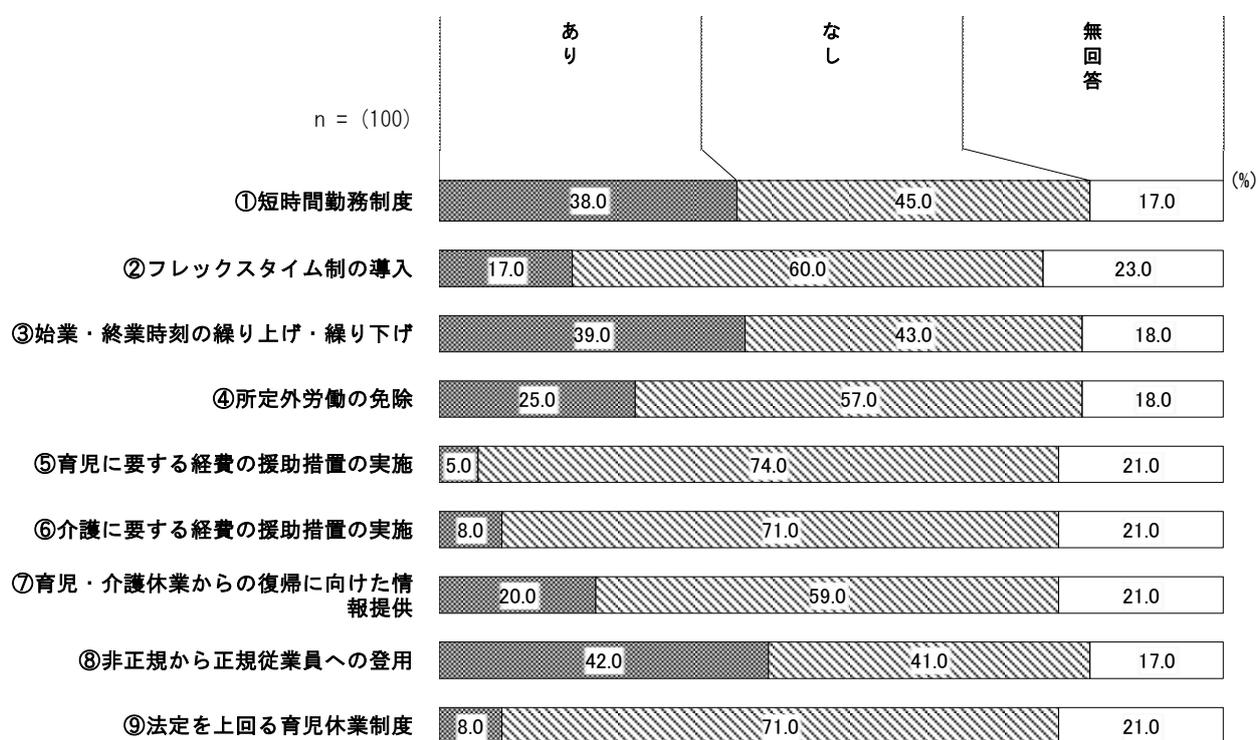
ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取り組み、全9項目について制度の規定の有無をきいたところ、“非正規から正規従業員への登用”で「あり」が57.0%で最も多く、以下、“短時間勤務制度”（53.0%）、“始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ”（51.0%）と続き、ここまでが5割を超えている。一方、“育児に要する経費の援助措置の実施”“介護に要する経費の援助措置の実施”“法定を上回る育児休業制度”では、「あり」が11.0%にとどまっている。



(3) 取組状況 (B 制度の実績の有無)

問7B 貴事業所における、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取り組みについてお答えください。A、Bそれぞれの①～⑨の項目について、あてはまる欄1つずつに○をつけてください。

前項であげた全9項目について利用実績のきいたところ、“非正規から正規従業員への登用”で「あり」が42.0%で最も多く、以下、“始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ” (39.0%)、“短時間勤務制度” (38.0%) となっている。一方、“介護に要する経費の援助措置の実施” “法定を上回る育児休業制度” “育児に要する経費の援助措置の実施”では、「あり」が1割を切っている。

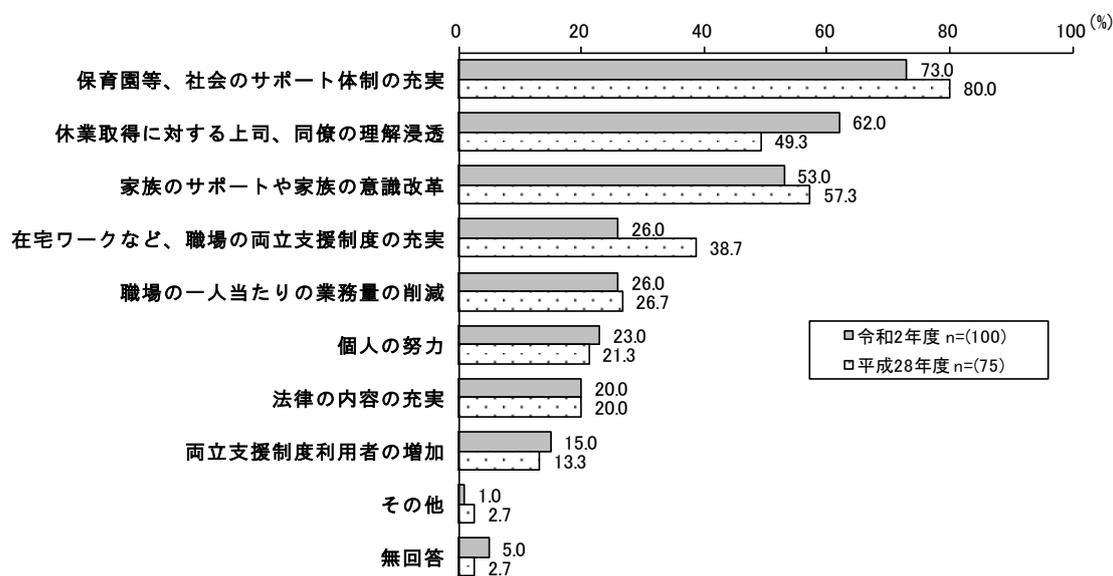


(4) 仕事と家庭の両立に重要だと思うこと

問8 仕事と家庭を両立するために、重要だと思うことは何ですか。あてはまるものについで○をつけてください。

仕事と家庭の両立に重要だと思うことでは、「保育園等、社会のサポート体制の充実」が73.0%で最も多く、以下、「休業取得に対する上司、同僚の理解浸透」(62.0%)、「家族のサポートや家族の意識改革」(53.0%)となっている。

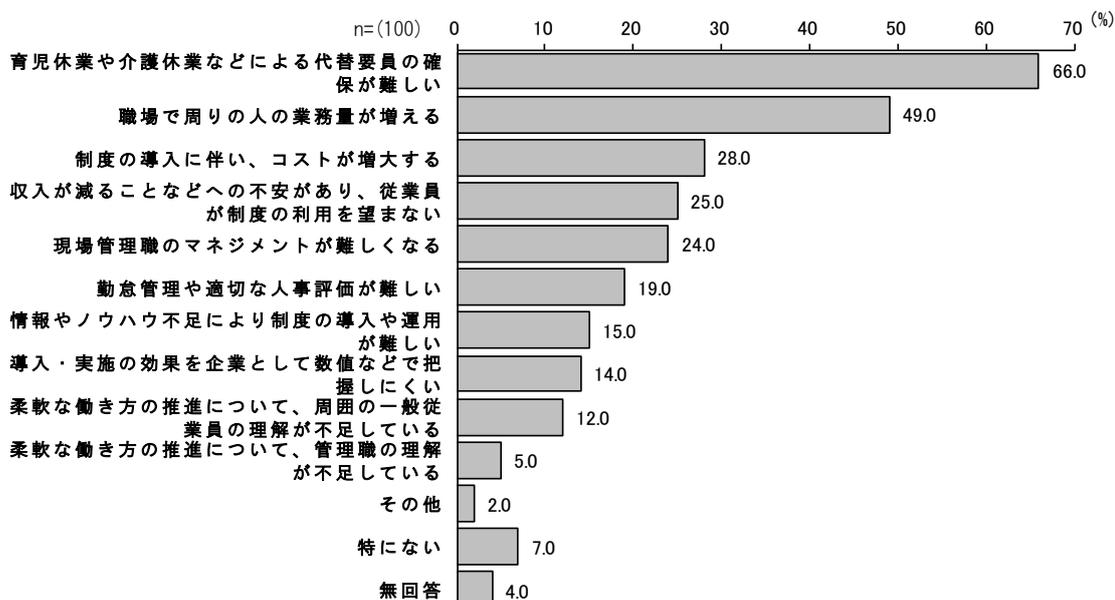
前回調査(平成28年度)結果との比較では、上位項目に増減が目立ち、「休業取得に対する上司、同僚の理解浸透」が49.3%から62.0%で12.7ポイント高くなっている。一方、「在宅ワークなど、職場の両立支援制度の充実」が38.7%から26.0%で12.7ポイント、「保育園等、社会のサポート体制の充実」が80.0%から73.0%で7.0ポイント、それぞれ低くなっている。



(5) 多様な働き方ができる制度を整備する上で特に難しいと感じること

問9 多様な働き方ができる制度を整備する上で、特に難しいと感じているのはどのようなことですか。あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

多様な働き方ができる制度を整備する上で特に難しいと感じることでは、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が66.0%で最も多く、以下、「職場で周りの人の業務量が増える」(49.0%)、「制度の導入に伴い、コストが増大する」(28.0%)、「収入が減ることなどへの不安があり、従業員が制度の利用を望まない」(25.0%)、「現場管理職のマネジメントが難しくなる」(24.0%)となっている。



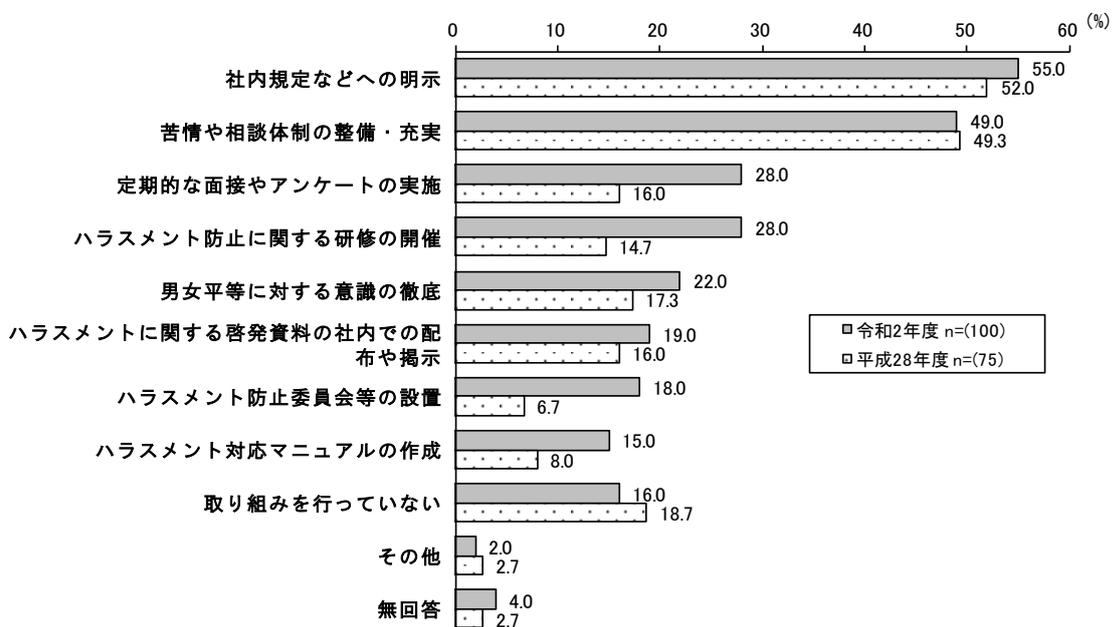
5. ハラスメント防止に向けた取り組み

(1) ハラスメント防止に向けた取り組みの実施度

問10 貴事業所では、次のようなハラスメント防止に向けた取り組みを実施していますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ハラスメント防止に向けた取り組みの実施度では、「社内規定などへの明示」が55.0%で最も多く、以下、「苦情や相談体制の整備・充実」(49.0%)、「定期的な面接やアンケートの実施」「ハラスメント防止に関する研修の開催」(ともに28.0%)となっている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、「定期的な面接やアンケートの実施」「ハラスメント防止に関する研修の開催」「ハラスメント防止委員会等の設置」で10ポイント以上高くなっている。



6. LGBTQ等の取り組み

(1) LGBTQ等の方への配慮などにおける独自の取組み(自由記述)

問11 LGBTQ等の方への配慮などにおける独自の取組みはありますか。独自の取組みがあれば、その内容とその効果について、ご記入ください。

5事業所の方からご意見をいただいた。主な意見は以下のとおりとなっている。

意見	件数
LGBTQに関する研修を受講済み	2
LGBTQに関する研修を受講予定	2
ダイバーシティ&インクルージョン推進室の設置。 取組、活動をHPに掲載。	1

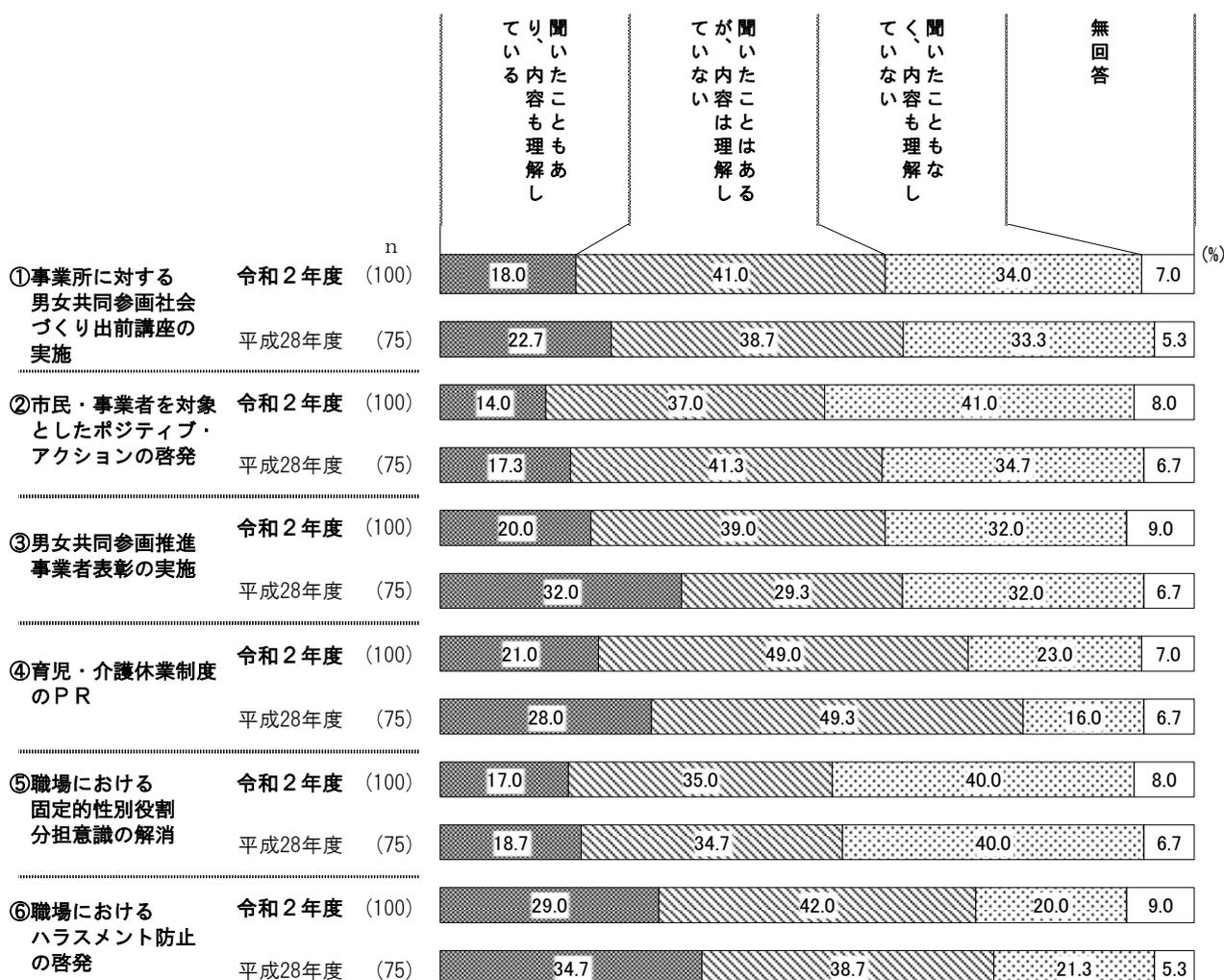
7. 行政の取り組み

(1) 市の取組についての認知度

問12 事業所に向けた市の取り組みについて、ご存知のものはありますか。(1つずつに○)

事業所に向けた市の取り組みについては、“職場におけるハラスメント防止の啓発”で「聞いたこともあり、内容も理解している」が29.0%と最も多く、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」(42.0%)を合わせた《聞いたことがある》は71.0%となっている。また、“育児・介護休業制度のPR”でも《聞いたことがある》は70.0%となっている。一方、「聞いたこともなく、内容も理解していない」と「聞いたことはあるが、内容は理解していない」を合わせた《内容は理解していない》は“職場におけるハラスメント防止の啓発”以外で7割を超えている。

前回調査(平成28年度)結果との比較では、「聞いたこともあり、内容も理解している」で“男女共同参画推進事業者表彰の実施”が、《聞いたことがある》で“市民・事業者を対象としたポジティブ・アクションの啓発”“育児・介護休業制度のPR”の減少が顕著となっている。

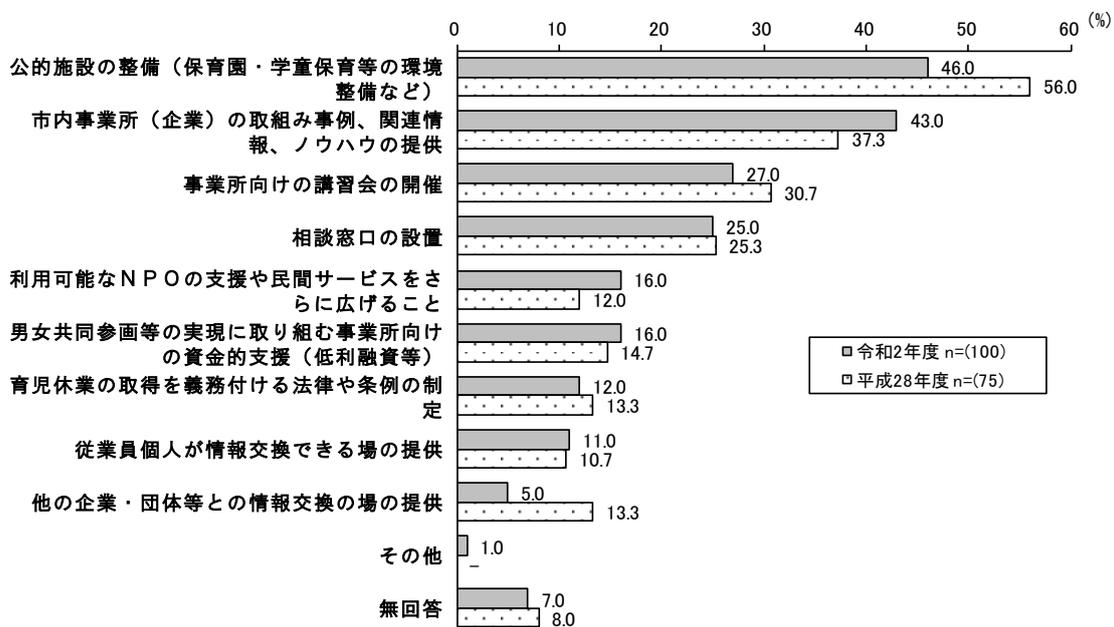


(2) 市に期待する取り組み

問13 今後、職場において男女共同参画やワーク・ライフ・バランスを推進するにあたって、市にどのような取り組みを期待しますか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

市に期待する取り組みでは、「公的施設の整備（保育園・学童保育等の環境整備など）」が46.0%で最も多く、以下、「市内事業所（企業）の取り組み事例、関連情報、ノウハウの提供」（43.0%）、「事業所向けの講習会の開催」（27.0%）、「相談窓口の設置」（25.0%）となっている。

前回調査（平成28年度）結果との比較では、「市内事業所（企業）の取り組み事例、関連情報、ノウハウの提供」が37.3%から43.0%で5.7ポイント高くなっている。一方、「公的施設の整備（保育園・学童保育等の環境整備など）」が56.0%から46.0%で10.0ポイント低くなっている。



(3) 今後実施予定の取り組み（自由記述）

問14 貴事業所において女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進するために今後実施予定の取り組みがございましたらご記入ください。

8事業所の方から、延べ9件のご意見をいただいた。主な意見は以下のとおりとなっている。

意見	件数
労働時間、休暇の調整	4
各種登録や組織デザイン	2
昇進制度、技能向上の推進	2
講習会の実施	1

(4) 市への要望（自由記述）

問15 その他、ワーク・ライフ・バランスの推進、職場における男女共同参画に関すること等、市に対する要望等がございましたらご記入ください。

5事業所の方からご意見をいただいた。主な意見は以下のとおりとなっている。

意見	件数
講習会の開催	3
助成金	1
男性が育児参画する制度	1

